

515420

版二第 44-363₁

法學士河上肇著



經濟學原論

卷上

10 4 6

東京 有斐閣書房

再版ニ際シテ

一昨年九月本書ヲ公刊シテヨリ、幾干モナクシテ一身ノ境遇頓ニ變化シ、爾來
本書ノ著者ハ新聞記者トシテ日々忙中ニ消光シ、靜ニ讀書著述ノ業ニ耽ル能
ハズ、上卷ノ發刊ニ次グニ直チニ續卷ヲ以テシ能ハズシテ竟ニ今日ニ至リシ
ハ、竊ニ其ノ遺憾トスル所ナリ。

今マ書肆上卷ノ初版盡クト告グ。試ミニ之ヲ通覽スルニ、増補訂正ヲ要スル
モノ頗ル多シ。然レドモ身世逢遭ノ逆睹シ難キ、新ニ雜誌創刊ノ事ニ與リテ、
今又終日寧時ナシ。乃チ纔ニ寸閑ヲ得テ、數頁ノ附録ヲ起稿シ、欠點ノ最モ大
ナルモノ、ミヲ補正シ、他ハ凡テ舊版ヲ存シテ再ビ世ニ出ス。若シ雜誌發刊
ノ事緒ニ就クニ至ラバ、或ハ閑暇多少ナルヲ得ン、其ノ時ニ至ラバ始メテ眞ノ
増補ト訂正ヲ爲シ、又次グニ續卷ノ發刊ヲ以テシ得ベケン歟。

明治四十年二月二十三日

著

者

自序

武人既ニ劍ヲ執ツテ世界ヲ驚カス、學者豈ニ筆ヲ以ツテ天下ヲ服スルニ足ラサランヤ。然レドモ、ソハ固ヨリ予ガ任ニ非ラズ、予ハ只ダ、學界ノ一兵卒トシテ其ノ職ニ忠ナランコトヲ期スルノミ。今ヤ外ニ日露ノ大戰アリ、國家正ニ多事多難ノ際、予ハ身ヲ學生ノ籍ニ置クノ故ヲ以テ、未ダ兵ニ徵セラレズ、悠々トシテ研學ノ樂ニ耽ルヲ得ルハ、實ニコレ聖代ノ賜ナリ。渺タル此ノ一小著、敢テ學理ノ進歩ニ貢獻スト云フニ非ラズト雖モ、聊カ治

世ノ恩ニ報ズルノ微衷ニ出ヅ。モシ夫レ過ツテ
當代識者ノ閱チ忝ウシ、其ノ高教ヲ受クルコトヲ
得バ、著者望外ノ幸トスル所ナリ。

明治三十八年ノ盛夏

東京ニ於テ

河上肇識

例言

一、茲ニ公刊セル『經濟學原論上卷』ハ僅ニ第一編序論ヲ收ムル
ニ過ギズ。然レドモ其ノ論ズル處ハ、主トシテ斯學根本ノ觀
念ニ在ルカ故ニ、本書ニ在ツテハ最も重要ナル地位ヲ占ムル
モノタリ。

一、回顧スレバ、余カ始メテ斯學ノ根本觀念ニ關シ愚見ヲ公ニ
セシハ、一昨年ノ八月ニ在リ。當時余ハ『經濟學上ノ根本問題
ニ關シ現代諸大家ノ學說ヲ評シテ自家ノ所見ヲ述ブ』ト題セ
ル一文ヲ國家學會雜誌ニ公ニシ、以テ識者ノ教ヲ受ケント企
テタリキ。余ガ此ノ論文ニ於イテ論シタル問題ハ頗ル多方
面ニ亘リシト雖モ、其ノ最も重キヲ置キシハ、經濟ノ意義ニア

リタリキ。思ヘラク、從來ノ學者經濟ヲ定義スルニ當ツテ、所謂消費ヲ包含セシムルハ、誤謬タラズンハアラズ、消費ノ如キハ宜シク經濟ノ範圍ヨリシテ除外スベキナリト。而シテ當時余ハ未ダ經濟ト經濟行爲トヲ分ツ所以ヲ知ラザリシ也。シカルニ福田博士ハ同誌ノ次號ニ於イテ「經濟ト經濟行爲ノ觀念ニ關スル誤謬」ト云ヘル一文ヲ公ニセラレ、余ガ先キノ議論ニ論及シテ、經濟ト經濟行爲トヲ混同スルノ非ナルヲ指摘セラレタリキ。

余ハ博士ノ批評ヲ得テヨリ、更ニ思索研究ヲ重ネ、新タニ多少ノ得ル處アルヲ信ゼシヲ以テ、昨年ノ歲暮千駄木叢書ノ第一編トシテ「經濟學上之根本觀念」ヲ稿シ、之ヲ先輩及ヒ學友ニ呈

シテ其ノ教ヲ待テリキ。此ノ書ニ於イテハ、余ハ經濟ト經濟行爲トヲ分ナタリシモ、猶ホ所謂消費ニ至リテハ、僅ニ之ヲ經濟行爲ヨリ除外セシニ止リ、經濟ニ至ツテハ從來ノ學者ノ説ケルガ如ク消費ヲ包含スルモノト説明シタリキ。

シカルニ本年ノ三月吉野法學士ハ國家學會雜誌ニ於イテ此ノ拙著ノ詳評ヲ掲載セラレ、余ガ蒙ヲ啓カレタルコト誠ニ少カラズ。殊ニ經濟ニ消費ヲ包含スルコトノ非ナルヲ指摘セラレタルハ、特ニ余ノ益ヲ享ケタル處ナリ。

乃チ今マ茲ニ本書ヲ公刊シテ復ヒ斯學基本ノ觀念ヲ論ズルニ當ツテハ、從來ノ説ヲ改メ消費ヲ以テ經濟ノ範圍外トナスニ至リヌ。

猶ホ其ノ外、從來ノ說ヲ改ムルモノ諸處ニ少シトセズ。左思右考、變轉常ナクシテ守ル處ナキガ如キハ、抑進歩歟退歩歟、我得テ之ヲ知ラズト雖モ、只ダ唯ダ先輩學友ノ恩ヲ受クル少シトセザルハ、聊カ衷心ニ感謝スル處ナクンバ非ラザル也。

一、本書先輩ノ學說ヲ引用スル處少シト爲サズ。余ガ異說ヲ樹テタル部分ハ言フヲ待タズ、其ノ論述ノ順序ニ於イテ先輩ノ著書ト異ル所アリ重要ナル問題ノ記述ヲ後篇ニ讓リタル部分ノ如キモ、必ラズ附註トシテ相當ノ學者ノ說明ヲ抄録シ置ケリ。コレ敢テ博引旁證ノ誇ヲ爲サンガ爲メニ非ラズ、實ハ著者ノ淺學寡聞ヲ示スニ過ギズト雖モ、唯ダ初學者、余ガ說ヲ誤リテ學界ノ通說トナシ、又ハ或ル問題ノ記述ヲ後篇ニ讓

レルヲ見テ失望スルモノアランヲ恐ル、ノ微衷ニ出デシモノニシテ、一ニ讀者ニ對スル婆心ニ出ヅ。余雜誌ニ著書ニ所見ヲ公ニシテヨリ、諸在書ヲ寄セテ余ガ說ヲ過賞シ或ハ之ニ對シテ質問ヲ爲スモノ少カラズ。余ハ今ニ於イテ書ヲ著スモノ、責任實ニ輕カラザルヲ知レル也。

一、余ガ諸學者ノ說ヲ引用スルコト少カラザルハ上述ノ如シ。然レドモ引用スル毎ニ一字一句ト雖モ必ラズ之ヲ明記シテ其ノ出所ヲ明カニシ、以テ學者ニ對スルノ禮義ヲ失ハザランコトヲ努メタリ。

一、近時我が國翻譯解說ノ公刊セラル、モノ少カラズ。故ニ余ハ學者ノ說ヲ引用スルニ當ツテハ、努メテ翻譯書ナキモノ

ヲ撰ベリ。

一、本書ヲ著ハスニ當ツテハ、特ニ畏友山内法學士ノ恩ヲ享クルコト少カラズ。余ノ淺學ヲ以テシテ、比較的多クノ學說ヲ引用スルコトヲ得タルハ、全ク學士ノ賜ナリ。謹ンデ感謝ス。

明治三十八年八月末日

著者再識

經濟學原論總目

上卷

第一編 序論

中卷

第二編 經濟史論

第三編 現世經濟論

下卷

第四編 經濟理想論

第五編 經濟運命論

第六編 經濟政策論

第七編 補論

經濟學原論上卷(第一編序論)目次

第一章 經濟上ノ慾望

第一節 慾望ノ觀念

慾望ノ定義(二) 外國語(二) 慾望ニハ種類多シ(二) 慾望ニ關スル學者ノ說明(三—四) しほららノ慾望ノ定義(四) 慾望ト需要トノ關係(四—五) 慾望ハ人類ノ根元ナリ
(五) 經濟學ノ發端ハ何物ヲ以テ始ムベキヤニ關スル諸説(五—六) 慾望ハ不確不定
ノモノナルニ拘ラズ斯學ノ發端トナシ得ル理由(六—九) 慾望選擇ノ必要(一〇) 凡
テノ慾望ヲ制限ナク満足セシムルコトハ人類ノ生存繁榮ノ必要條件ニアラス(一〇
—一一) 人類ノ慾望ニ對スル政策ハ之カ満足及ヒ根絶ノ二方面アリ(一一) 慾望ト
幸福トノ關係(一二) 慾望増加ト文明トノ關係(一二)

第二節 慾望ノ種類

第一、内界及ヒ外界ノ慾望(一三) 第二、固有ノ慾望及ヒ派生ノ慾望(一三—一四) 固有
ノ慾望及派生ノ慾望ノ分類ハ外界ノ慾望ノ分類ニアラス(一四) 固有ノ慾望ト派生
ノ慾望トノ關係(一四—一五) 從來ノ慾望說ノ欠點ハ固有及ヒ派生ノ區別ヲ認メザ
ルニアリ(一六)

第三節 經濟上ノ慾望ノ觀念

「經濟上ノ慾望」ノ定義(一六) 派生ノ慾望ノ一種類タリ(一六) 同時ニ外界ノ慾望ノ一種類タリ(一六—一七) 慾望ニ關スルしむるら及ヒぢぢぢぢノ説(一七—一八) セリリぐまんノ説(一八) 慾望ノ分類ニ關スル從來ノ説——へるまんノ分類——わぐなノ分類——ろしるノ分類——くらいんぢぢぢぢノ分類——金井博士ノ分類(一八—二四) 經濟上ノ慾望トハ利己心ノミヨリ出ヅルニ非ラズ(二四) 慾望ノ動機ニ付イテノくらいんぢぢぢぢノ説明(二四—二五) わぐなノ説明(二五—二六) まいしるノ説明(二七)

第四節 經濟上ノ慾望ノ種類及ヒ發展

自足的慾望(二七) 營利的慾望(二八) 經濟上ノ慾望ハ其ノ發展ニ伴ウテ營利的トナル(二八—二九)

第五節 經濟主體(經濟上ノ人)

經濟主體ノ定義(二九) 經濟主體ト所謂經濟人トテ混同スル勿レ(二九)

第二章 財物

第一節 財ノ觀念

財ノ定義(三〇) 外國ノ術語(三〇) 財ナル文字ノ不當(三一) 財ノ發展(三一—三二)

第二節 財ノ種類

第一、内界ノ財及ヒ外界ノ財(三二) 第二、固有ノ財ト然ラザルモノ(三二) 第三、有形ノ財ト無形ノ財(三二) 第四、處有シ得ル財ト然ラサルモノ(三三) 實例(三三)

第三節 財物ノ觀念

財物ノ定義(三四) 外國ノ術語(三四) 財物ノ説明(三四—三七) 娯樂ハ希ヤ財物タルノ性質ヲ有ス(三七) 所謂内界ノ財ヲ以テ財物トナサ、ル理由(三七—三八) 處有シ得ベカラサルモノヲ以テ財物トナサ、ル理由(三九) 慾望ノ目的物タル爲メノ條件(三九—四〇) 財物ニ關スル從來ノ學說——くらいんぢぢぢぢノ説明——わぐなノ説明——金井博士ノ説——ろしるノ説——まいしるノ説——へるまん、つげんはんどるノ説——のいまん、まいねる、らう等ノ説——ふねめちやいとノ説(四〇—四九) 財物ト經濟ノ手段トノ差異(四九—五一)

第四節 財物ノ種類

財物ノ大別(五一) 其ノ細別(五一—五八)

第五節 財物ノ效用及ヒ價值

效用ノ定義(五八) 價值ノ定義(五八) わぐなノ説明(五九—七〇) 價值ノ觀念(五九) 使用價值(五九—六五) 享樂價值ト生産價值(六二) 消費價值ト利用價值(六三) 物質價值、形態價值、位置價值(六三) 數量價值ト品種價值(六三—六五) 交換價值(六六—六八) 價格ノ觀念(六八—六九) 交換價值及價值決定ノ條件(六九—七〇)

第六節 財産ノ觀念及ヒ其ノ種類

財產ノ定義(七〇) 公有財產ト私有財產(七〇) 享樂用ノ財產ト經濟用ノ財產(七〇) 一
七二) 財產ニ關スルわぐなノ説明(七一—七九) 財產ノ觀念(七一—七二) 公有財
產(七三) 富(七三—七四) 財產ノ種類(七四—七五) 資本(七五—七七) 財ガ資本トナ
ル爲メノ條件(七七—七八) 國民資本ト個人資本(七八) 無生資本(七九)

第三章 經濟行爲

第一節 經濟行爲ノ觀念

經濟行爲ノ定義(八〇) 經濟上ノ慾望ヲ達セン爲メノ行爲ハ凡テ經濟行爲トナルニ
非ラズ(八一) 財物ノ獲得ハ凡テ經濟行爲ノ結果ト云フベカラズ(八二) 財物ヲ獲得
スルニ至ル場合ノ分類(八二—八四) 財物獲得ノ行爲ハ必ラズシモ經濟上ノ慾望ヲ
達スルヲ以テ目的トセズ(八四) 經濟行爲ハ經濟上ノ慾望ノミヨリ出ヅルニ非ラズ
(八五) 人類ノ經濟的性質(八五—八六) 經濟行爲ハ必ラズシモ利己心ヨリ出テズ(八
六) 經濟行爲ノ動機(八七—九一) わぐなノ説(九二) 行爲ノ因ツテ生セシ直接ノ慾
望如何ハ經濟行爲トシテ類似セル行爲トナシテ標準トナル(九二—九三) 福田博士
ノ説(九五) 經濟行爲ト經濟行爲ニアラザルモノトハ截然分割サレ居ルニ非ラズ(九
五—九七) 福田博士ノ説ヲ評ス(九七) 經濟行爲ノ最終目的(九八) ぐるすノ説(九八
—九九) 福田博士ノ説(九九—一〇〇) 經濟行爲ニ關スル從來ノ釋説(一〇〇—一〇
一二) セーレンベールの説(一〇一) くらいんあひたノ説(一〇一) 金井博士ノ説(一〇
一一—一〇二)

第二節 經濟行爲ノ成立要素

經濟上ノ慾望ハ其ノ一ナリ(一〇二) 其ノ目的ヲ達スルノ手段タルベキ行爲ハ其ノ
二ナリ(一〇二) 其ノ行爲ノ結果トシテノ財物ノ獲得ハ其ノ三ナリ(一〇三)

第三節 經濟行爲ノ分類

第一、營利的經濟行爲ト自足的經濟行爲(一〇三—一〇四) 今日ノ經濟行爲ノ大半ハ
營利的ナリ(一〇四) 第二、生産行爲ト取得行爲(一〇五—一〇六) 從來ノ釋説(一〇六)
自足的生産ト營利的生産(一〇六) 自足的交換ト營利的交換(一〇七) 新タニ財物ヲ
占有スルニ至ル場合ノ分類(一〇七—一〇九) 經濟行爲及其ノ種類ニ關スルちちま
るノ説明(一一〇—一一二)

第四節 經濟行爲ノ發展

經濟行爲發展ノ初期ニハ秩序ナク計畫ナシ(一一三) 漸クニシテ經濟ヲ成スニ至ル
(一一三) 生産行爲ノ發展(一一四) 取得行爲ノ發展(一一四) 生産行爲ト取得行爲ト
ノ關係(一一五) リサミノ説明(一一五) いりーノ説明(一一五—一三一) 交換的取得
ノ發展(一三一—一三三) 交換發展ノ三時期(一三三)

第四章 經濟

第一節 經濟ノ觀念

經濟ノ定義(一三三) 經濟行爲ノ集合體也(一三三—一三四) 秩序的ニ統一サレタル

集合體ナリ(一三四) 經濟ノ起ル原因(一三五—一三六) 經濟行為ヲ離レテ經濟アルニ非ラズ(一三六—一三七) 經濟ノ觀念ニ關スル從來ノ學說—わぐな—金井博士—らつせる—福田博士—ぢーちる(一三七—一四〇)

第二節 經濟ノ種類

單一經濟ト共同經濟(一四二) 家族經濟(一四二) くらいんをひた—ノ說明(一四三—一五〇) ぐるろすノ說明(一五〇—一五一) 綜合經濟ト特殊經濟(一五二) 個人經濟、國家經濟、社會經濟(一五二) 經濟單位(一五三) 經濟社會(一五三) 經濟團體(一五三) くらいんをひた—ノ說明(一五三—一五五)

第三節 經濟ノ發展

經濟未生ノ時代(一五五) 綜合經濟發生以前ノ時代(一五六) 綜合經濟ノ第一期(一五六) 綜合經濟ノ第二期(一五七) 綜合經濟ノ第三期(一五七) 國民經濟ノ發展階級ニ關スルリすまノ說(一五八—一六一) ひるでぶらんどノ說(一六一—一六四) ぶらつへるノ說(一六四—一六七) しほら—ノ說(一六七)

第四節 國民經濟ノ觀念及本質

國民經濟ノ定義(一六八) 外國ノ術語(一六八) 國民經濟ハ主體ナキ經濟ナリ(一六八—一六九) 主體ナクシテ經濟タリ得ル理由(一六九—一七二) 國民經濟ハ特殊經濟ノ單純ナル機械的集合體タルニ非ラズ(一七三—一七五) 分業及交換ハ國民經濟成立ノ條件ナリ(一七六—一七七) 國民經濟ハ自然の產物ナリ(一七七—一七八) 國家

ト國民經濟トノ關係(一七八—一八〇) 國民經濟ハ意識的經濟及ヒ無意識的經濟ヨリ成ル(一八〇—一八三) 國民經濟ノ三主義(一八三—一八五)

第五章 經濟學

第一節 學ノ觀念

學ノ定義(一八六) 其ノ說明(一八六—一八七) 學ノ起ル所以(一八七—一八八) 學ノ目的(一八八—一九〇) くらいんをひた—ノ說明(一九一—一九七) 學ノ目的ニ關スル建部博士ノ說(一九七—一九八) 凡テノ學ニ通スル二分科(一九八)

第二節 學ノ分類

學ソノモノニ關スル學ト事物現象ソノモノニ關スル學(一九九) 人類ヲ研究スルモノト人類以外ノ事物ヲ研究スルモノ(一九九) 人類ニ關シテ社會的方面ヲ研究スルモノト自然的方面ヲ研究スルモノ(一九九) 小野澤博士ノ學ノ分類(二〇〇) 建部博士ノ說(二〇〇) 社會科學上ノ問題(二〇〇—二〇六)

第三節 經濟學ノ定義

經濟學ノ定義(二〇七) 經濟行為ノ社會的方面ヲ研究スルモノナリ(二〇七—二一〇) 經濟學ノ定義ニ關スル諸說(二一〇—二一四) 金井博士ノ說(二一四) 小林氏ノ說(二一四—二二二) ぢーちるノ說(二二二—二二五) 我が國ニ於ケル經濟學一轉ノ時期(二二五—二二六) 田口博士ノ說(二二六—二二八) 我が國現在ノ學者が使用セル新

學ノ名稱—社會經濟學—國民經濟學—純正經濟學(二二九—二三二) 外國ノ學者カ
使用セル名稱—經濟學—政治經濟學—國民經濟學—社會經濟學(二三二—二三五)
社會經濟學ナル名稱ノ由來(二三五—二三六) ちらるガ社會經濟學ナル名稱ヲ用
ヒタル理由(一二六—一二七) 予ガ經濟學ノ定義ノ精密ナルモノ(二三八)

第四節 經濟學ノ範圍、職分及ヒ分科

經濟ノ實態(二三八) 經濟ノ理想(二三八) 經濟政策(二三九) 經濟學ノ第一職分—純
正經濟學(二三九) 第二ノ職分—應用經濟學(二三九) 經濟史學—經濟動學(二三九)
現世經濟學—經濟靜學(二四〇) 經濟運命學—經濟倫理學—經濟政策學(二四〇) 經
濟學原論及經濟學特論(二四一) 經濟學ノ分科一覽(二四二—二四五) 今日現存セル
經濟學ノ分科(二四五—二四六) 經濟學ノ職分及分科ニ關スル學說—ちらる—
ぐな—金井博士—くらいんあひた—(二四七—二五九) 純正及應用ノ別ヲ爲シ得
ルヤ否ヤ—びえるそんせ—るノ說—きりんす、ちらるノ說(二五九—二六三) 純正
經濟學ノ職分及名稱(二六三—二六四) 應用經濟學ハ學ニアラズトノ說(二六四) 純
正經濟學ト應用經濟學トノ差異(二六五) 應用經濟學ノ名稱(二五六) 一般經濟學ト
特別經濟學(二六五) 經濟學ノ研究方法(二六六—二七八)

第五節 經濟學原論ノ編次

序論—本論(純正經濟學原論及應用經濟學原論)—補論(二七九—二八二)

術語及ヒ人名索引

經濟學原論

法學士河上肇著

第 一 編 序 論

經濟學ノ研究ヲ爲メニ當ツテハ、先ツ經濟學ノ何物タルヤニ就イテ大體ノ觀
念ヲ有スルノ必要アリ。而シテ經濟學ノ何物タルヤヲ知ルカ爲メニハ、經濟
ノ何物タルヤヲ知ラサルヘカラス、又々經濟ヲ知ルカ爲メニハ、經濟行爲ヲ知
ラサルヘカラス。而シテ經濟行爲ノ何物タルヤヲ知ルカ爲メニハ、經濟上ノ
慾望、經濟上ノ人、經濟上ノ財ノ三者ニ就イテ精確ナル觀念ヲ有スルノ必要ア
リ。故ニ予ハ先ツ經濟上ノ慾望、經濟上ノ人、經濟上ノ財ヨリ説キ起シテ、經濟
行爲ニ及ヒ、更ニ經濟ニ論及シ、終リニ經濟學ノ何物タルヤヲ説明シ、最後ニ本

著大體ノ趣旨構造ヲ述ヘ置カント欲ス。今マ假リニコノ編ヲ名ケテ序論ト云フ。

第一章 經濟上ノ慾望

第一節 慾望ノ觀念

吾人々類ハ一定ノ目的ヲ達セントスルノ意思ヲ有ス。ソノ意思ヲ名ケテ慾望ト云フ。

外國語

茲ニ予カ慾望ト云フハ、といフ語ノ *Bedürfnis* 又ハ *Begehrde* ニ相當スルモノニシテ *Mangel* ニハ非ラス。英語ノ *Desire* ニ相當スルモノニシテ *Want* ニ非ラス。從來ノ學者ハ往々コノ兩語ヲ混用スト雖モ、予ハ兩者ノ間ニ明確ナル區別ヲ設ケントスルモノナリ。

慾望ニハ種類多シ

或ル目的ヲ達セントノ意思ハ、其ノ如何ナル種類タルヲ問ハス、凡テシコトヲ欲シ、或ハ智識ヲ得シコトヲ希ヒ、或ハ名譽ヲ全ウセンコトヲ望ムノ類ハ、何レモ一定ノ目的ヲ達セントスルノ意思ニシテ凡テ慾望ナリ。

慾望ニ關スル學者ノ說明

學者ノ數ハ甚ダ多ク、レバ、漢學ナル著者ノ一々列舉シ得ル所ニ非ラザレドモ、其ノ最も普通ニ行ハルモノハ、ゆるまんノ説ナ

リ。氏ハ「慾望トハ欠乏ノ感覺及ビ其ノ欠乏ヲ除去セントノ願意」 *Gefühle des Mangels, mit dem Streben, diesen Mangel zu beseitigen* (Hermann, *Statistisch-ökonomische Untersuchungen*, 2 Aufl., S. 5.) ト云ヘリ。わぐな一ハ之ヲ其ノマ、引用セリ。(Wagner, *Grundlagen*, 3 Aufl., I. S. 73) 金井博士(社會經濟學四三頁)福田博士(國民經濟原論七頁)ノ所説亦々之ト同シ。くらいん(いた)モ殆ト同様ノ說明ヲ爲シタリ。曰ク、

「凡テノ人ハ自己ノ狀態又ハ境遇ニ就キ、絶エズ不足(飢エ、渴キ、寒サ、疲レ等)ヲ感シ、且ツ此ノ不足ノ狀態ヲ避ケルニ適當セル所ノ物ヲ獲又ハ之ニ適當セル所ノ事ヲ爲サントスルノ願望ヲ有スルモノナリ。吾人ハ此ノ不足ノ感覺又ハ (Oder) コノ要求ヲバ慾望ト名ク。」

(Kleinwächter, *Lehrbuch*, S. 6)

是等ノ學者ハ欠乏ノ感覺 (*Gefühle des Mangels*) 又ハ不足ノ感情 (*Empfindung des Unbefriedigendes*) ナル文字ヲ用ヒ來ツテ慾望ノ說明ヲ爲セリ。シカレニ余ハ、從來ノ説ヲ改メテ(經濟學上之根本觀念、一頁) 單ニ一定ノ目的ヲ達セントスルノ意思トノミ稱シタリ。コレ多數ノ學者ト其ノ説ヲ異ニスル所ナルカ故ニ、茲ニ一頁ノ辨明ヲ試ミザルベカラズ。

余カ欠乏ノ感覺ヲ以テ慾望ノ定義中ニ挿入セザリシ理由ハ、慾望タル必ズシモ、欠乏ノ感覺ト伴ハサルモノナルヲ以テナリ。例ヘバ、數十萬ノ財産ヲ有スルモノト雖モ、輪ホ財産ヲ增加セントノ慾望ヲ有シ、而シテ其ノ慾望ノ度ハ却ツテ貧者ヨリ強シ。(Carlie, *Evolution of Modern Money*, p. 254) シカレトモ、彼等ノ財産タル既ニ巨額ニ上リ居レルカ故ニ、實際ニ於イテハ彼等ハ欠乏ヲ感シ居ルニ非ラス、少クトモ貧者ヨリ、ヨリ多クノ欠乏ヲ感シ居ルニ非ラス。シカルニ多數學者ノ用語ニ從ヘハ、富者ハ貧者ヨリモ、ヨリ多クノ慾望ヲ有スルニ過キサレナリ。予ノ説ニ從ヘハ、然ラス、富者ハ貧者ニ比シテ單ニ多クノ慾望ヲ有スルニ過キサレナリ。人或ハ曰ハシ、彼等如何ニ富者ナリト雖モ、苟クモ富ヲ追求スル以上ハ、コレ富ニ對シテ欠乏

感覺ヲ有スルモノナリト。然リモ此ノ意味ニ於テ欠乏感覺ナル文字ヲ用フヘシトセハ Mangel ナル用語ハ少クトモ適當チ欠クト云ハザルヘカラス。況ンヤ、くらゐひたノ如ク之カ例トシテ飢エ、渴キ、寒サ、疲レ等チ列舉スルニ於イテチヤ。彼等ノ眞意カ此ニ非ラヌミテ彼ニ在ルヤ明カナリ。

今一歩チ譲リテ凡テノ慾望ハ欠乏感覺ニ伴フモノトセハ、欠乏感覺ナル文字チ特ニ挿入スルコトノ頗ル蛇足ナルノ虞チ免ヘス。余ト雖モ感情ト意思トノ間ニ密接ナル關係アルヲ認ム。(Harald Höfling, Psychology, p. 98-99.) 然レトモ特ニ之ヲ定義中ニ挿入スルノ必要チ認メサルノミナラス、却ツテ其ノ誤解チ來サンコトヲ恐ル。

しるらーノ定義

ハ他ノ學者ノ定義ト大ニ趣チ異ニス。氏曰ク
 Als Bedürfnis bezeichnen wir jede mit einer gewissen Regelmässigkeit und Dringlichkeit auftretende gewohnheitsmässige, aus unserem Seelen- und Körperleben entspringende Notwendigkeit, durch irgend eine Beibehaltung mit der Aussenwelt unsere Unlust zu bannen, unsere Lust zu mehren. (Schmoller, Grundriss der Volkswirtschaft, Bd. I, S. 23.)

子ハ氏ノ説ニ從ハズト雖モ、シカモ氏ノ説タル從來ノモノニ比シテ稍、優レルモノアルヲ信ス。

慾望ト需要トノ關係

多數ノ慾望チ總稱スル時ハ普通之ヲ需要ト云ヘリ。例ヘスルセ
 くらゐひたーハ更ニ之ヲ説明シテ曰ク
 Jeder Mensch hat zahllose Bedürfnisse, leibliche und geistige, deren Gesamtheit sein Bedarf heisst (System, S. 1.)

「需要トハ慾望ノ總稱ナリ、而シテコノ需要ナル語ハ二種ノ意義ニ於イテ用イラル。第一、吾人ハ一個人ノ需要、一家族ノ需要、一國民ノ需要等ノ文字ヲ用フルコトアリ。此ノ場合

ニ於イテハ、人又ハ人ノ集合體ガ有スル諸種ノ慾望チ總稱シタルモノナリ。第二、吾人ハ人又ハ人ノ集合體ニ就キ、種類ニ對スル需要、總包ニ對スル需要、木材ニ對スル需要等ノ文字ヲ用フ。此ノ場合ニ於イテハ、人又ハ人ノ集合體ガ一定ノ期間(日、週、月、年等)一定ノ物體ニ向ツテ有スル慾望ノ總稱チ指シタルモノナリ」(Lehrbuch, S. 6.)

余ノ考フル所ニ據レバ、需要ナルモノハ、慾望ノ一種類タル經濟的慾望ノ總稱チ指スニ外ナラズシテ、慾望ソノモノト總稱チ指スニ非ラズ。名譽ニ對スル需要、快樂ニ對スル需要等ノ文字ハ余ノ嘗テ見サル所ナリ。

吾人々類ハ既ニ一定ノ目的ヲ達セントスルノ意思(慾望)ヲ有ス。而シテ其ノ意思タル、外部ニ見ハレズシテ止ルコトアリト雖モ、多クハ外ニ發シテ其ノ行為トナル。人類ハ活動茲ニ於イテカ有リ。

經濟學ニ於イテ研究セントスル一種ハ人類行為ハ、ヤガテ其ハ一部タリ。故ニ吾人ハ斯學ノ發端ニ於イテ慾望ノ説明ヲ爲ス。

經濟學ノ發端ハ何物チ以テ始ムヘキヤ

ニ就イテハ、學者間ニ種々ノ異說アリ。(一)クラ
 財チ以テシ (Bau, Lehrbuch, 21.) (二)カ
 (richesse) チ以テシ (Traité Économique politique) (三)カ
 (économiques) 其ノ他多數ノ學者例ヘス、カ (M. Virth, Grundzüge der Nationalökonomie) ノ如キ我
 カ國ニテハ金井博士、福田博士ノ如キハ慾望チ以テシ。(四)カ
 (Jahrschrift, 1881) ノ人知ソノモノチ以テシ、カ
 セリ(カ)ノ巻頭第一ニ Ausgangspunkt, wie Zielpunkt unserer Wissenschaft ist der Mensch

リ)。(五)或ハ經濟ノ觀念ヲ發端ト爲スアリ。リ入シテ其モ、ぐらゐんをひたし、しるるらーノ如キコレナリ(Lindvorn, Grundzüge. Kleinwächter, Lehrbuch, Schmoller, Grundriss)。(六)或ハ經濟行爲ヲ以テ發端ト爲スアリ。Dietzel, Zeitschrift f. Staatswissenschaft. Bd. 37)。(七)或ハ經濟行爲ノ如キコレナリ(Schönberg, Volkswirtschaftslehre, S. 4)。(八)或ハ價值ノ觀念ヲ以テスルアリ。リカールド(Ricardo, Principles of political economy and taxation)ノ如キコレナリ。(九)或ハ勞動ヲ以テスルアリ。あたむすみす(Ad. Smith, Wealth of Nation)ノ如キコレナリ。(十)或ハ價值ニ關スル學說ノ變遷ヲ以テ發端トナス(純正經濟學第二版第一編第二章)。大林ニ於イテリカールドニ似タリト云フベシ。(十一)或ハ經濟學ノ觀念ヲ發端ト爲スアリ。Cossa, Primi Elementi di Economia Sociale)。(十二)或ハ經濟學ノ觀念ヲ發端ト爲スアリ。Cossa, Primi Elementi di Economia Sociale)。(十三)或ハ經濟學ノ觀念ヲ發端ト爲スアリ。Cossa, Primi Elementi di Economia Sociale)。

慾望ハ不確不定ノモノナルニモ拘ラス、斯學ノ發足點トナシ得ルノ理由

次ハ難ク論ジタリ(Lehrbuch, S. 8 ff.)。參考ノ爲メ釋載ス。

『慾望トハ不満足ナル状態ノ知覺ト及ビ其ノ不満足ナル状態ヲ除去セントスルノ願意トナ合シタルモノナリ。故ニ慾望ニハ二個ノ要素ヲ必要トス。即チ一方ニ於イテハ、其ノ人ニ影響ヲ及ボシツルアル状態ヲ指シ、他方ニ於イテハ、其ノ状態又ハ關係ニ就キテ知覺ヲ有スルコトヲ必要トス。シカルニ、コノ知覺ナルモノハ全然主觀的ノモノナルコト勿論ニシテ、例ヘバ予カ飢渴ヲ感シツルアルハ否ヤ、將タ又々如何ナル程度ニ於イテ感シツルアルヤ等ノコトハ、予自身ノ外他人ノ得テ窺フベキコトニ非ラズ。而シテカノ状態又ハ外界ノ關係ナルモノモ、其ノ人ニ及ボス影響ハ必ズシモ一様ナラズ、且ツ其ノ状態ソレ自身モ自ラ變動スルノミナラズ、人類ノ行爲ニヨリテモ變動セラルコトアリ。慾望ノ要素ナルモノ、性質ハ此ノ如クシレバ凡テノ慾望ハ純然タル主觀的ノ性質ヲ得アルモノニシテ、其ノ大小モ全ク不確定ニシテ變動常ナキモノナルコトヲ知ルニ足ラン。吾人ノ胸中一慾萌スヤ、其ノ慾望ハ益々其ノ強サヲ加フルコトアリ、然レドモ、モシ之ヲ満足セシメンカ、其ノ慾望ハ忽チ薄弱トナリ、次イテ消滅スルコトアリ。一言以テ之チ敷ヘバ、各種ノ慾望ハ不確不定ノモノナリ、故ニ人モシ之ヲ一瞥セシカ、慾望ヲ以テ斯學ノ發足點ト爲スコトハ、甚ダ難キヲ信スルニ至ラン。然レドモ、猶ホ必ズシモ然ラザルノ事情アリ。

即チ茲ニ二個ノ事情アリテ、之ガ爲メニ慾望ヲシテ或ル程度マテ捕捉シ得ベキモノナラシムル也。

『第一』各個人ハ、時ノ經過ニ伴フテ種々ノ變化ヲ爲スニ拘ラズ、荷クモ、其ノ生活ヲ保ツ以上ハ或ル程度マデハ同一ノ性質ヲ有スルモノナリ。且ツ又々外界ノ事情ナルモノモ、大體ヨリ之ヲ見レバ、甚シキ變化ヲ來スモノニ非ラズ、ソレ故一定ノ慾望ハ常ニ繰リ返ヘシテ吾人ヲ襲フモノナルナリ。而シテ此ノ一事ハ經濟ニ向ツテ重要ナル二個ノ結果ヲ持チ來ス。

『第二』何人トモ、荷クモ規則正シキ經濟ヲ爲サント欲スルモノハ所謂手ヨリ口ニト云フガ如キ生活ヲ爲スモノニ非ラズシテ、必ズヤ各種ノ慾望ニ就キ一定ノ思慮ヲ施シ、早ク或ハ遅ク或ハ強ク或ハ弱ク、或ハ一定シ或ハ一定セザル等ノ差異ヲ有スルモノナルコトヲ考慮シ、且ツ其ノ慾望中ニハ食物ニ對スル慾望ノ如ク必ズ満足セシムルノ必要ナキモノトノ區別アルコトヲ

識別スルニ至ル。カクテ世人ハ慾望ニ對シテ現在のノモノ及ヒ將來のノモノ、經濟的ノモノ及ヒ間歇的ノモノ、持續的ノモノ及ヒ一時的ノモノ、不動的ノモノ及ヒ動的ノモノ、尋常的ノモノ及ヒ非常的ノモノ、絶對的ノモノ及ヒ比較的ノモノ、高等ナルモノ及ヒ下等ナルモノ、急迫セルモノ及ヒ猶豫シ得ベキモノ等ノ區別ヲ爲スニ至ルモノニシテ、此ノ點ヨリ觀察スレバ實際上ノ生活ト學問上ノ學理トハ全然同一ニ歸スルモノト云フベシ。

(二)慾望ハ或ル程度ニ於テ飽リ返ヘサルコトノ第二ノ結果ハ、吾人が慾望満足ノ材料ヲ重要視スルコト(即チ價值ヲ附スルコト)ハ繼續的ノ性質ヲ有スルコトコレナリ。ソレ吾人が空腹ヲ感シツトアル際ハ、食物ハ非常ナル吸引力ヲ有スベシ、然レドモ、モシ吾人ニシテ充分ニ満足ヲナシタル後ナラシカ、吾人ハ其ノ食物ヲ見ルダモ猶ホ不快ノ感ヲ催スニ至ラン。然レドモ一家ノ主婦ハ其ノ殘餘ノ食物ヲバ拋棄スルコトナク、必ズ之ヲ貯ヘ置クモノナリ、蓋シ家人ハ夕刻ニ至リ又ハ翌朝ニ至リテ再ビ空腹ヲ感ズルニ至ルベク、從ツテサキニ排斥サレタル食物モ再ヒ歡迎セラレ、ノ時アルヲ知レバ也。之ヲ要スルニ凡テ吾人ノ慾望ヲ満足スルニ適當ナルモノハ吾人ハ之ニ就イテ價值ヲ感ズルモノナリ、乍併其ノ物體ニシテ既ニ其ノ用ヲ達ゲ吾人ノ慾望ヲ満足シ去リタル時ハ、最早吾人ニ對シテ吸引力ナクセザルニ至ルナリ。乍併モシ其ノ慾望ニシテ重子ヲ發生スヘキ性質ノモノナラシカ、其ノ物體ハ一時何等ノ利用ヲモ有セザルモノナリトスルモ、モシ其ノ物體ニシテ猶ホ使用シ得ヘキモノナラシカ、全然其ノ價值ヲ失フカ如キコトアラサル也。將來發生スヘキ慾望ノ爲メニ其ノ物體ノ價值ハ必ズ繼續的ノ性質ヲ有スル也。

(第二)注意スヘキ事情ハ、吾人ハ類々種々ノ種々ノ差異ヲ有スルモノナルニ拘ラス、一定ノ程度マテハ同等ノ性質ヲ有シ、且ツ大體ニ於テハ同様ノ關係ノ下ニ生活シツ、アルコトコレナリ。コレカ故ニ凡テ人類ノ慾望ハ殆ント同様ナルコトヲ知ルヘシ。サレバ、

慾望ノ種類タル極メテ多キコトハ前言ノ如シ。而シテ是等ノ慾望ニハ之ヲ

序論 經濟上ノ慾望 慾望ノ觀念

各種ノ慾望ハ、其ノ假令特別又ハ異常ニ見ユルモノト雖モ、殆ト凡テノ人又ハ少クトモ多クノ人々ノ等シク具有スル所ナリト云フコトヲ得ヘシ。而シテ、コノ一事ハ經濟ニ向ツテ頗ル重要ニシテ重大ナル關係ヲ有スルニ結果ヲ生スルナリ。

(一)第一ニ吾人ハ慾望満足ノ材料ヲ重要視スルコト(即チ價值ヲ附スルコト)ハ、大體ニ於テ止頓ヲ定メテ多クノ人々ハ其ノ物體ノ價值ヲ個人力之ヲ重要視スルモノトシテ、或ハ其ノ原因ヨリシテ吾人ハ或ル物體ニ就キテハ何等ノ慾望ヲ感セサルモノト雖モ、只タ他人力之ヲ必要トスヘシト云ヘルコトノ爲メニ其ノモノヲ重要視スルニ至ルナリ。(喫煙セサル者ト雖モ、其ノ知人ニ贈ルカ爲メ、或ハ其ノ賣買ニ依リテ利益ヲ受クルカ爲メ卷煙草ヲ購買スルノ類コレナリ)。

(二)多數ノ人カ同様ノ慾望ヲ有スト云ヘル事ソレ自身ハ別ニ重ンスヘキ事柄ニハアラサレトモ、其ノ結果ハ人類發展ノ上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ。即チ多クノ人カ同一ノ慾望ヲ有スルノ結果トシテ、ソレヲ人々ハ互ニ集合シテ團體ヲ作り、其ノ共同ノ力ニ依リテ互ニ共有セル慾望共同の慾望ヲ満足セントスルニ至ルナリ。而シテ其ノ團結タル、或ハ自由ノ團結私的團體タルコトアリ、或ハ強制的團體地方團體、國家各種ノ職業團體、寺院等タルコトアリ、而シテ又々之ヲ他方ヨリ觀察スレバ、一定ノ地域内ニ住居セル人類ノ(自由的及ヒ強制的)團結職業ヲ同クセルモノ、團結信仰ヲ共ニセルモノ、團結等ニ分ツコトヲ得ヘシ。要スルニ人類ハ其ノ慾望ヲ同クスルノ結果各種ノ團結ヲ組成スルニ至ルモノニシテ、コノ點ヨリ觀察セハ、共同的慾望ノ歴史ハ世界ノ歴史ナリト云フ可致テ過言ニ非ラス。

満足セシムルコトガ、其ノ生存ニ必要ナルモノアリ、必要ナラサルモノアリ、利益ナルモノアリ、不利益ナルモノアリ。又タ之ヲ満足セシムルノ程度如何ニヨリテ、タトヒ必要アルモノ利益アルモノト雖モ、其ノ必要ヲ失ヒ利益ヲ失ヒ、却ツテ損害ヲ來スモノアリ。

故ニ人類ハ能ク其ノ欲望ヲ選擇シ、或ルモノハ力メテ之ヲ満足セシム、或ルモノハ之ヲ一定ノ程度ニ止メ、或ルモノハ全然之ヲ満足セシメズシテ根本的ニ撲滅セシムルノ必要アリ。從ツテ社會ノ制度ニモ、欲望満足ノ手段タルモノト欲望制限乃至撲滅ノ手段タルモノトアリ。宗教、法律ノ一部ノ效用ハ後者ノ事例ニ屬ス。

凡テノ欲望ヲ制限ナク満足セシムルコトハ人類ノ生存繁榮ノ必要條件ニアラス

例ハ食

物ニ對スル欲望ノ如キモ、制限ナク之ヲ満足セシムル時ハ、必ス身體ノ滅亡ヲ來ス。色慾ノ如キ之ヲ無制限ニ満足セシムルハ、實ニ個人ノ存在ヲ危クスルノミナラス、社會ノ存在ニ危害ヲ及ボスモノナリ。愛國の欲望ノ如キモ、之ヲ個人ヨリシテ觀察セシムル時ハ、必ずシテ身ヲ亡ホシ家ヲ倒スノ原因トナル。國家ノ爲メニ戰死スルカ如キコレナリ。欲望ノ満足ハ個人ノ生存繁榮ニ必要欠クヘカラス、社會ノ生存繁榮ニ欠クヘカラスト云フカ如キ淺然タル論說ヲ爲スモノハ、欲望ノ本質ヲ明ニセサルノ理ヲ免レズ。

シカルニ此ノ點ニ關スル從來ノ說明ハ、盧山ノ中面觀ナリ。例ハ、金井博士曰ク「此ノ欲望ヲ満足スニ非ラサレハ人類ノ生存繁榮ハ得テ期ス可カラズ」(社會經濟學四三頁ト)。余モ亦々其ノ然ルヲ信ス、然レトモ「或ル種類ノ欲望ヲ満足スニ至リテハ人類ノ生存繁榮ハ得テ期スヘカラス」ト云ヘル一面ヲ看過セラレタルハ、余ノ服シ難シトスル所ナリ。但シ博士ハ後段ニ於テ「斯ル欲望奢侈的欲望ハ之ヲ満足セシメサルチ可トス、何トナレハ此ノ種ノ欲望ニシテ永ク繼續シ絶エス之ヲ満足スカ如キ事アラバ、遂ニ必ス一身ノ破産ヲ招ク可シ云々」(五〇頁)ト述ヘラレタルカ故ニ、前段ノ說明ハ只々說明ノ不足ト見ルチ得ヘシ。

凡テノ欲望ヲ満足スルコトハ人類ノ生存繁榮ノ必要條件ニ非ラス、然レトモ欲望ノ種類ノ如何ナルモノタルヲ論セス、既ニ欲望アリ而シテ之ヲ達シ得サル時ハ、人類ハ之カ爲メニ不快不満足ノ感情ヲ起ス。是カ故ニ、「満足セラレサル欲望」ヲ出來得ヘキタケ少クスル事ハ、人生社會ノ幸福ヲ計ルカ爲メ必要タリ。サレハ一方ニ於テハ欲望ソノモノ、根絶ヲ計リ、他方ニ於テハ欲望ノ成就ヲ計ル。人類ノ欲望ニ對スルノ政策ハ、此ノ如クニシテ消極的及ヒ積極的ノ二方面アリ。經濟行爲ノ如キハ實ニ後者ニ屬ス。

上述セシ所ニ依リテ考フレハ、欲望ノ増加ソノモノハ常ニ必スシモ人類ノ幸福ヲ増進スル所以ニ非ラサルノ理明カナリ。

慾望ト幸福トノ關係

哲學倫理學ノ說明範圍ニ屬スヘシ。只々一言著者ノ見解ヲ述ヘンニ、予ニ満足セラレタル
慾望ヲ出來得ル限り最小トナシ満足サレタル又ハサレ得ル慾望ヲ出來得ル限り最大トナ
スハ人類ノ幸福ヲ増進スル所以ナリト信ス。嘗テ讀ムハ憂ノ始メト云フカ如キ愚者ハ最
大ノ幸福者也ト云フカ如キハ、遺憾ノ消息ヲ滿ラスモノナリ。

慾望増加ト文明トノ關係

足サレ得ル慾望ノ増加ニ外ナラサルナリ。固ヨリ満足サレタル又ハサレ得ル慾望ノ増加
ニ伴フテ満足サレ得サル慾望モ亦々増加ス。只々後者ノ増加力前者ノ増加ニ比シテ少量
ナル場合ニ於イテ始メテ人類幸福ノ増加アリ、人類ノ文明ノ進歩アルナリ。世々々々文明
主義ノ思想アルハ、文明進歩ノ裏面満足サレサル慾望ノ増加ヲ以テ大ナリト觀スルモノ、又
ハ自ら其ノ裏面ノ影響ヲノミ主トシテ觀ルモノ、不平ノ聲々々。社會ノ生産増加アル毎
ニ社會問題ノ起ルハ、主トシテ道般ノ事情ニ因ル。

第二節 慾望ノ種類

從來ノ學者ハ凡テノ慾望ヲ以テ經濟學ノ研究範圍トナシタルノ結果、慾望ニ
就キ種々ノ見地ヨリシテ之カ分類ヲ試ミタリ。然レトモ余ハ從來ノ學說ヲ
排斥シ、經濟學カ干與スル所ノ慾望ハ其ノ一種類タル經濟上ノ慾望ナリト爲

スモノナリ。故ニ予ハ只々茲ニ、經濟上ノ慾望ヲ説明スルニ必要タル二種ノ
分類ヲ掲クルニ止ム。

第一、慾望ハ之ヲ分チテ内界ノ慾望及ヒ外界ノ慾望トナスコトヲ得ヘシ。
「内界ノ慾望トハ其ノ慾望ヲ有シツ、アル人ノ内部ニ於ケル心理的經過ニヨ
リテノミ満足セラル、ノ慾望ニシテ、外界ノ慾望トハ、外界(即チ外界ニ於ケル、
死的、自然的、自然的、他人)ト一定ノ關係ヲ結フコトニヨリテ始メテ満足
セラル、ノ慾望ナリ。」コレわぐな一カ其ノ著經濟本論ノ第一卷冒頭ニ於イ
テ説明セシ所ニシテ、余ハ其ノ最モ重要ナル分類タルヲ認ム。わぐな一ノ説
タル、從來廣ク本邦ニ紹介サレ居タルニ拘ラス、コノ點ニ至リテハ未タ何人モ
之ヲ云爲シタルヲ聞カサルハ、奇ト謂フヘシ。
第二、慾望ハ又タ之ヲ分チテ固有ノ(又ハ第一、次ノ)慾望及ヒ派生ノ(又ハ第二、
次ノ)慾望トノ二者ニ大別スヘシ。人類カ一定ノ欠乏感覺ヲ有シ、而シテ其ノ
欠乏感覺ヲ除去セントスルノ意思ヲ起シタル時ハ、之ヲ稱シテ固有ノ慾望ト
云フ。而シテ固有ノ慾望ヲ満足セシムルノ手段タルモノヲ得ント欲スルハ
慾望ハ派生ノ慾望ナリ。例ヘハ飢餓ヲ感シ(欠乏ノ感覺)ソノ欠乏感覺ヲ除去

セントノ慾望ヲ發シタル時ハ、コレ即チ固有ノ慾望ナリ。シカルニ、飢餓ソノモノヲ除去セントスルノ慾望ニ非ラスシテ、飢餓ヲ醫スヘキ手段タル飲食物ソノモノヲ得ントスルノ慾望ハ、コレ派生ノ慾望ナリ。又例ヘハ、智識ノ欠乏ヲ感シ其ノ欠乏感覺ヲ除去セントスルハ、固有ノ慾望ナリト雖モ、智識ソノモノヲ得ントスルノ慾望ハ派生ノ慾望タリ。

固有ノ慾望及派生ノ慾望ノ分類ハ外界的慾望ノ分類ニ非ラス

例ヘハ「飢ヘタリ」トノ欠乏感覺ヲ除去セント

ノ慾望ハ、固有ノ慾望タリ。然レトモ必スシモ外界ノ慾望ト云フヘカラス、何トナレハ飢エタリトノ感覺ヲ除去スルカ爲メニハ、多クノ場合ニ於イテハ外界ノ物體タル食物ヲ必要トスト雖モ、シカモ或ル場合或ル人ニ於イテハ、單ニ心理ノ作用ニヨリテ「我飢エタル」ニ非ラスト觀念スルコトニヨリテ、其ノ飢渴ノ感覺ヲ除去スルコトヲ得ヘシ。人モシ疾病ノ治療法ニ心理的療法、催眠術的療法アルニ想到セハ、容易ニ道般ノ理ヲ解釋スルニ足ラン。又々以上ノ理ヲ推シテ考フル時ハ、内界及ヒ外界ノ慾望ノ區別ハ絕對的ノモノニ非ラス、一定不動ノモノニ非ラサルノ理ヲ知ルニ足ルヘシ。

固有ノ慾望ト派生ノ慾望トノ關係

コノ二者ハ學理上又々實際上ニ於イテ相分ルト雖モ、シカモ二者ノ間ニハ密接ノ關係アリ。何トナレ

ハ固有ノ慾望ハ多クノ場合ニ於イテ派生ノ慾望ヲ發生セシムルニ至レハ也。例ヘハ飢餓ノ感覺ヲ除去セントノ慾望ハ、普通ノ場合ニ於イテハ當然其ノ感覺ヲ除去スルノ手段タル食物ヲ得ントノ慾望ヲ發生セシメザレバ已マサルカ知シ。乍併凡ソ派生ノ慾望ハ必ス固

有ノ慾望ニ伴ハル、モノニ非ラス。所謂守銭奴ノ如キハ、財寶ヲ得ルコト夫レ自身ヲ以テ目的トナシ只々之ヲ得ルコト其レ自身ニヨリテ最上ノ愉快ヲ感シ、別ニ之ヲ以テ固有的慾望ヲ満足セシムルノ手段トナスニ非ラス。普通人ト雖モ、別ニ善イ着物カ欲シイノ、食物カ食ベタイノト云フ固有ノ慾望ナシニ、只々金カ欲シイ爲メニ金ヲ儲ケントスルコトアリ。此ノ如キ慾望ハ凡テ固有ノ慾望ニ伴ハサル派生ノ慾望ナリ。固有ノ慾望ト派生ノ慾望トハ密接ナル關係アリ、然レトモ二者分ツヘキナリ、然リ二者分ツヘシト雖トモ、シカモ其ノ間密接ナル關係アルヲ忘ルヘカラス。

從來ノ慾望說ノ欠點ハ固有及ヒ派生ノ區別ヲ認メサルニ在リ

從來ノ慾望說ハ予ノ所謂固有及ヒ派生ノ區別

ヲ認メズ、コレ一欠點ナリ。例ヘハ、既ニ述ヘタル如ク、飢渴ヲ感シ而シテ其ノ不足感覺ヲ除カントスルノ慾望ハ予ノ所謂固有ノ慾望ニシテ、コノ種ノ慾望ハ食物ヲ消費スルニ非サレハ之ヲ満足セシムルコト能ハス。之ニ反シ食物ヲ得ントノ慾望ハ予ノ所謂派生ノ慾望ニシテ、コノ種ノ慾望ハ食物ヲ獲得スルコトソレ自身ニヨリテ直チニ満足セラル。二者ノ區別ハ甚タ明瞭ナリ。シカルニ、カノ所謂效用限界說ノ如キハ、人ノ慾望タル財物ヲ獲得スルコト多キニ從ツテ次第ニ減少スルモノナリトセリ。然レトモ、此ノ如キハ畢竟スルニ派生ノ慾望ナリ。固有ノ慾望ニ至リテハ、如何ニ財物ヲ蓄積スルモ、之ヲ消費スルニ非サレハ決シテ満足セラル、モノニ非ラス。飢ヘタル人ノ前ニ、山海ノ珍味ヲ列ヘタリトテ、之ヲ食セシメサル以上ハ、彼ハ決シテ飢渴ヲ免ル、モノニ非ラス。

第三節 『經濟上ノ慾望』ノ觀念

派生ノ慾望ニシテ同時ニ外界ノ慾望タルモノ、一種類トシテ經濟上ノ慾望ナルモノアリ。經濟上ノ慾望トハ財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシメントノ慾望ナリ。財物ノ何物タルヤハ余之ヲ後段ニ於イテ詳説ス、只タ茲ニハ人類ノ慾望ヲ満足セシムルノ材料ナリト云フヲ以テ先ツ足レリトセン。而シテ經濟上ノ慾望ナルモノハ、此ノ慾望ヲ満足セシムヘキ手段タルモノヲ得ントスルノ慾望ナリ、故ニ經濟上ノ慾望ハ財物ヲ得ルコトニ依リテ満足セラル、其ノ消費ニヨリテ満足セラル、ニ非ラス、而シテコレ實ニ其ノ派生ノ慾望タル所以ナリ。

財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシムトハ何ソヤ

曰ク、財物ヲ自己ノ自由意思ニ從ツテ使用シ得ルノ關係ニ置クノ謂ナリ。即チ財物ヲ

自由ニ左右シ得ルノ關係ニ置クノ謂ナリ。支配ト云フハ英語ニテ *command* といつ歸ノ Verfügung 又ハ Herrschaft ニ相當ス。例ヘハ土地ヲ購買シタル時ハ、コレ新ニ土地ト云ヘル財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシメタルナリ。皆ニ購買シタル場合ノミナラス、小作シタル場合モ亦々同一ナリ。

既ニ派生ノ慾望タリ、而シテ又タ同時ニ外界ノ慾望タリ。蓋シ經濟上ノ慾望トハ財物ヲ得ントノ慾望タルコト前言ノ如シ、而シテ財物トハ外界ノ物體ノ

一種類タリ、然ラハ其ノ外界ノ物體ヲ得ントノ慾望ヲ満足セシカ爲メニハ必ス其ノ物體ヲ獲得セサル可ラス、既ニ外界ノ物體ヲ獲得セサルヘカラス、從ツテ必ス外界ト一定ノ關係ヲ取り結フコトヲ必要トスル也。(コノ慾望ヲ達スルカ爲メ外界ト一定ノ關係ヲ結フコトヲ經濟行爲ト云フハ後段ニ於イテ詳説スルカ如シ)。故ニ經濟上ノ慾望ハ外界ノ慾望ナリト云フ也。

しるるらー及ヒびーしるるノ説

從來多クノ學者ハ經濟經濟行爲ノ說明ニ當リ、淺然慾望ヲ既イテ其ノ一種類トシテ經濟上ノ慾望ナルヲ語ラス。

Der Mensch hat sinnliche, ästhetische, intellektuelle, moralische Bedürfnisse. Aber mit Vorliebe gebraucht unsere Sprache das Wort für die Notwendigkeit, durch den wirtschaftlichen Apparat vom Göttern und Dämonen den niedrigen wie den höheren Gefühlen die gewohnte Funktion zu verschaffen. Die Bedürfnisbefriedigung, hat man darum gesagt, ist das Ziel aller Wirtschaft; die Bedürfnisse hat man als den Ausgangspunkt alles wirtschaftlichen Handelns und aller wirtschaftlichen Produktion hingestellt, was ganz richtig ist, wenn man das Wort Bedürfnis in diesem engeren Sinne nimmt. Denn im weiteren Sinne ist Bedürfnisbefriedigung der Zweck alles menschlichen Handelns, nicht bloss des wirtschaftlichen, denn zu allem Handeln gehen Lust und Unlustgefühle und die Erinnerung an sie den Anstoss. (Grundriss, S. 23.)

氏が人類ノ慾望ニハ審美的、學問的、倫理的等ノ種別アルコトヲ認め、而シテ經濟ガ是等慾望中ノ或ル者ニヨリテ發生シ來ルモノナリト爲セルハ、予ノ贊成スル所ナレトモ、猶ホ氏ノ説明ハ更ニ一段ノ推鼓ヲ必要トスルカ如ク思フ。

物ニ對スルノ慾望之ヲ經濟上ノ慾望ト云フ
Dietzel, Theoretische Sozialökonomik, S. 156

物ニ對スルノ慾望之ヲ經濟上ノ慾望ト云フ
Dietzel, Theoretische Sozialökonomik, S. 156

Seigman, Economic Interpretation of History

吾人ハ嘗ニ經濟上ノ慾望ヲ有スルノミナラス、其ノ外道徳上宗教上政治上ノ慾望
ヲ始メトシテ、種々ノ共同ノ慾望ヲ有ス。又々嘗ニ種々ノ共同ノ慾望ヲ有スルノミナラ
ス、種々ノ個人ノ慾望ヲ有ス、物理上技術上審美上學問上哲學上ノ慾望等即チ是レナリ。

慾望ノ分類ニ關スル從來ノ學說

余ノ考フル所ニ依レバ、經濟學ニ於テ研究スル所ノ慾
望ハ、慾望ノ全體ニ非スシテ、其ノ一種類タル經濟上ノ

慾望ニ在リ。シカントモ、從來ノ學者ハ、既ニ述フル如ク多クハ凡テノ慾望ヲ以テ新學ノ研
究範圍トナシタリ。而シテ彼等カ慾望全體ヲ以テ新學ノ研究範圍ト爲スノ結果ハ、慾望ノ

種類ニ就イテ、頗ル煩雜ナル分類ヲ試ミタリ。今々其ノ一二ヲ紹介セン。

一、絕對的慾望及ヒ相對的慾望。(Absolute und relative Bedürfnisse) 絕對的慾望トハ、生命養
務名譽ヲ傷ケ又ハ之ヲ失フコトナカラシメカ爲メニ、必ス犧牲シ置クコト能ハザル慾望
ヲ云フ。之ニ反シテ、相對的慾望ト云フハ、之ヲ満足セシムヘキ材料ノ存在セル時及ヒ其
ノ存在セル範圍内ニ於イテ、之ヲ満足セシムル事足ルモノヲ云フ。

二、高等ノ慾望及ヒ下等ノ慾望。(Höhere und niedrige Bedürfnisse) 高等ノ慾望ト云フ中ニ特
ニ編入スヘキモノハ、所謂精神の慾望ナリ。

三、急迫セル慾望及ヒ緩慢シ得ヘキ慾望。(Dringende und aufschubbare Bedürfnisse) 積極的慾望トハ、其ノ慾望
四、積極的慾望及ヒ消極的慾望。(Positive und negative Bedürfnisse) 積極的慾望トハ、其ノ慾望
ヲ満足スヘキ材料ヲ獲得スルコトニヨリテ満足セラルモノヲ云ヒ、消極的慾望トハ防礙
物トナリツ、アルモノヲ除去スルコトニヨリテ満足セラルモノヲ云フ。

五、直接的慾望及ヒ間接的慾望。(Unmittelbare und mittelbare Bedürfnisse) 例ハ、飢渴ト云フ
カ如キハ直接的慾望ナリ。之ニ反シ、其ノモノヲ利用シテ必要ナル物品ヲ産出シ製造ス
ルノ手段ト爲スヘキモノ(例ハ土地、道具、器具ノ類)ニ對スルノ慾望ハ、之ヲ間接的慾望ト
云フ。

六、一般的又ハ普通の慾望及ヒ特別的又ハ例外的慾望。(Allgemeine oder universelle und be-
sondere oder particular Bedürfnisse) 前者ハ凡テノ人類カ有スル慾望ヲ云ヒ、後者ハ或ル特別ノ

階級ニ屬スル人々又ハ或ル特別ノ人ノミカ有スル慾望ヲ指スモノナリ。

七、繼續的慾望及ヒ間歇的慾望。(Ununterbrochen und unterbrochen Bedürfnisse) 例ハ、飲食ノ
如キハ吾人ノ一日モ欠クヘカラサルモノニシテ、此ノ種ノモノニ對スル慾望ハ、之ヲ繼續
的慾望ト云ヒ、之ニ反シ、補入レ、給ノ類ハ、只々冬期ニ於イテ必要トスルノミ、故ニ之ニ對ス
ル慾望ハ、間歇的慾望ト云フ。

八、永續的慾望及ヒ一時的慾望。(Dauernde und temporäre Bedürfnisse) 衣食住ノ如キハ、吾人
カ命ヲ終フルマテ必要ナリ、故ニ之ニ對スルノ慾望ハ、永續的慾望ト云フ。之ニ反シ、醫藥
ノ如キハ、只々病ニ冒サレタル時ノミ必要ナルニ止ル、故ニ之ニ對スルノ慾望ハ、一時的慾
望ト云フ。

九、不動的慾望及動的慾望。(Ständige und unständige Bedürfnisse) カノ燃料ノ如キハ最寒ノ候ニ於テ殊ニ其ノ必要ヲ感スルモノナリ故ニ此ノ如キモノニ對スル慾望ハ之ヲ動的慾望ト稱ス。之ニ反シ、不動的慾望ト云フハ、比較的ニ變動ナキ慾望ヲ指スモノナリ。

- 一〇、尋常的慾望及非尋常的慾望。(Ordentliche und ausserordentliche Bedürfnisse)
 - 一一、現在の慾望及未來的慾望。(Gegenwärtige und künftige Bedürfnisse)
 - 一二、個人的慾望及公共的慾望。(Individuelle und Kollektivbedürfnisse)
 - 一三、私的慾望及公的慾望。(Private und öffentliche Bedürfnisse)
- 公的慾望トハ國家公共團體等各種團體ノ有スル慾望ヲ云フナリ。(以上くらいんふひた一二擴ル)

●わぐな一ノ取リタル分類ハ左記ノ數種ニシテ其ノ他ノ分類ニ至リテハ、學理上實際上左程重要ナラスト爲シタリ。予ハ氏ト大ニ意見ヲ異ニスシカモ此ノ慾望ノ分類ニ就イ

テハ、氏ノ著眼カ他ノ學者ト大ニ趣チ異ニセルヲ賞セサル能ハス。

- 一、内界ノ慾望及外界ノ慾望。(innere und äussere Bedürfnisse) 内界ノ慾望トハ其ノ慾望チ有シツトアル人ノ内部ニ於ケル心理的經過ヨリテノ満足セラルルモノヲ云ヒ、外界ノ慾望トハ外界即チ外界ニ於ケル無生的及ヒ生的自然並ヒ他人ト一定ノ關係ヲ結フコトニヨリテ始メテ満足セラルル所ノ慾望ヲ云フ。(Grundlagen, I, S. 74)
 - 二、生存慾望及ヒ文化慾望。(Existenz und Culturbedürfnisse) 生存慾望ト云フハ、之ヲ満足セシムルコトカ人類ノ生存上必要欠タヘカラサルモノ、謂ニシテ其ノ必要ノ程度ヲ標準トスル時ハ、更ニ之ヲ分チテ絕對的ノモノト相對的ノモノトノ區別ヲ爲スコトヲ得ヘシ。文化慾望ト云フハ、前者ノ如ク人ノ生命健康ノ維持ト密接ナル關係チ有スルモノニ非ラ
- スト雖モ、只タ其ノ文明的生活ヲ高メ、又ハ人類ノ發展殊ニ精神的方面ニ於ケル發展ヲ爲サシムルカ爲メニ、必要ナルモノヲ云フ。

三、個人的慾望及公共的慾望。(Individual und Gemeinbedürfnisse) 一個人トシテノ本性ヨリ生スルノ慾望ハ之ヲ個人的慾望ト云ヒ、人類カ共同的生活ヲ爲スコトヨリシテ生スル所ノ慾望ヲ公共的慾望ト云フ。(Grundlagen, I, S. 76)

●るしるハ世人ノ熟知セルカ如ク、慾望ヲ分チテ

自然的慾望 (Naturbedürfnisse)

地位的慾望 (Anstandsbedürfnisse)

奢侈的慾望 (Luxusbedürfnisse)

ノ三者ト爲シタリ。非難シツ、モ猶ホ多クノ學者カ採用スル所ナリ。わぐな一ノ生存慾望及ヒ文化慾望ハ殆ト同一ノ標準ニヨル分類ナリ。(System, S. 1.)

●くらんふひた一ハ家庭經濟上ノ慾望、營利經濟上ノ慾望及ヒ宗教上ノ慾望ノ三者ト爲シタリ。コハ慾望ノ分類トシテ非論理的ノ甚シキモノナレトモ、左ニ之ヲ紹介ス。

『各個人ノ有スル慾望ハ千種万様ニシテ其ノ數限リナシト雖モ、先ツ之ヲ三大分類ト爲スコトヲ得ヘシ。思フニ各人ハ通常二個ノ經濟ヲ行ヒツ、アルモノニシテ、其ノ一ハ營利經濟ナリ、其ノ二ハ家庭經濟ナリ、而シテ、コノ二個ノ經濟ハ各々特種ノ慾望満足ヲ目的トスルモノニシテ致テ同一物ニ非ラス。シカルニ、人類ハ到底死チ免レサルコト及ヒ我ナルモノ、甚タ窮キコトヲ自覺スルノ結果、更ニ宗教上ノ問題ニ關シテ慾望ヲ發スルニ至ル。是カ故ニ、吾人ハ先ツ人類ノ凡テノ慾望ヲハ大別シテ三大部門トナスコトヲ得ルモノニシテ、

●家庭經濟上又ハ私的生活上ノ慾望 (Bedürfnisse der Hauswirtschaft oder des privaten Lebens)

●營利經濟上ノ慾望 (Bedürfnisse der Erwerbswirtschaft)

●宗教上ノ慾望 (Kulturbedürfnisse)

即チコレ也。

乍併茲ニ注意スヘキハ、是等ノ分類タル然相分ル、モノニ非ラサルカ故ニ、其ノ間、一定ノ境界ヲ設クルカ如キハ、到底爲シ得ヘカラサルコトナルニ在リ。蓋シ實際ノ生活ニ於イテハ、只々個々ノ現象ヲ見得ルニ過キス、之ヲ分類シテ一定ノ部門ト爲スカ如キハ、只々學問上研究ノ便宜ニ供スルニ過キス、サレハ實際ノ現象ヲ取り來ツテ試ニ之ヲ觀察センカ、ソノ果シテ甲ノ部門ニ屬スヘキヤ乙ノ部門ニ屬スヘキヤ判別スルニ苦ム協會ハ甚々多シ。今之ヲ懸望ニ就イテ考フルモ亦々同一ナリ、——例ヘハ水又ハ光線ニ對スルノ懸望ニ就イテ考ヘ見、日——第一ノ部門ニ屬スルト同時ニ又々第二ノ部門ニ屬スト云ヒ得ベキモ、甚々多カラシ。コレ宜シク注意スヘキ要件ナリ。而シテ各個人ノ懸望ハ多數ノ人々ノ共同懸望タルモノナルカ故ニ、吾人ハ共同懸望ヲモ之ヲ次ノ如ク分類スルコトヲ得ヘシ。

家庭經濟ニ關スル共同懸望

營利經濟同一ナル營利經濟ニ關スル共同懸望

信仰ニ關スル共同懸望

シカルニ、前ニ述ヘタルカ如ク、懸望中多クノモノハ（例ヘハ水及ヒ光線ノ供給、道路、學校等ノ設備、重量尺度貨幣ニ關スル制度、公共ノ安寧ノ保護、司法制度等ニ關スルモノ）、如キハ第一部門ニモ第二部門ニモ屬スルモノナリ。是カ故ニ、一定ノ地域内ニ住セル多クノ人々ハ、皆ニ家庭經濟ニ關シテノミナラス、同時ニ凡テノ（必スシモ同一ナルモノノミニ限ラズ）營利經濟ニ共通ナル懸望ヲハ發生スルニ至ルナリ。ソレ故、前ノ分類ニ少シク修正ヲ加ヘテ、吾人ハ次ノ如ク分類ト爲スコトヲ得ヘシ。

一定ノ地域内ニ居住セル人類ノ共同懸望

職業上ノ共同懸望

信仰上ノ共同懸望

思フニ此ノ分類タル最モ重大ナル關係ヲ有スルモノニシテ、凡テノ社會的團體ハ之ニ本イテ成立セルモノナリ。皆テありすこれハ人類ヲ呼ンテ政治的動物 *ein Zoon politikon* ト云ヘリキ、近世ノ自然科學ハ之ヲ以テ團體動物、*Herdenier* ト爲セリ、又タ *Wolf* フレノ首ヘル處ニ據レハ、人類ハ共同シテ *holleed*、生存競争ヲ爲スモノナリ。蓋シ各個人ノ力ハ限リアルモノナレハ、個人孤獨ノ力ヲ以テシテハ殆ト何事ヲモ遂クルコト能ハサルヲ常トス。而シテ人類ハ能ク此ノ弱點ヲ自覺ス、故ニ若シ何事カ困難ナル事業ヲ爲スノ必要アル時ハ、各個人ハ其ノ己ト同様ノ懸望ヲ有スルモノヲ求メテ之ト事ヲ共ニスルヲ常トス。シカルニ、既ニ述ヘタルカ如ク、人類ノ共同懸望ハ三大種別ニ分ル、モノナルカ故ニ、其ノ團結ヲ爲スヤ又タ此ノ種別ニ從フナリ。而シテ其ノ團結ハ、或ハ自由ノ團結タルコトアリ、或ハ強制的ノモノアリ。コノ中、自由ノ團結ニ就イテハ、別ニ述フヘキ事ナシ、例ヘハ俱樂部、會社ノ類ハ凡テ之ニ屬スルモノニシテ、同様ノ懸望ヲ有スルモノカ團結スル時ハ乃チ自由ノ團結ノ成立ヲ見ルニ至ルナリ。シカルニ、其ノ團結ノ性質ニ依リテハ、其ノ本ニ關係アル凡テノ人ヲハ包含スルノ必要アルモノニシテ、其ノ結果種々ノ強制的團結ヲ生ス。而シテ其ノ強制的團結ナルモノハ、地方團體、國家等ニ於ケルカ如ク、其ノ本來ノ性質上強制的ナルモノアリ、或ハ法律上ノ規定ノ爲メニ強制的性質ヲ帶フルニ至レルモノアリ。カクテ吾人ハ強制的團結ニ三種ノ別アルコトヲ知ルヘシ、即チ

信仰ヲ同ウスルモノヨリ成ル強制的團體、各種ノ寺院ハ即チ之ニ屬ス。

同一ノ職業ニ従事スルモノヨリ成ル強制的團體、即チ昔時ノつんぶさ及ヒぎるど、今日ノ同業組合、手工業組合ノ類コレナリ。

同一ノ地域ニ住居スルモノヨリ成ル強制的團體即チ市町村郡縣國家及ヒ國家ノ團結

(國家連合連合國家國際同盟ノ類)コレニ屬ス。(Lehrbuch, S. 11-14.)

金井博士ハ慾望ヲ分チテ消費ニ依リテ満足サルハモノ(有形的)消費ニ依ラスシテ満足サレハ消費ヲ爲サルカ爲メ却ツテ満足サルハモノ(無形的)文的

ノ二者ト爲シ前者チ更ニ分チテるッシハるノ如ク自然的地位的奢侈的ノ三者ト爲サレタリ。(社會經濟學四六四七頁)而シテ曰ク經濟學上直接ノ關係ノ最モ多キハ固ヨリ第一種ノ慾望消費ニ依リテ充足サルモノナリト。余ハ經濟學上直接ノ關係アルモノハ予ノ所謂經濟上ノ慾望ニシテ而シテ經濟上ノ慾望ハ財物ノ獲得ニヨリテ満足セラルモノニシテ消費ヲ待チテ始メテ満足セラルモノニ非ラスト爲シタリ。二者チ比較シテ余カ脫ノ真意

經濟上ノ慾望ハ必スシモ利己心ヨリシテ出ツルニ非ラス。吾人ハ自己ノ利益ノ爲メニスルノ意思ナクシテ財物ヲ獲得セント欲スル場合ハ甚タ多シ。

慈善ノ目的ヲ達スルカ爲メ公共ノ利益ヲ計ルカ爲メ吾人ハ財物ヲ得ントノ慾望ヲ發スルコト稀ナリトセス。經濟上ノ慾望ヲ以テ凡テ利己心ニ出ツルト爲スハ非ナリ。

慾望ノ動機

くらいんあひたハ慾望ノ動機トシテ次ノ如ク論シタリ。(氏ハ經濟上ノ慾望ナルモノチ特ニ認メタルニ非ラサルコトハ既ニ述ベタリ)予ノ説ハ

全ク氏ト異ル。コレ蓋シ氏ノ指シテ慾望ト爲スモノハ予ノ所謂固有ノ慾望ニシテ派生ノ慾望チ度外視スルニ由ルナラン。

「吾人ノ慾望ヲ満足セシムルカ爲メハ吾人ヲシテ活動セシムル所以ハ原動力ハ自己保存慾又ハ利己心ナリ。乍併コノ利己心ナル言葉ハ多少斟酌シテ解釋スヘキモノニシテ無制限ニ用フヘカラス。吾人ハ生レ落チテヨリ死ニ至ルマテ周圍ノ人々ノ幫助又ハ共働ニ依頼スルモノナルカ故ニ其ノ周圍ノ人々ヲ保護シ其ノ幸福ヲ計ルコトハ自己一身ヲ保護シ其ノ幸福ヲ計ルト同一ノ利害ヲ有スルヤ明カナリ。殊ニ其ノ關係セル社會的團體(家族職業團體市町村等)ニシテ吾人ト密接ナル關係ヲ有スルニ從ヒ利害ヲ同ウスルコト愈々甚シキチ加フ。コレニ依リテ考フレハ周圍ノ人々ノ利益ヲ犧牲ニスルカ如キ利己心ハ宜シク排斥スヘキモノナリ。殊ニ其ノ社會的團體ニシテ密接ナル關係ヲ有スルニ從ヒ益排斥スヘキモノナルナリ。思フニ自己ノ利益ノ爲メニ他人ノ利益ヲ犧牲トスルカ如キハ皆ニ所謂惡事タルニ止マラスシテ寧ロ不經濟ニシテ不賢明ノ處爲ト云フベキナリ蓋シ吾人ハ家族職業階級市町村府縣國家人類等ノ團體ニ於ケル一員トシテ常ニ他人ト其ノ利害ヲ共ニスルモノナレハナリ。加フルニ人類ノ共同生活ハ誠實ト信用トヲ以テ其ノ根據ト爲ス。故ニ若シ一個人カ自己ノ利益ノ爲メニ誠實ト信用トヲ破壞スルカ如キコトアラシカ膏ニ社會ニ損害ヲ與フルノミナラス同時ニ間接ニハ自己ニ損害ヲ及ボスコトナルナリ。」(Lehrbuch S. 2.)

わぐなハ此ノ點ニ就キ左ノ如ク論シタリ。氏モ亦固有ノ慾望チノミ眼中ニ置ケニ似タリ。(Grundlagen, S. 77 ff.)

序論 經濟上ノ慾望 「經濟上ノ慾望」ノ概念

定ノ行為活動ヲ爲スニ至ル。而シテ、モシ之ニ依リテ其ノ慾望ノ満足ヲ得ンカ、人類ハ是カ爲メニ快樂ヲ感スルコトヲ得ヘシ。是ニ於イテ、人類ハ常ニ其ノ慾望ノ満足ヲ得ンカ爲メニ奮動スルノ性アリ、今マ之ヲ名ケテ満足追求性ト云フ。(Befriedigungstrieb)

慾望ノ満足ハ決シテ永續スルモノニ非ラズシテ、一タヒ之ヲ満足セシムルモ久カラズシテ復タ其ノ發生ヲ見ルニ至ル。コレ慾望ノ本性タリ。是カ故ニ、慾望ノ發生、満足追求性ノ發生及ヒ其ノ作用、之ニ伴フ行為及ヒ其ノ結果トシテノ満足ハ、人生ニ於イテ常ニ繰り返ヘサレツ、アル現象ナリ。

満足追求性ノ中、ソノ絶對的生存慾望ノ満足ニ關スルモノハ、自己保存性ニ本クモノト云フヘク、其ノ他ノ慾望満足ニ關スルモノハ、自利心ニ出ツルモノト云フヘシ。

「自利心ナル言葉ハ當然不道徳ノ分子ヲ含ムカ如ク思惟セラルト雖モ、コレ非ナリ。吾人カ自己ノ智識ヲ増加センカ爲メニ書ヲ讀ムト云フカ如キハ、自利心ヨリ出テタル行為ナルナリ、然レトモ決シテ不道徳ノ行為ニハ非ラサルナリ。日本語ニテ、自營心、利己心、我利心、自愛心ト云フノ類モ、亦々然リ。どいつ語ニテハ、Eigennutz, Egoismus, Selbstauch, Eigennacht, Selbsterbe 等ノ文字アリ。わぐな一ハ、Selbstinteresse 即チ英辭ノ Self-interest ナル文字ヲ用フ。茲ニ予カ譯シテ自利心ト云フモノ、コレナリ。」

自己保存性ノ發動ハ、極メテ極端ナル場合ニ於イテモ、雖ホ一定ノ心理的經過ヲ經ルモノニシテ、種々ノ動機ニ依リテ左右セラル。純然タル自然力トシテ發動スルモノニ非ラズシテ、常ニ思慮ニ伴フモノナリ。

自利心ニ至リテハ殊ニ然リ。其ノ發動ハ常ニ理性及ヒ良心ノ支配ヲ受ク。故ニ或ル動機ハ自利心ヨリ出テタリトスルモ、其ノ本質及ヒ作用ハ協會ニヨリテ異シカラス。他ノ動機アリテ、常ニ之ニ影響スルモノナリ。故ニ或ル一定ノ行為ノ因ツテ生スルニ至リシ

原因ハ自利心ニ在リトスルモ、其ノ結果ニ至リテハ慾望シモ純然タル自利心ノ動キヲ示スモノニ非ラズシテ、屢々他ノ種々ノ動機ニ依リテ影響サレ、モノナリ。』

「一し、其ノ脱ク所ハ上述ノ二者ト異リ、最モ予カ意ヲ得タリ。曰ク、

We must ever bear in mind that the desire to make money does not itself necessarily proceed from motives of a low order, even when it is to be spend on oneself. Money is a means toward ends, and if the ends are noble, the desire for the means is not ignoble. The lad who works hard and saves all he can, in order to be able to pay his way afterwards at a University, is eager for money; but his eagerness is not ignoble. In short, money is general purchasing power, and is sought as a means to all kinds of ends, high as well as low, spiritual as well as material. (Principles, Book I, ch. V.)

氏ノ稱シテ「貨幣ヲ獲得セントノ慾望」ト云ヘルハ、予ノ所謂經濟上ノ慾望ニ相當スルモノナリ。其ノ用語ノ精、種々チ欠クハ惜ムヘシ。

第四節 『經濟上ノ慾望』ノ種類及ヒ發展

經濟上ノ慾望ハ之ヲ分テテ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ。

其ノ一ハ固有ノ慾望ト密接ノ關係ヲ有スルモノ也。之ヲ名ケテ自○足○的○慾○望ト云フ。密接ノ關係アリトハ、二者ノ間ニ直接ナル原因結果ノ關係アルヲ云フ也。飢渴ト云ヘル不足感覺ヲ生シ、而シテ其ノ不足感覺ヲ除去セントノ慾望ハ、既ニ述ヘシカ如ク、固有ノ慾望ナリ。而シテ此ノ固有ノ慾望ヲ満足スル

ノ直接ノ手段トシテ食物ヲ得ントノ慾望(經濟上ノ慾望)ヲ發シタル時ハ、コレ即チ自足的慾望ナリ。

其ノ二ハ前者ト異リ、固有ノ慾望ニ伴ハサル經濟上ノ慾望ナリ。コハ、寒暑ヲ防キ飢渴ヲ除カントノ慾望アルカ爲メニ生シ來レルモノニ非ラズシテ、此ノ如キ固有ノ慾望ヨリ獨立シタル經濟上ノ慾望ナリ。之ヲ名ケテ營利的慾望ト云フ。

自足的慾望ハ固有ノ慾望ヲ達スルノ手段トシテ發生セルモノナリ。即チ固有ノ慾望ヲ満足センカ爲メニ財物ヲ獲得セントノ慾望ナリ。營利的慾望ハ只タ單ニ財物ヲ得ントノ慾望ナリ。二者ノ間ニ明確ナル差異ヲ認ムルコトハ、經濟學ノ研究上、全般ヲ通シテ極メテ緊要ノ事ニ屬ス。

今マ經濟上ノ慾望ノ發展ノ經過ヲ見ルニ、原始時代ニ於イテハ殆ト營利的慾望ヲ欠カスト雖モ、社會ノ進歩ニ伴フテ益々其ノ重要ヲ増加シ來ルモノ、如シ。飢渴ニ襲ハレ然ル後、始メテ經濟上ノ慾望ヲ起スハ、野蠻人ノ事ナリ。文明ノ民ハ、未タ飢渴ニ襲ハレサルノ以前ニ於イテ、營利ノ發見ノ獲得ニ努ム。カノ欠乏感覺ニ伴フ慾望ヲノミ眼中ニ置クハ、野蠻人ノ事ナリ。文明ノ民ヲ以テ野蠻ノ

族ト同一視スルモノナリ。彼等ノ滔々タル言説ガ遂ニ能ク經濟現象ノ現態ヲ解釋シ得サルモノ宜ナリト謂フヘシ。

第五節 經濟主體(經濟上ノ人)

經濟上ノ慾望ヲ有スル人格者ヲ名ケテ吾人ハ之ヲ經濟主體(又ハ經濟上ノ人)ト云フ。而シテ此ノ經濟主體カ其ノ經濟上ノ慾望ヲ満足センカ爲メ營ム行爲ノ或ル種ノモノハ所謂經濟行爲ト稱スルモノニシテ、ソノ經濟行爲ニ就イテ研究スルハ即チ經濟學ノ職分ナリ。故ニ主トシテ經濟學ノ研究範圍トナルヘキ慾望ハ只タ此ノ經濟上ノ慾望アルノミ。從來ノ經濟學者カ殆ト凡テ此ノ重要ナル慾望ノ種別ヲ看過シタリシハ、甚タ笑フヘキノ至リ也。

經濟主體ハ固ヨリ經濟上以外ノ慾望ヲ併セ有ス、經濟上ノ慾望ノミヲ有スルニ非ラズ、之ヲ以テカノ『經濟人』(the economic man)ト云ヘル抽象的觀念ト同一視スル勿レ。

モシ夫レ、經濟上ノ慾望ノ觀念ヲ構成スヘキ財物ソノモノ、觀念ニ至リテハ、吾人カ章ヲ改メテ直チニ説明セント欲スル所ナリ。

第二章 財物

第一節 財ノ觀念

一定ノ人ガ見テ以テ人類ハ慾望ヲ満足セシムルノ力アリト認識スルモノハ甚多シ。之ヲ稱シテ普通ノ學者ハ財ト云ヘリ。財ナル文字ヲ此ノ如キ意味ニ用フルハ甚タ不當ナレトモ、既ニ一般學者間ノ通語タルノミナラス、別ニ適當ナル文字ヲ見出シ得サルカ故ニ、余モ暫ク之ニ從フ。モシソレ人類ノ慾望ト云フカ如キ認識スト云フカ如キ文字ノ説明ハ、便宜上暫ク財物ヲ説明スルノ時ニ讓ル。

外國ノ術語

予カ茲ニ財ト云フハ、我が國ニテ財貨、財財物トモ云セザルモノナリ。爾來種々ノ用語アリテ一定セサレトモ、何レノ用語ニ從フモ、財ナル一字ハ凡テ之ヲ使用セルノミナラス、單ニ財ト云フハ最も簡單ナルカ故ニ、予ハ數種ノ用語中、

まゝしめるノ既

財(の goods)ナル文字ハ、此ノ如キモノト稱シ、且テ單ニ財ト云フカ如キ文字ナキ故ニ、之ヲ用フトセムルハ、まゝしめるノ既ニ、

リ。被曰ク

In the absence of any short term in common use to represent all desirable things, or things that satisfy human wants, we may for brevity sometimes use the term Goods for that purpose. (Principles, Book II. ch. II. p. 184.)

世間ニテハ財ナル文字ヲ經濟學者ノ所謂經濟上ノ財ト稱スルハ同一義ニ用フル也。シカルニ經濟學者カ何等ノ必要ナクシテ之ヲ最廣ノ意義ニ擴張シ、以テ人類ノ慾望ヲ満足スルモノノニ適用シ、而シテ其中ニ經濟上ノ財ナルモノヲ限ク之ヲ以テ經濟學ノ研究範圍ニ屬スト爲セルハ、笑ノヘキノ徒勢ト云フヘシ。然レトモ、財ナル文字ヲ此ノ如キ廣義ニ用フル事ハ、我が國ノミナラス、海外ノ學者ノ廣ク認ムル處ナレハ、予一人ノ力ニテ如何トモスヘキ性質ノモノニアラス。畢竟スルニ、事々如何ニ用フルトモ、予ハ重要ノ關係ハアラス。コレ予カ舊來ノ主観ヲ拋棄シテ、普通ノ用語ニ從フ所以ナリ、實ハ遺憾ニ耐ヘス。

財ノ發展

財ハ慾望ノ増加、變化、改良ニ伴フテ、其ノ數量種類ヲ増加シ、變化シ、改良セラルルモノナリ。又々場合ニヨリテハ財ノモノカ反對ニ慾望ニ影響チ及ボスコトアリ。故ニ兩者ノ間ニハ相互的影響ノ關係チ有スルモノト云フヘシ。(わづな、國民

經濟原論

經濟社會進化ノ最近ノ趨勢中、自由ノ財殊ニ自由ノ智的財ノ増加スルコトハ著シキモノト一タリ。各種ノ偉大ナル思想ハ年々學者ノ研究ニヨリテ、其ノ數ヲ増加スルコト甚シ、而シテ之レ何人モ自由ニ利用スルコトヲ得ヘキモノナリ。固ヨリ法律上或ハ專賣特許權ノアルアリ、或ハ著作權ノアルアリト雖モ、是等ノモノモ畢竟スルニ一定ノ年限内ニ於テイテ有效タルニ過キサルナリ。ゲニヤ智識ト云ヘル財ハ社會ノ共有物ニシテ、吾人ハ之ヲ吾人ノ祖先ニ受ケテ、之ヲ子孫ニ遺スモノナルガ、其ノ智識タルヤ年々追ウテ増加シ、而シテ凡テノ人

第二節 財ノ種類

人類カ其ノ慾望ヲ満足スルノ力アリト思惟スルモノヲ以テ假リニ財ト稱セ
ンカ、其ノ種類ハ甚タ多シ。予ハ敢テ所謂財ノ全體ヲ以テ經濟學ノ研究スヘ
キ範圍ニ屬スト爲スニ非ラス。故ニ予ハ只タ茲ニ經濟上ノ財ノ觀念ヲ説明
スルニ必要ナルモノノミヲ掲クルニ止ム。

第一、財ハ之ヲ分チテ内界ノ財ト外界ノ財ト爲スコトヲ得ヘシ。慾望ヲ有
スル者ノ身體内ニアルモノハ内界ノ財ニシテ、ソノ人ノ體外ニ存在セルモノ
ハ外界ノ財ナリ。

第二、財ハ又々之ヲ分チテ固有ノ財トシテカラサル財トニ分チ得ヘシ。固有
ノ慾望ヲ満足シ得ルコトヲ理由トシテ財タルノ性質ヲ有スルモノト派生ノ慾
望ヲ満足シ得ルコトヲ理由トシテ財タルノ性質ヲ有スルモノト、即チコレ也。

第三、財ハ又々之ヲ分チテ有形ノ財ト無形ノ財ト爲スコトヲ得ヘシ。ソノ
モノカ有形ノ物體ナリヤ否ヤニ依リテ分ル、ナリ。

第四、更ニ進ンテハ、所有シ得ル財トシテカラサル財トニ分チ得ヘシ。ソノ
モノカ經濟ノ主體ニヨリテ所有サレ得ヘキモノナルヤ否ヤニ依リテ分ル、
ナリ。

説明

以上ノ分類ヲ了解セシムルカ爲メニ二三ノ實例ヲ列舉セン。例ヘハ自己ノ精神
才能ト云フカ如キハ内界ノ財ナリ。他人ノ智識才能ハ外界ノ財ナリ。『飲食衣服
ノ類ハ固有ノ慾望ヲ満足セシムルコトヲ理由トシテ財タルノ性質ヲ有スルナリ。之ニ反
シ、派生ノ慾望トハ既ニ述ヘタルカ如ク固有ノ慾望ヲ満足セシムルノ手段ナルモノヲ得ン
トスルノ慾望ナルカ故ニ、之ヲ満足セシムヘキ財ノ中ニハ、自然又ハ人自己又ハ他人ノ力、行
爲等ヲモ含ム。サレハ所謂動勢、權利關係等ノ如キハ、派生ノ慾望ヲ満足セシムルノ財ナ
リ。』名譽ノ如キ快樂ノ如キハ、無形ノ財ナリ。勳章ノ如キ酒ノ如キハ有形ノ財ナリ。處有シ
得ル財ハ必ス有形ノ財ナリ。權利ト云ヒ國家ト云フカ如キハ無形ノ財ナルカ故ニ同時ニ處
有シ得ラレサル財ナリ。乍併有形ノ財ニテモ所有シ得ラレサルモノアリ。太陽ノ如キハ
有形ノ財ナリト雖モ、之ヲ全體トシテ見ル時ハ、所有スルコトヲ得サルノ財ナリ。社會主義
ノ實行セラレタル社會ニ於イテハ、土地資本ノ私有ヲ禁スルカ故ニ、此ノ如キ財ハ有形ノ財
ナレトモ個人ヨリ見レバ所有サレサル財ニ屬スル也。

第三節 財物(經濟上ノ財)ノ觀念

經濟行爲ノ目的トナルモノ、經濟學ニ於イテ論スヘキモノハ、經濟上ノ財ニ限

ヲル。予ハ之ヲ名ケテ財物ト云フ。

外國ノ術語

予ノ所謂經濟上ノ財ト云フハ英語ニテ economic goods といふ語ニテ wealth

財物即チ經濟上ノ財ト爲セシカ故ニ二者ヲ同一義ニ用フト雖モ多數ノ學者ハコノ二者ヲ異リタル意義ニ用フルコトヲ忘ルヘカラス。

財物トハ一定ノ人ガ見テ以テ人類ノ慾望固有の又ハ派生的ヲ満足セシムルノ力アリト認識シタル外界ノ物體ニシテ之ヲ自己ノ支配ニ歸セシメ得ルモノヲ云フ。故ニ財物トハ固有ノ財タルトタラサルトハ之ヲ問ハサルモ、シカモ必ス外界ノ財タラサルヘカラス、有形ノ財タリ、所有サレ得ヘキ財タラザルヘカラス。請フ更ニ之ヲ詳説セン。

第一茲ニ慾望ト云ヘルハ、其ノ如何ナル種類タルヲ問ハス、凡テ一切ノ固有の慾望及ヒ派生的慾望ヲ總稱ス。サレハ經濟上ノ慾望ナルモノハ派生ノ慾望ノ一種類タルニ拘ラス、其ノ意義ヲ構成スルニ必要ナル財物ノ觀念ハ、各種百般ノ慾望ト關係ヲ有ス。

次キニ人類ノ慾望ト云フハ、自己又ハ他人ノ慾望ト云フノ意ナリ。其ノ人ノミ其ノ物ニ向ツテ慾望ヲ有スルニ過キサルモ不可ナシ、他人カ之ニ向ツテ慾望ヲ有スルト否トヲ問ハサルナリ。又タ其ノ人自身ハ、其ノ物ニ向ツテ慾望ヲ有セサルトスルモ、他人ハ之ヲ有スヘシト思惟スレハ足レリ、必スシモ其ノ人自身カ慾望ヲ有スルト否トヲ問ハサルナリ。

次キニ認識スト云フハ、思フト云フノ意ナリ。サレハ、必スシモ其ノ認識カ正確ナルト否トヲ問ハサルナリ、タトヒ純然タル誤解ニ出ツルトスルモ、苟クモシカ認識スレハ則チ足レリ。又思フニ、凡テノ人ハ一定ノ物體ニ對シテ同一ノ認識ヲ爲スモノニ非ラス。或ルモノハ、一定ノ物體ヲ以テ、何人ノ慾望ヲモ満足セシムルノ力ナキモノト認識セルニ反シ、他ノモノハ、之ヲ以テ大ニ人ノ慾望ヲ満足セシムルノ力アリト認識スルコトアラン。從ツテ、一定ノ物體ハ、或ル人ニ對シテハ財物トナルモ、他ノ人ニ對シテハ財物タラサルコトアリ、然リ、時代ヲ異ニシ、社會ヲ異ニシ、人ヲ異ニシ、場合ヲ異ニスルニ依リテ、同一ノ物體ト雖モ、或ハ財物トナリ或ハ財物トナラス。即チ財物ナル觀念ハ、客觀的ナラスシテ主觀的ナリ、確定セスシテ變動セリ。

次キニ又財物ハ必ス物體タルヲ要ス。物體トハ有形ノモノ、謂ナリ、無形體ニアラサルヲ云フ。故ニ勤勞權利ノ如キハ財物ニ非ラス。然レトモ茲ニ物

體ト云フハ固ヨリ其固體タルト液體タルト氣體タルトヲ問フナシ。サレハ土地家屋ノ如キ、麥酒水銀ノ如キ、瓦斯蒸氣ノ如キ、何レモ財物タリ得ルモノナリ。然レトモ、名譽ト云フカ如キ、或ハ勞働ト云フカ如キハ、タトヒ人之ヲ欲スト雖モ、有形ノ物體ニ非ラサルカ故ニ、財物タリ得サルナリ。即チ財物ハ有形ノ財ニ限ラル、ナリ。

又等シク有形ノ物體タリト雖モ、外界ノ物體ニ非サレハ、之ヲ財物ト稱セス。茲ニ外界ノ物體ト云フハ、其ノ人ノ體外ニ存在セルモノ、謂ナリ。例ヘハ、發達セル筋肉、強壯ナル胃腸ハ、有形ノ物體ナリ、然レトモ之ヲ有スルモノヨリシテ見レハ、内界ノ物體ナルカ故ニ財物ト稱セス。即チ財物ハ必ス外界ノ財タルコトヲ必要トスルナリ。

次キニ又タ財物ト云フカ爲メニハ、自己ノ支配ニ屬セシメ得ヘキモノタルヲ要ス。サレハ、タトヒ外界ノ有形物體ト云ヘトモ、モシ所有シ得ヘカラサルモノナレハ財物ニ非ラスシテ、從テ經濟行爲ノ目的トナラス。吾人ハ孤獨ノ生活ニ就イテ寂聊ヲ感ス、因テ其ノ寂聊(欠乏感)ヲ除去セシカ爲メニ妻ヲ嫁ルコトアリ、友ヲ作ルコトアリ。然レトモ今日ノ法制ニ於イテハ、人ハ所有權

ノ目的物ニ非ラス、故ニ他人ハ外界ノ有形物體ナリト雖モ、財物タルコトヲ得サルナリ。サレハ吾人ハ妻ヲ嫁レトモ買フコトナシ、友ヲ有スレトモ所有スルコトナシ。人ソノモノハ經濟行爲ノ目的トナラサル也。コノ點ヨリ見レハ財物ノ内容ハ法律制度ノ如何ニヨリテ左右セラル、事ヲ知ルヘシ。財物ノ内容ハ、絶對的ノモノニ非ラス、歴史的社會的ノモノナリ。

娼妓ハ財物タルノ性質ヲ有ス

人身ノ自由認メラレサル時代ニ於イテハ、奴隸ナルモノアリテ、財物タリキ。今日ニ於イテモ、我カ國ノ如ク人身ノ自由ヲ極端ニ束縛スヘキ契約ノ認メラルト世ノ中ニ於イテハ、賣家ノ子女ハ社々ニシテ娼妓藝妓トシテ賣ラルトナリ。彼等チ目シテ財物ト云フハ過キタリ、然レトモ精、財物タルノ性質ヲ有シ、未タ充分ニ人タリ得サルモノト爲スハ、事ノ真相ニ近シ。身ヲ賣ルト云ヒ、娼妓ヲ買フト云ヒ、身受ケテスルト云フカ如キハ、最モ能ク道徳ノ消息ヲ漏スモノ也。

經濟學ニ於イテ研究スヘキ財(經濟上ノ財、予ノ所謂財物)ヲ此ノ如ク狹義ニ解釋スルコトハ、多數ノ學說ト一致セサル所ナリ。然レトモ余ハ、飽クマテ是等多數學者ノ所說ニ反對シテ自己一家ノ所見ヲ確守ス。今マ其ノ理由ノ主要ナルモノヲ左ニ開陳ス。

一、所謂内界ノ財ヲ以テ經濟上ノ財ト爲スハ非ナリ。何トナレハ、余ノ解ス

ル所ニ據レハ、經濟上ノ慾望トハ財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシメントノ慾望ニシテ、經濟行爲トハ財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシムルノ行爲ナリ。シカルニ内界ノ財ナルモノハ、慾望ノ主體ソノモノ、身體内ニ存在スルモノナルカ故ニ決シテ此ノ如キ慾望、此ノ如キ行爲ノ目的タルコトアリ得サルナリ。加フルニ所謂内界ノ財ヲ以テ經濟上ノ財ト爲スハ、常識ニ反スノ甚タシキモノニシテ、世上通俗ノ用語ヲ去ルコト遠シ。經濟學上使用スル所ノ術語ハ特ニ研究ノ必要アラサル限リハ、勉メテ實際ニ遠カラサルコトヲ必要トス。シカルニ智識腕力ノ類ヲ以テ經濟上ノ財トナスハ其ノ實際ヲ去ルコト最モ甚シキモノナリ。モシ是等ノモノヲ以テ經濟上ノ財ト爲サンカ、一簞ノ食一瓢ノ飲ニ安セル顔回ソノ人ノ如キハ智識ヲ有スルノ故ヲ以テ經濟上最モ財ニ富メリト爲サ、ルヘカラス、孟賁夏育ノ類ハ偉大ナル腕力ヲ有スルノ故ヲ以テ經濟上最モ多クノ財ヲ有セリト爲サ、ルヘカラス、コレ豈ニ沒常識ノ甚シキモノニ非ラスヤ。讀書ハ經濟上ニ於ケル財ノ生産ニシテ、談話ハ經濟上ニ於ケル財ノ交換ト云ハサルヘカラス、如キハ豈ニ笑フヘキニ非ラスヤ。

二、所有シ、占有シ得ヘカラサルモノヲ以テ財ト爲スハ非ナリ。蓋シ既ニ述

ヘタルカ如ク經濟的慾望ハ財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシメントノ慾望ナリ、故ニ所有シ、占有シ得ヘカラサル物ニ對シテ經濟的慾望ヲ起スモノニ非ラス(別項慾望ノ條件參照)。從ツテ所有シ、占有シ得ヘカラサルモノハ經濟行爲ノ目的物タルコト能ハサルモノニシテ、經濟學ノ關係スル處ニ非ラス。シカルニくらゐんゑひた一ノ如キハ所謂占有シ得ヘカラサル財(氏ノ一ニ名ケテ自由ノ財ト云フモノ)ヲ以テ斯學ノ研究範圍トナシ、わぐな一、ろっしゐるノ如キハ國家、勤勞等ヲ以テ經濟上ノ財ニ編入シ之ヲ以テ等シク斯學ノ研究範圍ト爲スト雖モ、皆ナ這般ノ事理ヲ洞見スルノ明ヲ欠キタルモノト云フヘシ。

但シ或ル種ノ權利ノ如キハ往々占有ノ目的物タルカ如キ場合ナキニシモ非ラス、コレ我カ民法カ特ニ無記名債權ヲ以テ物ト看做シ、債權ニ就イテ準占有ヲ認メタル所以ニシテ此ノ如キ場合ニ於イテハ之ヲ以テ準財物ト稱スルコトヲ得ヘシ。

モシ夫レ國家ヲ以テ經濟上ノ財ト爲スカ如キハ、ソノ世上通俗ノ用語ヲ去ルコト甚シキモノタルニ於イテ前項ト同一ノ非難ヲ免レスト云フヘシ。

慾望ノ目的物

眞正ノ慾望アリト云フ爲メニハ、ソノ目的物ニ就イテ二個ノ條件ヲ必要トストテ、くらゐんゑひた一ハ次ノ如ク述ヘタリ。

「第一ニ具體的ノ物體又ハ目的ニ向ツテノ願意又ハ要求タルコトヲ必要トス、其ノ目的ニシテ漠然捕捉シ難キモノナル場合ハ、經濟學上之ヲ慾望ト稱セサルナリ。第二ニハ、邊シ得ヘキ目的ニ向ツテノ要求タルコトヲ必要トス。例ヘハ、カノ天體ニ向ツテ旅行ヲ試ムルカ如キハ、如何ニモ愉快ニシテ望マシキコトナリ、而シテ其ノ不可能ナルハ多クノ人々カ常ニ不足トスル所ナリ、然リト雖モ、其ノ事ニシテ既ニ不可能ナル以上ハ、吾人如何ニ之ヲ希望スト雖モ、其ノ要求ハ之ヲ慾望ト稱スルコト能ハサルナリ」(Lehrbuch, S. 6.)

從來ノ學說

予ハ經濟學上ノ財(財物)ノ意義ヲ極メテ解釋シ之ヲ以テ經濟學ノ研究範圍ト爲シタルトモ、コレ決シテ通説ニハ非ラス。多クノ學說ニ於イテハ

凡テ人類ノ慾望満足ノ手段タルモノハ之ヲ總稱シテ財ト云ヒ、而シテ財ノ凡テヲ以テ經濟學ノ研究範圍ニ屬スト爲シタリ。

學ノ研究範圍ニ屬スト爲シタリ。く。らいん。び。た。い。の。如。キ。ハ。即。チ。其。ノ。一。人。ニ。シ。テ。財。ノ。定。義。及。ヒ。分。類。ヲ。爲。セ。ル。コ。ト。次。ノ。如。シ。財。ト。ハ。吾。人。カ。何。等。カ。ノ。目。的。ニ。向。ツ。テ。使。用。シ。得。ヘ。キ。モノ。即。チ。一。定。ノ。價。値。ヲ。有。ス。ル。モノ。ノ。謂。ナリ。而シテ財ハ之ヲ次ノ如ク分類ス。

一、經濟學上ノ財及ヒ自由ノ財 (wirtschaftliche und freie Güter)。或ハ一名、占有シ得ヘキ財及ヒ占有シ得ヘカラサル財 (appropriierbare und nicht appropriierbare Güter)。

所謂自由ノ財又ハ占有シ得ヘカラサル財ト云ヘルハ、太陽ノ光線、氣候等ノ如ク、所有權ノ目的ト爲リ得サルモノト謂ナリ。固ヨリ吾人ハ光線ヲ利用シテ、利便ヲ享ケルコトアリ、或ハ光線ニ對シテ一定ノ權利ヲ有スルコトモアリ、シカシ乍ラ吾人ハ決シテ光線ノ所有者ト爲スコト能ハス。此ノ如ク、所有權ノ目的ト爲リ得サルモノヲ稱シテ自由ノ財ト云フ。人或ハ此ノ二者ヲ區別スルカ爲メニ他ノ標準ヲ用ズルモノアリ。即チ經濟學上ノ財ニアリテハ、其ノ獲得ハ經濟行為ヲ必要トスルカ故ニ、吾人ハ之ヲ對シテ經濟ト云フコト

チスル、之ニ反シテ自由財貨ハ、天然カ限リナク之ヲ供給シテ與レルカラシテ、吾人ハ之ニ對シテ經濟ノ念ヲ抱カナイ、コノ節約ノ念ヲ有スルト有セサルトカ、經濟學上ノ財ト自由ノ財トチ分ツ所以テアルト論スルモノアリ。勿論吾人ハ太陽ノ光線ヲ倉庫ノ中ニ貯ヘ置イテ、日々其ノ一定ノ分量ヲ使用スルカ如キコトハ、到底想像シ得サル事ニシテ、ソノ意味ヨリスレハ、吾人ハ太陽ノ光線ニ對シテ節約スルコトナシト云ヒ得ヘシ。シカシ乍ラ太陽ノ光線チシテ一定ノ利用ヲ爲サシメンカ爲メニハ、吾人ハ一定ノ努力ヲ費ササルヘカラス、ソレ故吾人ハ或ル他ノ意味ニ於イテ太陽ノ光線溫度等ニ就イテ節約ヲ爲スト云ヒ得ヘキナリ。是カ故ニ、自由ノ財ト然ラサルモノトノ區別チハ、節約ノ有無ニ求メントスルハ、多少ノ欠點ヲ免レスト云フヘシ。

二、内界ノ財及ヒ外界ノ財 (innere und äussere Güter)。

外界ノ財トハ、吾人人類ノ體外ニ存在セル財貨ノ謂ニシテ、内界ノ財ト云フハ、人々ノ有用ナル性質(即チ智識、藝能等)ヲ指ス、即チ人體ト分離シテ賣買讓渡スルコト能ハサルモノト謂ナリ。

三、有形ノ財及ヒ無形ノ財 (materielle und immaterielle Güter)。

或ハ一名、把握シ得ヘキ財及ヒ把握シ得ヘカラサル財 (greifbare und ungreifbare Güter)。

例ヘハ、專賣特許權、債權等ノ如キハ、之ヲ無形ノ財貨ト云フ。(Lehrbuch, S. 124 ff.)

わぐ。な。一。ニ。至。リ。テ。ハ。財。ヲ。以。テ。慾。望。満。足。ノ。凡。テ。ノ。手。段。ト。ナ。ス。ハ。一。ナ。リ。ト。雖。モ、シ。カ。モ。經。濟。學。ノ。研究。範圍。ト。ス。ル。所。ハ、凡。テ。ノ。財。ニ。非。ラ。ス。シ。テ、其。ノ。一。種。類。タル。經濟。學。上。ノ。財。ナ。リ。ト。爲。シ。タ。リ。次。ニ。抄。録。ス。ル。カ。如。シ。

而シテ經濟學上ノ財ニハ、予カ然ラスト爲ス所ノ權利關係動勢ノ類ヲ編入シタリ。

「人類ノ慾望ヲ満足スルノ手段トナルモノハ、經濟學上凡テ之ヲ財ト云フ。

財ハ先ツ之ヲ分チテ内界ノ財及ヒ外界ノ財ト爲スコトヲ得ヘシ、コレ第一ノ分類ニシテ最モ重要ナルモノ也。

内界ノ財 (Innere Güter) トハ自己ノ心身ニ於イテ見出スモノ又ハ自由ニ自己ノ心身内ニ造リ出スコトヲ得ルモノト謂ナリ。腕力健康思想才能性質智識等即チコレ也。是等ノ財ハ之ヲ所有者ノ勤勞ト化スル時ハ他人ニ對シテ外界ノ財トナルコトヲ得ヘシ。

外界ノ財 (Äussere Güter) トハ吾人カ外界ヨリ取り來ツテ慾望満足ノ用ニ供シ得ルモノナリ云フ。

外界ノ財ハ更ニ之ヲ分チテ自由ノ財及ヒ經濟上ノ財トナス。コノ區別ノ標準ハ、人カ其ノ財ヲ獲得スルニ當ツテ勞力犧牲ヲ必要トスルヤ否ヤノ點ニアリ。

乍併コノ區別ハ、之ヲ純經濟上ヨリ見ルト、社會上ヨリ見ルトニ依リテ、稍、其ノ趣ヲ異ニス。純經濟上ノ見地ヨリ見ル時、即チ人類ト外界トノ關係ヲ一般的ニ觀察スル時ハ、自由ノ財 (Freie Güter) トハ人類カ毫モ其ノ勞力ヲ費スコトナク、少クトモ單ニ其ノ物ヲ占取スルタケノ勞力ニヨリテ其ノ慾望ヲ満足シ了ルモノナリ云フ。之ニ反シテ、經濟上ノ財 (wirtschaftliche Güter) トハ人類カ之ヲ以テ慾望ノ満足ニ供スルカ爲メニハ、何等カノ勞力ヲ爲スノ必要アルモノナリ云フ。而シテ自由ノ財ハ更ニ之ヲ分チテ二ト爲シ得ヘシ。

普通ノ財 (allgemeine Güter) 一個人タルト多數ノ人タルト國民全體タルトヲ問ハス、何者ニトリテモ之ヲ所有スルコトヲ得サルモノ、之ヲ稱シテ普通ノ財ト云フ。空氣太陽ノ光線太陽ノ溫度海洋等即チコレナリ。是等ノモノハ全體ヲ所有スルコトハ、何人モ爲シ得サル所ナリ。

自由ノ所有ノ財 (Freie Besitzgüter)。財ソノモノハ性質ハ決シテ所有シ得ラレサルニ非ラサルモ、其ノモノハ供給力人類ノ需要ヲ滿シテ餘リアルカ故ニ、何人モ之ヲ自己ノ處有トシ

貯蓄シ置クコトナキモノ、コレ即チ予ノ名ケテ「自由ノ處有財」ト稱スルモノナリ。コノ自由ノ處有財ハ、文明ノ進歩ニ從ツテ其ノ範圍ヲ異ニス。原始時代ニ於イテハ土地ノ如キモノ之ニ屬セリキ、シカルニ後土地ノ中牧場ノ如キモノ、ミ之ニ屬シ、後ニハ土地ニ生スル自然産物ノミ之ニ屬セルノ時代アリタリキ。

次キニ社會上ノ見地又ハ歴史上法制上ノ見地ヨリシテ之ヲ觀察スル時ハ、前述セシ處ニ異ナルノ結果ヲ生ス。社會上ノ見地トハ、一國內ニ於ケル各個人階級ノ狀態進シテハ種々ノ國民間ニ於ケル關係ヲ觀察シテ、是等ノモノハ間ニ於ケル關係及ヒ其ノ外界ニ對スル關係ヨリ論スルモノニシテ、純經濟上ノ見地ヨリシタル場合ノ如ク、人類ヲハ一ノ全體トシテ觀察シ、其ノ外界ニ對スル關係ヨリシテ論シタルモノニ非ス。扱テ此ノ見地ヨリスレハ、左ノ二點ヲ注意スルヲ要ス。

第一ニ、所謂自由ノ處有財ト雖モ、モシ或ル人又ハ或ル階級カ之ニ就イテ處有權又ハ使用權ヲ有スルニ至ラハ、其ノモノハ經濟上ノ財タル性質ヲ有スルニ至ル。

之ニ反シ、純經濟上ヨリ見レハ、之カ獲得ニハ必ず勞力ヲ必要トスルカ故ニ、經濟上ノ財ト見ルヘキモノト雖モ、之ヲ社會上ノ見地ヨリスレハ、或ル人或ル階級又ハ國民全體ニ向ツテ自由ノ財タル性質ヲ有スルモノアリ。奴隸制度ノ行ハル、時代ニ於イテハ、奴隸ノ生産シタル物ハ、ソノ主人ハ之ヲ無償ニテ獲得セシカ如キ、即チコノ場合ニ屬スルモノナリ。今日ノ社會ニ於イテモ、此ノ種ノ財ニ屬スルモノ少シトセス。

コノ社會上ノ見地ヨリシタル分類ハ、純經濟上ノ見地ヨリシタルモノニ比シ、寧ろ甚々重要ナルモノナルニ拘ラス、從來學者ノ餘リ注意セサリシ所ナリ。』(Grundlagen, S. 288-293.)

わぐな一ハ更ニ進ミテ、經濟上ノ財ノ分類ヲ爲セリ。冗長ヲ煩ハス、之ヲ左ニ抄録ス。

「モシ之ヲ社會上ノ見地ヨリ觀察スル時ハ、經濟上ノ財ナルモノハ皆ニ純經濟上ノ觀念タ

ルニ非ラシシテ、同時ニ法律上ノ觀念タルコトハ、既ニ述ヘタル所ナリ。今マ經濟上ノ財ノ範圍内容ヲ定メントスルニ當リテモ、亦タ法制上ノ關係ヲ顧ミサルヘカラサルナリ。

扱テ手ハ之ヲ分チテ左ノ三種ト爲シ得ヘシト思フ。
一、人ノハ、及ヒ人的勤勞 (Personen und persönliche Dienste)

コノ種類ニ屬スルモノハ如何ニシテ定ムヘキヤト問ヘハ、吾人ハ同シク之ヲ法制上ノ關係ニ求メサルヘカラス。奴隸體僕カ公認セラレタル社會ニ於イテハ、是等ノモノハ經濟上ノ財ナリ。又タ準奴隸トモ稱スヘキ莊僕ノ公認サレタル社會ニ於イテハ、其ノ勤勞ハ經濟上ノ財タリ。人身ノ自由廣ク公認サレタル社會ニ於イテハ、人ノモノハ決シテ經濟上ノ財タルコト能ハサレトモ猶ホ一定ノ時間内ニ於ケル一定ノ勤勞ノ給付ハ、經濟上ノ財トシテ計算スヘキモノナリ。

二、物又ハ財物 (Sachen oder Sachgüter)

即チ自然ノ供給セル原料又ハ人ノ之ニ加工シタルモノ。

三、人又ハ物ニ對スル關係 (Verhältnisse zu Personen und Sachen)

コノモノハ之ヲ財トシテ認ムルカ爲メニ抽象力ヲ必要トス(まゝ)シテ分チテ次ノ四種ト爲スコトヲ得ヘシ。

イ、自由ノ交易上生シ來レルモノ。例ヘハ商店ノ得意、屋敷等コレニ屬ス。

ハ、是等ノモノハ即チ他人ニ對スル有利ノ關係ニシテ、人々ノ行爲ヨリ生シ來レルモノナリ。而シテ其ノ讓渡ハ有價ヲ以テ行ハルヲ常トス。

ロ、交易ニ關シ一定ノ法律上ノ制限ヲ加フルヨリ生シ來レルモノ。專賣特許權ノ如キ即チ之ニ屬ス。

ハ、一定ノ專業ヲハ規則正シク執行センカ爲メニ生シタル制度組織。就中「公法上

ノ制度」即チ國家ソノモノ、國家ニ附屬セル諸種ノ組織、地方公共團體其ノ他之ニ類スル制度組織。

ニ、處有權及ヒ其ノ他第三者ニ向ツテ給付(勤勞、財物、金錢、物ノ使用)ヲ請求スルノ權。

從ツテ之ニ關スル契約上ノ權利モ亦之ニ屬ス。

以上四種ノ中物ニ屬スルモノハ之ヲ有形ノ財ト稱シ、勤勞及ヒ關係ニ屬スルモノハ之ヲ無形ノ財ト稱スルコトヲ得ヘシ。

次ギニわづなハ經濟上ノ財ノ中ニ無形ノ財ヲ入ル、所以ノ理ヲ説イテ曰ク、

「經濟上ノ財ト云フモノ、中ニハ、勤勞及ヒ關係ヲ含ムモノナリトスル説ト、單ニ財物ニ限ルベシトスル説トアリテ、二者ノ爭論今ニ至ツテ絶エザルナリ。之ヲ財物ニ限ルベシトスル説ハ、主トシテ舊派ノ學者ノ唱フル所ニシテ、猶ホ今日ニ於イテモ廣クいざりすニ於イテ行ハル、どいつニアリテハらうヲ以テ其ノ主唱者ト爲スベシ。新派ノ學者、殊ニふらんす、どいつニ於ケル多數ノ學者ハ、之ニ反シテ前説ヲ取ル。予モ亦之ニ屬スルモノ也。

人或ハ道般ノ議論ヲ以テ無用ノ爭論ト爲スモノアリ。然レドモ、無用ナリト云フコトハ決シテ問題ヲ解決シタルモノニ非ラズ。況ンヤ其ノ決シテ無用ナラザルニ於イテナヤ。經濟上ノ財ノ範圍ヲ確定スルコトハ、經濟學ノ範圍ヲ確定スル所以ナリ。加之、人的勤勞及ヒ國家ノ制度ノ如キモノヲ經濟上ノ財トセザルト否トハ、之ニ對スル經濟上ノ判斷ニ就イテ大差ヲ生ズル所以ニシテ、モシ之ヲ經濟上ノ財ノ中ニ編入セザランガ、是等ノ人々及ヒ國家ノ類ハ凡テ不生産ノモノナリト云ハザルベカラザルニ至ル。シカラハ何レ道般ノ議論ヲ以テ無用ノ爭論ト爲スベケンヤ。予ノ考フル處ニ據レバ、是等ノモノヲ經濟上ノ財トセザル時ハ、是等ノ人々及ヒ國家ニ就イテ、經濟上正當ナル判斷ヲ爲スベカラザ

ルニ至ルノ欠點アルヲ覺ユ。

人往々經濟上ノ財ト交換財又ハ交易財ト混同スル者アリ、或ハ之ヲ以テ財產ノ觀念ト混同スルモノアリ。其ノ說ニ曰ク、無形ノ財產ニ人的勤勞ハ經濟上ノ財ニ包含セシムベカラズ、何トナレハ、人的勤勞ノ如キハ交通財及ヒ財產トシテ見ルコト能ハザレバナリ、少クトモ之ヲ無條件ニシカ看做スコト能ハズ、財物ニ於ケルト同一ノ觀念ヨリシテ、シカ看做スコト能ハザレバナリト。即チ彼等ハ、經濟上ノ財、交易財、財產ノ諸觀念ヲ以テ凡テ同一ノモノト爲セルナリ、然レドモコレ其ノ誤解ナリ。らう其ノ他ノモノハ皆ナ此ノ弊ニ陷ル。

モシ經濟上ノ財トハ慾望満足ノ手段ニシテ一定ノ勞力(犧牲)ヲ爲シテ始メテ獲得シ得ルモノナリトセンカ、勤勞ノ如キハ財物ト等シク之ニ屬スヘキモノナリ。吾人ノ慾望満足ノ材料ハ決シテ財物ヲ以テノミ足レリトスルモノニ非ラズシテ、必ズ第三者(國家ヲ含ム)ノ人的勤勞ヲ必要トスル場合アリ是等ノモノハ人類ニトリテ欠クベカラザルモノト謂フベシ。吾人ハ毫モ之ヲ經濟上ノ財ヨリ排スルノ必要ヲ見ズ。(Dr. Sauer 205.)

上述ノ如ク、わぐなハ凡テ人類ノ慾望ヲ満足スルノ手段タルモノヲ財ト稱セリ。而シテ其ノ一種類トシテ經濟上ノ財ヲ立シ來リ、之ヲ以テ經濟學ノ研究範圍ト爲シタリ。余ハ財ノ觀念ヲ極メテ廣義ニ解釋シ、ソノ中ニ於テ更ニ經濟上ノ財ヲ立スルハ、無益ノ勞ニシテ寧ロ始メヨリ所謂經濟上ノ財ヲ以テ單ニ財ト稱スルノ便宜且ツ適當ナルヲ信ズト雖、只ダ學界一般ノ採用スル處ナルガ故ニ、予モ亦之ニ從ヒタレバ、コノ點ニ就キ爭論スルノ必要ナシ。

只ダ議論ノ要點トナルハ、經濟上ノ財ノ中ニ國家ノ如キ勤勞ノ如キ無形ノモノヲ入ルベキヤ否ヤニ在リ。而シテわぐなハ之ヲ以テ經濟上ノ財ニ屬セシムベシト爲セル主ナル理

由ハ是等ノモノヲ以テ經濟上ノ財ト爲サザレハ、是等ノ勤勞ヲ提供スルモノ及ヒ國家等ヲ以テ不生産ノモノト云ハザルベカラザルノ不都合ヲ生スト云フニ在リ。乍併予ノ考フル處ニ依レハ、生産的ノモノ、外ニハ、不生産的ノモノト、生産的ニモ不生産的ニモ非ラザルモノトアリテ(恰モ道德的行爲ノ外ニ不道德的ノモノト、道德的ニモ不道德的ニモ非ラザルモノアルカ如ク)勤勞ヲ提供スルモノ及ヒ國家ノ如キハ、即チコノ最後ノモノニ屬スト信スルカ故ニ、毫モ不都合ヲ生セサル也。總シテ從來ノ學者ハ生産的ト云フコト、必要ト云フコト、ヲ混同シ、生産的ニ非ラスト云フコト、不必要ト云フコト、ヲ混同シ、生産的ニ非ラスト云ヘハ、不生産的ニ必要ノモノナリト考ヘタルモノニシテ、コレ大ナル誤解ナリ。

金井博士ノ財ニ對スル説明ハ、純經濟的見地ト社會的見地トヲ區別セラレサリシ點ニ於テ異ルノミニシテ、其ノ他ノ點ハ大體ニ於テ全クわぐなト同一ナリ(社會經濟學六七—一八六頁)。田島博士亦々大體ニ於テ然リ(最近經濟論七—一三頁)。

わぐなの説明モ大體ニ於テ相似タリト雖、モ、只々慾望ニ「真正ナル」ト云ヘル形容詞ヲ附加セル點ハ、世人ノ能ク知ルカ如ク、彼カ財ノ定義ノ特徴タリ。彼ノ定義ニ曰ク

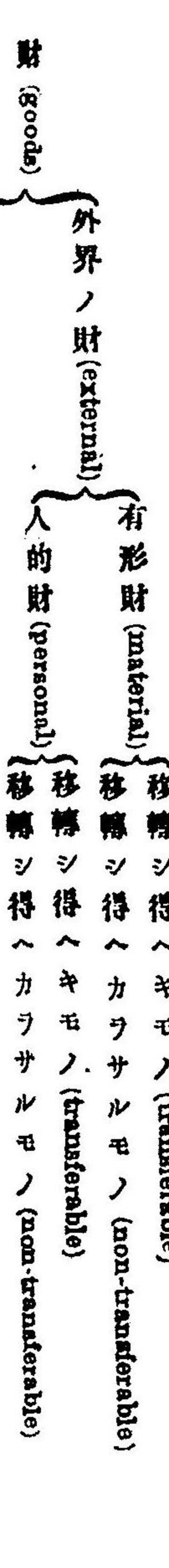
(System, S. 4.)

わぐなハ之ヲ評シテ曰ク「コノ定義中認めラレタル (Gehalt) ナル文字ハ寶物ナリ、蓋シ財物ナルモノハ常ニ人トノ關係ニ於テ存在スルモノニシテ、人ヲ離レテ存在セサルコト自明ノ理ナレハナリ」ト。故ニわぐなハ自ラハ認メラレタルト云フ文字ヲ省略セリ。然レトモコレ誤解ナリ、予ノ考ニ依レハ或ル物カ財トナルヤ否ヤハ之ニ對スル人ノ主觀的認識ニヨリテ定マリ、物ソノモノ、客觀的性質ニヨリテ定マルニ非ラス、故ニ予ハ特ニ認識ナル文字ヲ定義中ニ用イタリ。猶ホわぐなハ、説ノ如クナラハ、彼自ラノ用フル人類ノ慾望ナル文

半ハ贊物タルヲ免レヌ。
 わぐな一更ニ評シテ曰ク「又々眞正ナルト云ヘル文字ヲ附加スルハ皆ニ贊物タルノミナラ
 ス、寧ロ誤解ナリ。何トナレハ、財ソノモノハ決シテ善悪ニ關係アルモノニ非ラスシテ、苟ク
 モ人類ノ慾望ニシテ存在スル以上ハ、其ノ眞正ナルト否トチ問ハズ、其ノ不道徳ナルト否ト
 ニ關セス、之ヲ満足スルノ手段トナルモノハ凡テ財ト稱スヘキモノナレハナリ」(Grundlagen,
 S. 28-29)。ユノ點ニ就イテハ予モ異論ナシ。

モシ夫レ經濟學ニ於イテ研究スル所ハ財ノ一種タル經濟上ノ財ナリト爲シ、且ツ無形物ヲ
 以テ經濟上ノ財ニ編入スルノ點ニ至リテハ、あつしるゝわぐれるト全然同一ノ意見ヲ有ス。
 (System, S. 6.)

●●●しるゝわぐな一等ト大體ニ於イテ同一ノ意見ヲ有セリ。今イ氏ノ採用セシ財ノ分類
 チ專ク左ノ如シ。(Marshall, Principles of economics, p. 124)



移シ得ヘカラスル内界ノ人的財 (internal-personal-non-transferable)
 其ノ能ヘるマ心 (Untersuchungen, s. 108 ff.) づいへんはん、ツク (Zuuekenhandl; Elster, Wörterbuch, s. 985 ff.)
 等凡テ然リ。
 のいまいん (Neumann) ハ之ト異リ、勤勞及ヒ關係ヲ除外シテ、財物及ヒ權利ヲ以テ經濟上ノ財ト
 爲シタリ (Schönberg, Handb., I, 2 136 ff.)。而シテいえるハ、勤勞ヲ以テ經濟上ノ財ノ中ニ編入ス
 ト雖モ、權利及ヒ關係ハ之ヲ除外セリ (Meyer, Wesen des Einkommens, S. 118 ff.)

らうニ至リテハ、以上ノ諸學者ト異リ予ト等シク無形ノ財ヲ認メヌ、經濟學ニ於イテ論スヘ
 キモノハ凡テ有形ノ財ナラサルヘカラストナシタリ。(Rar, Lehrbuch, I, 2 136 ff.) ヲノ點ニ於イ
 テハ予ハ氏ノ説ト一致スルモノナリ。予ハ既ニ明治三十六年八月國家學會雜誌ニ於イテ
 意見ヲ發表セシ以來、ユノ點ニ於イテハ今日ニ至ルマテ自説ヲ固持シツトアリ。
 ふらちちいふ、亦々同一ノ意見ヲ有ス、曰ク

Wealth is not to be confused with power of other kind. Power may be for future exertion; wealth is the
 result of exertion. Power may take any form of welfare, health, wisdom, character as well as wealth. So
 no personal abilities can be counted as wealth, however useful they may be as means of gaining it. (Rural
 Wealth and Welfare, p. 7.)

説明ハ甚々不充分ナレトモ、批評眼ヲ具ヘタリト云フヘシ。

財物ト經濟ノ手段トノ差異
 限ルト爲シタリ。乍併經濟ノ手段タルモノハ必スシモ然

ルヲ要セス、經濟行爲ノ目的物ハ財物ナレトモ、其ノ行要ノ目的ヲ達セシムル手段タルモノ
 ハ、必スシモ財物タルヲ要セス、ト爲シタリ。其ノ説明ノ大要次ノ如シ。余ノ説ト比較シテ
 差異アル所以ヲ看取セヨ (Theoretische Sozialökonomik, S. 162 ff.)

【有用ノ物】タル經濟ノ目的物モ、又タソノ目的物ヲ獲得スルニ必要ナル經濟ノ手段モ、共
 ニ人ニ向ツテハ「經濟上ノ財」ト見ユ。

目的物タル意味ニ於テハ「經濟上ノ財」ナルモノハ、只物 (Sach) ナリ、經濟行爲トハ、アル有形
 ノ財物ヲ目的物トスルノ行爲ヲ云フナリ、無形物ヲ目的物トスル行爲ハ、非經濟的行爲ナ
 リ、從テ經濟學ノ目的以外ニアルモノナリ。
 手段タル意味ニ於テハ「經濟上ノ財」ナルモノハ、之ニ反シ、皆ニ物 (Sach) ナルノミナラス、カ

ハ人間ノ行為ノ如キモ亦手段ノ重ナルモノハ一ナリ。
 コノ二種ノ意味ニ於ケル經濟上ノ財ナル用語ノ區別ハ之ヲ明ニ區別スルヲ要ス。寧ロ
 是等ノ用語ヲ全廢シテ之ニ代フルニ經濟ノ目的經濟ノ手段ナル語ヲ用フルニ如ク
 ナシ。
 コノ區別ハ又主トシテ經濟上ノ財ヲ分テ消費手段及生産手段トナセルト相同シ。消
 費手段ト云フトキニハ吾人ハソノモノハ爲メニ之ヲ欲スルナリ。食物衣服家屋ソノ他
 ノモノハ即チコレナリ。是等ノモノヲ所有シ使用スルコトハソノ人ニ向ツテ快感ヲ與
 フルモノタルナリ。コレカ故ニ享樂手段 (Genussmittel) トモ名ケルナリ。乍併コノ享樂
 ナル用語ハ只單ニ消耗品即食物類ノミヲ指スカ如シ故ニ寧ロ消費手段ト云フヲ以テ適
 當トス。

生産手段トハ經濟主體カ彼ノ消費手段タルモノヲ獲得シ且ツ利用スルニ必要ナル物及
 行爲 (Sach und Thatigkeit) ノ謂ナリ。人ハ生産手段ソノモノヲ必要トスルニ非テ只タコ
 レナクハ一定ノ消費手段ヲ得ルコト能ハサルニ依ルナリ。
 消費ハ其ノ消耗及使用タルトテ間ハス實ニ吾人ノ經濟行爲ノ最終ノ目的ナリ。
 衣服家屋ハ吾人ノ所有セシコトヲ欲ス。田畑器械勞働ノ如キハ之ト異ナリ穀物絲糸等
 ノ生産殊ニカノ消費手段タルモノト生産ト關係アルカ故ニコノ點ニ於テ吾人ハ之ヲ
 欲スルナリ。モシ是等ノ財ニシテ這般ノ性質ヲ失ヒ或ハ他ノ物カ之ヲヨリヨク願ハス
 カ如キコトアル場合ニ於テハ吾人ハ是等ノモノニ向ツテ更ニ經濟上利害ノ念ヲ有セザ
 ルニ至ルヘシ。
 乍併經濟ノ客體及ヒ手段ナル用語ハ消費手段及生産手段ノ區別ニ優レリト云フヘシ。
 ソノ第一ノ理由ハ其ノ用語ノ簡潔ナルニアリ。又ソノ第二ノ理由ハ生産手段ナル用語

ハ生産ノ關係ノミニ限定セラレ、循環及分配ニ關スル作用ヲ認メサルノ弊アレハ也。

第四節 財物ノ種類

財物ハ之ヲ種々ニ分類スルコトヲ得ヘシト雖モ、予ハ暫ク財物ソノモノ、性
 質ニ從ツテ之ヲ大別シ、原始產物及ヒ製造物ノ二種ト爲ス。原始產物トハ、自
 然カ產出セシモノ又ハ自然ニ人カヲ加ヘテ產出セシメシ物ヲ云ヒ、製造物ト
 ハ人類カ主トシテ人爲ニ依リテ生産セシモノヲ云フ。而シテ此ノ二者ニ就
 キ、更ニ細別スルコト次ノ如シ。

甲、原始產物

第一、生物的原始產物、之ヲ動植物ノ二種ニ分ツ。

一、植物的原始產物、植物ハ根、幹、皮、葉、花、實ニ分ツ。然レトモ通常ハ左ノ
 如ク分ツ。

イ、狹義ノ農產物、之ヲ左ノ如ク分ツ。

穀物—穀物及ヒ菽豆類即チ米、麥、蕎麥、大豆、小豆、玉蜀黍等、
 根菜類—馬鈴薯、甜菜、大根等、

飼料作物—苜蓿、赤苜蓿、桑等、

工藝作物—製油作物(菜種、罌粟等)、紡績作物(亞麻、苧、綿等)、香料作物(煙草、忽布等)、染料作物(藍等)及ヒ雜種、

園藝作物—蔬菜、菓實、花、

ロ、林產物、木材、薪、菓實等、

ハ、海草、昆布、海苔ノ類、

二、動物の原始產物、動物ハ人、魚、虫、禽、獸ニ分ツ。從ツテ、動物の原始產物ハ左ノ如ク分ル。

イ、人的原始產物、之ヲ二種ニ分ツ。

人ソノモノ—奴隸ノ類、

人ノ身體ヨリ產出セルモノ—例ヘハ、頭髮ノ如キ、人糞ノ如キコレナリ。人糞ノ如キハ、肥料ノ外、アンモニア製造ノ原料トシテ盛ニ用フル也。

ロ、魚類の原始產物、之ヲ二種ニ分ツ。

魚類ソノモノ—生活シツ、アル魚類—コレニハ、繁殖ノ目的ニ供セ

ラル、モノト、賞玩用ニ供セラル、モノ(金魚、鯉等)トノ二種アリ。

魚類ヨリ生産シタル原始的產物—魚肉、貝殼等

ハ、虫類の原始產物、之ヲ二種ニ分ツ。

虫類ソノモノ—蠶、蜜蜂、螢ノ類、

虫類ノ生産シタルモノ—珊瑚、真珠、海綿、繭、蜜ノ類、

ニ、禽類の原始產物、又タ之ヲ二種ニ分ツ。

禽類ソノモノ—賞玩用ノ諸禽類(鶯、目白ノ類)

禽類ヨリ生産シタル原始產物及ヒ禽類ノ生産シタルモノ—鳥肉、羽、

毛、卵、爪ノ類

ホ、獸類の原始產物、又タ二種ニ分タル。

獸類ソノモノ—之ヲ分チテ用畜及ヒ役畜ト爲ス。用畜トハ其ノモノ、繁殖ヲ計ルノ目的、乳卵等ヲ生産セシムルノ目的及ヒ賞玩用ノ目的(犬、猫ニ於ケルカ如ク)ニ向ツテ飼養セラルモノヲ云ヒ、役畜トハ其ノ力ヲ役スルノ目的ニテ飼養セラル、モノニシテ、耕作用ノ牛、馬、運搬用ノ牛、馬等ヲ云フ。

獸類ヨリ生産シタル原始産物及ヒ獸類ノ生産シタルモノ―獸肉、獸毛、獸骨及ヒ糞尿類

第二、非生物的原始産物、之ヲ金、石、土、水ニ分ツ。

一、鑛物類

二、岩石類、花崗石ノ類之ニ屬ス。

三、土壤類、土地ソノモノ及ヒ各種ノ土壤之ニ屬ス。

四、水、海水、河水、礦泉等諸般ノ水之ニ屬ス。湯屋ノ湯ノ如キハ、比較的ニ價値多キ水ノ一例ナラン。

乙、製造物

第一、被服類

一、被服原料(反物)類、

イ、織物、主ナルモノ四種アリ。

絹物、―虫ノ産出セシ原料ヨリ成ル。

毛物、―禽獸ノ産出セシ原料ヨリ成ル。

木綿類、―植物ヲ原料トス。

麻類、―コレ又植物ヲ原料トス。

ロ、組物

ハ、編物

二、既製被服類

イ、衣服、―羽織、袴、帶、褌衣ノ類コレナリ。

ロ、衣服、附屬品及裝飾品、―羽織紐、襟飾及ビ簪、ピンノ類コレナリ。

ハ、衣服以外ノ被服、―靴、帽子ノ類コレナリ。

ニ、化粧品類、―白粉、紅髮油、コスメチックノ類コレナリ。

第二、飲食物類

一、食物類

イ、食料ノ原料トナルベキ精製物、主ナルモノ左ノ如シ。

製粉類―穀物及菽豆類ヲ原料トセルモノ。

乾燥蔬菜類―根菜類、蔬菜及果實ヲ原料トセルモノ。

ロ、既製食物

常食物―主食物及副食物ニ分チ得ベシ。調理サレタル肉類、野菜類

ヲ始メ飯、麵包等之ニ屬ス。

間食物—菓子類等之ニ屬ス。

二、飲料

イ、飲料ノ原料トナルベキ精製物、茶、珈琲ノ類コレナリ。

ロ、既製飲料、清酒、麥酒、葡萄酒ノ類コレナリ。

三、味料

イ、砂糖、味噌、醬油類—植物ヲ原料トス。

ロ、食鹽類—礦物ヲ原料トス。

四、香料、煙草モ普通之ニ包含セラル。

五、藥用品

第三、建築物及機械、道具、器具、用品類

一、建築及機械、道具、器具、用品類ノ原料トナルベキ製造物

二、建築物

イ、家屋類

ロ、家屋附屬物、疊、建具類

ハ、橋梁、鐵道、棧橋類

ニ、紀念碑、銅像類

三、機械、機械ニハ大小ノ區別アリ。蒸氣機械ノ如キハ其ノ大ナルモノ。時計、ミシンノ如キハ其ノ小ナルモノ。

四、道具、道具ノ機械ト異ル所ハ、道具ハ主トシテ人力ヲ用イテ使用スルモノニシテ、機械ノ如ク主トシテ自然力ニヨリテ運轉セサルニ在リ。鋸、鉋ノ類コレナリ。

五、器具、机、椅子、食器ノ類コレナリ。道具ト異ル所ハ、他ノ物ヲ生産センカ爲メニ用フルニ非ラスシテ、其ノモノガ終局ノ用ヲ爲スニ在リ。

六、用品、書籍、玩具、筆、紙、墨等 (Hilfsmittel der Volkserziehung) 主トシテ之ニ屬ス。

第四、助成品 (Hilfsstoff)

一、燃料、燃料ノ大部分ハ原始產物ナレトモ、製造物タルモノモ少カラス。木炭、瓦斯ノ類コレナリ。

二、染料、染料タルモノモ、原始產物ニ多シ。茲ニ包含スルハ、製造物ノミ。

序論 財物 財物ノ種類

三、肥料 肥料亦タ然リ。茲ニ包含スルハ、人造肥料ニ限ル。
第五、貨幣

第五節 財物ノ效用及ヒ價值

物カ人類ノ慾望ヲ満足セシムルノ力ヲ名ケテ其ノ物ノ效用ト云フ。價值トハ、或ル人カ其ノ效用ヲ認識シタル場合ニ生スルモノニシテ、認識サレタル效用ナリト云フコトヲ得ヘシ。

物ノ效用ハ、ソノモノ、性質形狀ニシテ變化ナキ限リハ一定不變ナリ、蓋シ效用トハ物ノ客觀的性質ナレハナリ。之ニ反シ、價值ハ其ノモノ、性質形狀ニハ毫モ變化ヲ生セサル場合ト雖モ、常ニ變動シテ已マサル也。蓋シ價值ハ人カ物ニ對シテ之ヲ重要視スルコトニヨリテ生スルモノニシテ、主觀的ノモノナレハ也。猶ホ價值ニ關スル細密ナル議論ハ、凡テ之ヲ後篇ニ讓ル。

價值ハ人カ其ノ物ヲ重要視スル理由ノ如何ニヨリテ之ヲ種々ニ分類スルコトヲ得ヘシト雖モ、暫ク之ヲ後篇ニ讓ル。

わぐな一ノ價值説

余ハ價值ノ詳説ヲ後篇ニ讓ラシメ、今マ暫クわぐな一ノ說明ヲ假リ來ツテ、價值ノ眞實ナル者ノ參考ニ供ス。

價值ノ觀念

人類ハ其ノ天性ヨリシテ、内界ノ財又ハ外界ノ財カ自己ノ慾望ト如何ナリト關係ヲ有スルヲ自覺スルニ至ルモノナリ。而シテ是カ爲メニ財ノ評價ヲ爲スモノハ、ニシテ從ツテ財ニ價值ナルモノヲ生スルニ至ルナリ。

價值ノ觀念ニ就イテハ從來種々ノ論争アリタレントモ、未タ充分ニ闡明セラレトニ至ラス。思フニ、コレ財ノ效用ト價值トヲ分クサルニ由ル也。價值ナルモノハ效用ト異ル。效用トハ人類ノ慾望満足ノ用ニ供セラル、財ノ性質ヲ云フナリ。而シテ、コレノ效用アルカ爲メニ人類カ其ノ財ヲ重要視シ之ニ對シテ一定ノ意識ヲ附スルニ至ラハ、コレ即チ最モ廣キ意味ニ於ケル財ノ價值ナリ。之カ故ニ價值ナルモノハ、物ソノモノカ有スル性質ニ非ラスシテ、人カ其ノ慾望ニ對スル關係ヲ自覺スルコトヨリシテ生スル所ノ財ノ性質ナリ。サレハ、價值ナルモノハ一定ノ人カ一定ノ財ニ對シテ有スル所ノ主觀的ノ觀念ナリ。モシ之ヲ客觀的ニ用フル場合ニ於イテハ、價值ヲ有スル財ソノモノヲ指スナリ、此ノ場合ニハ財ト價值トハ實際上同一ノ觀念タルナリ。

主觀的ニ價值ヲ評定スルニ當ツテ如何ナル心理上ノ經過起ルヤト云フニ、第一ニハ價值ヲ附スルコト起リ、次ギニ至ツテ其ノ價值ノ大小ヲ定ムルナリ。らう其ノ他ノ學者カ價值ヲ定義スルニ當リテ、財カ人類ノ目的ヲ達スルノ用ニ供セラレ得ヘキ能力ノ程度ヲ云フ、ト爲セルハ、單ニ第二ノ場合ノミチ指スコトナリ、從ツテ狹隘ニ失スルノ嫌アリ。財ヲ比較スル事ハ其ノ價值ノ大小ヲ定ムルカ爲メニハ必要ナレトモ、只タ或ル財ニ價值ヲ附スル爲メニハ必要アラサルナリ。

使用價值

使用價值トハ財ヲ以テ慾望満足ノ目的ニ用ユル方面ヨリ觀察シタル觀念テハ、一般人類或ハ特別ノ一人カ之ニ對シテ慾望ヲ有スルガ爲メニ生シ來ル價值ナリ。

序論 財物ノ效用及ヒ價值

而シテ此ノ使用價值コソ凡テ評價ノ根本タルナリ。『價值ニハ只タ一種アルノミニシテ使用價值即チコレナリ。』コノ使用價值ナルモノハ、或ハ個人的使用價值タルコトアリ、或ハ社會的使用價值タルコトアリ。前者ハ個人力モモ社會組織ニ就イテ顯慮スル處ナクシテタダ自己ノ慾望ニ對シテ感スル處ノモノナリ。後者ハ多數ノ個人ヨリ成立セル社會ヲ感スル所ノ價值ナリ（『ル』と云へる）。而シテ所謂社會的使用價值ノ成立セルカ爲メニハ分業及ビ財物ノ生産手段ニ關スル一定ノ法制、從ツテ分業組織ノ下ニ生産セラレタル財ノ分配ニ關スル一定ノ組織ヲ前提トスルモノナリ。

私有財産ノ制度認メラレテ自由交易ノ行ハレ、國民經濟ハ私經濟的組織ヲ取レル場合ニ於イテハ、社會的使用價值ヲ生ズルガ爲メニ交換ノ制度、即チ貨幣及ビ買ノ制度ヲ必要トスルモノナリ。而シテ、既ニ交換ノ制度行ハル、時ハ、始メテ交換價值及ビ契約上ノ價格ナルモノ生ズルニ至ルナリ。故ニ交換價值ナルモノハ、本來使用價值ト相對シテ價值ノ一種類ヲ爲セルモノニ非ラズ、論理上價值ヲ分チテ使用價值及ビ交換價值ト爲スベキモノニ非ラズシテ、所謂交換價值ナルモノハ、歴史的ノ觀念ナリ、社會ニ交易ノ行ハル、時ニ至リテ始メテ發生スルモノタルナリ。而シテ其ノ一種トシテ公定價值及ビ公定價格ナルモノアリ。コハ二人ノ間ニ於イテ財ノ讓渡ヲ爲スニ當リ、主權ノ力ニヨリテ之ニ一定ノ價值及ビ價格ヲ制定スルコトニ依リテ生ズ。私有財産制度及ビ私經濟的組織ヲ基礎トセル國民經濟ニ於イテモ、主權ノ力ニヨリテ交易上一定ノ規定ヲ設ケル時ハ、等シク公定價值及ビ公定價格ノ發生ヲ見ル。モシ社會主義者ノ唱フルガ如ク、財物生産ノ手段タルベキモノナリトシテ公有トナシ、生産及ビ貨物ノ分配ヲ凡テ國家ノ事務ト爲スニ至ラバ、自由交易ヲ基礎トシテ生ズル交換價值及ビ交換價格ハ凡テ——殆ド凡テ——消滅シ之ニ代リテ『社會的公定價值』一般ニ行ハル、ニ至ルベシ。但シ此ノ如キ制度ハ到底行ハ

ルベキモノニ非ラザルハ明カナリ

ルベキモノニ非ラザルハ明カナリ
 る。ト云へる。つすノ言ニ「交換價值ナルモノハ一定ノ時代ニ生セル歴史的ノモノニシテ、社會的使用價值ノ一種ナリ。世人往々ニシテ使用價值ト交換價值ト相對時セシムト雖トモコレ論理上ノ觀念ヲ以テ歴史上ノ觀念ト論理上相對立スルモノト爲セルニ外カナラズシテ、即チ論理上許スベカラザル事ナリ」ト云ヘルハ、余ノ贊成スル處ナリ。學者ガ價值ノ「分類」トシテ使用價值及ビ交換價值ト爲スハ實ニ不合理的ノ事ナリ。價值ヲ分チテ使用價值及ビ交換價值ト爲スコトハ、既ニありすこれヲ政治學第一章九ニ於イテ其ノ萌芽ヲ見ル。あだむすみすモ亦タ價值ヲ分チテ、コノ二種ト爲シタレドモ、ソノ書中ニ論スル處ハ只ダ交換價值ニ止マリタリ。其ノ主ナル後繼者リカドー及ビ多クノ自由貿易論者皆ナリ。而シテ特ニ近時ニ至リ、價值中交換價值ノミヲ以テ經濟學ノ研究スベキモノト爲スノ説行ハレ、其ノ説タル全ク相反對セル學派ニヨリテ等シク唱導セラレタリ、即チ其ノ一ハ極端ナル自由貿易論者ニシテ、其ノ二ハ社會主義者ナリトス。此ノ如キ見解ヲ取ル時ハ、經濟學ナルモノハ純然タル交換ノ學トナルモノニシテ、概且少價額ノ讓チ免レズ。余ハ之ト異リ、ルベキモノト云へる。つす及ビセムレ等ノ説ヲ取リ、凡テノ價值ニ就イテ其ノ使用價值ノ方面ニ重キヲ置クモノナリ、蓋シ交換價值ナル觀念ハ最重要ナル經濟上ノ財ニ應用スルコト能ハザルモノナレバナリ、例ヘバ國家ノ如キ、國家ノ勤勞ノ如キ、其ノ他共同經濟上ノ關係ノ如キ、コレナリ。其ノ他私經濟上ノ交通ニ於イテモ、單ニ交換價值ノミヲ以テシテハ、之ガ說明ニ不充ナルモノ少シトセズ。らうハ既ニ述ベタルガ如ク、財物ノミニ就イテ研究シ、國家等ハ之ヲ經濟上ノ財ト爲サス從ツテ交換價值ノ方面ニノミ重キヲ置クヘキ筈ナレトモ、シカモ使用價值ノ觀念ヲ看過スルコトナカリキ。モシ夫レ吾人ノ加ク人的勤勞及ビ有利關係等ヲ以テ經濟上ノ財ト爲スモノニ取リテハ、益々其

序論 財物ノ效用及ビ價值

ノ必要アリトス。のいまんモ亦ダラウ、なつせる、へるまん等シテ、價值ヲ分チテ交換
 價值及ヒ利用價值ノ二者ト爲スチ排斥セリ然レトモ氏ガ全然二者ノ區別ヲ無視セルハ
 余ノ首肯シ難キ處ナリ
 個人的使用價值タルト、社會的使用價值タルト、同ハス、吾人ハ之ヲ次ハ如ク分類スルコ
 トヲ得ヘシ
 (一)所有者又ハ所有セント欲スル者ノ主觀的目的及ヒ財ノ客觀的ノ效用ヲ標準トスル
 時ハ、享樂價值トシテ生産價值トニ分ツコトヲ得ヘシ、享樂價值トハ財ソレ自身ヲ以テ直接ニ
 慾望満足ノ用ニ供スル場合ニ生スルノ價值ニシテ、生産價值(往々營利價值ト稱セラル、
 モノニシテ、ラウノ如キハ此ノ術語ヲ用ヒタレトモ、交換價值ト混同シ易キカ故ニ生産價
 値ト云フノ優レルニ如カス)トハ其ノ財ヲ以テ新ラタナル財ノ獲得ニ用フル場合ニ生ス
 ル價值ナリ。コノ點ヨリ分ツ時ハ、財ハ分レテ享樂手段及ヒ生産手段(營利手段)トナルモ
 ノナリ

或ル財カ前述セシ分類中ノ何レニ屬スヘキヤハ、絶對的ニ之ヲ定メ難シ。多クノ財ハ其
 ノ何レニモ用ヒラレ得ルモノニシテ、所有者ノ意思ニヨリテ何レトモナル。乍併、財ノ性
 質ソノモノモ亦タ之ヲ決定スルニ關係ナク、非ラス。例ヘハ多クノ財ハ之ヲ純經濟
 上ヨリ觀察センカ常ニ享樂財タルニ止ルモノアリ(例ヘハ食料品、奢侈品等)ヨリ是等ノ
 モノモ生産ノ經過中生産チ可能ナラシムル爲メニ生産者ニヨリテ使用セラル、場合ハ
 生産手段トシテ資本ノ一部ヲ爲スコトアリ。又一方ニハ單ニ生産手段タルニ止ルモノ
 アリ(道具、器械、粗生原料、補助原料)
 (一) 享樂價值ノ大小ハ個々ノ人ノ主觀的判斷ニヨリテ定マル、殊ニ其ノ人ノ想像力ノ性
 質及ヒ作用ト關係ス。乍併其ノ根本ニ於イテハ、人類ノ目的確定シ又タ財ノ性質モ一定

セル故ニ、非常ナル差異ヲ生スルモノニ非ラス、從ツテ學問上之カ研究ヲ爲シ得ルナリ
 (二) 生産價值ノ大小ハ、ソノ生産手段カ新ラシキ財ノ獲得ニ對シテ與フル所ノ補助ノ程
 度ニヨリテ定マル、從ツテ其ノ補助ニヨリテ成立セル總體ノ價值ヨリ、之カ生産ニ要セシ
 費用ヲ差引キタル價值ノ分量ニヨリテ定マルモノナリ。
 (三) 財ヲ使用スル方法及ヒ期間ヲ標準トスル時ハ、使用價值ハ分レテ二トナル。即チ消
 費財產ニ付イテハ、消費價值ヲ生シ利用財產ニ就イテハ、利用價值ヲ生スルナリ。
 (四) 使用價值ノ内部ノ根據ヲ標準トスル時ハ、財物ニ就イテハ、物質價值、形態價值、位置
 價值ノ三者ニ分ツコトヲ得ヘシ
 形態價值及ヒ位置價值ノ二者ハ工業商業上ノ勤勞ヲ判斷スルノ際特ニ必要ナルモノ也
 位置價值トハ其ノ財物ノ位置ノ關係ヨリ生スル價值ニシテ、例ヘハ房州ニテハ魚類ノ價
 値少ケレトモ之ヲ東京ニ運搬シ來ル時ハ其ノ價值ヲ増加スルナリ、コレ即チ主トシテ位
 置價值ノ増加ナリ。又タ木材ヲ變シテ板トナシ、米ヲ變シテ酒ト爲スカ如キ場合ニハ、之
 カ爲メニ其ノ財物ノ價值ヲ増加スルニ至ルモノナルカ、コレ主トシテ形態價值ノ増加ニ
 因ルナリ。物質價值トハ物ソノモノノ性質ヨリ生スル價值ニシテ、農業ノ如キハ主トシ
 テ此ノ物質價值ヲ產出スルモノナリ、之ニ反シ商業ニ在リテハ物質價值ヲ増加スルモノ
 ニ非ラス。

數量價值及ヒ品種價值又ハ具體的價值及ヒ抽象的價值

コノ區別ハ使用價值ノ「分類」ト云フ程ノ價值アルモノニ

非ラス、只タ觀察點ノ如何ニヨリテ此ノ如キ觀念ヲ生スルニ至ルナリ
 (一) 一個人即チ所有者(現ニ財ヲ占有セル者)又ハ願望者(其ノ財ヲ處分センコトヲ欲シツ
 、アル者)が個々ノ時點ニ於イテ其ノ一定ノ慾望ニ對シ一定ノ數量ヲ有セル一定ノ財ノ

重要ナル程度ヲ判斷スルコトハ、人力財ノ價值ヲ附スル方法中原始的且ツ自然的ノモノト云フヘシ。此ノ如クニシテ其ノ財ニ生シタル使用價值ハ、ソノモノノ具體的價值又ハ數量價值ナルモノナリ、コノ具體的價值ハ財ヲ占有セル所有者又ハ財ヲ得ント欲スル願望者ノ意思ヲ決定スルモノニシテ、從ツテ其ノ財ヲ人ニ譲リ又ハ之ヲ他人ヨリ譲受ケントスル場合ニハ其ノ對價ノ大小ヲ定ムヘキ條件ト爲ルモノナリ。是ノ故ニ、交易ニ關シ、從ツテ交換價值及ヒ價格ニ關シテ實際上直接ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ。コノ價值ノ大小ハ一方ニ於イテハ之ニ對スル需要ニ依リテ定マル、從ツテ評價者ノ其ノ時ニ於ケル個人的狀態及ヒ満足セラルヘキ慾望ノ種類、範圍、強弱、緩急、コレ評價者ノ其ノ時ニ於ケル個人的狀態ニヨリテ左右セラル、モノナリニ依リテ定マル、而シテ他方ニ於イテハ其ノ慾望満足ヲ達スルカ爲メニ其ノ財カ如何程ノ有用ヲ有スルヤニ依リテ定マル、即チ需要及ヒ財ノ蓄積ノ間ニ於ケル關係ニヨリテ定マルモノニシテ、從ツテ評價者ノ占有セル蓄積ニ關シテハ其ノ要求セル蓄積ヲハ補充シ再生スルノ必要アル分量ノ大小及ヒ條件ノ難易ニヨリテ定マリ又々始メテ其ノ蓄積ヲハ獲得スルモノニ對シテハ其ノ要求セル蓄積ヲ作り出スカ爲メニ必要ナル條件ノ難易ニヨリテ定マル。而シテ是等ノ條件ナルモノハ其ノ財ヲ獲得スルカ爲メニ要スル所ノ犧牲及ヒ勞力ニ外ナラスシテ、一言ニシテ「敵ヘハ」所謂獲得ノ困難」コレナリ。而シテ此ノ獲得ノ困難タルヤ、通常再生（又ハ復生産）スルコト（同一ノモノヲ更ニ生産スルコト）能ハサル財（古人ノ名畫ノ如キ）ニ於イテハ、只々稀有ノ程度ニヨリテ定マル、シカレニ通常ノ財ハ多ク生産ニヨリテ其ノ數量ヲ增加シ得ルモノニシテ、コノ場合ニ於イテハ獲得ノ困難ハ之ヲ生産スルノ費用（生産費）ニヨリテ決セラル、トナリ具體的價值ノ大小ヲ定ムル原因ハ上述ノ如シ、從ツテ其ノ限界ハ「無」ヨリ「無限」ニ亘レルコト言テ待タス。

此ノ如ク、具體的價值ナルモノハ各個人ノ事情ニ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ、同一ノ財ト雖モ人ヲ異ニスルニ依リテ變更スルモノナリ、何トナレハ各個人ノ事情ヲ異ニス、而シテ具體的價值トハ其ノ事情ヲ異ニセル各種ノ人力財ノ價值ナレハナリ、心理上ヨリ觀察セハ、コノ點ヨリ實ニ交換ノ起リ得ル所以、交換ノ動機ノ起ル原因ナリ。

(二) 品種價值又ハ抽象的價值ト云フハ、評價者ノ其ノ財ヲハ所有シ又ハ所有セントスル意思ヲ有スルト否トニ拘ラス、只々單ニ一般人類ノ慾望満足ニ向ツテ其ノ財カ如何ナル重要ヲ有スルヤヲ判斷セシ時ニ生シ來ルモノナリ。是カ故ニ品種價值ナルモノハ或ル種ノ財カ一般人類ノ慾望満足ニ向ツテ有スル價值ノ謂ニシテ、社會ニ存在セル慾望満足ノ種類、満足ノ慣習等ニヨリテ決定セラル、モノタリ。

其ノ大小ハ一方ニ於イテハ慾望ノ關係ニヨリテ定メラル、モノニシテ、而シテ慾望中何レカ重ク何レカ輕キヤハ、自然上及ヒ歴史上社會上ノ事情ニヨリテ定マルナリ（例ヘハ主要食物ハ奢侈品ヨリ重シセラル、カ如シ）。又々一方ニ於イテハ其ノ慾望ヲ満足スルカ爲メニ或ル種ノ財カ具有セル有用ノ程度ニヨリテ定マルナリ。コノ品種價值モ凡テノ人類ヲ通シテ同一ナリト云フコト能ハス氣候、地味、習慣、文明ノ程度等ヲ異ニスルニ從ヒ、一社會ノ品種價值ハ他ノ社會ノ品種價值ト異ルモノタリ。

財ノ自己生産廣ク行ハレ、從ツテ國民生活ノ狀態未タ幼稚ナル時代、即チ所謂自然經濟ノ行ハル、時代ニ於イテハ使用價值ハ交換價值ヨリ重キヲ爲シ、個人的使用價值ハ社會的使價值ヨリ重キヲ爲シ、具體的使用價值ハ抽象的使用價值ヨリ重キヲ爲セリ。乍併、最も重要ナル經濟上ノ財ニシテ單ニ使用價值ヲ有スルニ止リ、嘗テ交換價值ヲ有セサルモノアリ、國家及ヒ國家ノ制度ノ如キコレナリ。

交換價值又ハ交易價值

自己ノ需要ヲ満足スルカ爲メ財ノ自己生産ヲ爲スコト次第ニ衰へ之ニ代リテ財ノ交易盛ンナルニ至ラハ財ノ社會的使用價值大ニ重キヲ爲スニ至ル。蓋シ各個人ハ自己ノ必要トスルモノヲ作ルニ非ラズシテ、專ラ他人ニ賣ランカ爲メニ財ノ生産ニ從事スルナリ、故ニ其ノ生産セント欲スルモノハ社會ノ需要ニ適應セルモノニシテ、即チ社會的使用價值ヲ有スルモノタルニ至ルナリ、而シテ交換、分業及交易ノ發達ニ伴フテ社會的使用價值ノ觀念モ發達ス、即チ社會的使用價值ノ觀念ハ是等ノ條件ト歴史的關係ヲ有スルモノナリ。個人ト個人トノ間ニ於ケル交易カ自由トナルニ從ツテ、社會ノ法制モ次第ニ變遷シ、遂ニハ財ノ交易ヲ爲スニ當リテ其ノ契約ノ自由ヲ認ムルニ至ルナリ。此ノ如クニシテ、貨幣生シ、買賣契約起リ、遂ニ信用契約起ルニ至ルナリ。是カ故ニ、交換價值ノ成立モ亦々一定ノ法制ヲ前提トスルモノニシテ、即チ其ノ法制タル私人ノ生産ヲ認メ之ニ必要ナル生産ノ手段(土地資本)ノ私有ヲ認許スルモノナラサルヘカラス、又カクテ作り出サレル財ニ就イテモ之カ私有ヲ認メ且ツ自己ノ欲スル對價ヲ以テ其ノ生産物ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ公認セルモノナルコトヲ必要トス。コレ即チ自由競争ヲ基礎トセル私經濟的制度即チコレニシテ、コレニ就イテハ猶ホ後章ニ於イテ述フヘシ。

社會的使用價值ヲ有スル財カ一般ニ契約殊ニ交換契約ノ目的物タリ得ルニ至レルコトノ爲メニ、附與セラルル所ノ價值ヲ指シテ其ノ交換價值ト云フ。

交換價值ハ間接ノ使用價值使用價值ノ換シ換ケラレタルモノト見ルコトヲ得ヘシ。

或ル財カ交換價值ヲ有スルニ至ル所以ノモノハ、其ノ財カ使用價值ヲ有シ、從ツテ他ノ財ト交換セラレ得ル性質ヲ有スルニ由ル也。

財ニ交換價值ヲ生スルカ爲メニハ、三個ノ條件ヲ必要トス。其一ハ、其ノ財ニ社會的使用

價值ヲ有スト認メラレタルモノナルコト、即チ社會ニ於ケル多數ノモノカ其ノ財カ一定ノ利用ヲ有スルコトヲ認メ之ヲ得ンコトヲ欲シツトアルコト、コレナリ。其ノ二ハ、一個ノ人ハ法律上其ノ財ヲ處有シ且ツ對價ヲ取リテ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ公認セラレタルコト、換言スレバ其ノ財カ交易財トシテ公認セラレタルコト。其ノ三ハ、一定ノ場合ニ於イテ其ノ財ヲ獲得スルカ爲メニハ、必ス犧牲(勞力)ヲ必要トスルコト、コレナリ。是ニヨリテ考フレバ、經濟上ノ財就中交易財ノミカ、交換價值又ハ交易價值ヲ有スルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘシ。

自由ノ財モ上述ノ三條件ヲ具フル場合ニ於テハ、交換價值ヲ有スルニ至ルモノナリ。故ニ例ヘハ、其ノ財ヲ以テ欲望満足ノ用ニ供スルカ爲メニハ之ヲ占有スルノ勞力ヲ費ササルヘカラサル時(無漁採集サレタル果實、狩獵ニヨリテ捕ヘタル野獸、其ノ他)、又々需要カ財ノ蓄積ニ超過シタル時、或ハ土地ノ場合ニ於ケルカ如ク之ガ所有權ヲ認メ第三者カ安シニ之ヲ使スナサザル時ノ如キハ、其ノ財ハ一般ニ交換價值ヲ有スルニ至ル也。蓋シシテ「獲得ノ困難」ヲ生スルニ至ル也。

價值及ヒ交換價值ノ條件ニ就イテ上述セシ所ハ舊來ノ學說ニシテ限界效用說ヲ取レル新派ノ學者ノ排斥スル所ナリ。乍併是等新派ノ學者ノ唱フル所ハ、只々舊來ノ說ヲ表示スルノ文字ヲ變更セシニ止リ、舊說ニ比シ舊モ改善セラレタル處ナキノミナラス、寧ロ却ツテ明瞭ヲ欠クニ至リシノ觀アリ。

財物ニ關シテハ、交換價值ナルモノアリテ或ル財ノ交換價值ヲ其ノ重量ト比較スルコトニ依リテ發生ス。例ヘハ重量ハ小ニシテ交換價格ハ大ナル財物アリトセバ、ソノ交換比價ハ大ナリト云ヒ、之ニ反スル場合ハ交換比價小ナリト云フナリ。一定ノ財ノ比價ガ

他ノ事情ハ全然同一ナルニモ物ヲス之ニ高低ヲ生スル所以ハ第一ニハ其ノ可運搬性ノ大小(運搬サレ得ルヤ否ヤ)ニヨリ第二ニハ其ノ可保存性ノ大小ニヨル。貨幣トシテ用ヒラルモノハ所謂交換比價ノ大ナルモノナリ。

交換價值ヲハ歴史上法律上ヨリ論ズル時ハ契約的交換價值ト公定的交換價值トノ二ト爲スコトヲ得。契約的交換價值トハ自由交易ノ社會ニ於テ各個人ノ感スル交換價值ニシテ公定的交換價值ト云フハ主權ニヨリテ決定セラレタル交換價值ノ事ナリ。

價格ノ概念

交換價值ノ價格ニ對スル關係ハ單ニ財ノ交換サレ得ベキ可能性ト實際ニ於テ交換サル。○於○イ○テ○交○換○サ○ル○事○實○ト○ノ○關○係○ノ○如○シ○。○財○ノ○價○格○ト○ハ○或○ル○財○が○實○際○ニ○於○イ○テ○交○換○サ○ル○所○ノ○他○ノ○財○ノ○分○量○ノ○謂○ナリ。○自○由○交○易○ノ○行○ハ○ル○法○制○ノ○下○ニ○於○テ○ハ○社○會○的○使○用○價○値○が○價○格○ヲ○有○ス○ル○ニ○至○ル○ハ○人○々○ノ○間○ニ○於○ケ○ル○契○約○ニ○本○ク○而○シ○テ○此○ノ○如○キ○契○約○ニ○依○リ○テ○實○現○サ○レ○タル○交○換○價○値○(即○チ○價○格)○ハ○之○ヲ○稱○シ○テ○契○約○價○格○競○争○價○格○自○由○價○格○ト○稱○ス。○通○常○單○ニ○價○格○ト○云○フ○ハ○此○ノ○意○義○ニ○於○ケ○ル○價○格○ヲ○指○ス○モ○ノ○ナリ。

通○常○交○換○セ○ラ○ル○運○命○ヲ○有○シ○從○ツ○テ○交○易○ノ○目○的○物○ト○定○マ○リ○其○ノ○目○的○ノ○爲○メ○ニ○生○産○セ○ラ○ル○財○ヲ○稱○シ○テ○商○品○ト○云○フ。○而○シ○テ○凡○テ○ノ○交○換○が○通○常○ソ○ノ○モ○ノ○ニ○對○シ○テ○行○ハ○ル○所○ノ○財○ヲ○稱○シ○テ○支○拂○用○具○交○換○用○具○ト○名○ケ○。

〔抑○モ○交○換○價○値○ノ○價○格○ニ○於○ケ○ル○關○係○ハ○財○貨○ノ○交○換○サ○レ○得○ベ○キ○可○能○性○が○現○ニ○交○換○サ○ル○事○實○ニ○於○ケ○ル○如○シ。○價○格○ハ○一○種○ノ○財○貨○が○實○際○他○ノ○財○貨○ト○交○換○サ○ル○ニ○依○リ○成○立○ス○ル○モ○ノ○ナリ。○故○ニ○甲○ノ○價○格○ハ○其○ノ○現○ニ○交○換○サ○ル○乙○ノ○分○量○ニ○シ○テ○乙○ノ○方○ヨリ○云○ハ○バ○乙○ノ○價○格○ハ○其○ノ○現○在○交○換○サ○ル○甲○ノ○分○量○ナリ。……財○貨○ニ○シ○テ○自○由○交○通○ノ○經○濟○社○會○ニ○在○シ○通○常○交○換○サ○ル○コト○多○キ○モ○ノ○ヲ○稱○シ○テ○之○レ○ヲ○貨○物○ト○云○フ。○即○チ○有○形○ノ○經○濟○上○ノ○財○貨○ナリ。〕

(以上金井博士社會經濟學一〇〇頁—一〇一頁) 博士ガ所謂貨物ト稱セラレタルモノハ

予カ茲ニ釋シテ商品ト稱スルモノト殆ト同一ノ概念タルヘシト思ヘトモ之ヲ有形ノ經濟上ノ財貨(予カ釋シテ財物ト云フモ)ト同一物ナリト論セラレタルハ、わづな一ノ説ト異ル。博士ハ「有形ノ經濟上ノ財貨」ト「貨物」ト同一ノ概念トナシ「有形ノ經濟上ノ財貨」ハ即チ貨物ニシテ「自由交通ノ經濟社會ニ存在シ通常交換サル」コト多キモノ「外ナラスト論セラレタリ。然レトモ所謂有形ノ經濟上ノ財貨ニシテ「自由交通ノ經濟社會ニ存在シ通常交換サル」コト「多カラサルモノ多シ。予ハわづな一ノ用語ヲ適當ナリト信ス」財ハ其ノ交換サル、丈ケ其レ丈ケ多クノ種類ノ價值ヲ有ス。換言スレバ各種ノ交易財ハ他ノ各種ノ交易財ニ向ツテ支拂用具タルモノナリ。

物價トハ價格ノ一種ニシテ其ノ最モ普通ノモノナリ。らう曰ク「あたむすみす及ヒ其ノ後繼者ノ如キハ價格ト物價ト同一視ス、然レトモ價格ノ概念ハ物價ヨリ廣義ニ解釋スルヲ適當トス。貨幣ト交換スルコトハ今日ノ交易社會ニ於テハ廣ク行ハル、事ナレトモ其ノ交換ノ一種類ニ過キサルハ明カナリ」ト。當レリト謂フヘシ。

價格ノ用語ヲハ或ル財ノ對價貨幣タルト否トヲ問ハスソノモノヲ意味スル場合ニ用フルコトアリ。(米ノ價格ハ一石金十五圓ナリト云フカ如ク、金十五圓ソノモノヲ以テ米ノ價格ナリト云フカ如ク、對價ソノモノヲ價格トシテ用フルコトアリ)今日行ハル、所ノ價格ハ、概ニ述ヘタルカ如ク契約價格ナリ。乍併、歴史上法律上ノ概念トシテハ、ソノ外公定價格ト稱シテ、主權ニヨリテ決定セラレ、モノアリ。

自由交易ノ社會ニ於テ交換價值及ヒ價格ノ大小ヲ定ムル條件

財ノ交換價值ヲ定ムル條件ハ經濟上ノ財ニ欠クヘカラサル條件ト同一ナリ。即チ財ノ使用價值及ヒ獲得ノ困難又ハ之ヲ獲得スルカ爲メ必要ナル費用ノ大小コレナリ。使用價值及ヒ獲得ノ困難大ナレハ交換價

値亦大ナレトモ、之ニ反スル場合ハ小ナリ。自由交易ノ社會ニ於イテハ、コノ條件ニ從
 ツテ契約價格定マル。
 社會主義ヲ唱フルモノハ交換價值及ヒ價格ヲ定ムルニ當ツテ、其ノ生産ニ必要ナル勞働
 (費用)ヲ以テ之カ標準トスヘシト論スト雖モ、今日ノ如キ自由交易ノ社會ニ於イテハ費用
 ノミカ交換價值又ハ價格ノ標準トナレルニ非ラス。費用ノ如何ニ拘ラス使用價值及ヒ
 需要ハ屢々變更スルモノニシテ、之カ爲メニ交換價值及ヒ價格ノ上ニ影響ヲ及ホスナリ。
 サレハ財ノ交換價值及ヒ價格ハソノモノ、生産ニ就キ、社會的ニ必要ナル費用ト獨立シ
 テ高低スルモノナリ。使用價值大ナルニ至ラハ、之カ獲得ノ費用如何ニ拘ラス其ノ交換
 價值及ヒ價格ハ騰貴シ。之ニ反スル場合ハ下落スルモノナリ。

第六節 財産ノ觀念及ヒ其ノ種類

一〇經濟主體ノ處有ニ屬スル財物ノ總稱ヲ名ケテ其ノ人ノ財産ト云フ。
 財産ハ其ノ處有者ノ性質ヲ標準トシテ分ツ時ハ、公有財産及ヒ私有財産ノ二
 ト爲スコトヲ得ヘシ。公有財産トハ國家及ヒ公共團體ノ財産ニシテ、私有財
 産トハ個人ノ財産ナリ。
 次キニ其ノ財産ヲハ經濟主體カ如何ナル慾望ヲ満足スルカ爲メニ用フルヤ
 ヲ標準トシテ分ツ時ハ、享樂用ノ財産及ヒ經濟用ノ財産ノ二者ト爲スコトヲ

得ヘシ。

享樂用ノ財産トハ經濟主體カ經濟上ノ慾望以外ノ慾望ヲ満足スルノ用ニ供
 セントノ目的ヲ以テ處有シ居レル財産ナリ。經濟用ノ財産トハ、經濟主體カ
 經濟上ノ慾望ヲ満足スルノ用ニ供セントノ目的ヲ以テ處有シ居レル財産ナ
 リ。廣義ハ資本ハ、即チ此ノ經濟用ノ財産ヲ指スナリ。資本中、交換ノ用ニ供
 スルノ目的ヲ以テ處有セラレ居ルモノハ、之ヲ交換財ト云フ。而シテ多數ノ
 經濟主體ニヨリテ屢々交換財トシテ取扱ハル、時ハ、ソノモノハ商品ナル名
 稱ヲ冠セラル、ニ至ル。商品ハ廣義ニ於ケル資本ハ一種類ナリ。
 モシ夫レ資本、交換財、商品等ノ觀念及ヒ種類ニ至リテハ、後篇ニ至ツテ之ヲ詳
 述セントス。

財産ノ觀念及ヒ其ノ分類ニ關スルハ左ニ掲ケルカ如シ。

財産ノ觀念

財産ノ觀念ニ二義アリ、純經濟上ヨリ見タル觀念ト、社會上又ハ歴史法律
 上ヨリ見タル觀念トナリ。社會上ノモノ即チ國民ノ財産、社會ノ財産ト
 云フハ前者ニシテ、處有者ノ人格者ノ財産ト云フハ後者ナリ。
 (一) 純經濟上ノ觀念トシテ、財物トハ或ル時點ニ於イテ、慾望満足ハ現實ハ材料トシ
 テ蓄積セラレアル經濟上ノ財ノ總體ヲ云フモノナリ。故ニ苟クモ人類ノ慾望満足ノ材

序論 財物 財産ノ觀念及ヒ其ノ種類

充分ニ其ノ慾望ヲハ満足セシメ得ルヲケノ所得ヲ生スル元本タルモノヲ云フナリ。此ノ意義ニ於ケル富ナルモノハ、又々法律上ノ制度ニヨリテ左右セラルモノニシテ、モシ法律カ生産手段ノ私有ヲ認メズ、又々勞力ヨリ生スル所得(勞働ノ外ニ處有ヨリ生スル所得)奴隸、土地、資本ヨリ生スル所得ヲ認メサル時ハ、決シテ成立スルコトヲ得サルナリ。

財産ノ種類

財産ハ其ノ目的從ツテ其ノ使用ノ方法ニ依リテ之ヲ二分スルコトヲ得ヘシ。其ノ一ハ使用財産又ハ享樂財産ニシテ、其ノ二ハ生産財産又ハ實

本ナリトス。財産ヲハ上述セシ意義ノ何レニ用フルモ之ヲ此ノ如ク二分シ得ルニ至リ

テハ同一ナリト雖モ、シカモ其ノ實際ノ區別ハ決シテ兩者同一ニ非ラス。

(一) 消費財産。財ノ中ニハ、之ヲ以テ慾望満足ノ用ニ供スル時ハ全ク消滅スルカ少ク

トモ財トシテ個々ノ形態ヲ失フニ至ルモノアリ、此ノ如キモノハ所謂消費財産ニ屬ス。

(二) 耐用財産。前者ト異リ、或ルモノハ一定ノ期間繼續シテ使用スルコトニ依リテ漸

ク其ノ財タルノ性質ヲ失フニ至ルモノアリ、之ヲ耐用財産ト云フ。國民ノ財産及

ヒ各個人ノ所有財産ノ主要ナル部分ハ、コノ耐用財産ヨリ成立スルナリ。住家、家具、

衣服、器具其ノ他現ニ使用セサル貯蓄物、貯蓄ニ生活ノ資料及ヒ貨幣ノ如キハ之ニ屬ス。

耐用財産ヲハハるまんノ如キハ之ヲ耐用資本ト名ケルツシムルノ如キハ之ヲ使用資本ト

名ケタリ。コレ蓋シ其ノ取レル資本ノ定義カ吾人ノ取ル所ト異レハナリ。(ハるまんハ

續續シテ利用サレ、且ツ交換價值ヲ有スルモノヲハ、資本ト定義シタリ。せい、ま、か、る、く、すたいんら、いん、こーん等亦タ之ニ類スルノ用語ヲ爲セリ。乍併予ハ資本ノ中ニ予ノ所謂耐用財産ヲ包含セシメサルヲ以テ、用語ノ精確ヲ期スル上ニ於テ便利ナリト信スル也。

(三) 資本(固有ノ)意義ニ於ケル資本、生産資本トハ、新ニ經濟上ノ財、生産出シ獲得スルカ

爲メノ手段トシテ用ヒラル、所ノ經濟上ノ財ノ蓄積ナリ。

資本ニ關シテモ、使用財産ニ於テ消費財産及ヒ利用財産ノ區別ヲ爲シ得ルト等シク、其

ノ利用ノ方法及ヒ繼續ノ期間ヲ標準トシテ、流動資本及ヒ固定資本ノ二ト爲スコトヲ得

ヘシ。

(イ) 流動資本。流動資本トハ只タ一度之ヲ財ノ生産ニ使用スル時ハ、之カ爲メニ財タルノ性質ヲ失フニ至ルモノヲ云フ。故ニ流動資本ニ在リテハ其ノ全部ノ價值カ生産費

ニ含まル、モノニシテ、モシ生産物ヲハ賣却スル時ハ、其ノ全部ヲハ價ヒ得ヘキモノヲ云

フ。

(ロ) 固定資本。固定資本トハ幾回モ財ノ生産ニ役立ツモノヲ云フ。故ニ其ノ價值ノ

一部分宛カ新ラシキ生産物ノ生産費中ニ包含セラル、ニ止ル、サレハ其ノ生産物ヲ次第

ニ賣リ擲キ、遂ニ其ノ資本ノ關係セル凡テノ生産物カ賣却セラレテ後、始メテ其ノ全部ヲ

價ヒ得ルモノト云フヘシ。

粗生原料及ヒ助成原料ノ如キハ流動資本ノ主要ナル例ニシテ、器機、器具、道具ノ如キハ固

定資本ノ主要ナルモノナリ。

資本ノ二義

資本ノ觀念ヲ精密ニ分析シ、且ツ其ノ經濟上ニ於ケル作用ヲ充分ニ了解

スルカ爲メニハ、財産ノ場合ニ於ケルト等シク、純經濟上ノ見地ト歴史上

法律上ノ見地トニ區別シテ觀察スルヲ必要トス。

〔二〕純經濟上ノ範疇トシテノ資本ノ觀念ハ、資本ノ所有ニ關スル法制ノ如何ハ毫モ問フ所ナシ、即チ實テ生産ニヨリテ作り出サレタルモノニシテ、新ニ財ヲ産出スル場合ニ技術上ノ手段トシテ用ヒラレ從ツテ之ニ向ツテ必要欠クヘカラサル所ノ經濟上ノ財ノ蓄積ヲ指スナリ。即チ生産手段ノ蓄積ナリ、「國民ノ資本」「社會ノ資本」ト云フモノ即チコレナリ。

故ニ生計品ノ如キモ、生産ノ繼續セラル、期間及ヒ其ノ生産物ノ販賣セラル、迄ノ期間ニ於イテ之ニ必要ナル勞力——普通ノ勞働者及ヒ之カ監督指揮ノ任ニ當レル企業者等ノ勞力——ヲ維持スルカ爲メ必要ナル範圍内ニ於イテハ、之ヲ「社會ノ資本」ト云ハサルヘカラス。乍併コノ點ニ就イテハ異論ヲ唱フルモノ少カラス。例ヘハるゝどべるつすノ如キハ、勞働原料及ヒ勞働用具ノミチ國民資本トナシ、生産者ノ生計品ハ之ヲ除外セリ。而シテ此ノ如キ見解ヲ有スルモノハ、社會主義ニ屬セル學者ノミナラス、ペーむばわーく、ざつぐす、そんざーん、ぢよーじぶれんたの等コレナリ。思フニ、是等ノ學者ノ所説モ之チ一方ヨリ觀察セハ決シテ誤謬ト云フヘカラス、即チ生計品ノ如キハ其ノモノカ目的トナリ、原料ソノ他ノ場合ニハ生産ノ手段タルナリ。乍併、他ノ觀察點ニ立チテ國民經濟チハ一ノ全體トシテ觀察スル時ハ、生計品及ヒ原料ハ何レモ等シク生産ノ手段タルナリ。既ニ塵々述ヘタルカ如ク、凡テ是等ノ問題ニ關シテハ、之ヲ觀察スルノ見地ニ二種アルコトヲ忘ルヘカラス。

土地ノ如キモ之ニ人カヲ加ヘ「改良」ヲ加ヘテ經濟上ノ財トナリタル場合ハコノ意味ニ於ケル資本ニ屬スルナリ。乍併、モシ未ダ經濟上ノ財トラスシテ自由ノ財タルニ止ル場合ハ、之ヲ財產ニ算入スルコト能ハス、又ダ資本ニモ算入スルコトヲ得サルナリ。

〔三〕歴史上法律上ノ見地ヨリ資本ヲ觀察セハ個人ノ財產ニシテ、ソノ所有者ハ之ヲ以

テ收益手段トナシテ一定ノ所得(地代、利子)ヲ得ル爲メ用ヒ得ヘキモノ及ヒ此ノ目的ニ向ツテ所有シ居レルモノハ、之ヲ稱シテ資本ト云フナリ。所謂「所有資本」又ハ「個人ノ資本」ト云フハ即チ之レナリ。

コノ「所有資本」ナルモノハ私財產ト等シク法律上密接ナル關係ヲ有ス。法律上生産手段ニ關スル私有財產ノ制度認メラレ且ツ地代利子ニ關スル所得ヲ爲スコトヲ公認サレタル場合ニ非ラサレハ、所謂個人ノ資本ナルモノアラサルナリ。

財力資本トナル爲メノ條件

財產ヲ形成セル財ノ中、如何ナルモノカ或ハ使用財產トナリ或ハ資本ト爲ルヤト云フニ、

〔一〕財ノ種類ニヨリテハ、其ノ特有ノ性質上、之ヲ純經濟上ヨリ見ルモ又ダ歴史上法律上ヨリ見ルモ常ニ資本タルモノアリ。

例ヘハ、道具器械ノ類ハ、ソレ自身ノ性質上資本タルモノナリ。みるが資本ト資本トラサルモノトノ區別ハ、物ソノモノノ種類ニヨルニ非ラスシテ、其ノ所有者ノ意思ニ依ルト云ヒタルハ(らうモ亦々同一ノ意見ヲ有ス全然誤謬ニハ非ラサレトモ、絶對的ニ眞理ナリトモ云フコト難シ。

〔二〕乍併多クノ場合ニ於イテハ、資本タルトタラサルトハ、物ソノモノノ固有ノ性質ニ非ラス、而シテ或ル財力資本タルヤ又ハタラサルヤハ、次ノ條件ニヨリテ定マル。

(イ)純經濟上ヨリ觀察スレハ、其ノ財力新ラシキ財ノ生産上必要欠クヘカラサル條件ヲ爲シ且又其ノ生産ノ目的ヲ達スル爲メノ手段トシテ實際ニ於イテ應用セラル、時ハ、資本トナリ、然ラサレハ資本タラス。

(ロ)之ニ反シ或ル財力個人ノ資本タルヤ否ヤハ、主トシテ其ノ財ノ所有者ノ意思ニヨリテ定マルモノナリ。「或ル財力資本タルトタラサルトハ全ク其ノ所有者ノ意思ニ

依リテ定マルモノナリト云ヘル説ハ、コノ場合ニ於イテ——然リ單ニ此ノ場合ノミニ於イテ——眞理タルナリ。

國民ノ資本ト個人ノ資本トノ差異

以上述フル所ニヨリテ考フレハ、純經濟上ヨリ見タル資本ト所有資本ト、即チ國民ノ資本ト個人ノ資本トノ二觀念ハ、一定ノ財ニ就イテ見レハ、然リ多數ノ財ニ關シテ同一トナル、乍併コノ二者ハ決シテ全然同一ノモノニハ非ラス。後者ノ觀念ハ前者ニ比シテ廣シ、從ツテ凡テノ所有資本ハ國民資本ノ成立分子ナリト云フコト能ハス。而シテ其ノ主ナル場合ハ左ノ如シ。

(一) 他人ニ貸付シタル利用財產ハ其ノ所有主ニ向ツテハ資本タリ、然レトモ國民ヨリ之ヲ見レハ單ニ利用財產タルニ止マリ、決シテ新ラシキ財ヲ生産スル所以ノ條件タル能ハサルナリ(例ハ住家ノ如キハ、利用財產ノ一例ナレトモ、其ノ所有主ハ之ヲ他人ニ貸付シ置實ヲ以テ其ノ處得ト爲ス時ハ、其ノ人ニ向ツテハ資本タリ。然レドモ國民全體ヨリ見レバ住家ハ依然トシテ住家ナリ、決シテ資本タル能ハザル也。)

(二) 法律上股ケラレタル一定ノ制限ノ爲メニ成立セル有利關係(三ノ口參照ナルモノハ、個人ヨリ之ヲ見レバ其ノ處有資本ニ屬スルモノナリ。乍併、一般的ニ純經濟上ヨリ論ズレバ、或ル例外ノ場合、即チ新ラシキ財ノ生産ヲ爲スニ當リ國民ニ向ツテ必要欠クベカラザル條件ヲ爲ス場合ニ非ラザレハ、國民資本タルコト能ハズ。)

(三) 一個人ガ其ノ社會ニ於ケル法律關係及ヒ交易狀態ノ下ニ於イテハ、新ラシキ財ヲ獲得スルノ目的ヲ達スルカ爲メニ利用セザルベカラザル財ハ其ノ人ニ取リテ資本タリ。然レドモ其ノ國民ノ資本タルハ、其ノ財ガ新ラシキ財ノ獲得ノ爲メ概シテ必要欠クベカラザル場合ニ限ラレル。

例ハ、茲ニ企業者アリテ労働者ヲ使雇セリトセンニ、其ノ労働者ニ對シテ支拂ハザルベカラザル賃銀ハ、企業者ノ爲メニハ資本トシテ計算セザルベカラズ。然レドモ之ヲ國民全體ヨリ見ル時ハ、其ノ賃銀トシテ支拂ハルモノ、中、労働者ノ生活上必要ナル部分ヲケガ、資本タルモノニシテ、即チ國民ノ資本ハ個人ノ資本ヨリ其ノ範圍擴張ナリ。而シテ其ノ支拂ハレタル賃銀ヲ労働者ヨリ見レバ、其ノ所得ニシテ多クハ其ノ使用財產ト爲ルモノナリトス。

無生資本

或ハ睡眠資本又ハ怠惰資本ト云フ。即チ其ノ資本タル目的ヲ實際ニ於イテ發現シ居ラザルモノ、謂ニシテ、販路ノ停滞セル場合ノ如キハ、多クノ資本ガ往々無生資本タルニ至ルコトアリ。

第三章 經濟行爲

第一節 經濟行爲ノ觀念

經濟上ノ人(經濟主體)及ヒ經濟上ノ財(財物)ノ何物タルヤハ、讀者ノ既ニ了解シタル所ナリト信ス、是ニ於テカ余ハ更ニ重要ナル觀念タル經濟行爲ノ何物タルヤヲ説明スルノ時機ニ到達シタル也。

經濟行爲トハ何ソヤ、曰ク經濟行爲トハ自己ノ經濟上ノ慾望ヲ達センカ爲メニ直接ノ手段トシテ營ム所ノ行爲ナリ。思フニ吾人ハ經濟上ノ慾望ヲ満足セシメンカ爲メニ、換言スレハ財物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメンカ爲メニ、種々ノ手段ヲ取ルコトヲ得ヘシ。然レトモ、就中其ノ最モ直接ナルモノハ、直チニ財物ヲ自己ノ支配ニ屬セシムルニ在リ。財物ヲ獲得スルコトハ、財物ヲ獲得セントノ慾望ヲ達スルカ爲メニ、最モ直接ナル方法ニシテ、其ノ行爲自體ガ同時ニソノ慾望ヲ満足セシムルノ手段タリ。今之ヲ名ケテ經濟行爲ト云フ。

サレハ經濟行爲トハ財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシメントノ慾望ヲ満足セシムルコトヲ主タル直接ノ目的トシテ、財物ヲ自己ノ支配ニ歸セシムルヲ行爲ヲ

指スニ外ナラス。

思フニ經濟行爲ノ觀念ハ斯學上ニ於ケル一大難問タリ。故ニ吾人ハ自ら主張セル定義ニ就イテ少シク説明ヲ附加スルノ必要ヲ見ル。

第一ニ注意スヘキハ、經濟上ノ慾望ヲ達セントノ考ヨリ出テタル行爲ハ、必ずしも凡テ經濟行爲トナラサルコトナリ。例ヘハ茲ニ人アリ、富ヲ得ントノ慾望ヨリ學校ニ入學セリト假定セヨ。彼ハ其ノ經濟上ノ慾望ヲ達センカ爲メ、其ノ手段トシテ、學問ヲ爲シツ、アルナリ。然レトモ、學問ヲ爲スコト其自身ハ、決シテ財物ヲ獲得スル所以ノ行爲タルニ非ラス、即チ彼ニシテ財物ヲ獲得スルニ至ルハ、一旦學業ヲ終エタル後、何等カノ職業ニ從事シ、依ツテ以テ一定ノ收入ヲ得ルノ時ニアリ。故ニ此ノ場合ニ於テハ、經濟上ノ慾望ヲ達セントノ考ヨリ、一旦學問上ノ慾望ヲ起シ、其ノ學問上ノ慾望ヲ達シタル後チ始メテ經濟上ノ慾望ヲ達シ得ルナリ。サレハ、其ノ人カ學問ヲ爲スニ至リタルハ、タトヒ經濟上ノ慾望ヨリ出テタリトスルモ、學問ヲ爲ステフ事ソレ自身ハ、毫モ財物ヲ獲得スル所以ノ行爲ニ非ラサルカ故ニ之ヲ經濟行爲ト稱セサルナリ。

次ニ注意スヘキハ、財物ノ獲得ハ必スシモ凡テ經濟行為ノ結果ニ非ラサルコト之レナリ。即チタトヒ財物ヲ獲得スト雖モ、經濟上ノ慾望ヲ達センカ爲メニ一定ノ行為ヲ爲シタル結果トシテ獲得シタルニ非サレハ、經濟行為ナルモノ、發生ヲ見ルコトナシ。例ヘハ、吾人ハ他人ヨリ贈與ヲ受クルコトアリ、或ハ遺贈ヲ受クルコトアリ。是等ノ場合ニ於イテハ、僅ニ財物ノ獲得ナルモノアリ、然レトモ其ノ財物ノ獲得タルヤ、固ヨリ吾人カ經濟上ノ慾望ヲ達セントノ考ヨリ一定ノ行為ヲ爲シタル結果ニ非ラス。從ツテ是等ノ場合ニ於イテハ經濟行為ノ發現ナキナリ。

コレト同シ理由ニテ散步ノ途次金錢ヲ拾ヒタルカ如キハ經濟行為ニ非ラス、然レトモ屑拾ヒカ屑ヲ拾フノ類ハ純然タル經濟行為タリ。讀者ハ是等ノ諸例ニヨリテ予輩ノ真意ヲ了解セラルヘシ。

財物ヲ獲得スルニ至ル場合

わくなくハ之ヲ分類シテ次ノ如クナシタリ。コノ中第二ノ(イ)及ヒ(ろ)ノ場合ハ經濟行為ノ發現ナキ場合ナリト知ルヘシ。

經濟上ノ財ヲ取得スルノ方法ニアリ。其ノ一ハ原始的取得ニシテ、其ノ二ハ傳來的取得ナリ。

(一)原始的取得(自己取得、自己生産、自然的取得)ト云フハ、慾望ヲ有スル者ノ勢力又ハ慾望

ヲ有スル人ソノモノニヨリテ直接ニ取得スル場合ヲ指ス。コノ場合ニ於ケル努力ハ、自然ノ財ヲ採取スルカ又ハ自然ヲ利用シテ其ノ財ヲ産出セシムルカノ職分ヲ有ス。コノ原始的取得コソ、純經濟上ノ見地ヨリスレハ、人類カ(全體トシテ)ノ人類カ財ヲ取得シ得ル唯一ノ方法ナリ。

(二)傳來的取得ノ方法ハ、歴史上法制上ノ見地ヨリシテ生シ來ルモノニシテ、各國各時代ニ於ケル人身ノ自由、所有權、契約等ニ關スル法制ノ如何ニ依リテ、其ノ方法モ亦々種々ノ差アリ。然レトモ、之ヲ概観セハ、先ツ之ヲ四種ニ分ツコトヲ得ヘシ。

(イ)權力ニ本ケ財ノ分配。即チ權力ヲ有スルモノカ、其ノ意思ニ依リテ財ヲ配分スルノ結果、其ノ配分ニ預レルモノハ財ヲ取得スルニ至ルナリ。例ヘハ家族經濟ニ在リテハ、一家族ノ取得ハ族長ノ如キ權力者ノ意思ニ依リテ家族ニ分配セラル、現ニ日本ニ於ケル家族制度ニ於イテハ、戸主ノ權力強大ニシテ、一家ノ所得ハ戸主ノ意思ニ依リテ家族ニ分配セラル、カ如シ、此ノ如キ分配ノ結果トシテ財ノ取得ヲ爲ス場合ハ即チ之ニ屬スルナリ。

(ろ)慈善的取得(即チ財ノ慈善的分配)。財ノ所有者カ其ノ自由意思ヨリシテ無償ニテ其ノ財ヲ得シコトヲ欲スルモノニ讓渡スル場合コレナリ。贈與、寄贈ノ類コレナリ。其ノ外ニ屬スルモノハ一例トシテ學カタル家族カ財ヲ取得スル場合ノ如キ、亦々之ニ屬スルモノモアルヘキナリ。

(ハ)強制的取得。強制的ニ無償又ハ不公平ナル報酬ヲ以テニテ他人ノ財ヲ取得スル場合ナリ。之ニ屬スルモノハ更ニ分チテ次ノ如クスルコトヲ得ヘシ。

イ、不法ナルモノ、即チ盜賊ノ類コレ也。

ロ、違法ナルモノ、之ヲ分チテ又々二ト爲ス。

其ノ一ハ、社會一部ノモノカ人身ノ自由ヲ認メラレサル社會ニ於イテ行ハル、モ

ノニシテ、奴隸制度ノ行ハル、場合ノ如キコレナリ。
其ノ二ハ、所謂公法上ノ團體又ハ經濟上ヨリ云ヘハ強制的共同經濟ニヨリテ行ハ
ル、モノニシテ、國家カ租稅ヲ徵收スルカ如キ、即チ、コレナリ。

(三) 交換的取得。即チ相互ノ間ニ於ケル契約ニヨリテ行ハル、モノニシテ、コハ之ニ關
係アル人カ人身ノ自由ヲ認メラレ居リ、又々其ノ財ニ就イテハ所有權ノ認メラレタル協
合ニ行ハル、モノナリ。即チ財ノ所有者ハ、自由意思ニヨリテ相手方ヨリ一定ノ對價ヲ
得テ或ル財ヲ相手方ニ讓渡スル場合コレナリ。交換、買賣、貸借等之ニ屬ス。

次○キ○ニ○注○意○ス○ヘ○キ○ハ、吾人カ財物ヲ獲得スルノ行為ヲ爲スハ、必スシモ凡テ經
濟上ノ慾望ヲ達スルヲ以テ目的ト爲サハルコト之レナリ。例ヘハ、或ル人ヲ
罪ニ陷レントノ目的ヨリ、其ノ人ノ管理セル實物ヲ竊取シ隱匿スルカ如キコ
トアリ。シカルニ、是等ノ行為タル、タトヒ財物ヲ獲得スルノ行為ナリトハ云
ヘ、其ノ目的トスル所ハ直接ニ經濟上ノ慾望ヲ滿スニ非ラサルカ故ニ之ヲ經
濟行為ト稱セサルナリ。然レトモ、カノ盜賊カ他人ノ財物ヲ竊取スルハ、明ニ
財物ヲ得ントノ慾望ニ驅ラレテ爲シタル行為ナルカ故ニ、純然タル經濟行為
タリ。此ノ如ク等シク財物竊取ノ行為ト雖モ、或ハ經濟行為タリ、或ハタラサ
ルハ、其ノ行為ノ目的トスル所異レハナリ。國家カ歲入増加ノ目的ヲ以テス
ル租稅ノ徵收ハ經濟行為ナレトモ、刑罰ノ目的ヲ達センカ爲メニ犯罪人ヨリ

罰金ヲ徵收スルハ經濟行為タラサルモ、亦タ同一ノ理由ニ出ツルナリ。
次○キ○ニ○注○意○ス○ヘ○キ○ハ、人類カ經濟行為ヲ爲スニ當リテハ、必スシモ單ニ經濟上
ノ慾望ヲノミ有スルニ非ラサレドモ、之レナリ。人類ノ慾望ハ千種万様ナリ、
而シテ是等ノ慾望タル、時ニ獨立シテ一個ノ行為ヲ發生セシムルノ動機トナ
ルコトアレトモ、多クノ場合ニ於イテハ種々ナル慾望カ相集リテ一個ノ行為
ヲ發生セシムルニ至ルコトアリ。

人類ノ經濟的性質ニ關スルわぐなノ注意

人類ノ經濟的性質ニ關シテ、わぐなノハ左
ノ三個ノ事實ヲ看過スヘカラスト爲シタ

リ。曰ク

- 一、經濟的性質ノ個人的(主觀的)差異。既ニ述ヘタルカ如ク、經濟的性質ナルモノハ凡テ
ノ人類ニ共通ノ性質ナリト雖モ、シカモ之チ個々ノ個人ニ就イテ觀察スル時ハ、恰モ其ノ
面ノ異レルカ如ク、互ニ異同アリ。之チ例フレバ、今日何人ト雖モ貨幣ヲ得ンコトヲ欲セ
サルモノナカラシ、然レトモ其ノ程度ニ至リテハ人チ異ニスルニ從ツテ千種萬種ノ差異
アルカ如シ。人モシ此ノ事實ヲ看過センカ、其ノ研究ハ實際ヲ去ルコト甚々遠キモノア
ルニ至ラン。
- 二、經濟的性質ハ人類ノ性質ノ單ニ一面タルニ過キス。人類ノ性質ノ全部カ經濟的性
質タルニ非ラス、經濟的性質ハ單ニ其ノ一面ノミ。
- 三、人類ハ種々ノ動機ニヨリテ支配セラレ、モノナリト雖モ、其ノ行為ハ統一的ノモノ

序論 經濟行為ノ觀念

ナリ。經濟的性質ハ人類ノ性質ノ一面ニ過キストハ予ノ前述セシ所ナリ。然レトモ之ヲ誤解シテ人類ノ經濟行爲ハ單ニ經濟的性質ニノミ關係アルモノト爲ス勿レ。人類ヲ司配スルノ動機ハ種々アリ而シテ其ノ種々ノ動機ニ準シテ個々ノ行爲アルニ非ラス種々ノ動機ノ支配ヲ受ケタル結果一定ノ行爲トナリテ發現スルモノナリ。之ヲ經濟行爲ニ就イテ云フモ亦タ然リ。經濟行爲ハ經濟的性質ノミノ支配ヲ受ケルニ非ラスシテ其ノ他ノ利己心又ハ利他心ノ支配ヲ受ケル等種々ノ動機ノ支配ヲ受ケタル結果或ル一定ノ經濟行爲トナリテ發現シ來ルナリ。

次キニ注意スヘキハ、人類カ經濟行爲ヲ爲スニ際シテハ管ニ經濟上ノ慾望ヲノミ有スルニ非ラサルノミナラス、更ニ進ミテ考フレハ、必スシモ利己心ニヨリテノミ支配セラレ、モノニ非ラサルコトナリ。經濟上ノ慾望カ既ニ利己心ヨリシテノミ出ツルニ非ラサルト等シク、經濟行爲ソノモノモ亦タ決シテ利己心ニヨリテノミ支配サルモノニ非ラス。吾人ハ利己心ニノミ依リテ活動シ又ハシツ、アルカ如ク見ユル場合モ少カラサルヘシ、然レトモ他愛心ニ驅ラレテ活動スルコトモ少カラス。シカレニ從來ノ學者カ經濟行爲ヲ以テ純然タル利己心ニヨリテノミ支配サル、モノ、如ク思惟シ、又ハ假定シタルハ、大ナル誤解ト云ハサルヘカラス。

經濟行爲ノ動機

經濟行爲ノ動機カ利己心ノミニ出ツルニ非ラサルハ、近時多クノ學者ノ認識スル所ナリ。

くらんあひたハ之ニ關スル思想ノ變遷及ビ現時ノ學說ヲ說明シテ次ノ如ク述ベタリ。經濟的活動ノ動機ニ關シテハ、管テ或ル學者カ之ニ對シテ偏執ナル說明ヲ致セシヨリ以來、終ニ諸種ノ論争ヲ生ズルニ至レルモノ、如シ。思フニ、人類ハ本來如何ナル行爲ヲ爲スヘキヤト云ヘル問題ハ、宗教家倫理學者ノ說明スヘキ所ニシテ、其ノ答フル所ハ他人ノ利益ノ爲メニハ自己ノ利益ヲ犧牲トスヘシト云フニ在ルコト明カナリ。乍併之ト同時ニ、普通ノ人間ハ、カノ宗教又ハ倫理ノ教フル所ニ據ツテ其ノ行爲ヲ律セザルコトモ亦タ明カナリ。サレバ、管テぐらすゴ一大學ニ於ケル道徳哲學ノ教授トシテ有名ナリシあだむすみすカ、國民經濟學ニ關スル彼ノ大著ヲ編ミ、以テ人類經濟生活ノ真相ヲ闡明セントスルニ當リテ、通常ノ經濟上ノ生活ニ於テ人類ハ果シテ如何ナル動機ニヨリテ支配セラレトモノナルヤトノ問題ニ達着セシハ、洵ニ事ノ當然ト云フベキナリ。シカレドモ此ノ問題ノ解決ハ甚ダ明白ニシテ、固ヨリ毫モ疑フベキ事アルナシ。乃チ彼答ヘテ曰ク、宗教及ヒ道徳ハ人類ニ教フルニ自己ノ利益ハ他人ノ利益ノ爲メニ之ヲ犧牲トシ以テ出來得ベキダケ他人ノ幸福ヲ計ラザルベカラザルヲ以テス、然レドモ通常ノ生活ニ於テハ、何人トモモ宗教及ヒ道徳ノ教フル所ヲ嚴守スルモノナシ、凡テ人ハ皆自己ノ利益ヲ以テ第一トナシ、時トシテハ他人ノ利益ヲ害スルコトアルモ敢テ顧ミザルコトアルモノナリト。カクテ所謂利己心ナルモノハ、凡テノ經濟生活及ヒ國民經濟學ノ中心點タリ目的點タルカ如ク看做サルニ至レリ。思フニ此ノ說タル或ル程度ニ於テ又タ或ル意味ニ於テハ、處ク事ノ真相ヲ觀破セルモノト云フベキナリ、然レドモ不幸ニシテ其ノ後偏執ナル意味ニ解釋セラレ、遂ニ取ルニ

足ラザルノ説トナルニ至レリ。即チあだむす。イ。彼。者。ハ。凡。テ。此。ノ。思。想。ヲ。繼。受。シ。タ。リ。シ。ト。雖。モ。彼。等。ハ。不。知。不。識。ノ。間。所。謂。利。己。心。ヲ。變。ジ。テ。「營。利。心」又ハ「貨。殖。心」ト。同。一。視。ス。ル。ニ。至。リ。タ。リ。カ。ク。テ。彼。等。ハ。既。明。ス。ラ。ク。凡。テ。人。類。ハ。通。常。ノ。經。濟。上。ノ。生。活。ニ。於。テ。ハ。其。ノ。全。心。全。力。ヲ。擧。ゲ。テ。只。タ。金。錢。ヲ。儲。ケ。ン。ト。一。念。ニ。集。注。ス。ル。モ。ノ。ナ。リ。出。來。得。ベ。キ。ダ。ケ。儲。ケ。出。來。得。ベ。キ。限。リ。節。セ。ン。コ。ト。ハ。人。類。唯。一。ノ。願。望。ナ。リ。ト。經。濟。的。生。活。ニ。於。テ。ハ。各。人。カ。出。來。得。ベ。キ。ダ。ケ。多。ク。ノ。利。得。ヲ。得。ン。コ。ト。ヲ。欲。ス。ル。モ。ノ。ナ。リ。ト。ハ。既。ニ。彼。等。ノ。前。提。ト。ス。ル。所。ナ。リ。是。ニ。於。テ。イ。テ。彼。等。ハ。此。ノ。前。提。ヨリ。更。ニ。極。端。ナル。決。論。ヲ。爲。ス。ニ。至。レ。リ。其。ノ。説。ニ。曰。ク。人。類。ハ。凡。テ。出。來。得。ベ。キ。ダ。ケ。多。ク。ノ。利。得。ヲ。得。ン。コ。ト。ヲ。欲。ス。ル。モ。ノ。ナ。リ。是。カ。故。ニ。生。産。者。ハ。常。ニ。薄。利。ノ。業。ヲ。棄。テ。最。モ。高。利。ノ。業。ニ。移。リ。又。タ。消。費。者。ハ。常。ニ。貨。物。ノ。高。價。ナル。商。店。ヲ。棄。テ。最。モ。底。廉。ナル。商。店。ニ。赴。ク。是。ニ。於。テ。カ。社。會。ニ。於。ケル。各。種。事。業。ノ。利。得。ハ。凡。テ。平。準。ヲ。保。ツ。ニ。至。ル。モ。ノ。ニ。シ。テ。甲。ノ。業。ハ。利。益。多。ク。乙。ノ。業。ハ。利。益。少。シ。ト。云。フ。ガ。如。キ。コ。ト。有。リ。得。ベ。カ。ラ。ザ。ル。ナ。リ。ト。カ。ク。テ。彼。等。ハ。各。人。ヲ。シ。テ。其。ノ。自。然。ノ。力。ヲ。バ。自。由。ニ。發。揮。セ。シ。ム。ル。ヲ。以。テ。最。モ。得。策。ト。ナ。シ。カ。ノ。經。濟。上。ノ。法。則。ト。稱。シ。人。類。ハ。經。濟。的。生。活。上。如。何。ナル。行。爲。ヲ。取。ル。ベ。キ。ヤ。ノ。問。題。ニ。關。ス。ル。假。定。的。法。則。ハ。凡。テ。之。ニ。據。リ。テ。案。出。サ。ル。ヘ。キ。モ。ト。爲。ス。カ。如。キ。獨。斷。ニ。陷。レ。リ。サ。レ。バ。彼。等。ノ。説。ク。所。ハ。毫。モ。國。民。經。濟。學。ト。稱。セ。レ。得。ヘ。キ。モ。ノ。ニ。非。サ。ル。コ。ト。論。ヲ。待。タ。サ。ラ。ン。蓋。シ。彼。等。ノ。説。ク。所。ハ。實。際。ニ。於。テ。經。濟。上。人。類。ハ。如。何。ナル。行。爲。ヲ。爲。ス。モ。ノ。ナ。リ。ヤ。ト。ノ。事。實。ノ。眞。相。ヲ。闡。明。ス。ル。ニ。非。ラ。ス。シ。テ。人。類。カ。若。シ。只。タ。經。濟。主。義。ノ。原。則。ニ。依。リ。テ。ノ。ミ。司。配。セ。ラ。ル。ト。セ。ハ。其。ノ。結。果。ハ。果。シ。テ。如。何。ナル。ヘ。キ。ヤ。ト。ノ。假。定。ノ。下。ニ。懸。像。論。ヲ。爲。ス。ニ。過。キ。サ。レ。ハ。ナ。リ。サ。レ。バ。ゴ。レ。實。際。ニ。於。ケル。經。濟。ノ。學。ニ。ハ。非。ラ。ス。シ。テ。只。タ。經。濟。主。義。ノ。學。ナ。リ。ト。云。フ。ヘ。キ。ノ。ミ。

サ。レ。ハ。カ。ノ。貨。殖。ノ。念。ヲ。以。テ。經。濟。的。活。動。ニ。於。ケル。唯。一。ノ。動。機。ト。ナ。ス。カ。如。キ。説。ハ。取。ル。ニ。足。

ラ。サ。ル。十。明。カ。ナ。リ。思。フ。ニ。此。ノ。説。ハ。二。個。ノ。條。件。ヲ。以。テ。其。ノ。前。提。ト。ナ。セ。ル。コ。ト。明。カ。ナ。リ。即。チ。其。ノ。一。ハ。人。類。ハ。凡。テ。全。知。ヲ。備。フ。ト。云。フ。ト。ナ。リ。其。ノ。二。ハ。人。類。ハ。絶。對。的。ニ。可。動。ノ。モ。ノ。ナ。リ。ト。云。フ。コ。ト。ナ。リ。シ。カ。レ。ト。モ。ゴ。ノ。二。條。件。タ。ル。事。實。ニ。於。テ。在。リ。得。ヘ。カ。ラ。ザ。ル。ハ。事。ナ。リ。モ。シ。凡。テ。ノ。生。産。ハ。最。モ。利。益。多。キ。生。産。業。又。ハ。最。モ。利。益。多。キ。地。方。ニ。移。ル。モ。ノ。ニ。シ。テ。又。消。費。者。カ。貨。物。ヲ。購。買。ス。ル。ニ。當。ツ。テ。ハ。最。モ。廉。價。ナル。モ。ノ。ヲ。求。ム。ル。モ。ノ。ナ。リ。ト。ノ。條。件。ニ。シ。テ。事。實。ナ。リ。ト。セ。ン。カ。是。等。ノ。生。産。者。乃。至。消。費。者。ハ。全。世。界。ニ。於。ケル。凡。テ。ノ。物。價。及。ヒ。其。ノ。他。ノ。關。係。ヲ。熟。知。セ。ル。モ。ノ。ナ。ラ。ザ。ル。ヘ。カ。ラ。ス。然。レ。ト。モ。ゴ。レ。事。實。ニ。於。テ。在。リ。得。ヘ。カ。ラ。ザ。ル。ノ。事。タ。リ。試。ニ。思。へ。よ。一。ろ。の。ば。ノ。或。ル。小。市。ニ。於。ケル。手。工。業。者。カ。モ。シ。お。し。さ。ら。り。あ。ノ。或。ル。地。方。ニ。其。ノ。業。ヲ。轉。ス。ル。時。ハ。之。ニ。依。ツ。テ。ヨ。リ。多。ク。ノ。利。得。ヲ。獲。チ。得。ヘ。シ。ト。云。フ。カ。如。キ。コ。ト。ヲ。探。知。シ。得。ル。モ。ノ。ナ。ル。ヤ。否。ヤ。チ。又。タ。假。リ。ニ。此。ノ。如。キ。事。實。ヲ。知。リ。得。タ。リ。ト。ス。ル。モ。彼。ハ。果。シ。テ。之。カ。爲。メ。ニ。從。來。ノ。營。業。地。ヲ。去。ツ。テ。遠。ク。お。し。さ。ら。り。あ。ニ。渡。航。ス。ル。ニ。至。ル。ヘ。キ。ヤ。恐。ラ。ク。ハ。然。ラ。ザ。ル。ヘ。シ。況。ン。ヤ。從。來。ノ。業。ヲ。棄。テ。他。ノ。業。ニ。移。ル。カ。如。キ。ハ。更。ニ。困。難。ナル。事。柄。タ。リ。例。ヘ。ハ。昨。日。ハ。列。事。タ。リ。シ。モ。ノ。今。日。ハ。醫。師。ト。ナ。リ。明。日。ハ。技。師。ト。ナ。リ。或。ハ。商。人。ト。ナ。リ。或。ハ。農。夫。ト。ナ。ル。カ。如。キ。コ。ト。ハ。到。底。出。來。得。ヘ。カ。ラ。ザ。ル。ノ。事。タ。リ。ダ。ト。ヒ。判。事。ノ。俸。給。ハ。醫。師。ノ。收。入。ニ。比。シ。テ。遠。ニ。少。キ。コ。ト。ア。リ。ト。ス。ル。モ。彼。ニ。シ。テ。判。事。ヲ。辭。シ。テ。醫。師。ト。ナ。ラ。ン。カ。益。々。其。ノ。收。入。ヲ。減。少。ス。ル。ニ。過。キ。サ。ル。ヘ。ケ。レ。ハ。ナ。リ。次。キ。ニ。之。ヲ。貨。物。ノ。購。買。者。ヨ。リ。見。ル。モ。亦。タ。同。一。ナ。リ。購。買。者。ハ。其。ノ。住。居。セ。ル。地。方。ニ。於。テ。サ。ヘ。何。レ。ノ。商。店。ノ。賣。價。カ。最。モ。廉。價。ナル。ヘ。キ。ヤ。チ。サ。ヘ。深。ク。考。フ。ル。コ。ト。稀。ナ。リ。況。ン。ヤ。全。世。界。ノ。物。價。ヲ。知。リ。テ。其。ノ。最。モ。廉。價。ノ。ニ。就。ク。カ。如。キ。ニ。於。テ。チ。ヤ。サ。レ。ハ。彼。ハ。只。タ。近。在。ノ。工。業。者。又。ハ。商。人。ノ。處。ニ。赴。イ。テ。其。ノ。欲。ス。ル。所。ノ。貨。物。ヲ。購。買。シ。又。ハ。注。文。ズ。ル。ニ。止。ル。而。シ。テ。之。カ。爲。メ。ニ。數。錢。ヲ。ハ。多。ク。支。拂。フ。コ。ト。ア。リ。タ。リ。ト。ス。ル。モ。毫。モ。意。ニ。介。セ。ザ。ル。ナ。リ。』之。ニ。依。リ。テ。之。ヲ。觀。レ。ハ。日。常。ノ。生。活。ニ。

序論 經濟行爲 經濟行爲ノ觀念

於ケル經濟的活動ノ唯一ノ動機ハ營利心ニ在リト云フカ如キハ事實ノ真相ヲ誤レルモ
 ノニシテ營利心以外各種ノ動機アリテ吾人ノ經濟的活動ヲ左右スルモノナリ。例ヘハ
 他人ノ幸福ヲ希望スルノ念(公共心)又ハ所謂他愛心(習慣)モ之ヲ破ラハ是カ爲メニ社會
 上ノ地位ヲ失ハントノ恐怖心(法律)モ之ヲ破ラハ利害ヲ受ケルニ至ラントノ恐怖心(安
 逸)新ナル事業又ハ企業ヲ起スニ就イテノ慮病如何ナル處ナラハ高ク賣レルヘキカ又タ
 如何ナル處ナラハ廉ク買ヒ得ヘキカノ事實ニ關スル實識ノ欠乏等ノ如キハ即チコレナ
 リ。サレハ今日ノ學者ハカノ利己心ヲ以テ經濟的活動ニ關シ最モ有力ニシテ最モ強大
 ナル動機ト爲スコト固ヨリナリト雖モ猶ホ其ノ外前述セルカ如キ種々ノ動機ト事情ト
 カ之ヲ左右スルノ事實ヲ否認スルモノナシ。
 思フニ現時ノ學說タル其ノ當チ得タルコト疑ナシ然レトモ予ノ信スル所ニ據レハ
 予ハ固ク自説ヲ主張ストニハ非ラサレトモ凡テ是等ノ動機ハ但シ世界ニ於ケル經
 濟的關係ヲハ然知セストノ事情タケハ暫ク之ヲ除外シ置クコト固ヨリナレトモ所謂利
 己心ナル諸チ正當ニ解釋スル時ハ皆チ其ノ觀念ノ中ニ包含セラレ得ヘキモノナラサヤ
 ト思考ス。思フニ吾人ハ衣食住ヲ必要トスルカ故ニ勞動セサルヘカラサルナリシカラ
 ハ吾人チ雇ツテ勞動セシムルモノ即チ經濟行為ヲ爲サシムル所ノモノハ自己保存慾即
 チ利己心ニアルコト疑ナシ。乍併吾人ノ茲ニ謂フ所ノ利己心ナルモノハカノ制限ナキ
 營利心乃至吾輩ト同一物ヲ指スニ非ラス金錢ヲサヘ集積スル時ハ之ニ依リテ最大ノ幸
 福ヲ得ヘントセルカ如キ思想ヲ指スニ非ラス。請フ少シク予ノ説ヲ盡サン。例ヘハ竊
 盜ヲ爲シ暴利ヲ食ル時ハ之カ爲メ利己心ニ關ルヘシトノ恐怖心ハ吾人ノ營利心チ妨ケル
 コトアルヘシ然レトモ其ノ實ハ利己心ニ關ルヘシトノ自己ノ存在ヲ失フヘキチ知ルカ爲メ
 營利心チ專ラニセサル迄ノ事ニシテ云ハハ利己心ノ動キタルニ過キササルナリ。又タ道

徳ノ禁スルカ如キ營利行為ヲ爲サシムルモ亦之ト同一ナリ即チ道徳ニ反スルノ行為ヲ
 爲サンカ之カ爲メニ自己ノ社會的地位又ハ自己ノ受ケツアル尊敬ヲ失ハントコトヲ
 恐ルニ外ナラス。又タ吾人ハ公共ノ利益ヲ計ルノ目的ヲ以テ自己ノ財產ヲ義捐スル
 コトアレトモコレ亦利己心ニ出ツルモノト云フチ得ヘシ何トナレハ其ノ義捐者ハ之
 ヨリテ自己ノ地位ヲ高メンコトヲ欲スルモノニシテ畢竟スルニ高キ地位ヲ得ルコトノ
 利益ハ幾千万ノ財產ヲ有スルノ利益ヨリモ大ナリト思惟シタルニ外ナラサレハナリ。
 或ハ聖書ニ記サレタル所チ道徳ヲ奉シテ貧民ノ爲メ自己ノ財產ヲ擲ツモノアリ或ハ自己ノ
 生命サヘモ犧牲トスルコトアリ然レトモコレ亦畢竟スル所チ其ノ利己心ニ出ツルニ外
 ナラス何トナレハ其ノ人ハ之ニ依リテ永久ノ幸福ヲ得不死ノ光榮ヲ得ンコトヲ欲スル
 ニ外ナラサレハ也。或ハ又タ自己ノ利益ヲ犧牲トナシ他人ノ利益ヲ計ルコト其レ自身
 チ以テ自己心中ノ快樂ト爲スモノアリ乍併其ノ人カ此ノ如キ善事ヲ致テスル所以ノモ
 ノハ財產ヲ有スルノ快樂ハ他人ニ向ツテ善事ヲ爲スノ快樂ニ及ハサルカ故ニシテ云ハ
 ハ利己心ニ出ツルニ外ナラス。其ノ外數錢ノ金チハ多ク支出スルモ又タ少ク收入スル
 モ亦毫毛之チ意トセサルモノアリコレ亦畢竟スルニ數錢ノ金チ儲ケンヨリモ之チ儲ク
 ガ爲メニ必要ナル煩勞ヲ避ケ得ルチ以テ自己ノ利益ナリト爲セルニ外ナラサレハ等シ
 ク其ノ利己心ヨリ出テシモノナリ。以上述ヘタル所ニ據リテ考フレハ吾人ノ經濟行為
 チ支配スルモノハ利己心ニ在リト云フ説ノ必スシモ不當ナラサルチ知ルニ足ルヘシ。
 (Tehruchi, S.)
 思フニ此ノ如キ見地ヨリシテ論スル時ハ皆ニ經濟行為ノミナラス凡テ人類ノ行為ハ自己
 心ニ本クト云ハサルヘカラス。固ヨリ利己心ナル用語ノ意義如何ニヨリテハ此ノ如ク云
 フチ妨ケスト雖モコレ果シテ利己心ナル文字ノ適當ナル用法ナリヤ否ヤ。

序論 經濟行為ノ觀念

わぐな一ノ此ノ點ニ關スル説明ハ有名ナルモノニシテ、諸學者ノ引照スル所ナリ。氏ハ經濟行為ノ動機ヲ分類シテ次ノ如ク列舉シタリ。(Grundlagen, I, S. 87 ff.)

一、利己的動機

- イ、經濟上ノ利益ヲ追求シ、其ノ不利益ヲ避ルルノ念。
- ロ、利利ヲ恐レ、實踐ヲ望ムノ念。
- ハ、名譽心、信用ヲ博セントノ念及ヒ、恥辱、不信用ヲ恐ルルノ念。
- ニ、勞働ノ愉快ヲ欲シ、遊惰ヨリ生スル弊害ヲ避ケントスルノ念。

二、非利己的動機

次○キ○注○意○ス○ヘ○キ○ハ、或○ル○行○爲○カ○經○濟○行○爲○ナ○ル○ヤ○否○ヤ○ヲ○定○ム○ル○カ○爲○メ○ニ○ハ、其○ノ○行○爲○ノ○因○ツ○テ○生○セ○シ○直○接○ノ○慾○望○如○何○ヲ○見○ル○ヘ○キ○ナ○リ。思フニ人ノ一生ヲ司配シ又ハ一定ノ時限内ニ於ケル人ノ行為ヲ司配スルノ慾望ハ、人ニ依リテ差異アルモノナリ。例ヘハ學者ソノ人ノ行為ヲ司配スルノ慾望ハ學問上ノ慾望ナレトモ、商人ノ行為ヲ司配スルノ慾望ハ經濟上ノ慾望ナリ。シカレトモ、茲ニ注意スヘキハ、其ノ人ノ一生又ハ一定ノ時限内ニ於ケル行為ヲ司配スルノ慾望ハ、更ニ各種ノ具象的慾望ヲ發生セシムルコト之レナリ。例ヘハ、既ニ述ヘタルカ如ク、學者ハ學問上ノ慾望ヲ達スルカ爲メニ、書籍ニ對シテ慾望ヲ發スルコトアリ。即チ學者ノ一生ヲ貫ケル慾望ハ學問上ノ慾望ナレトモ

偶々或ル一定ノ場合ニ於テハ、其ノ學問上ノ慾望カ具象的ノ經濟上ノ慾望ヲ發生セシメタルナリ。又例ヘハ、商人ノ一生ヲ貫ケル慾望ハ、貨幣ヲ得ントノ慾望ニシテ、固ヨリ經濟上ノ慾望タリ。シカルニ、貨幣ヲ得ントノ經濟上ノ慾望ハ、或ル特定ノ場合ニ於テハ、智識ヲ得ントノ慾望ヲ發生セシムルコトアリ。此ノ場合ニ於テハ、單ニ富又ハ貨幣ヲ得ントノ抽象的ノ經濟上ノ慾望カ、具象的ニ一定ノ智識ヲ得ントスル學問上ノ慾望ヲ發生セシメタルナリ。故ニ商人ノ行為ハ凡テ經濟行為ニシテ、學者ノ行為ハ凡テ經濟行為ニ非ラスト誤解スルコト勿レ。吾人ハ經濟行為ヲ定義シテ經濟上ノ慾望ヲ達スルノ目的ヲ以テ財物ヲ獲得スルノ行為ナリト云ヘリ。シカレトモ、其ノ目的ト云ヘルハ只タ其ノ行為ヲ爲ス場合ノミノ目的ヲ云フモノニシテ、其ノ行為者ノ一生又ハ一身ヲ司配セル持續的ノ目的ヲ指スニ非ラサルナリ。予ハ此ノ點ニ就イテ誤解ナカラシムルヲ希望ス。

シ○カ○レ○ト○モ、荷○ク○モ○經○濟○上○ノ○慾○望○ヲ○達○ス○ル○ヲ○以○テ○直○接○ノ○目○的○ト○ナ○シ○タ○ル○行○爲○ニ○シ○テ、且○ツ○其○ノ○行○爲○タ○ル○其○レ○自○身○カ○財○物○ヲ○獲○得○ス○ル○ノ○行○爲○タ○ラ○ン○カ、其○ノ○如○何○ナ○ル○場○合○タ○ル○ヲ○問○ハ○ス、凡○テ○之○ヲ○經○濟○行○爲○ト○ス。今マ少シク極端ナル二三

ノ場合ヲ想像セン。例へハ學生アリ、學資ノ不足ヲ感シ、一定ノ金錢ヲ得ントスルノ慾望ヲ發シタリトセヨ。シカラハ、其ノ慾望ハ即チ經濟上ノ慾望ナリ。而シテ其ノ慾望ヲ遂ケンカ爲メニ、彼ハ一封ノ信書ヲ父母ニ宛テテ發シ、而シテ其ノ結果一定ノ資金ヲ入手スルニ至リタリトセヨ。此ノ場合ニ於テハ、信書ヲ認ムルコト其レ自身カ經濟行爲タルコトアリ、但シ多クノ場合ニ於イテハ、學資ハ贈與ノ性質ヲ有スヘシ、學生カ自己ノ行爲ニ因リテ學資ヲ獲得シタリト云ヒ得サル場合多カラシ、從ツテ經濟行爲タラサルヲ以テ普通トスヘシ。從ツテ、父母ナキ學生カ自ラ筆耕ノ勞ニ服シテ資金ヲ得ル場合ト比較シテ、事ニ難易ノ差ハアレ、其ノ性質ニ於テハ殆ト異ルナキ場合アリ。又タ例へハ、植物學者アリテ植物ノ採取ヲ爲セリト假定セヨ。此ノ場合ニ於テハ、彼レ學者ハ固ト學問上ノ慾望ヲ有スルニ過キサレ、而シテ雖モ、其ノ學問上ノ慾望ヲ達センセントノ苦心ヨリ更ニ經濟上ノ慾望ヲ起シ、而シテ其經濟上ノ慾望ヲ達センカ爲メニ、植物ト云ヘル財物ノ獲得ヲ爲セルナリ。故ニ此ノ場合ニ於ケル學者ノ行爲ハ經濟行爲ニシテ、恰モ一定ノ金錢ヲ投シテ植物ヲ購買セシ場合ト其ノ行爲ノ性質ヲ等ウス。

福田博士曰ク

「之海水ヲ汲ンテ海水浴ヲ作リ浴客ノ用ニ供シテ營業ヲナスモノニ取ツテハ此海水ヲ汲ムコトハ體カニ經濟行爲テアル、反之高山ニ昇リ稀草花ヲ蒐集スル植物學者ハ經濟行爲ヲ營ムモノテハナイ、……所カ植物學者カ偶、高山ノ外存在シナイ稀草花ヲ賣ツテ居ル植木屋カ此草花ヲ買入ルノハ體カニ經濟行爲ヲ營ムモノテアル」國民經濟原論一四頁下。予ハ博士ト説キ異ニス。

予ハ後段ニ於テ述フルカ如ク、經濟行爲ニ就イテ二方面ヲ分ツモノナリ。其ノ一ハ自然の方面(技術的方面)ニシテ、其ノ二ハ社會的方面(經濟的方面)ナリ。而シテ、植物學者カ植物ノ採取ヲ爲スカ如キハ、單ニ自然的技术的方面ヲノミ有スル經濟行爲ナリト爲スナリ。ソレ經濟學ナルモノハ、經濟行爲ノ社會的方面ヲ研究スルモノニシテ、技術的方面ヲ研究セス。故ニ此ノ如キ學者ノ行爲ハ經濟學ノ研究物體トハナラサレトモ、其ノ經濟行爲タルハ争フヘカラス。シカレニ博士ハ又タ曰ク「昔ニ新ラシキモノヲ作り出スト云フハ技術上ノ製作デハアルケレトモ經濟行爲テハナイ、同一ノ事カ單ニ技術上ノ行動タルニ止ラナイテ又經濟行爲トナルト云フニハ、之ヲ作り出スニ方テ贏得ト云フ方法ヲ用非ナケレハナラナイコトヲ要スル……」下、國民經濟原論一六一一七頁。予ハコノ點ニ於テ根本的ニ博士ト意見ヲ異ニスルカ如シ。予ノ説ノ誤レル所以ナ聞クコトナ得ハ幸甚。

猶○注○意○ス○ヘ○キ○ハ、經○濟○上○ノ○慾○望○ヲ○達○ス○ル○ヲ○以○テ○目○的○ト○セ○ル○行○爲○ト○他○ノ○慾○望○ヲ○達○ス○ル○ヲ○以○テ○目○的○ト○セ○ル○行○爲○ト○ノ○間○ニ○ハ、常○ニ○判○然○タ○ル○區○別○ヲ○爲○シ○得○ヘ○キ○モノ○ニ○非○ラ○サル○コト○之○レ○ナリ。或ル行爲カ經濟上ノ慾望ヲ達スルヲ以テ目的トセルヤ否ヤヲ判別スルノ往々ニシテ難キコトアルハ、物躰ニ黑白ノ分的トセルヤ否ヤヲ判別スルノ往々ニシテ難キコトアルハ、物躰ニ黑白ノ分的

ヲ爲シ難ク、生物ニ動植ノ別ヲ立テ難キコトアルト其ノ趣ヲ等ウス。商人カ
 商賈ノ業ニ從フハ明カニ經濟上ノ慾望ニ出テタルヘク、學生カ書籍ヲ繙讀ス
 ルハ明カニ經濟上以外ノ慾望ニ出テタルヘシ。然レトモ、運動會ニ於ケル競
 走者ノ心裡ニハ、或ハ時トシテ賞品ヲ獲得セントノ慾望主トシテ盛ナルコト
 モアルヘク、又タ學者ノ著述ニ於ケル、其ノ目的ハ果シテ金錢ノ獲得以外ニ存
 セリヤ否ヤヲ疑ハシムル場合モ少カラサラム。其ノ外教員カ學校ノ講堂ニ
 於テ講義ヲ爲スカ如キ、俸給ノ獲得ヲ目的トスルモノ多カラシク、少クトモ俸給
 ヲ得ントノ慾望ハ彼ヲシテ教員クラシメシ直接ノ動機ノ一タル場合ハ少カ
 ラサラン。思フニ此ノ如キ場合ニ於ケル行爲ハ、純然タル經濟行爲ニハ非ラ
 サラン、然レトモ全然經濟行爲ニ非ラストモ謂イ難シ。其ノ果シテ經濟行爲
 ナルヤ否ヤヲ知ルカ爲メニハ之ヲ個々ノ行爲ニ就イテ觀察スルノ外ナシ。
 故ニ予ハ經濟行爲ヲ以テ「經濟上ノ慾望ヲ満足セシムルコトヲ主タル直接ノ
 目的」トスルノ行爲ナリト云フカ如キ、稍々漠然タル用語ヲ爲シタリ。思フニ
 人類ノ心意ノ複雑ナル其ノ行爲ノ捕捉シ難キ、實ニ意表ノ外ニ出ツ、人類社會
 ヲ研究スルノ學者ハ宜シク此ノ間ノ消息ヲ忘却スヘカラス。吾人ハ人類ノ

活動ヲ研究スルニ當リ、只タ便宜ノ爲メニ、或ハ之ヲ宗教上ヨリシ、或ハ言語上
 ヨリシ、或ハ法律上ヨリシ、或ハ政治上ヨリスルニ止ル、而シテ吾人ハ之ヲ經濟
 的方面ヨリ研究セントスルモノナリ。人類ノ行爲ハ學問ニ從ツテ實際上分
 類サレアルモノニ非ラス、人類ノ社會的活動ハ一單位ニシテ分割スヘカラス、
 只タ之ヲ觀察スルニ特種ノ方面ヨリスルノミ。所謂人類ノ經濟行爲ナルモ
 ノ亦タ之ト等シ。

福田博士曰ク

「併ナガラ此ノ如ク占有セラレベキ物又ハ占有セラレテ居ルトコロノ財
 ニ對スル所ノ行動ガ直チニ悉ク經濟行爲カトイフニ又ソツテハナイ、例
 ヘメ春ノ野ニ出テ若菜ヲ摘ミ、山ニ散步シテ木實ヲ拾ヒ集メ海濱ニ干潮時シテ魚介ヲ拾フ
 トイフヤウナ單純ヲ取得ハ之ヲ目シテ經濟行爲トスルコトハ出來ナイト。予モ亦タ此ノ
 點ニ於イテハ博士ト一致スト雖モ、只タ此ノ如キ行爲ヲ以テ經濟行爲ト爲サル理由ニ至
 ツテハ、或ニ博士ト説チ異ニセズヤト思フ。蓋シ予ガ是等ノ行爲ヲ以テ經濟行爲ニ非ラズ
 ト爲セル所以ハ他ナシ。是等ノ行爲タル「快樂」ヲ得ルヲ以テ或ハ憂チ忘ルヲ以テ其ノ主
 タル直接ノ目的トナシ、財物ヲ獲得スルヲ以テ其ノ本來ノ目的ト爲サズ、故ニ予ハ經濟行爲
 ニ非ラズト云フナリ。乍併、場合ニヨリテハ快樂ヲ得ルコトハ主タル目的タラズシテ、魚介
 果實ソノモノヲ得ルコトガ直接ノ目的タル場合モアリ得ベク、而シテ此ノ如キ場合ニ於イ
 テハ予ハ之ヲ目シテ經濟行爲ト云フ也。サレバ余輩ノ眞意タル只ダ「春ノ野ニ出テ、若菜
 チツム」ガ如キ、「山ニ散步シテ木ノ實ヲ拾フ」ガ如キハ、通常ノ場合ニ於イテ多ク經濟行爲ト

爲ラズト云フニ過ギザルノミ。
最後ニ注意スヘキハ經濟行爲ノ目的 (Endziel der wirtschaftlichen Tätigkeit) ニ在
リ。予ノ信スル處ニ據レハ、經濟行爲ノ目的ハ自己ノ經濟上ノ慾望ヲ満足スニ
在リ。

故ニ財物ヲ獲得スレハ、コレニ依ツテ其ノ目的ハ達セラレタルモノニシテ、財
産ノ獲得ソノモノニヨリテ經濟行爲ハ完了ヲ告ク。之ヲ以テ自己ノ固有ノ
慾望ヲ満足スルハ用ニ供スルト否トハ、經濟行爲ハ關與スル所ニ非ラサルナ
リ。而シテ予カ特ニ自己ノ慾望ト云フ所以ハ、他人ノ慾望ニ非ラアルコトヲ
示ス也。勞動者カ他人ニ雇ハレテ勞動スルノ經濟行爲ヲ爲ス時、之ヲ一見ス
ル時ハ他人ノ慾望満足ヲ目的トスルモノ、如シ。然レトモ、其ノ實ハ賃銀ヲ
得ントノ自己ノ經濟的慾望ヲ満足スルヲ以テ目的ヲ爲スナリ。

ぐすたーぶぐろすの説

經濟行爲カ自己ノ慾望満足ヲ目的トスト云フ點ニ就イテハ、
ぐすたノ説最も能ク之ヲ盡セリ。彼曰ク

Wenn wir eine Wirtschaft im Verkehre mit andern Wirtschaften beobachten, so werden wir sehen, dass
scheinbar ihr Bestreben vielfach auf die Befriedigung fremder Bedürfnisse gerichtet ist. Wenn dies tatsächlich
der Fall wäre, würden wir in diesen Fällen das Wirtschaftsobjekt ausserhalb der Wirtschaft zu suchen

haben. Dem ist aber keineswegs so; was uns auf den ersten Blick als Zweck erscheint, ist tatsächlich
nur Mittel zum Zweck. Wenn ein Unternehmer an einen Kunden sein Fabrikat verkauft, so befriedigt er
damit ein Bedürfnis dieses Kunden. Allein darum ist es ihm durchaus nicht zu tun, sondern für ihn hat
der ganze Tausch-beziehungsweise Kaufprozess nur die Bedeutung, dass ihm dadurch die Mittel zur
Fortsetzung der Produktion sowie zur Befriedigung seiner Bedürfnisse geboten werden, indem ihm nicht nur
das angewendete Kapital ersetzt wird, sondern er über diesen Ersatz hinaus einen Gewinn einstreicht,
welcher ihm eben die Befriedigung seiner persönlichen Bedürfnisse ermöglicht. Ebenso ist für den
Lohnarbeiter die Güterproduktion, auf welche seine Tätigkeit unmittelbar gerichtet ist, nur Mittel zum Zweck,
indem er dadurch den Lohn erwirbt, welcher ihm wieder die Mittel zur Befriedigung seiner persönlichen Bedürfnisse
gewährt. (Gustav Gross, Wirtschaftsformen, S. 20-21)

福田博士ノ説

予カ國家學會雜誌第九十八號明治三十六年八月ノ誌上ニ於イテ掲載
セシ一論文ノ批評トシテ、福田博士ハ左ノ如ク論斷セラレタリ。

自己欠乏感覺ノ除去ヲ以テ經濟行爲ノ動機トスルハ中ラズト云ハザルベカラザルガ如
シ、商人ノ物品ヲ賣却スルハ之レニヨリテ自己欠乏ノ感覺ヲ除却スル爲メニハアラズ、勞
働者カ食料品衣料ノ工場ニテ勞役スルハ其變化加工ノ目的ハ直チニ之ヲ以テ自己欠乏
感覺ノ除去ニ供センガ爲メニハアラズ、今日ノ市場生産時代ニアリテハ其ノ生産品ハ何
時何處何レノ人ノ欠乏感覺ノ除去ニ充テラル可キヤチ知ラサルヲ常トス、商人ハ勞働者
ハ其經濟行爲ノ報酬トシテ入り來ル所得(利潤)又ハ勞銀ヲ以テ始メテ其慾望充足欠乏感
覺ノ除去サルトノ新語ハ慾望充足ノ陳言ニ若カズニ供スルヲ得ルナリ、其實買シ又製作
スル生産品ヲ以テ直チニ自己欠乏感覺ノ除去ニ充テザルガ今日ノ國民經濟ノ特徴ナル
ナリ、河上君云フ所ハ自足經濟時代ニノミ通用ス可キ處ナリ(國家學會雜誌第二百號明治

余が當年ノ意見ト今日ノ意見トハ多少ノ差アリト雖モ、經濟行爲ヲ以テ或ハ自己ノ欠乏感
 覺ヲ除去セントスルモノト云ヒ、或ハ自己ノ經濟上ノ慾望ヲ達セントスルモノト云ヒ、共ニ
 自己ノト云ヘル文字ヲ用フルニ至ツテハ一ナリ。而シテ、此ノ點ニ就キ、予が博士ノ説ヲ容
 レズシテぐるつすノ説ニ從フモノハ、工場ノ勞働者ガ勞役ノ結果勞銀ヲ得ルハ勞働者彼レ自
 ラノ經濟上ノ慾望ヲ達スル所以ナリト考フレバナリ。固ヨリ勞働者ガ工場ニ於イテ製作
 セシ食料衣料ガ何時何處何レノ人ノ欠乏感覺ヲ除去スルガ爲メ(固有ノ慾望ヲ達スルガ爲
 メ)消費セラルトヤハ余輩ノ問フ處ニ非ラズ。經濟行爲トハ固有ノ慾望ヲ達スルノ行爲ニ
 非ラズ博士ノ所謂慾望充足ノ行爲ノ中ニハ經濟行爲ニ非ラザルモノ多シ、經濟行爲トハ經
 濟上ノ慾望(財物ヲ得ントノ慾望)ヲ達スルノ行爲ナリ、而シテ此ノ意味ヨリスレバ工場ニ勞
 役セル勞働者モ經濟行爲ヲ爲ス、然リ自己ノ經濟上ノ慾望ヲ達スルノ行爲ヲ爲シツ、アル
 ナリ。勞銀ヲ得ルコト其レ自身ガ既ニ慾望(經濟上ノ慾望)充足ノ行爲タリ、何レ必ズシモ勞
 銀ヲ得テ然ル後始メテ之ヲ用ヒテ以テ慾望ノ充足ヲ爲スト云ハハンヤ。

經濟行爲ニ關スル予輩ノ見解ハ以上ノ如シ。而シテ、コレ從來ノ凡テノ學者
 ト全然見解ヲ異ニスル處ナレトモ、予ハ飽クマテ自説ノ眞理ナルヲ確信ス。
 學者モシ此ノ點ニ就イテ異議アラハ、希クハ與リ聽クヲ得ンカ。

經濟行爲ニ關スル從來ノ見解

從來ノ學說ノ一大欠點ハ、慾望ニ經濟上ノ慾望ナル一種
 ノ慾望アリテ、コレ慾望ヲ充スコトガ經濟行爲ノ職分ニ
 ルニ拘ハラズ、慾望ニ關スル道義ノ區別ヲ看過セシ點ニ在リ。彼等ハ凡テノ慾望ヲ満足セ

ン爲メノ活動ヲ廣ク經濟行爲ト云ヘリ。コレ非常ナル誤解ナリ。今マ多數ノ中ヨリ一二
 精鍊シテ、其ノ例證ヲ爲サシム。
 一、人ノ手ノ日々(Handbuch, Bl. I, S. 10-11.)

Sofern nun die Thätigkeit der Menschen sich, direct oder indirect, auf die Beschaffung und Verwendung materieller Mittel zu Befriedigung menschlicher Bedürfnisse richtet, bezeichnet man sie als eine wirtschaftliche Thätigkeit: andererseits eine in der Verwendung, in dem Gebrauch des Erworbenen bestehende.

經濟行爲ヲ以テ有形ノ物體ニ關スルノ行爲ト爲セル處ハ、頗ル見識ノ高キヲ見ルト雖モ、ミ
 カモ經濟行爲ヲ以テ財物獲得ノ行爲ノミト爲サズシテ、財物ヲ以テ凡テノ慾望満足ノ用ニ
 供スルノ行爲ヲモ含ムト爲セルハ、余輩ノ取ラザル所ナリ。

Diejenige Thätigkeit nun, welche planmäßig darauf gerichtet ist, den Bedarf des Menschen an Gütern, d. i. an Mitteln zur Befriedigung jener Bedürfnisse, zu decken, nennt man wirtschaftliche Thätigkeit oder Wirtschaft. Die wirtschaftliche Thätigkeit ist somit gerichtet auf die Herstellung (Erwerbung) der gewünschten Güter, auf die richtige Verwendung und eventuell auf die Erhaltung (Konservierung) derselben bis zum Zeitpunkt ihrer Verwendung (Gebrauch oder Verbrauch).

氏ノ如キハ、實ニ經濟行爲ノ説明ヲ誤レルノミナラズ、之ヲ經濟ト混同スルノ大誤解ニ陥リ
 タリ。乍併經濟ト經濟行爲トヲ混同スルハ、獨リ氏ノミニ非ラズシテ、多數ノ學者ニ於イテ
 之ヲ見ルヲ得ベシ。試ニ金井博士ノ説明ヲ見ルニ(社會經濟學四三頁)
 之慾望ノ満足ヲ爲スニ當リ、經濟上ノ財貨ヲ要スル所ノ人類ノ活動ヲ名ツケテ之ヲ經濟

又ハ經濟的活動ト曰フ
トアリ。コレ亦タ經濟行為博士ノ經濟的活動ヲ以テ凡テノ慾望ヲ満足セン爲メノ行為ト
ナシ、且ツ之ヲ以テ經濟ト同一視シタルノ説ナリ。
要スルニ予ノ説ト是等ノ學說ト異ル主ナル點ハ予ハ所謂消費ヲ以テ經濟行為ニ非ラズト
爲スコト、又タ經濟ト經濟行為トハ別種ノ觀念ナリト爲スノ二點ニアリ。

第二節 經濟行為ノ成立要素

經濟行為ノ何物タルヤハ前述ノ如シ。之ニ依リテ考フレハ、吾人ハ經濟行為
ノ成立ニ三要素アルコトヲ知ル。其ノ一ハ經濟上ノ慾望ナリ。即チ一定ノ
財物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメントノ目的ヲ達セントスルノ意思コレナリ。
其ノ二ハ其ノ目的ヲ達センカ爲メニ手段トシテノ行為アルコトナリ。茲ニ
行為ト云フハ勞動ト同一視スヘカラス。カノ所謂非勞動的企業者株式會社
ノ株主ノ如キハ、勞動セスト雖モ一定ノ行為ヲ營メル也。
其ノ三ハ其ノ行為ノ結果トシテ財物ノ獲得アルコトヲ必要トス。學問スル
カ如キハ前述ノ三要素ヲ具フルコトアルモ、コノ第三ノ要素ヲ具フルモノニ
非ラス。

之ヲ要スルニ、經濟行為ノ成立要素トシテハ、目的、手段、結果ノ三者ヲ必要トス
ル也。

第三節 經濟行為ノ分類

經濟行為ハ之ヲ種々ニ分類スルコトヲ得ヘシト雖モ、今マ左ニ其ノ最モ主要
ナルモノヲ掲ク。

第一、經濟行為ノ動機タル經濟上ノ慾望ノ性質ヲ標準トシテ分ツ時ハ自足
的經濟行為ト營利的經濟行為トニ分ツコトヲ得ヘシ。既ニ述ヘタルカ如ク、
經濟上ノ慾望ハ自足の慾望ト營利的慾望トノ二者ニ分ツコトヲ得ルモノ也。
而シテ自足の慾望ヲ達センカ爲メ生シ來レル經濟行為ハ予ノ所謂自足の經
濟行為ナリ。之ニ反シ、營利的慾望ヲ達センカ爲メ營メル經濟行為ハ予ノ所
謂營利的經濟行為タリ。

自足の經濟行為モ經濟行為ノ一種類タルニハ相違ナシ、故ニ財物ノ獲得ヲ以
テ其ノ行為ハ終了ヲ告ク。終了ヲ告クト雖モ、シカモ其ノ行為ハ本來ノ性質ヨ
リ、生スル論理的結果トシテ、其ノ行為自體ニ連續シテ充慾行為(即チ固有ノ慾

望ヲ満足セシムルハ行爲起ル。換言スレハ自足的經濟行爲ニ次クニ財物ノ利用(使用)及ヒ消費ヲ以テスルハ、自然的必然的結果ナリ。營利的經濟行爲ニ於イテハ、寧ろ然ラサルヲ原則トス。現時ノ社會ニ於イテハ、營利的經濟行爲ハ吾人ノ經濟行爲ハ大半ヲ占メタリ。何人ト雖モ貨幣ノ獲得ヲ目的トシテ活動セサルナシ、シカレトモ之ト同時ニ、何人ト雖モ貨幣ヲ食ヒ又ハ着ルモノナシ。貨幣ソノモノハ吾人ノ固有の慾望ヲ滿スノ力アルカ故ニ、財タルノ性質ヲ有スルニ非ラス。故ニ貨幣ヲ得ントスルノ經濟行爲ハ予ノ所謂營利的經濟行爲ニシテ自足的經濟行爲ニ非ラス。然レトモ、吾人カ食料ヲ得ンカ爲メニ其ノ貨幣ヲ他人ニ與ヘテ食物ト交換スルノ行爲ハ、自足的經濟行爲ニシテ、其ノ食物ハ飢渴ノ感覺ヲ除去スルカ爲メ消費ノ用ニ供セラル。(然レトモ料理屋ニ於イテ野菜肉類ヲ購買スルハ等シク食料ノ購買ナリト雖モ、其ノ營利的經濟行爲ニ屬スルヤ論ヲ待タス。)食物ニ換ヘテ貨幣ヲ得ルモ經濟行爲ナリ、貨幣ニ換ヘテ食物ヲ得ルモ經濟行爲ナリ。然レトモ一ハ營利的ナリ、一ハ自足的タルヲ常トス。二者ソノ根本的性質ヲ異ニスルヲ看過スカラス。

第二、經濟上ノ慾望ヲ達センカ爲メニ營メル行爲ソノモノ、性質ヲ標準トシテ分ツ時ハ、經濟行爲ハ生産行爲及ヒ取得行爲ノ二ト爲ル。思フニ經濟行爲トハ既ニ述フルカ如ク、經濟上ノ慾望ヲ以テ財物ヲ獲得スルノ行爲ナリ。而シテ財物ヲ獲得スルニハ二法アリ。其ノ一ハ自ラ之ヲ作り出ス方法ニシテ、其ノ二ハ他人ノ處有セルモノヲ自己ノ支配ニ屬セシムルノ方法ナリ。從ツテ經濟行爲ハ分レテ二種トナルナリ。其ノ一ハ所謂原始的獲得(又ハ第一次ノ獲得)ニシテ、其ノ二ハ傳來的獲得(又ハ第二次ノ獲得)ナリ。簡言スレハ、生産及ヒ取得(狹義)ノ二者コレナリ。生産トハ新ニ財物ヲ作り出スノ行爲ニシテ、取得トハ他人ノ占有セル財物ヲ自己ノ占有ニ移スノ行爲ナリ。財物ノ生産ハ之ヲ小分シテ三種ト爲ス。占取、育生、製造コレナリ。占取トハ自然ニ存在セル物躰又ハ支配者ナキ物躰ヲ採取シテ自己ノ支配ニ屬セシムルノ行爲ナリ。例ヘハ、山野ニ鳥獸ヲ捕獲シ、河海ニ魚介ヲ撈獲スルカ如キコレナリ。カノ獵師漁師ノ類ハ此ノ種ノ經濟行爲ニ從事スルモノタリ。

育生トハ自然ニ人爲ヲ加ヘテ財物ヲ作り出スノ行爲ナリ。農耕、養畜ノ如キハ此ノ種ノ經濟行爲ヲ營ムノ業タリ。

製造トハ財物ノ性質形態ニ變化ヲ加ヘテ更ニ新ナル財物ヲ作り出スノ行爲ナリ。所謂工業ノ如キハ此種ノ經濟行爲ヲ營ムノ業タリ。

次キニ財物ノ取得ハ之ヲ小分シテ二種ト爲ス。交換及強取コレナリ。交換トハ一定ノ報酬(財物又ハ勞力)ヲ相手方ニ與ヘテ、他人ノ支配ニ屬セル財物ヲ自己ノ支配下ニ移スノ行爲ナリ。賣買、貸借、雇傭ト云フハ即チコレナリ。

強取トハ、交換ト異リ、一定ノ報酬ヲ與フルコトナクシテ、他人ノ支配セル財物ヲ自己ノ支配下ニ歸セシムルノ行爲ナリ。就中國家カ租稅ヲ徵收スルカ如キハ、法律ノ認ムル所ナルニ反シ、強盜、竊盜ノ行爲ハ法律ノ認メサル所ナリ。

從來ノ學說 既ニ述ベタル如ク、從來ノ學者ハ、所謂消費ヲ以テ經濟行爲ノ一種ト爲シタリ。故ニ經濟行爲ノ種類ハ、自ラ予ノ既ト異ル。例ヘバ、くらゐんをひたハ既ニ述ベタル如ク、經濟行爲ナルモノハ、其ノ希望セル所ノ財ヲ作り出ス(獲得スル)爲メノ行爲タルコトアリ、或ハ之ヲ適當ニ利用スル爲メノ行爲タルコトアリ、或ハ之ヲ消費スル時マテ維持(保存)スル爲メノ行爲タルコトモアリト云ヘルガ如シ。

自足的生産ト營利的生産

生産が自足的經濟行爲ニ屬スル時ハ之ヲ自足的生産(自己生産)ト云ヒ、營利的經濟行爲ニ屬スル時ハ營利的生産(顧客生産)ト云フ。

市場生産ト云フ。 自足的交換ト營利的交換

コノ區別モ亦々前者ト等シ。煙草商人が煙草ヲ買フハ營利的交換ナリ、所謂消費者ガ之ヲ買フハ自足的交換ナリ。

ソレ經濟行爲ノ種類ハ千種萬別ナリト雖、恐ラク人類一切ノ經濟行爲ハ如上ノ二大別、五小類ニ網羅サレテ遺憾ナカルヘシ。思フニ經濟行爲トハ既ニ述ヘタルカ如ク、財物獲得ノ行爲ナルカ故ニ、其ノ行爲ノ結果トシテ行爲者ハ必ずヤ新ニ財物ヲ占有スルニ至ルナリ。乍併既ニ注意シタルカ如ク、新ニ財物ヲ占有スルニ至ルハ、必スシモ經濟行爲ノ結果タラサルナリ。即チ經濟行爲以外ノ行爲ニ因ルコトアリ、又自己ノ行爲ノ結果ニ非ラスシテ他人ノ行爲ニ因ルコトアリ、又自己或ハ他人ノ行爲何レニモ原因セサルコトアリ。左ニ新ニ財物ヲ占有スルニ至ル場合ヲ分類シテ表示ス。

第一、生産

一、占取
イ、自然物ノ占取。(狩獵、漁業ノ類)

ロ、自然物以外ノ占取。(紙屑拾ノ類)

二、育成

イ、耕種

ロ、養畜

ハ、養魚

ニ、養虫

ホ、造林

三、製造、原料ノ分離、結合、變化ノ三種ニ分チ得ヘシト雖モ、通常ハ左ノ如ク分ツ。

イ、建築

ロ、加工又ハ狹義ノ製造

第二、取得

一、交換

イ、賣買、コレ財物ト財物トノ交換ナリ。

ロ、貸借、コレ財物ト財物ノ使用權トノ交換ナリ。

ハ、雇傭、コレ財物ト勤勞トノ交換ナリ。

二、強取(無價的取得)

イ、法律又ハ慣習ニ依リテ社會ノ公認スルモノ、國家カ租、稅ヲ徵收スルノ類コレ也。

ロ、法律ノ禁止セルモノ、強盜、竊盜ノ行爲コレナリ。

乙、經濟行爲以外ノ原因ヨリ財物ヲ占有スル場合、

第一、經濟行爲以外ノ行爲ニ因ル財物ノ占有

例ヘハ、國家カ刑罰ノ目的ニテ罰金、科料ヲ徵收スルカ如キ、其ノ一例ナリ。

第二、自己ノ行爲以外ノ原因ニ本ク財物ノ占有

一、他人ノ行爲ニ本ク場合、例ヘハ遺贈、贈與ヲ受ケタル場合ノ如キ、コレナリ。

二、何人ノ行爲ニモ本カサル場合、例ヘハ人口ノ増加、交通ノ發達ト云フカ如キ社會的原因ニ本ク地價ノ騰貴ノ如キ、或ハ樹木カ自然的原因ヨリシテ次第ニ成長シ果實ヲ結フト云フカ如キコレナリ。

經濟行爲及ヒ其ノ種類ニ關スルニ關スルニ關スルニ關スルノ説明

慾望ノ衝動ニ出ツルノ行爲ヲ經濟行爲ト爲シタリ。コレ大體ニ於テ手ト意見ヲ同フスルガ如シト雖モ、シカモ氏ガ經濟上ノ慾望ヲ單ニ Das Bedürfnis nach Sachen トノミ云ヒテ何等ノ説明ヲ與ヘザルガ如キ、又々經濟行爲ヲ單ニ Die Handlungen, welche unter dem Antrieb der Bedürfnisse erfolgen トノミ云ヒテ別ニ詳細ノ説明ヲ爲サザルハ遺憾ト云フベシ。況ンヤ、經濟行爲ノ種類ヲ列舉スルニ當リ、其ノ中ニ消費ヲ加フルガ如キニ至ツテハ、余ト全然意見ヲ異ニスルモノニシテ、從ツテ「物ニ對スルノ慾望」即チ經濟上ノ慾望ノ衝動ニヨリテ行ハルル行爲ヲ經濟行爲ト云フ「下云ヘル言ノ眞意如何ハ、益々之ヲ疑ハザルベカラズ。左ニ氏ノ説ノ大要ヲ錄シテ參考ニ供ス。(Diezel, Theoretische Sozialökonomik, S. 156-159)

眞理及ビ徳義ヲ得ンコトヲ欲シ、戀愛及友愛ヲ得ンコトヲ望ミ、位階名譽ヲ得ンコトヲ希フガ如キハ全ク人ノ自由ニ屬スト雖、或ル事物ニ對シテハ然ラサルコトアリ。例ヘバ人類ハ其ノ食ヲ得ザルヘカラズ、又衣ヲ纏ハサルヘカラズ、又歩行シ休止スルガ爲メニハ一定ノ土地ヲ要スルナリ。即チ一般普通ニ云フガ如ク、人類ハ必ズヤ物界ノ一部ヲ支配セザルベカラザルナリ、之レ天ノ強制スル所ニシテ吾人ノ自由ニ屬セザル所ナリ。而シテ物(Sachen)ニ對スル吾人ノ慾望ハ之ヲ名ケテ經濟上ノ慾望(wirtschaftliche Bedürfnisse)ト云フ、而シテ其ノ慾望ノ衝動ニヨリテ營ム所ノ行爲ハ之ヲ名ケテ經濟行爲ト云フ。經濟行爲ハ人類ノ行爲中對ル處常ニ見出サザルコトナク、必ズヤ其ノ一分類タルモノナリ。

而シテ凡テ經濟行爲ハ最後ノ目的タルモノハ皆同様ナリ。即チ其人ニ向テ「財」(Güter)タルノ價アル物(Dinge)——換言スレバ其ノ慾望ヲ満足セシムルニ適當ナル物少クトモ

其ノ人ニ向ツテ適當ラシク見ユル物例ヘバ食物衣服家宅ノ類——ヲ取り來ツテ之ヲ使用シ消耗スルニアリ、簡單ニ云ヘバ財ノ消費即チコレナリ。此ノ如ク人類ノ經濟的活動ハ凡テ其ノ目的トスル所ニ歸シ得ベシト雖モ、猶ホ之ヲ四種ニ區別スルコトヲ得ルナリ——消費、生産、循環、分配即チコレナリ。何レノ場合タルチ間ハズ人類ノ經濟的行爲ハ凡テ之ノ四種ノ方向ニ分類サルモノニシテ、其ノ千種萬別ノ状態ヲ呈スルニ至ルハ其ノ活動スル形式ノ變化スルニ止ルナリ。生産ナキ消費ハ吾人ノ想像スルコト能ハズ。勿論茲ニ生産ト云フハ、苟クモ原料ヲ取り來ツテ之ヲ財物タラシムノ行爲タル以上ハ、只單ニ一擧手一投足ノ勞ニ止ルモノナラト或ハ長年月ノ勞力ヲ要シ複雑セシ器械ヲ應用スルモノタルトチ間ハザルナリ。循環ナキ消費ハ吾人又々之ヲ想像スルコト能ハズ。何人ト雖モ自己ノミノ生産ニヨリテ満足スルモノニ非ラズ、彼ハ常ニ其ノ生産セル財物ヲ使用消費スル人ヲ見出スノ必要アリ、又自己が必要ヲ感スル財物ニ向ツテ之ヲ供給スル人ヲ見出スノ必要アルナリ。

社會經濟學ニ於テハ、普通今日マデコノ財物ノ移動ヲ名ケテ循環ト云フナリ。コノ循環ナル言葉ハ人ト人トノ間ニ於テ財物ノ交換、讓渡、取得、循環アル場合ニ於テ其ノ經濟的生活ノ状態ヲ呼稱スル爲メ用ヒラル。乍併個人孤立ノ經濟主體ト雖、猶ホ循環ト稱スベキ連續的行爲ヲ爲スコトアリ。

例ヘバ茲ニ人アリ森ニ於テ一ノ菓物ヲ採取シ而シテ之ヲ食ヒタリトセヨ、コノ場合ニ於ケル行爲ハ全ク獨立シ且ツ異リタル二種ノ經濟的行爲ヨリ成ルモノナリト云ハサルヘカラザルナリ。モシ之ニ反シ生産ノ場處ガ消費ノ場處ヨリ遠カルトキ——例ヘバ山間ノ樹木ハ木舎ノ在ル地ニ運搬スルノ必要アルガ如キ——或ハ生産ノ財ガ消費ノ時ト隔絶セル場合——

序論 經濟行爲ノ分類

例へば秋季收穫シタル穀物ヲ貯藏シ之ニヨリテ來秋ノ收穫季マテ家計ヲ維持スト云フ
 が如キ場合——ニ於テハ、生産行爲ト消費行爲トガ明ニ分割セラレ得ル也。コノ場合ニ
 於テハ交換ナル行爲ハコレアラザルモ生産物ヲ一定ノ時期ニ至ルマテ運送シ置クモノ
 ト云フベキナリ。
 物が場處及ヒ時間ノ關係ニ於テ移動スルコトハ競争制度ノ下ニ於テハ運送人及ヒ商人
 ニ依リテ行ハレ又交換ノ媒介物ニヨリテ行ハル、モノナルガコレ亦等シク孤立經濟内
 ニ於テ行ハレ又合同經濟内ニ於テモ——コノ場合ニ於テハ官吏ノ手ニヨリテ——行ハ
 ルモノナリ。
 分配ナシノ消費モ亦之ヲ想像スルコト能ハズ。多數ノモノガ合同シテ生産ニ從事スル
 トキハ其ノ生産物ハ彼等ノ間ニ分配セザレハ之ヲ消費スルコト能ハザルナリ。
 Sgatsenwirtschaft ニ於テハ是等ノコトハ凡テ家長ノ自由意思ニヨリテ定マル、競争制度ノ
 下ニ於テハ其ノ分配ハ交換者間ニ於ケル契約ニヨリテ定マル——賣者ト買者トハ貨物
 ノ代價ニ付キテ地主ト小作人ハ小作料ニ付キテ雇主ト労働者ハ賃銀ニ付イテ資本主ト
 借主ハソノ利率ニ付キテ互ニ契約ヲ爲スナリ。一ノ經濟主體ガ交換ニヨリテ得タル報
 酬ノ高ハ彼ガ消費ノ高ヲ定ムルモノナリ。公同制度ノ下ニ於テハ合同生産物ニ對スル
 個人ノ割前ハ法律ノ規定スル所ニヨリテ定マル。トニカク最後ノ目的ハ常に消費ニ在
 ルナリ、乍併ゴノ最後ノ目的タル消費ハ生産、循環、分配等ノ手續ヲ經過シタル後ニ於テ始
 メテ得ラルベキモノナリ。
 以上述べタル經濟行爲ノ四種類ハ實ニ其ノ自然的範疇 (natürliche Kategorien) ナ爲スモノナ
 ルナリ。

第四節 經濟行爲ノ發展

經濟行爲ノ發展ハ之ヲ後篇ニ於イテ詳述ス。茲ニハ只々大體ノ觀念ヲ得ル
 ニ必要ナル二三ノ事項ヲ述フルニ止ム。
 如何ナル種類ノ經濟行爲タルヲ問ハス其ノ發展ノ經過ヲ概觀スルニ初メハ
 各經濟行爲ハ個々分立シテ其ノ間計畫ナク秩序ナク主義ナシ。然ルニ人類
 ハ進歩ニ伴ウテ各種ノ經濟行爲ハ一定ノ計畫ノ下ニ一定ノ秩序ヲ保チ以テ
 經濟主義ノ支配ヲ受クルニ至ルナリ。蓋シ原始時代ノ人類ニ至リテハ、時ノ
 觀念ナク將來ヲ慮ルノ念ナク、事物ヲ比較計量スルノ觀念ナシ、故ニ只々時々
 ノ必要ニ應シテ個々ノ經濟行爲ヲ營ミタルニ過キス。從ツテ各種ノ經濟行
 爲ハ個々ニ分立シテ其ノ間何等ノ連絡ト組織トアラサル也。之ニ反シ、各種
 ノ經濟行爲ヲ營ムニ當リ、一定ノ計畫、秩序、組織、主義ヲ以テスルカ如キハ、遂ニ
 進歩セシ後ノコトナリ。而シテ經濟行爲カ此ノ如キ計畫、秩序、組織、主義ヲ有
 スルニ至リタル時ハ、之ヲ名ケテ經濟ト云フ也。
 之ヲ要スルニ經濟行爲ハ始メ經濟ヲ爲サス、一定ノ發展ヲ爲シタル後ニ於イ

ヲ始メテ經濟ヲ爲スニ至レルモノト云フヘシ。モシ夫レ經濟ノ意義ニ至リテハ、後章ニ於テ更ニ之ヲ詳述ス。

以上ハ經濟行爲ノ種類ヲ分タスシテ其ノ發展ノ法則ヲ述ヘシ也。以下各種ノ經濟行爲ニ付キ、之ヲ別々ニ論セント欲ス。

經濟行爲ノ第一種タル生産行爲ノ發展ヲ見ルニ、所謂占取ハ人類ノ發生ト共ニ發生シタリ、而シテ之ニ次イテ生シタルモノハ育成ナリ。シカハニ社會更ニ進歩スルニ至リテハ、人類ノ經濟行爲ハ主要ナル部分ハ製造タルニ至リタリ。

いりーハ此ノ三段ノ發展ヲ表ハスニ End, Take, Make ノ用語ヲ以テシタリ。

次キニ其ノ第二種タル取得行爲ノ發展ヲ見ルニ、原始時代ハ人類ハ殆ト交換行爲ヲ解セサリシモノ、如シ。他人ノ占有物ヲ自己ノ占有ニ歸スルカ爲メニハ、彼等ハ只タ腕力ノ強制ニヨリテ之ヲ盜掠シタルニ過キサレナリ。シカハニ社會ノ文明進歩スルニ從ツテ、強制徵收ノ權力ハ國家ノ手ニ回收セラレ國民各個人ノ間ニ於ケル強制取得ノ行爲ハ法律上全然否認セラレ、之ニ代ツテ交換的取得ノ方法廣ク行ハル、ニ至リタリ。而シテ交換行爲ソノモノハ、

發展ニ就イテハ、實物交換、貨幣交換、信用交換ノ三時期ヲ分ツコトヲ得ヘシ。次キニ生産行爲ト交換行爲トヲ比較スルニ、後者ノ發生ハ固ヨリ前者ニ後レタリ。シカレトモ今日ニ於テハ、分業廣ク行ハル、ノ結果、生産ソノモノモ始メヨリシテ交換ヲ目的トスルニ至リタリ。

ふりーどりひりすまノ説

りすまハ世人ノ知ルル如ク、經濟史ヲ五大時期ニ分チテ、(一)狩獵及ヒ漁撈時代(二)牧畜時代(三)農耕時代(四)農工時代(五)農工商級ト爲スノ思想ハ、昔時ヨリ行ハレ居タルコトハ、くらゐんゑひたノ云フカ如シ(後段ヲ参照)。シカルニ、りすまハ之ニ加フニ最後ノ二階級ヲ以テセシナリ。ソハ兎モ角モ、りすまノ説明ハ、主トシテ經濟行爲ノ發展ヲ主眼トシテ經濟ノ發展ヲ論セシモノナレバ、本節ノ參考トスベキ處少カラズ。

續ホ近時ニ至リテ、ぐるせハりすまノ分類ヲ訂正シテ、(一)低度ノ漁獵時代(二)高度ノ漁獵時代(三)低度ノ農業時代(四)遊牧牧畜時代(五)高度ノ農業時代ト爲シタリ。是等ノ點ニ就イテハ、福田博士ノ國民經濟原論(八一—一〇六頁)ヲ見ヨ。

いりーノ説明

いりーハ生産行爲ノ發展ヲ標準トシテ、(一)狩獵及ヒ漁撈時代(二)牧畜時代(三)農耕時代(四)手工業時代(五)工業時代ノ五期ト爲シタリ。第四期、第五期ノ説明ハ茲ニ之ヲ省略シ、予ハ第一、第二、第三期ニ對スルいりーノ説明ノ大要ヲ抄録シテ暫ク予ノ説明ノ不足ヲ償ヒ置カント欲ス。(Ely, Evolution of Industrial Society, pp. 25-63)

第一狩獵及ヒ漁撈時代

モシ進化論ニシテ果シテ眞理ナランカ、吾人々類ノ祖先ハ太古ノ昔、嘗テ單ニ一個ノ獸類タルニ過ギザリシ時代アリシコト

ト明カナリ。試ニ今日地球上ニ存在セル最モ野蠻社會ノ人類ニ就イテ觀察セヨ。固ヨリ彼等ノ生活ハ獸類ノソレト同一視スベキモノニ非ラズトハ云ヘ、其ノ相類似セルコト極メテ甚シキモノアルヲ知ルニ足ラン。カノひりびり詳島ニ於ケルレヴリ人ノ如キ、セ

いるん島ニ於ケルゑたん人ノ如キ、おすらりあニ於ケル土人ノ如キ、皆ナ好個ノ例證ナリ。試ニ中部おすらりあニ於ケル種族ノ或ルモノニ就イテ觀察セヨ。彼等ハ一家族又ハ二家族ヲ以テ一小團體ヲ作り、食物トスベキ材料豊富ナル地方ヲ撰ンテ東西ニ彷徨セリ。固ヨリ其ノ種族ノ酋長ト稱スベキモノナシ。彼等ハ凡テ裸體ニシテ衣服ヲ纏フノ慾望ヲ欠如セリ、時トシテ氣候甚々寒冷、温度氷點以下ニ降ルコトアルニ拘ラズ、寒氣ヲ防禦スルノ念ハ毫モ之レアラザル也。彼等ノ住居ハ風ヲ防ガ爲メニ僅カニ樹木ヲ以テ蔽フニ過ギズ。彼等ニハ毫モ時間ノ觀念ナシ、モシ彼等ニシテ飽食スルノ材料ヲ有センカ、男女長幼終日終夜只ダ嬉々トシテ戯ルヲ知ルノミ。而シテ荷クモ口腹ヲ滿シ得ベキモノハ、一トシテ彼等ノ食物ヲラザルナシ、密蟻ノ如キハ現ニ其ノ好物ナリ。彼等ハ火ヲ利用スルコトヲ知レリ、然レドモ道具ヲ用フルコトハ極メテ少シ、只タ僅ニ槍盾飛道具(Bowarand) 石刀等ヲ使用シ、稀ニ手斧ヲ使用ス。モシ事情好況ヲ呈センカ、彼等ハ意氣揚々タリ、然レドモ彼等ノ多クハ不安ノ念ニ襲ハレ居ルヲ常トス、而シテ其ノ不安ノ念タルヤ、他ニ覺悟ヲ解スル人アリテ彼等ニ加害セントスルモノアルニ因ルト信セリ。彼等ハ其ノ身體ヲバ ornament 以テ裝飾ス、而シテ其ノ裝飾ニ就イテハ慣習上儀式上一定ノ方法ヲ認メ居ルナリ。例ヘバ、其ノ祖先ガ嘗テ儀式ノ際其ノ前額ニ白線ヲ加ヘタリトセヨ、シカ

ラバ、其ノ子孫ハ凡テ之ニ倣フテ前額ニ白線ヲ加フベキナリ。

モシ夫レ北あめりかノいんど人ニ至リテハ、更ニ狩獵時代ノ研究ニ向ツテ好個ノ材料ヲ供給スルニ似タリ、蓋シ彼等ノ同ニハ其ノ進歩ノ程度ヲ異ニスルモノ多ク、レバナリ。北あめりか大陸ノ北部及ヒ西部ニ於テハ、更ニ土地ノ耕作ヲ解セザル純然タル狩獵種族アリ。而シテ東部地方ノ半分以上ニ於テハ、最モ簡單ナル土地耕作ノ行ハレツ、アルヲ見ル。更ニ進ンデ、にゆいめきし、めきし、中央あめりかニ於ケルいんど人ノ村落ニ就イテ觀察センカ、彼等ハ其ノ食物ノ大部分ヲバ農地ノ生産物ニ仰ガリ、而シテ排水ノ事業ヲ營ミ、又タ家屋ヲ建築セリ、殊ニ其家屋ノ如キハ二階造リノモノモ亦タ多シト云フ。思フニ、最モ最後ノ部屬ハ既ニ農業時代ニ入レルモノト見ルヲ得ベシ、尤モ彼等ハ土地耕作ノ爲メニ畜類ヲ使用スルコトヲナシト云フ。ソハ兎モ角、狩獵時代ニ在ルモノト看做スベキモノハ、最後ノ部屬ヲ除キタル殘餘ノモノナランカ。吾人ハ今マ是等ノ部屬ノ特質

ニ就イテ研究スル所アルベシ。原始時代ノ人類ノ生活ハ凡テ遊牧的ナリ。或ル學者ノ説タ所ニ據レバ「にゆいふうん」ニ居住セル人類ハ凡テ遊牧的ナリ。彼等ハ更ニ農耕ヲ解セズ、從ツテ一處ニ土着スルコトナク多クハ五六週間ヲ經ズシテ其ノ處ヲ變ズト。又タ或ル他ノ學者ハ云ヘリ「彼等即チ (Stox) ハ野生ノおしと參ヲ採取シ或ハ狩獵ヲ爲シテ其ノ食ヲ得……彼等ハ其ノ住處ヲ一定スルコトナク、難難人ノ如ク大ナル隊伍ヲ作ツテ漂泊シ、once 盡クレバ直チニ他處ニ其ノ居ヲ移ス」ト。思フニ、此ノ如ク居處ヲ一定スルコトナク、常ニ漂泊的生活ヲ送ルコトハ、人類ガ其ノ生活ノ資料ヲバ只ダ發見シテ採取スルニ止ル時代ニ於テハ、到底避クベカラザルノ事ニ屬ス。而シテ此ノ特徴タル、必ズシモ凡テノモノニ共通ナルモノ

ニハ非ラズ。例ヘバ、米國ノ東部及南部ニ居住セル種族ハ、稍々進歩セルモノニシテ既ニ農耕ノ術ヲ解シツ、アルガ故ニ、屢々住處ノ變更ヲ爲スガ如キコトナシ。現ニベんしるベにあノいんど人ノ如キハ、玉蜀黍、馬鈴薯、蠶豆、南瓜、(Pumpkins, squashes) 胡瓜、甜瓜等ヲ耕種シ、時トシテハ、タバコ、燕等ヲモ生産スルノ術ヲ解セリ。

然レドモ、タトヒ既ニ農耕ノ術ヲ解セリトハ云ヘ、猶ホ其ノ農耕ハ一種ノ特徴ヲ有セリ、而シテ、コレ即チ狩獵時代ニ於ケル第二ノ特徴ト云フベキモノナランカ。其ノ特徴ハ所謂 hoe culture (鐮耕法) ナル一語ヲ以テ之ヲ表ハスコトヲ得ベシ。即チ土地ノ耕作ハ、道具ヲ用ヒ主トシテ人力ニ依リテ之ヲ爲スナリ、其ノ道具トシテ用イラルモノハ、鐮、粗雜ナル鐮又ハ骨、殼、石等ニヨリテ作りタル鐮等ナリ。南部地方ノ種族ニアリテハ、地表ヲ耕作スルニハ魚骨ヲ木片ノ端ニ附ケタルモノヲ使用シ、專ラ男子ノ勞働ニ屬ス、而シテ其ノ次ギニ種子蒔キ爲スハ婦人ノ勞働ニシテ、小器ニ殼類ノ種子ヲ入レテ携ヘ、棒ヲ以テ土地ニ穴ヲ作り、種子ヲ其ノ中ニ蒔クナリ。犁又ハ畜類ハ耕作ノ爲メニ使用スルコトナシ。男子ハ時々耕作ノ助力ヲ爲スコトアルモ、多クハ婦人主トシテ耕作ノ勞ニ當ル。獨リ Iroquois 二至リテハ、男子ハ全ク耕作ノ事ニ關係セザレドモ、コハ唯一ノ例外ナリトハ、或ル學者ノ記述セル所ナリ。兎ニ角、男子ハ主トシテ狩獵ノ方面ヲ擔當シ、女子ハ農耕ノ方面ヲ擔當スルハ、一般ノ現象ナルガ、其ノ點ニ就イテハ、必ズシモ其ノ昔ニ遡リテ研究スルノ必要ナシ。現ニ今日いんど人ノ中ニハ、此ノ如キ分業ヲ爲シツ、アルモノ少カラズ。例ヘバ Colorado 人ノ狀態ヲ記載セルモノ、中ニハ、婦人ノ勞働ニ就イテ次ノ如キ記事アルヲ見ル。曰ク「大陽西ニ沈ムナ、婦人ハ其ノ畑ト共ニ、燃料ヲ運搬シテ林地ヨリ歸リ來ル——其ノ運搬量ハ二十乃至百ぼんどナリ。而シテ婦人ハ翌日早朝ニ起キ出テ、火ヲ燃ヤシテ朝食ノ準備ヲ爲ス。……朝食後ハ婦人ハ直チニ野外ニ出テ、勞働ヲ爲ス……」此ノ如クシテ彼

等ハ極メテ稀ナル例外ヲ除ケバ、殆ト遊惰ニ耽ルノ餘裕ヲ有セザルナリ。ソレ故、いんど人ノ村落ニ於ケル婦人ハ、其ノ勞働ノ點ニ於イテハ、いんど地方ニ於ケル工場地方ト大差アルヲ見ザルナリ。シカルニ、男子ハ殆ト何等ノ勞働ヲモ爲サルナリト、扱テ狩獵時代ニ於イテ、未ダ農耕ヲ解セズ、或ハ多少農耕ノ術ヲ解スルモ、未ダ重キヲ爲スニ至ラザルニ當ツテハ、カノ奴隸制度ノ發生ヲ見ルノ機會ヲナキコト明カナリ。故ニ「農耕ノ結果、散チニスルヤ、多クハ之ヲ殺戮シタルモノニシテ、モシ然ラザレバ、之ヲ種族ノ一員トシテ待遇スルヲ常トシタリキ。當時ノ捕虜ニ就イテ或ル審ニ記載スル所ニ據レバ「捕虜ノ多クハ直チニ殺戮セララル、チ常トス、然レドモ、モシ殺戮ノ運命ヲ免レンカ、ソノモノハ子トシテ家族ニ迎エラレ、親子ノ情ヲ以テ好遇セララル、ナリ、而シテ、モシ更ニ逃亡スルノ念ヲ絶ツニ至ランカ、其ノ種族内ノ人々ト同様ノ權利ヲ認めラル、ニ至ルナリ。」

ヘツケ、いんど人ノ云フ、是ニ據レバ、捕虜ハ普通其ノ種族内ニ於テ死亡セシモノ又ハ他ニ捕ハレシモノ、代理トシテ收容セララル、チ常トス、而シテ此ノ如キ場合ニハ、全ク其ノ種族ニ同化シ、且ツ頗ル親切ニ待遇セララル、チ以テ、本人モ再ビ逃亡セントノ念ヲ忘ルルニ至ルモノナリ。此ノ如ク、一般ニハ奴隸ノ存在ヲ見スト雖モ、又々或ル範圍ニ於イテハ、多少存在シテ、勞働ヲ強制セララル、モノアリ。ら、はんとんノ言ニ據レバ、女性ノ奴隸ハ玉蜀黍ノ種子蒔キ及ヒ刈入レニ使用セラレ、男性ノ奴隸ハ狩獵上ノ勞働ニ服セシメラル、又タヒ、いんど教徒ノ或ル者ハ、Iroquois 人中ニ三階級ノ奴隸アリタルコトヲ述ベ、おり、えす、ば「いんど教育アルいろく、あー人ナルカ、いろく、あー人中ニハ奴隸アリテ婦人ノ用ヲ助クト云ヘルガ如キハ、皆ナ或ル範圍内ニ於イテ奴隸ノ行ハレ居ルノ證ト爲スコトヲ得ベシ。

扱テ次ギニハ、此ノ狩獵時代ニ於ケル、精神上、道德上、ハ特徴ニシテ經濟上ノ事情ト關係ア

序論 經濟行爲 經濟行爲ノ發展

ル二三ノモノニ就イテ要述スベシ。教授ふらんくりん、えちぎちんぐハ労働ヲ好マザルヲ以テ此ノ時代ノ一特徴ナリトセリ。其ノ外、此ノ時代ニ於テハ、魔術及ヒ祈禱ノ類一般ニ行ハレ居ル事ハ、傳道師又ハ其ノ他ノ旅行家ノ常ニ唱フル所ニシテ、何人モ看過シ難キ特徴ナルベシ。しやゝるれば、あノ示セル一例ヲ見ルニ、熊ヲ殺シタル時ハ、之ヲ殺シタル者ハ、火ヲ點セル煙管ヲ口ニシテ、煙ヲ吸ハルノ咽喉及ビ口中ニ吹キ入レ、カクテ熊ノ肉體ニ對シテ爲シタル處爲ニ就キ、熊ノ精神ガ之ヲ恨ムコトナク、將來ノ狩獵ニ就イテモ妨ゲザルコトナキ據新ルナリ。又タカハ、人ノ間ニ於テハ、毎年九月一大舞踏ヲ行ヒ、以テ土地及ヒ森林ノ精神ヲ慰メ之ニ依リテ、カノ恐ルベキ山崩、森火、地震、旱魃及ヒ其ノ他ノ災害ヲ豫防スルノ習慣アリト云フ。又タカナダニ於ケルおじぶう、いんど人種ノ間ニ於テハ、穀物ノ刈入ニ先チテ必ず酒宴ヲ張リ、其ノ後ニ非ラザレバ決シテ之ガ收穫ヲ許サズト云フ。又タダ、人ノ間ニ於テハ、春期初メテ捕獲シタル雁又ハ鷺及ヒ初メテ賣リタル穀物又ハ野生ノ穀物ヲ材料トシテ、神宴ヲ張ル。而シテ其ノ宴ニ列リ得ルモノハ嘗テ敵ヲ殺シタルノ功勞アルモノニ限ラレト云フ。又タラむほるつノ云フ處ニ據レバ、彼ハめきしニ於ケルいんど人ノ村落中、其ノ戸數僅ニ百八十二、滿タザルニシカモ其ノ巫女及僧侶醫者ヲ兼スル者ハ二十五人ニ及ベルモノアルヲ見タリト云フ。又タラむほるつノ言ニ據レバ、いんど人カ長期ノ狩獵ニ出立セントスル時ハ、先ヅ一二匹ノ鹿ヲ捕ヘ來テ、酒宴ヲ張リ、其村ノ老人ヲ招イテ彼等ノ爲メニ成效ヲ祈ラシムト云フ。而シテ、モシ數日ニ亘ツテ少シモ獲物アラザル時ハ、最早老衰シテ狩獵ニ從フコト能ハザル老人等若者ノ爲メニ牡鹿ノ肉ヲ調理シ、之ヲ飲マシメテ其ノ成效ヲ祈ルト云フ。又タラむほるつガNOTICEニ就イテ記載スル處ニ據レバ、彼等ガ耕種ヲ始ムルニ當リテハ、必ず先ヅ一定ノ儀式ヲ履ミテ種子ヲ神前ニ捧ゲ、然ル後ニ非ラザレバ決シテ耕種ニ從事セズト云フ。以

上掲ケタル處ハ、僅ニ其ノ二三ノ例ニ過ギズト雖モ、要スルニ此ノ時代ニ於テハ、魔術祈禱ノ類ガ廣ク行ハレ居ルコトヲ知ルニ足ルベシ。次ニ其ノ特徴ト云フベキモノハ、此ノ時代ノ人類ハ、殆ド小兒ト同一ニシテ、先見ノ思想ヲ欠如セルコトナリ。おじぶう、いんど人間ニ傳道セシ或ル宣教師ノ記事ニ據レバ、一月ヨリ三月ニ至ルノ間ハ、彼等ガ食物ノ不足ニ苦ムノ時期ナリ。殊ニ嚴冬ニ於テハ、飢餓ノ爲メ棲タル光景ヲ呈スルコトモ稀ナラズ、而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ、彼等ハ過去ニ於テイテ遠キ處ヲ爲サザリシコトヲ悔ヒ、モシ春ヲ迎フルマテ生キ殘リタランニハ必ズ其ノ生活ノ態度ヲ變更スベシト誓ヘルナリ。シカレドモ春來リ夏來リテ、食物豊カナルニ至レバ、彼等ハ全ク過去ノ苦痛ヲ忘レ、専ラ舞踏遊戯ニ日ヲ消シテ、舊モ將來ノ計ヲ爲スノ念ナキニ至ルト云フ。ろすき、いんどノ記事ニ據レバ、Iroquois人ハ、其ノ住處ノ附近ニ於テ、地中ニ穴ヲ掘リ、草木ノ葉ヲ以テ其ノ底ニ敷キ、其ノ中ニ穀類ヲ貯藏シ、之ヲ蔽フニ又タ草木ノ葉ヲ以テス、シカレドモ、其ノ貯藏ノ量少キガ爲メ、冬期降雪ニ際シテ狩獵ヲ爲シ得ザル場合ニハ、一般ニ飢餓ノ爲メニ餓死スルモノモ少カラズト云ヘリ。Le Jenneガかなだノいんど人ニ就イテ記載セル記事ノ一節ニ曰ク、予ハ彼等ノ仕方ノ過レルヲ告ゲ、且ツ今日安リニ消費スルヨリモ、將來ノ爲メニ貯藏シ置カバ、之ガ爲メ飢餓ニ襲ハルトノ憂ナキヲ得ベシト告ゲヌ。シカレドモ、彼等ハ予ガ言ヲ聞キ、笑ツテ曰ク、明日ハ又タ明日ノ獲物エヨリテ充分ノ食料ヲ得ベシト。シカモ、其ノ實際ニ於テハ、彼等ハ寒サト風トノ外何物ヲモ得ル能ハザルニ至ルト稀ナリトセズト。要スルニ此ノ時代ノ人類ハ、將來ノ事ニ就イテ先見ヲ欠カコト殆ド其ノ一般タリ、然レドモ全ク之ヲ欠如セリトハ云ヒ難シ。殊ニ其ノ精々進歩セル者ニ至リテハ、コノ點ニ於テ頗ル發達セルモノモ少カラズ。例ヘバ北カリナ、いんど人ハ穀倉ヲ有セルガ如キ、又ハちろろき、いんど人ノ村落ニ於テハ、豚、家

禽其ノ他各種ノ材料ヲバ充分ニ貯藏シ居テ、毫モ生活ニ支障ナキ様ノ設備ヲ爲シ居レリ。ト云フガ如キコレナリ。次ギニ注意スベキ特徴ハ、古ノ時代ノ人類ハ共同生活ヲ爲セルコトナリ。彼等ノ間ニ於テハ、殆ト富ノ區別ナシ、モシ飢饉ニ襲ハルハ、各人ニシテ、モシ自己ノ貯藏セル處ヲ消費シ盡サシカ、彼等ハ公共ノ穀倉ニ入りテ隨意ニ其ノ所要ヲ持チ去ルヲ得ルナリ。土地ノ處有權ハ如キモ未ダ發生セズ、只ダ一家族ノ耕作ニ係ル耕地ハ、之ヲ他ノ耕地ト區別スルガ爲メニ、草又ハ其ノ他ノ物ヲ以テ其ノ境界線ト爲スガ如キハ、處有權發生ノ萌芽ヲ見得ルノミ。乍併一個人ノ處有物ハ通常其ノ使用主ニ屬スルモノト認メラレタリ。サレド、コレモ亦タ今日ノ所謂處有權トハ其ノ觀念チ同クセズ、只ダ物ハ其ノ使用者ノ人格ノ一部トシテ考ヘラレタルニ由リテ、此ノ如キ思想チ生ツタルナリ。或ル學者ノ記述スル所ニ據レバ「彼等ノ部落中、何人カ死亡シタル時ハ、其ノ人ニ屬セシ獸皮、弓、器具、小舎 (dwelling) 等一切ノモノヲバ殘ラズ燒キ盡シ、死體ニ向ツテ妖術祈禱ヲ施シ、以テ號泣シ慟哭ス」ト云フ。兎ニ角、彼等ハ一般ニ共同生活ヲ爲セルガ故ニ、從ツテ自利心ニ乏シキノ傾向アリテ、モシ能フベクシバ之ヲ復舊センコトヲ希望スベキ美風ヲ存セリ。乍併、モシ人チシテ充分ニ努力セシメ又タ其將來ノ計ヲ爲サシムルガ爲メニハ、其ノ要具トシテ處有權ノ制度ヲ確立スルノ必要アルモノニシテ、コレ原始時代ノ共產制カ次第ニ廢滅スルニ至リタル所以ナリ。人類ガ未ダ純然タル狩獵時代ヲ脱セズ、只ダ單ニ其ノ發見セルモノヲ以テ其ノ生活ノ資料ト爲スノ時代ニ當ツテハ、商業ノ發達ヲ見ルニ至ラザルヤ明カナリ。然リ、寧ロ其ノ反對ニテ、隣在ノ種族トハ常ニ戰闘チ事トセルナリ。思フニ商業ハ次第ニ發達シ、而シテ戰争ハ次第ニ稀ナルニ至ルハ、實ニ一般社會ノ文明ニ伴フノ現象ナリ。猶ホ茲ニ興味アル

事柄アリ、ソハあめりかノいんど人中ニアリテハ、贈與ト貿易トノ間ニ極メテ密接ナル關係アルコト、コレナリ。彼等ノ社會ニ於テハ、他人ヨリ贈物ヲ受ケンカ、必ズ之ニ答禮スルノ義務アルナリ。かなだノいんど人中ニ宣教師タリシ人ノ記載スル所ニ據レバ、其ノ地ノ土人一日宣教師ニ向ツテ、肉ヲ贈リ來リタリ、然ルニ宣教師ハ彼等ガ必ズ一定ノ報酬ヲ要ムルヲ知リ居タレバ、其ノ求ムル所ハ果シテ何物ナルヤチ問ヒヌ。依ツテ彼等ハ酒及ヒ銃丸ヲ求ムル由答ヘケレドモ、之ヲ與ヘザリケレバ、彼等ハ其ノ持チ來リシ肉ヲバ再ビ奪ヒ去リタリト云フ。思フニ此ノ如キ風習ハ、原始時代ノ人類ニ於テ廣ク行ハレタルモノト如シ。扱テ以上ハ、主トシテ狩獵種族ニ就イテ述ベタルモノナルガ、其ノ大體ノ事柄ハ、漁撈ニ依リテ生活ノ資料ヲ得ツル種族ニモ、其ノマ、適用スルコトヲ得ベシ。乍併、一般ニ漁撈種族ハ狩獵種族ニ比シテ進歩ノ餘地多カリシガ如ク思ハル。蓋シ、獸類ヨリモ魚類ノ方が同一ノ場所ニ於テ比較的永久ニ充分ノ食料ヲ供給シ得ルモノナルガ故ニ、從ツテ漁撈種族ハ永ク同一ノ場所ニ土着シ、又タ戰闘ニヨリテ食料ヲ奪ヒ合フノ必要ナカリシニ由ル也。サレバ魚類捕獲ノ道具ニ就イテ見ルモ、種々ノ道具ヲ發明シテ之ヲ使用スルコトニ熟練シ居レルナリ。現ニさうすし一諸島ニ於ケル住民ハ、四十尋ノ長サアリ、十二英尺以上ノ深サアル「鮮網」ヲ作り居タリト云フコトナリ。モシ會長カ此ノ如キ網ヲ作ル必要ヲ認メタル時ハ、他ノ種族ノ會長ニ相談シテ其ノ助力ヲ請フコトアリト云ヘリ。コレ即チ社會的合同ガ既ニ漸ク發達セントシテ居ル一例ト看做スベキモノ也。之ヲ要スルニ、人類ガ只ダ自然ガ供給スルモノヲ取ツテ其ノ生活ノ資料トシテ居ル間ハ、到底充分ノ發達ヲ遂アルコト能ハザルナリ。人類ガ自然ガ供給スルモノヨリモ、猶ホ多クノ物ヲ必要トシ、從ツテ自然ニ人力ヲ加ヘテ自然ノ寶庫ヲ開發スル爲メ

ニ規則正シキ勞働ヲ爲スニ至ツテ、始メテ社會ノ進歩起ル。カクテ彼等ハ他種族ノモノヲ安リニ殺スコトナク、寧ろ口之ト共同スルニ至ルモノニシテ、社會ハ之ガ爲メニ益々進歩スルニ至ル也。

第二、牧畜時代

扱テ人類ガ食料ヲ得ルガ爲メ、或ハ之ヲ使テ役スルガ爲メニ動物ヲ飼養シカシ乍ラ其ノ當初ハ主トシテ娛樂ノ爲メニ動物ヲ飼養シタルモノハ如ク思ハル。往時ノ旅行家カ記述セル處ニ據ルニ Thomas Chookay 種族ノ一種中ニハ非常ニ澤山ノ鵝カ居ルガ、コレハ誰モ殺シテ食ハナイカラ、ソレデ、ソノナニ澤山居ルノデアアル。モシ誰カ、ソレヲ殺シテ食ベヨウトスルモノガアツテモ、決シテ之ヲ公言シテハナラヌ事ニナツテ居ルト云ヘリ。 Cortés ノ言ニ據レバ、めきしこニ於テハ、只ダ玩賞用ノ禽類ヲ飼養スルガ爲メニ、三百餘人ノモノガ其ノ島主ノ爲メニ雇ハレ居レリト云フ。又々あぶりかノお、わんぼーハ澤山ニ家畜ヲ飼ツテ居ルノミナラズ、餘程肉食ヲ嗜ンテ居ルノデアアルガ、ソレデモ其ノ家畜ハ決シテ食用ニ供スルノテハナクテ、只ダ人ニ見セル爲メニ飼ツテ居ルノ下云フ。要スニ、始メハ娛樂ノ爲メニ飼養シタルモノガ、終ニハ生活ノ資料ヲ得ル爲メノ手段トスルニ至リシモノ、如シ。.....

ヲ見ザルノ結果トシテ、工藝及ヒ奴隸制度ノ如キハ、未ダ充分ナル發達ヲ見ルニ至ラザリシ也。

第三、農業時代

第一ハ、ハジメテ人ノ歴史ニ於テ其ノ一例ヲ見ル。聖書中創生記ノ一節ニ曰ク、
『あぶらはむハ又々多クノ家畜及ビ金銀ヲ有シ居タリ。.....あぶらはむト共ニ行キシる一モモ亦々家畜及ビ天幕ヲ有シ居タリキ。.....マタあぶらはむハる一モニ向ツテ曰ケルヨウ、吾々ハ凡テ同胞タルモノナレバ、願クハワレト汝トノ間、又々ワレノ從ヘタル牧人ト汝ノ從ヘタル牧人トノ間ニ、聊カモ相爭フコトナカラシメン』
又々撒母耳書ニ曰ク、

『マタ之ヲオノレノ爲メニ千夫長、五十人ノカシヲトナシ、マタ其ノ地ヲタガヘシ、其ノ作物ヲ刈ラシメ、マタ武器ト車器トヲ造ラシメン。.....又々汝等ノ田畝ト、葡萄園ト、橄欖園トノ最モ善キトコロヲ取リテ、其ノ臣僕ニ與ヘヨ。』
コレ即チ其ノ證ト爲スベシ。猶ホすべんさーハ其ノ著記述的社會學ニ於テ、へぶりー人ノ古代史ニ就キ、其ノ食物ヲ得タル方法ノ如何ヲバ次ノ如ク分類シタリキ。
『あぢぶと時代以前ノ時代。羊、牛、驢ヲ飼養ス、僅ニ農業ノ萌芽ヲ見ル。
あぢぶと時代。住居土着ノ風起ル、農業漸ク起ルノ兆アリ。
士師時代。じよるだん上部ノ種族ハ猶ホ牧畜ヲ業トシタルモ、其ノ餘ノ種族ハ凡テ農業時代ニ移ル。』

王國時代。小麥及ヒおりーガテ產出スルコト甚ク、多量ノ輸出ヲ爲シ居タリ。
王國二分時代。開拓及ヒ濱水行ハレ、農業益々盛トナル。小麥主トシテ生産セラル。』
序論 經濟行爲ノ發展

第二ノ實例ハ吾人之チけるまゝ民族ニ於イテ見ル。彼等ノ歐洲ニ移住スルヤ未タ牧畜時代ヲ脱セザリシモノニシテ、多クノ家畜ヲ引キ連レタリシナリ、シカルニ後チ幾千モナクシテ、一所ニ土着シテ農耕ヲ營ムニ至レリ。

第三ノ實例ハ英國ノ歴史ニ於イテ見ルヲ得ベシ。此ノ點ニ關シ、教授だぶるゆゑ、ゼー、あし、れ、曰、ク、げ、い、ぜ、る、——彼ハ當時ノ英國ノ状態ニ就イテ委細ノ觀察ヲ爲スベキ多クノ機會ヲ有シタル者ナルガ——ノ記録ニ依リテ判斷スルニ、げ、い、ぜ、る、ノ侵襲セシ時代ニ於イテハ、獨リけんさ州ヲ除外セバ、他ノ地方ハ未ダ牧畜時代ヲ脱セザリシモノト思ハル。……乍併るゝまノ支配ヲ受ケシヨリ三世紀半ヲ經過シタル頃ニハ、既ニ英國ハ農業時代ニ入りタルモノナリト斷定スルコトヲ得ベシト。

第四ノ實例ハ之チぐりーすノ歴史ニ於イテ見ルコトヲ得ベシ。近時或ル學者ノ記述セル所ニ曰ク、げ、い、ま、い、時代ノ社會組織ヲ研究スルニ、此ノ國ニ於イテハ永ク遊牧時代行ハレ、其ノ後周圍ノ事情ノ變化ノ爲メニ遂ニ其ノ終リヲ告グルニ至リタルヤニ思ハル。思フニ中央あじあノ平原ヨリ侵入シ來レル民族ハ、其ノ接觸セシ社會ノ到ル處ニ於イテ新鮮ナル血液及ヒ勇氣ヲ注入シタリシモノナルカ、其ノ民族ノ一部コソ、ヤガテぐりーす及小あじあニ於ケル有力ナル民族トナリタルモノト想像セラルト。乍併、茲ニ一言注意スベキハ、ぐりーす人モ一時牧畜時代ヲ經テ農業時代ニ移リタリトハ云へ、農業上必要ナル動物ヲ飼養セシコトナカリシコト之レナリ。ぐりーす人カ遊牧ヲ爲セシ當時ニ於イテハ、主トシテ羊及ヒ野羊ヲ飼養セシモノニシテ、牛馬及ヒ驢等ノ動物ハ、彼等カ西部ニ移住シ土着スルニ至ツテ始メテ飼養セシモノニ拘ル。

扱テ人類カ一定ノ土地ニ土着シ農耕ヲ以テ其ノ主タル生業トナスニ至リテハ、之カ爲メニ全社會ノ組織ハ上ニ少カラザル變化ヲ起スニ至レリ。第一ニ人口ノ増加ナルモノ起

レリ、思フニ、コレ半ハ生活方法ノ一變ニ本ク結果ナルベケレドモ、其ノ半ハ又タ生活方法チ一變セシメタル原因タルベシ、ソハ兎モ角モ、既ニ人口ノ密度ヲ増スヤ、從ツテ社會的關係及ヒ義務ノ上ニ一變化ヲ起スニ至レリ。人モシ次ニ掲グル一表ヲ瞥見セバ、如何ニ文明ノ進歩ハ人々ノ間ノ關係ヲ益々密接ナラシメ又タ複雜ナラシムルヤノ理ヲ看取スルコトヲ得ベシ。(中略)。

次ヤニ此ノ時代ノ特徵ト云フベキモノハ、奴隸制度ノ發達ナリ。蓋シ既ニ述アルカ如ク、農業時代以前ニ於イテモ、既ニ奴隸ナルモノ存在シ居タルナリ、然レドモ狩獵ヲ事トシ又ハ牧畜ヲ業トセル時代ニ於イテハ、多數ノ奴隸ヲ處有スルコトハ寧ロ不便ニシテ決シテ利益アルコトニ非ラス、ソレ故敵ヲ捕虜トシタル場合ニハ多クハ之ヲ殺戮シタルモノトス。らつち、一ノ言ニ據レバ東部あふりカニ於ケル Masai 人ハ牧畜種族ニシテ、彼等ハ各々一定ノ家畜ヲ所有シ之ニ依リテ生活ノ資料ヲ得、シカレドモ自己以外ニ奴隸ヲ養フベキ材料モナク又タ奴隸ニ分ツベキ仕事モナキ故ニ、彼等ハ敵ヲ捕虜トシタル時ハ、凡テ之ヲ殺戮スルヲ常トス。シカルニ、彼等ト相接セル Waksaba 人ハ農業及ヒ商業ヲ解セル種族ニシテ、奴隸ヲ使用シ得ルカ故ニ、決シテ捕虜ヲ殺戮スルコトナシ。』又タ之チぐりーすノ古史ニ徵スルモ、其ノ時代ヲ經ルニ從ツテ、奴隸制度ノ重要益々加ハリ來レルヲ見ルナリ。カノほ、い、ま、い、時代ニ於イテハ、捕虜ノ中男子ハ凡テ殺戮セラレタリ、シカルニ獨リ婦女及ヒ小兒ノミハ殺戮セラレ、コトナクシテ奴隸トセラレタリ、思フニ、當時ノ社會タル其ノ組織未タ鞏固ナラズ、從ツテ成年ノ男子ヲ收容スルノ危險ヲ感シタルカ故ニ、既ニ奴隸ノ必要ヲ悟リシモ、猶ホ捕虜ノ一部ハ之ヲ殺戮シタルナリ。

シカルニ社會力更ニ一段ノ進歩ヲ爲スヤ、奴隸制度ハ社會上甚々重要ナル制度ノ一トナレリ。例ヘバ、あ、ぢ、ぶ、ぢ、ぐりーすノ後代、ろ、い、ま、及ヒ中世ニ於ケルより、る、げ、い、の、如キ即チ然

り。しなニ於イテハ、今日ト雖モ、男女兩性ノ奴隸家專用ノ目的ニテ公然賣買セラレシム
 アリ。思フニ今日ニ於テハ、暫ク道徳上ノ善惡ノ問題ヲ措イテ考ヘズトスルモ、自由ノ
 勞働ハ奴隸ノ勞働ニ比シテ其ノ效果遠ニ優レルコト明カナルカ故ニ、奴隸制度ノ是非ハ
 今更論ズルマデモナシ、然レドモ經濟社會ノ未ダ進歩セザルニ當ツテハ、人ヲシテ充分ナ
 ル勞働ニ服セシムル爲ニハ必ス之ヲ強制スルノ必要アリタルモノニシテ、コノ點ヨリ觀
 察スレバ、奴隸制度ハ社會經濟ノ進化ノ途中ニ於テ正ニ欠クベカラザルノ制度ナリ。
 勤勉節儉ノ氣風ハ社會力大ニ進歩シタル後始メテ人類ノ性情トナリタルモノニシテ、ソ
 ノ故ニ至ラザル間ハ、奴隸制度ノ如キ社會ニ欠クベカラザル制度ナリシナリ。
 大ギニ此ノ時代ノ特徵ト云フベキモノハ、土地私有制度ガ漸次發達セルコト之レナリ。
 思フニ、土地私有制度ハ如何ナル順序ニヨリテ發生シ來レルモノナルヤ。コノ問題ハ經
 濟史家ノ間今日未ダ論争ノ決セザル所ナリ。然レドモ吾人ハ、今マ只ダ其ノ結果如何ヲ
 研究スレバ足ル。而シテ土地私有ノ一事ハ、土地ノ總生産ヲ増加スル上ニ於テ如何ニ
 電力ヲ有スルヤノ說明ニ至リテハ、いんぐらんジンニ於ケル清教徒ガ嘗テ試驗セシ處
 ナ紹介スルヲ以テ最も適切ナリト爲サン。ぶらざん、とハ其ノ著 Of Plymouth Plantation
 ニ於テ、先ヅ共同耕作ノ制度ノ下ニ於テハ、充分ノ食料ヲ得ルコト如何ニ困難ナリシ
 ヤチ記述シ、次イテ左ノ如ク記述セリ。

「是ニ於テカ、如何ニセバ多量ノ穀物ヲ得、如何ニセバ良好ノ收穫ヲ得テ、道般ノ困難ヲ
 救フコトヲ得ベキヤトノ問題ハ人々ノ注意ヲ惹クニ至レリ。而シテ其ノ解決ニ至リ
 テハ種々ノ論争アリタレドモ、遂ニ首領ノ主張ニ依リテ各人別々ニ穀物ノ生産ヲ爲シ、
 以テ自己ノ用ニ充ツベキコトニ一決シ、其ノ他ノ事項ハ凡テ從前ノ如クスルコト、爲
 セリ。カクテ土地ヲ家族ノ口數ニ從ツテ分配シ、以テ各自ノ使用權ヲ認メタリ。シ

カルニ、コノ方法ハ久シカラズシテ最良ノ成效ヲ齎シタリ。即チ之カ爲メニ、各人ハ熱
 心ニ其ノ勞働ニ服シタリシカバ、收穫ハ甚シク増加シ、從ツテ從前ノ困難ヲ一掃スル
 コトヲ得タリ。云々。

思フニ、此ノ如キ經驗ノ結果、土地ノ私有制度ハ世界到ル處ニ認メラル、ニ至リシナリ。
 モシ夫レ土地私有制度ノ必要ナル理由ニ至ツテハ、猶ホ之ヲ詳説スルノ必要アルベキモ、
 ソハ暫ク措イテ論セズ。シカレドモ、土地私有制度ヲ濫用シテ、其ノ結果土地兼併ノ弊ヲ
 生ズルガ如キハ、最も悲ムベキ現象ニシテ、敢テ私有制度ノ必要ノ結果ニ非ラザルコトハ、
 茲ニ一言シ置クノ要アルヲ見ル。土地ハ可成社會多數ノモノニヨリテ處有セラレ居ル
 チ必要トスルナリ、社會多數ノモノニシテ、モシ土地ヲ所有センカ、各人獨立自營ノ精神ヲ
 喚起スルモノニシテ、之カ爲メ社會ノ健全ナル進歩ニ貢獻スル處モ少カラズ。モシ夫レ
 其ノ議論ノ詳細ハ本書ニ於テ述アル限リニ非ラズ。
 農業時代ニ於テハ貿易ハ未ダ充分ニ發達セザルナリ。各村、各部落ハ、凡テ孤立、自足ノ經營
 ナレリ。各團體ハ其ノ必要トセル物ヲ各自ラ産出シ又ハ製造セリ。思フニ當時ノ社
 會ニ於テハ人々ノ慾望簡單ナレバ種々ノ貨物ヲ必要トスルコトナシ、而シテ其ノ生活
 ニ必要ナル食物、衣服、燃料ノ類ハ凡テ之ヲ自家ニ於テ生産セシモノ故、自ラ貨物交易ノ
 必要ヲ感セザリシナリ。カノのるまん人ノ戰時時代ニ於ケル英國ノ状態ハ、コノ點ニ關
 シテ好個ノ實例ナリ。或ル學者ノ記載スル所ニ據レバ、當時英國ノ莊園ニ於テハ、一村
 ニ必要ナル事物ハ、土地ノ耕作及ヒ家畜ノ使用乃至蕃殖ノ手段ニ依リテ殆ド満足セラレ
 タリ。當時匠人又ハ職工ノ類アラザリシトニハ非ラザレドモ、是等ノモノハ只ダ從來ノ
 必要物ヲ充分ニ供給センガ爲メニ存在セシモノニシテ、決シテ或ル新ナル嗜好ノ滿
 足ニ應センガ爲メニハ非ラザリキ。……蓋シ紙師、治工、工匠ノ類ハ既ニ獨立セル職工ナリ

シナラン、然レドモ其ノ他ノモノ、例ヘバ紡績、織、編物、園藝、釀酒、製糖、料理等ニ關スル職人ハ其ノ後久シキ間猶ホ單ニ家庭内ニ於ケル使婢タルニ過ギザリキ。勿論一二ノ商業ハ既ニ存在セシコト明カナリ。例ヘバ鹽、燐石ノ類ハ自家ニ於イテ生産セザルヲ常トセリ、而シテ上等社會ノモノハ行商ヨリシテ奢侈品ノ類ヲ購買シ居タリシナリ。經濟社會ノ未タ發達セザリシ當時ニ於イテハ商業力寧ロ例外タリシ事ハ、獨乙語ノ *tanachen* 英語ノ *Dach* (共ニ交易ト云フ)ノ意ガ、モトモト *cheat* 騙着ト云フノ意ナリシニ依リテ之ヲ知リ得ベシ。

此ノ如ク商業ハ此ノ時代ニ於イテハ充分ニ發達セザリシト雖モ、序ヲ追ウテ團體間ノ交易增加スルニ至レリ、而シテ其ハ經過ハ凡ソ大ノ如クナリシナラン。既ニ交易ノ必要ヲ感ズルニ至リテモ、猶ホ土地處有者ハ出來得ル丈ハ自己ノ土地ヨリ其ノ必要トセル物ノ生産ヲ爲サント試ミ居レリ。然レドモ遂ニ其ノ意ヲ達セザルヲ知レニ及ンテハ、彼等ハ其ノ特ニ熱達セルモノ、又ハ其ノ地方ノ田畑、森林、又ハ河海ニ於テ特ニ生産上ノ便宜ヲ有スルモノヲバ獲ビ、其ノ物ヲ必要以外ニ生産ス。カクテ、或ルモノハ穀物ヲ、或ル者ハ酒ヲ、或ル者ハ鹽ヲ、或ル者ハ魚類ヲ、或ル者ハりんじん、其ノ他ノ工業品ヲ生産スルニ至ル也。而シテ最モ便利ナル位置ヲ占ムル土地ハ、ヤガテ商業ノ中心點トナリ、遂ニハ都府トナルニ至ルナリ。當時ノ英國ニ於イテハ、約八十ノ都府アリト云フコトナルガ、其ノ都府ナルモノハ、今日ノ村落ノ稍々大ナルモノニ過ギザリキ。而シテ其ノ村落ト分チタル點ハ、只ダ、鏡ヲスニ土垣ヲ以テシ、又ハ土堤ヲ以テシタルニ在リト云フ。蓋シコノ時代ニ於ケル所謂都府ナルモノハ多クハ此ノ如キモノタルニ過ギザリナリ。ソハ兎モ角、此ノ如キノ都府ハ經濟社會ガ正ニ一新時期ニ入ラントスルノ前、中世ヲ通シテよりつげ諸國ニ發達セソ所ノモノナリ。

交換的取得ノ發達

ニ就イテわぐなノ説ク所ハ左ノ如シ

社會ノ未タ發達セザル當時ニ於イテハ、財ノ取得方法中其ノ主要ナルモノハ原始的取得(自己生産)ニシテ、之ニ附隨シテ、傳來的取得方法中交換以外ノモノ行ハレタルニ止ル。傳來的取得方法中カノ交換ニ至リテハ全ク行ハレズ、ダトヒ行ハル、モ極メテ狭少ナル範圍タルニ過ギザリキ。

シカルニ社會ノ發展ニ伴フテ、或ル狭少ナル範圍内ニ於イテハ、分業行ハレ、交換モ亦タ或ル程度マテハ行ハル、ニ至リタリ。而シテ、モシ法制上ノ保護稍々確實ニシテ、且ツ人々ノ交通ニ對シ自然ノ障害モ少キ場合ニ於イテハ、遠距離ノ住民間ニ於イテモ、又タ國民ト國民トノ間ニ於イテモ、交換ナルモノ漸ク行ハル、ニ至ルナリ。乍併、交換ノ初期ニ於イテ其ノ目的物トナリシモノハ、價值大ニシテ重量容積ハ共ニ小ナル貨物(即チ主トシテ奢侈品)ノミナリキ。シカルニ社會益々進歩スルニ從ヒ、交換益々廣ク行ハレ、遂ニ凡テノ人ハ或ル一種類ノ貨物ノ生産ニノミ專從シ、始メヨリシテ交換ヲ目的トシテ貨物ノ生産ヲ爲スニ至ルモノニシテ、カクテ原始的取得ハ大ニ廢セラレ、之ニ代リテ交換的取得ハ大部分ヲ占ムルニ至リタリ。

カクノ如クニシテ分業廣ク社會ニ行ハル、ニ至ルヤ、交換ハ規則正シク行ハレ、少クトモ或ル程度マテハ計畫的ニ行ハル、コトト爲ル、今此ノ如クニシテ生シ來レル人々ノ關係ヲ稱シテ交易、又ハ經濟的取引ト云フ。而シテ或ル貨物ノ規則正シク販賣セラル、範圍ヲ指シテ市場ト云フ。交換セラル、所ノ經濟上ノ財ハ之ヲ交換財ト云ヒ、交易ノ目的物タルモノ之ヲ交易財ト云フ。

交易ノ發達ハ主トシテ次ニ掲グル三條件ニ依リテ左右セラル。

序論 經濟行爲 經濟行爲ノ發展

一、技術ニ於ケル經濟上ノ原因、即チ慾望ノ増加スルコト多種トナルコト、進歩スルコト
 二、法制上ノ原因、即チ法律上ノ保護ノ進歩改良セラルルコト
 三、技術上ノ原因、即チ運搬通信ノ機關ガ發達スルコト

交換發展ノ三時期

ハ、後段綜合經濟ノ發展ヲ述アルノ一節ニ於イテ、くらいんえひたノ著書ノ一部ヲ抄録シテ附録シ置ケリ、就イテ看ルベシ。猶福田博士ノ國民經濟原論第二篇第二章、交換ノ形態ヨリ見タル經濟組織ノ發展、一〇六——一一三頁ヲ見ヨ。

第四章 經濟

第一節 經濟ノ觀念

經濟行為ノ觀念既ニ明瞭タリ、是ニ於イテカ進ンテ經濟ノ觀念ヲ闡明セント欲ス。

經濟トハ何ゾヤ日ク、多數ノ經濟行為ガ一定ノ秩序ノ下ニ統一カレテ一體ヲ爲ス時之ヲ名ケテ經濟ト云フ。

思フニ經濟ノ觀念ハ、從來諸學者ノ最モ困難トセシ所ナレトモ、予ハ此ノ極メテ簡單ナル定義ヲ以テ能ク其ノ全體ヲ蔽ヒ得タリト信ス。請フ少シク之カ説明ヲ試ミン。

第一ニ注意スヘキハ、經濟ハ個々ノ經濟行為ニ非ラスシテ、其ノ集合體タルコトナリ。從來學者ハ往々此ノ二者ヲ混同シ、經濟行為即チ經濟ト云フカ如キ文字ヲ用ヒタリト雖モ、余ハ其ノ決シテ同一ノ觀念ニ非ラサルヲ信ス。思フニ二者ノ差ハ個人ト國民トノ差ノ如キカ。多數ノ個人カ一定ノ關係ヲ有シ一定ノ團體ヲ爲スニ當ツテ、茲ニ國民アリ、多數ノ經濟行為カ一定ノ秩序ヲ有

シ一定ノ計畫ノ下ニ統一サル、ニ至ツテ、茲ニ經濟ノ發生ヲ見ル。サレハ固ヨリ個人ヲ離レテ國民アルニ非ラス、經濟行爲以外ニ經濟アルニ非ラスト雖モ、シカモ個々ノ個人ハ國民ニ非ラサルカ如ク個々ノ經濟行爲ト經濟トハ同一ノ觀念ニ非ラス。

第二、經濟トハ多數ノ經濟行爲ノ集合タルハ前言ノ如シ、乍併獨立セル個々ノ經濟行爲ヲハ單ニ器械的ニ集合シテ觀察シタレハトテ經濟ヲ形成スルニハ非ラス。多數ノ經濟行爲カ相集ツテ一ノ經濟ヲ組成スルカ爲メニハ、是等ノ經濟行爲タル必ス一定ノ秩序計畫ノ下ニ統一サレテ一體ヲ爲シ居ルコトヲ條件トナス。例ヘバ、之ヲ國民經濟ニ就イテ論センニ、茲ニ國民アリトセバ必ズヤ其ノ國民ヲ組成スル各個人ノ經濟行爲アリ。然レドモ各個人ノ經濟行爲アリタリトテ必ズシモ國民經濟アリト云フベカラズ、各個人カ經濟上一定ノ連絡關係ヲ有シ、從ツテ國民全體ノ經濟行爲カ不可分のニ一體ヲ組成スル時、茲ニ始メテ國民經濟アリ、モシ精密ナラサル比喻ヲ許サバ、經濟トハ經濟行爲ノ器械的集合體ニ非スシテ有機的集合體ナリ、經濟行爲ノ混合物ニ非ラズシテ化合物ナリ。サレハ、經濟ヲ以テ單ニ經濟行爲ノ集合ナリト爲スハ、未ダ

盡サ、ルノ説ト爲スベシ

第三、經濟ト經濟行爲トカ其ノ觀念ヲ異ニスルコト上述ノ如シ。サレハ原始人類ニアリテハ經濟行爲アリト雖モ經濟ナキナリ。

思フニ人類カ經濟ヲ爲スニ至ルノ條件ハ二アリ。其ノ一ハ既ニ述ヘタル如ク、財物ノ存在量ト慾望ノ存在量トカ其ノ平均ヲ保タサルニ在リ。財物ニシテ存在スルコト甚タ多ク慾望ハ之ニ反シテ甚タ少ク、從ツテ現在又ハ將來ニ於テ何等ノ犠牲ヲナスコトナクシテ容易ニ其ノ慾望ヲ満足スルコトヲ得ンカ、經濟ナルモノ起ルノ必要ナク又起ラサルナリ。

例ヘハ太古蠻民ノ社會ニ於テハ、彼等ノ有スル慾望ハ極メテ低度ニシテ少量ナリシト同時ニ、其ノ慾望ニ比較シテハ、割合ニ多クノ財物カ自然ニ依リテ供給セラレタリシカバ、彼等ハ財物ヲ獲得スルニ當リテ、多クノ犠牲ヲ爲スノ必要ナカリシナリ(彼等ノ經濟行爲ハ主トシテ「占取」ニ限ラレタリ、而シテ占取ハ比較的ニ犠牲ヲ要スルコト最少キモノタルハ言フ待タサラン)從ツテ彼等ハ財物ヲ獲得スルニ當リテハ、只タ必要ニ應シテ個々ノ經濟行爲ヲ爲セシニ止リシモノニシテ、是等ノ經濟行爲全軀ニ通シテ別ニ一定ノ計畫ヲ立ツルノ

必要ヲ成スルコト少カリシナリ。
コレカ故ニ彼等ノ間ニ於イテハ、單ニ個々ノ經濟行爲アリシニ止ル、是等ノ經濟行爲カ有機的秩序的連絡ヲ爲スニ至ラス。コレ其ノ經濟ヲ缺如セシ所以ナリ。

次キニ人類カ經濟ヲ爲スニ至ル第二ノ條件ハ其ノ意識的生活ヲ爲スコトナリ。タトヒ財物ノ存在量ト慾望ノ存在量トカ平均ヲ保タスシテ、相當ノ施設ヲ爲サ、レハ其ノ生存ニ障害ヲ來スノ事實アリトスルモ、モシ彼等ニシテ其ノ事實ニ注目スルニ至ラス、或ハ之ニ對シテ相當ノ施設ヲ爲スノ必要ヲ悟ラサルニ於テハ、彼等ニ經濟ノ觀念ヲ發生スルコトナシ。然レトモ、モシ彼等ニシテ現在又ハ將來ニ於ケル財物獲得ノ必要ト其ノ困難トヲ比較シ、當ニ現在ノミナラス將來ノ事ヲモ慮ルニ至ラハ、茲ニ始メテ經濟ノ發生ヲ見ル。思フニ原始時代ノ人類ハ比較、先見ノ觀念ヲ缺如ス、コレ彼等ノ間ニ經濟ヲ缺如セシ原因タリ。

經濟ハ經濟行爲ノ集合體ナリ

故ニ經濟行爲ヲ離レテハ、以テ經濟アリト思惟スル勿レ。木材ヲ集メテ家屋成ル、然レドモ木材以外ニ家屋

サルニ非ラズ。木材ガ一定ノ形式ヲ保チテ集合セシ時、ソノ集合體ヲ假リニ名ケテ家屋ト云フ也。經濟行爲ノ經濟ニ於ケル亦々此ノ如シ。

經濟ノ觀念ニ關スル從來ノ學

蓋シテハ、既ニ所謂消費ヲ以テ經濟行爲ニ非ラズト爲シ、
タリ、故ニ自然ノ結果トシテ、又々之ヲ經濟ノ範圍外ト爲セリ。コレ余ガ他ノ學者ト意見ヲ異ニスル要點ナリ。思フニ、
ニ於イテ異レリ。彼曰ク

經濟主義ニ據リ、一定ノ計畫ニ本キ、慾望満足ノ目的ニテ財物ヲ獲得シ使用スル持續的行爲ノ總體ニシテ、慾望又ハ慾望満足ノ一定ノ範圍内ニ包含セラレ又ハセラルト認ムベキモノハ、之ヲ稱シテ經濟ト云フ。Der Inbegriff der auf fortgesetzte Beschaffung und Verwendung von Gütern zur Bedürfnisbefriedigung gerichteten, planvoll nach diesem ökonomischen Prinzip erfolgenden Arbeitstätigkeiten in einem geschlossenen oder geschlossenen gedachten menschlichen Bedürfnis- und Befriedigungskreis ist (im allgemeinsten Sinne des Wortes) die Wirtschaft. — Grundlegung, I. S. 81.

金井博士ノ定義亦タ殆ド同様ナリ、曰ク

此主義(經濟主義)ニ據リ、一定ノ計畫ニ基キ全體ニ於テ規則正シキ順序方法ニ由テ慾望ヲ満足セシメンガ爲メ、經濟上ノ財貨殊ニ貨物ヲ獲得シ使用スルヲ以テ目的ト爲ス所ノ人類ノ活動ヲ稱シテ經濟又ハ經濟的活動ト云フ。此種ノ活動ノ總テニシテ慾望ト其ノ満足トノ範圍内ニ在リテ、自ラ一個ノ系統ヲ爲シ又ハ一個ノ系統ヲ爲セリト認メサル可キモ、ノヲ稱シテ之ヲ社會經濟又ハ國民經濟(廣義)ト曰フ(社會經濟學第一編一〇七頁)。

經濟トハ人類ガ外界ノ財ヲ以テ其ノ需要ヲ満足スルガ爲メニ行フ所ノ計畫的活動ナリ

[Unter Wirtschaft verstehen wir die planmässige Thätigkeit des Menschen, um seinen Bedarf an äusseren Gütern zu befriedigen.]—System, Bd. I, S. 4.

氏モ亦々單ニ需要トノミ云ヒテ、之カ區別ヲ爲サザルナリ。
福田博士モ亦々同様ノ誤解ニ陥レリ曰ク。

經濟トハ一時點ニ向ツテ財ヲ獲得スルバカリテ無クシテ、長イ時間ニ涉ツテ慾望充足ニ必要ナル財ヲ得立ニ其ノ得々財ヲ蓄積シテ蓄積シタ財ヲ其時間内ニ慾望充足ノ爲ニ分賦スルコトデアアル……(國民經濟原論、二八頁)

氏モ亦々慾望充足トノミ云ヒテ、慾望ニ種類アルニ想到セザル也。
ち一ちあるハ經濟ヲ定義シテ曰ク

一主體ノ行フ經濟行爲ノ全部ヲ單位トシテ觀念スル (als Einheit vorstellen) トキハ茲ニ經濟ノ觀念ヲ生ズ。(Theoretische Sozialökonomik, S.159)

又曰ク

經濟トハ一主體カ其ノ需要ヲメ財物 (Sachgüter) ナリテ満足セシムル行爲ノ全體ナリ。
吉野博士ハ拙著經濟學上ノ根本觀念ヲ批評サレタル文章ノ中ニ於イテち一ちあるト同一ノ斷案ヲ下サレタリ。

余思フニ經濟ノ觀念ニ人格ヲ必要トセシハ誤ナリ。モシ氏ノ說ニ從ハハ國民經濟ナルモノハ經濟ニ非ラザルコトイハレドモ、コレ明カニ不都合ナリト云ハザルベカラズ。又ち一ちあるハ慾望ノ一種トシテ經濟上ノ慾望ナルモノアリテ、コレモノカ經濟行爲ノ觀念ヲ定ムルニ就キ重要ナル關係アルコトヲ觀メ乍ラ消費チモノ物ニ對スル慾望即チ經濟上ノ慾望ノ衝動ニ出ズル行爲ニシテ、經濟行爲ナリト爲シ、從ツテ之テ經濟ノ中ニ包含セシメタルハ違謬ナガラ誤謬ト云ハザル可ラズ。

乍併ち一ちあるガ財物 (Sachgüter) ナリテ、經濟行爲又ハ經濟ノ觀念ニ欠クベカラザル要素ト爲セルハ、余ノ大ニ賛成スル所ナリ、コレ點ニ就キ氏ノ次ノ如ク論ジタリ。
……immer tritt uns das Merkmal „Sachgut“ als das entscheidende entgegen. Das Streben nach immateriellen Gütern fällt nicht in die Sphäre des „Wirtschaftens.“ Niemand sagt, dass er wirtschaftet, wenn er in die Kirche geht, das Museum besucht, eine Badereise macht. Und Niemand rechnet, wenn er Wirtschaft im Sinne von „Erwirtschaftetes“ gebraucht, erworbene immaterielle Güter, wie Erbauung, Bildung, geistige und gemüthliche Frische ein. (S. 160).

又曰ノリ曰ク
Ur dadurch, dass man sich des Merkmals „Sachgut“ bedient, kann eine Absonderung des wirtschaftlichen von dem übrigen menschlichen Thun erfolgen. Dies Merkmal ist schlechterdings unentbehrlich aber auch ausreichend.
財物ニ對スルノ行爲ナルヤ否ヤノ標準ハ、經濟行爲トシカラザルモノトナ區別スルニ際シ實ニ欠クベカラザルモノナレドモシカシ此ノ一事ニテ充分ナリトハ彼ノ意見ナリ
カクテ、彼ハ經濟ヲ定義スルニ當リ「計画的ナルコト」又ハ「努力」等ノ文字ヲ用フルハ誤ナリトシテ論ジテ曰ク

Falsch ist es, die Merkmale „Planmässigkeit“ und „Arbeit“ in die Definition hereinzuziehen. Der Lazaroni, welcher in der Regel faulenz und nur „per occasione“ dem Erwerb nachgeht, wirtschaftet auch, nur in anderer Weise wie der Dollarjäger. Der Corporationsreider wirtschaftet ebenso wie der Tagelöhner. (S. 160).

大キニ又々分限ノ制限アルコト又ハ「經濟主義ニ據ルコト」等ノ文字ヲ用フルハ不可ナリトシテ論ジテ曰ク

モノニ入ルノ云ヘルカ如ク「經濟トハ……物ニ對スル實地的理性ノ實行ニシテ、其ノ物々
 個人ノ生活上ニ於ケル需用ニ比較スルトキハ一定ノ制限アルモノナルコトヲ要スト
 センカ、甚シキ不都合ヲ生ズルナリ。例ヘバ茲ニ物アリ其ノ數量限リナク存在スト雖モ
 人ハ之ヲ採取シ移轉セシメ又使用シ消耗スルコトヲ爲シ得ベシ、カクテ是等ノ行爲ハ凡
 テ經濟ト云ヒ得ルナリ。又タトヒ物ノ數量ハ制限アリトスルモ、コレニ向ツテ主體が慾
 望ヲ起シソノ慾望ヲ満足センカ爲メニ一定ノ行爲ヲ爲スニ非ラザレハ、經濟ナルモノヲ
 生ゼサレバナリ。

或ハ又經濟定義——最少經濟主義——ナル文字ヲ用フルモノアレトモ、コレ亦非ナリト
 云フベシ。例ヘバわが如クハ、經濟トハ慾望ヲ満足センカ爲メニ物ヲ連續シテ獲
 得シ消費スルコトニシテ其ノ行爲タルヤ經濟主義ニ從フテ (Planvoll) 計画的ニ行ハルヘ
 キモノタルコトヲ要スト云ヘドモ、コレ誤ナリ。
 主體が規則立チテ行動スルカ又ハ規則立タズシテ行動スルカ、或ハ凡テ勞働スルカ他人
 ナ使役スルカ等ハ凡テ之ヲ論スルノ必要ナシ苟クモ彼ノ財物ニ對スル慾望ヲ充スノ行
 爲タル以上ハ凡テ之ヲ經濟ト云フ也(二六〇)——一六一頁

第二節 經濟ノ種類

經濟主體トハ既ニ述ヘタルカ如ク、經濟上ノ慾望ヲ有スル人格者ナリ。人格
 者トハ意思ヲ有スルモノ、謂ナリ、既ニ述ヘタルカ如ク慾望トハ或ル目的ヲ
 達セントノ意思ナリ、コノ意思ヲ有スルモノヲ經濟上ノ人格ト云フナリ。

經濟主體ノ最モ簡單ナルモノハ一個ノ自然人ヨリ成レルモノナリ。シカシ
 乍ラ、一個人カ孤立單獨ノ力ニテ成シ得ル事業ハ甚タ少シ、是ニ於イテカ彼等
 ハ一定ノ經濟的慾望ヲ満足センカ爲メニ相集ツテ團體ヲ爲スニ至ル。此ノ
 如クニシテ團體ヲ組成スル時ハ團體ソノモノニ意思ヲ生シ團體ハ人格者タ
 ルノ性質ヲ有スルニ至ル。之ヲ經濟上ヨリ論スレハ多數ノ自然人相集リテ
 更ニ一個ノ經濟主體ヲ形成スルニ至ルナリ。
 サレハ、經濟主體ハ多數ノ人(自然人)ヨリ成ルコトアリ、或ハ單一ノ人ヨリ成ル
 コトアリ。今、此ノ經濟主體ノ性質上ハ差異ヲ標準トシテ、經濟ヲ分類スル
 時ハ、單一經濟及ヒ共同經濟ノ區別ヲ爲スコトヲ得ヘシ。

單一經濟 (Einzelwirtschaft) トハ、單一ノ人ヨリ成レル經濟主體カ營ム所ノ經濟
 ナリ。
 共同經濟 (Gemeinwirtschaft) トハ、多數ノ人ヨリ成レル經濟主體ノ營メル經濟ナ
 リ。

多數ノ自然人カ集リテ一個ノ經濟主體ヲ形成スルニ至ルハ、或ハ法律上政治
 上ノ強制ニ由レルコトアリ、或ハ全ク各個人ノ自由意思ニ出ツルコトアリ。

人モシ此ノ點ニ關スル差異ヲ標準トスル時ハ、共同經濟ハ更ニ之ヲ分チテ強
制ハ共同經濟及ヒ自由ハ共同經濟トハ二種ニ分ツコトヲ得ヘシ。

家族經濟ハ單一經濟ナリヤ

トノ疑問ハ學者間ニ議論ノ岐ル、問題ナリ。乍併予ハ之
ヲ以テ單純ナル事實論ト看做スモノナリ。詳言スレバ家
族ノ制度ハ時ヲ異ニシ國ヲ異ニスルニ依リテ同カラズ故ニ或ハ單一經濟タルコトアリ、タ
ラザルコトアリ、一概ニ其ノ何レニ屬ストモ斷言スベカラズ。或ル時代ニ於テハ家長ノ
權力殆ト絶對無限ニシテ、其ノ妻子ハ殆ト自由獨立ノ行動ヲ爲シ得ザリシ時代アリキ。此
ノ如キ時代ニ於テハ家長ノミガ經濟主體タリ、家族ハ固ヨリ勞動ニ從事スベシト雖モ、ソ
ハ自己ノ經濟的慾望ヲ滿サンガ爲メニ非ラズシテ只ダ家長ノ經濟的慾望ヲ滿サンガ爲メ
家長ニ使役セラレタルニ過ギズ。從ツテ、此ノ場合ニ於テハ家長ノ財產アリテ家族ノ財
産ナシ。予ハ之ヲ目シテ單一經濟ト云フナリ。コノ場合ハ家族經濟ト云ヘドモ、實ハ家長
經濟ニシテ、眞實ノ家族經濟ナシ。之ニ反シ、或ル時代ニ於テハ、家族ノ總員ガ相合シテ始
メテ家族經濟ノ主體ヲ形成スルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、家族ニ屬スル財產ア
リ、而シテ其ノ經濟ハ共同經濟タリ。乍併、家族ノ總員ハ相合シテ家族經濟ノ主體ヲ爲スト
同時ニ、家族ノ各員ハ別ニ又タ獨立シテ各々一個ノ經濟主體トナリ以テ各自ニ經濟ヲ營ム
場合アリ。此ノ場合ニ於テハ、家族ノ財產ノ外ニ、親子夫妻各自ノ財產アリ、而シテ各自獨
立シテ營ム所ノ經濟ハ單一經濟ニシテ、共同經濟タル家族ノ經濟以外ニ獨立スルモノナリ
ト思フ。

單一及び共同經濟ノ區別ニ關スル久ノ說明

先ヅくらいんをひたりノ說明ヲ掲ゲ。
讀者ハ之ニ依リテ予ノ說明ノ足ラザル

處ヲ補イ、又タ予ノ説ト異ル所ハ互ニ比較シテ予ガ説ノ當否ヲ批判セラルベシ

各種經濟ノ目的トスル所ハ——既ニ述ベタルガ如ク——經濟主體ノ需要ニ應ズルニ在
リ、今マ此ノ經濟ナルモノハ或ハ單一個人ニ依リテ行ハル、コトアリ、或ハ多數ノ人ノ
共同ニヨリテ行ハル、コトアリ、カクテ經濟ハ分レテ單一經濟個人經濟又ハ私經濟、及ヒ
共同經濟ノ二ト爲ル。

●●●●●
單一經濟 單一經濟ナル名稱ハ、普通個人經濟私經濟ナル名稱ト同意義ニ用ヒラル、者
ニシテ、單一ノ人ニヨリテ行ハル、經濟ヲ意味スルナリ。乍併、コノ點ニ就キ注意スベキ
ハ「經濟ヲ行フ」ト云フ語ニハ、二種ノ意義ヲ含メルコトナリ、思フニ世人多クハ此ノ點ニ就
イテ注意セザルガ故ニ其ノ結果トシテ種々無益ナル論争ヲ開クニ至レルナリ。「經濟ス」
又ハ「經濟ヲ行フ」ト云フ語ハ「經濟ニ必要ナル凡テノ作業ヲ取り行フ」ト云フノ意ニモ解シ
得ベシ。而シテ此ノ意味ニ從ヘバカノ孤島ニ於ケル者ハ、其ノ經濟ノ外、世ニ個人經
濟又ハ單一經濟ト稱スベキモノアラザラン。其ノ他ノ經濟ニ至リテハ、皆之ヲ共同經濟
ト稱スベシ。蓋シるびんそんニ非ラザル以上ハ、何人ト雖モ他人ノ助ケヲ籍ラザルモノ
ナケレバナリ、例ヘバ所謂獨身生活ヲ爲シツ、アルモノト雖モ、衣服ノ洗濯其ノ他ニ於テ
テ必ズヤ多少他人ノ力ヲ借リツ、アルナリ、カノ乞食ノ如キニ至リテモ全ク他人ノ力ヲ
借ラザルモノナリト云フコト能ハザルナリ。

次ギニ或ル經濟ヲ觀察スルニ當ツテ「其ノ經濟カ果シテ何人ノ計算ニ於テ行ハレツ、
アルヤ」ヲ標準トシテ經濟ヲ區別スルコトナリ、コレ即チ「經濟ヲ行フ」ト云フ語ノ第二義ニ
シテ、コノ意味ヨリ經濟ヲ分テハ、所謂單一經濟又ハ個人經濟ト稱シ得ベキモノ甚ダ多シ。
思フニ此ク如キ區別ハ別ニ重キヲ置クノ必要ナシト雖モ、只ダ世上ノ學者往々ニシテ或
ハ家族經濟ヲ以テ單一經濟トナシ、或ハ共同經濟トナシ、之ニ就イテ種々ノ論争ヲ爲スカ

共同慾望ヲ満足センカ爲メ自ラ事業ヲ營ムニ至ルコトアルヲ知ルベシ。
 乍併共同ノ慾望ヲ満足センカ爲メニ強制的共同經濟ノ方法ヲ取ルハ最も嚴シキ手段ニ
 シテ、而シテ此ノ如キ嚴シキ手段ヲ取ルニ至ルハ、之ヨリ溫和ナル手段ヲ以テシテハ到底
 其ノ效ヲ奏セザル場合タルヲ常トス。コレ又々宜シク看過スベカラザルコトナリ。思
 フニ一個人カ其ノ利益ノ爲メニ公共ノ利益ヲ害セントスルノ悉アル場合ハ、經濟的生活
 ノ凡テノ方面ニ於テ屬々起ル所ナルカ、凡テ此ノ如キ場合ニ於テハ、常ニ強制的公共
 經濟ノ成立ヲ見ルヤト云フニ、必ズシモ然ラズ、而シテ其ノ理由ハ他ナシ、其ノ危險ヲ防止
 スルガ爲メニハ、多クノ場合ニ於テ、ヨリ溫和ナル手段ヲ以テ足レリトスレバナリ、請フ
 之ヲ詳説セシ。

第一ニ世人ハ自己一身ノ考察ヨリシテ又ハ競争ノ爲メ支配セラレ、ノ結果トシテ、或ル
 程度マテハ社會ノ人カ要求シ希望スル所ノモノヲ爲サントスルノ傾向アルモノナリ。
 故ニ或ル程度マテハ、個人ノ利害ハ社會ノ利害ト自然ニ一致スルノ傾向アリ。
 乍併時トシテハ上述ノ二原因モ未ダ以テ充分ニ個人ト社會トノ利害ヲ一致セシムルコ
 ト能ハザル場合少シトセズ。而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ、已ムテ得ズ公權力ノ作用
 ヲ藉ラザルベカラズ、即チ一般ノ規則又ハ禁令ヲ發布シ、之ニ依リテ一個人ノ爲シ得ベ
 キコト又ハ爲スベカラザルコトヲ規定セザルベカラズ。コレ即チ行政法ノ大部分ヲ占
 ムルモノニシテ、農業、礦業、林業、工業ニ關スル諸種ノ立法、火災、水害、衛生ニ關スル警察等ハ
 之ニ屬ス。
 乍併上述ノ如キ一般ノ法律又ハ命令ヲ以テシテハ、到底共同公共ノ利害ヲ保護スルニ
 充分ナラザランカ、次ギニハ更ニ一層嚴シキ手段ヲ取ラザルベカラズ。即チ共同ノ慾望
 ヲ満足スニ必要ナル事業ハ、タトヒ之ヲ私人ノ企業ニ委任スト雖モ、シカモ此ノ場合ニハ之

ニ關シテ特別ノ法律(其ノ企業ノミニ關スルコトアリ、或ハ一定ノ種類ノ企業ニノミ關ス
 ルコトアリ)所謂特別法ト云フモノコレ也ヲ制定シ以テ其ノ爲スベキコト及ヒ爲スベカ
 ラザルコトヲ決定ムルナリ。其ノ他此ノ種ノ企業ニ對シテハ官廳ハ特別ノ監督權ヲ有シ
 或ハ法律ノ規定ニヨリテ其ノ企業團體ノ理事又ハ其ノ他ノ機關ノ任命ヲ掌ルコト(とい
 つ帝國銀行ニ於ケルカ如キモノ)アリ。(此ノ種ニ屬スルモノニハ、發券銀行、鐵道會社、私的
 企業者ニヨリテ建設サレタル橋梁補助金ヲ下附サレツツアル航海業、渡船業等アリ)。
 扱テ以上述べタル方法ヲ以テシテモ猶ホ共同ノ慾望ヲ適當ニ満足セシムルコト難キ
 コトアラシカ、然ル後強制的團體(國家、地方公共團體等)ハ始メテ其ノ企業ヲ自ラ經營ス
 ルニ至ルナリ。(鐵道、郵便、電信、電話等ニ關スル事業ヲ國家ニテ經營シ、瓦斯、電氣、給水等ニ
 關スル事業ヲ都府ニテ經營スルカ如シ)。

(四) 公共ノ幸福ヲ増進スル爲メナルコト。以上述べタル外、一般ノ幸福ヲ増進スルカ
 爲メ、即チ其ノ團體員又ハ團體員ノ多數ノモノ、經濟ヲ發展セシムルカ爲メニ、強制的
 團體ハ一定ノ共同ノ慾望ヲ満足スル事業ヲ自ラ經營スルニ至ルコトアリ。學校、圖書館、集
 會、公園等ノ設立及ヒ維持ノ如キハ即チ其ノ一例ナリ。其ノ他溫泉地又ハ避暑地ニ於テ
 ル公共團體ガ、外來ノ旅客ヲ慰マシムルノ目的ヲ以テ巨額ノ費用ヲ要スル建物又ハ公園
 等ヲ設ケル場合モ、亦々此ノ部類ニ屬ス。

(五) 財政上收入ヲ得ル爲メナルコト。以上ノ外、公共團體ハ其ノ歲入ヲ得ルノ目的ヲ以
 テ、公共的慾望ヲ満足センカ爲メ強制的共同經濟ノ方法ヲ用フルコトアリ。思フニ強制的
 的團體カ自ラ或ル種ノ企業ヲ經營スル事ハ、一定ノ收入ヲ得ルカ爲メ甚ダ手近キ便利ナ
 ル方法ト云フベシ、而シテ事實ノ上ニ於テモ既ニ種々ノ公共團體(國家、地方の公共團體
 同業組合等)ハ之ヲ利用シテ以テ良好ナル結果ヲ得ツ、アル也。而シテ其ノ之ヲ行フニ

當リテハ、或ハ(煙草專賣又ハ鹽專賣ニ於ケルカ如ク)其ノ貨物又ハ勤勞ヲシテ可成高價ヲ保タシメンカ爲メ全ク私人ノ企業ヲ禁シ以テ獨占業ヲ爲スコトアリ、或ハ(農林業等ニ於ケルカ如ク)之ヲ獨占業ト爲サズシテ私人ノ企業ヲモ許シ之ト競争ノ地位ニ立テル場合アリ、或ハ(郵便及ヒ鐵道專業ニ於ケルカ如ク)其ノ企業獨占的又ハ非獨占的ノ經營ニハ收入ヲ増加スト云ヘル以外ニ從タル目的(例ヘバ公共ノ幸福ト云ヘルカ如キ)ヲ有スル場合アリト雖モ、其ノ收入ヲ得ルチ目的トスルニ至ツテハ一ナリ。

(六)團體ソレ自身ノ需要ヲ滿ス爲メナルコト。猶ホ最後ニ掲ケベキモノハ、公共團體カ其レ自身ノ需要ヲ滿サンガ爲メ或ル企業ヲ起セシ時、ソノ企業カ同時ニ團體員一般ノ需要ニ應スルカ爲メ利用セラレ、ニ至レル場合ナリ。例ヘバ、カノ郵便電信ノ如キハ、其ノ始メ國家カ自己ノ所用ヲ辨センカ爲メニ經營シタルモノナレドモ、シカシ乍ラ同時ニ今日ニテハ社會一般ノ用ニ供セラレ、都市ノ經營セル瓦斯及ヒ電氣事業ノ如キモ亦然リ其ノ始メハ自己ノ需要(即チ市街及ヒ役所ノ點燈用)ノ爲メ創メタルモノナラシニ、ソノモノカ同時ニ市民ノ用ヲモ滿スニ至レルナリ。

以上述べタル所ニ依リテ考フレバ、強制的共同經濟ノ範圍(條件)ノ如何ナルモノナルヤハ其ノ大體ヲ了解シ得ベシト信ズ、乍併其ノ如何ナル場合ニハ正當ニシテ如何ナル場合ニハ不可ナルヤノ問題ニ就イテハ決シテ絶對的ノ斷案ヲ下シ難キモノナルコトモ之ヲ了解スルニ難カラザルベシ。

ぐるつすノ説明

ぐるつすノ説明 ぐるつすニ名著アリ題シテ Wirtschaftformen und Wirtschaftsprinzipien (Leipzig, 1889) ト云フ。從來餘リ名ノ知レザル著述ナルノミナラズ、予ハ氏ト説キ異ニスト雖ドモ、予ハ其ノ參考ノ價值頗ル大ナルモノアルヲ認ム。氏ハ經濟主體ヲ定義シテ左ノ如クナシタリ。

Wirtschaftsobjekt ist eben nur diejenige physische Person oder die Mehrheit von physischer Personen, deren Bedürfnisbefriedigung das Endziel der Wirtschaft ist und deren Wille gleichzeitig für die Leistung der Wirtschaft entscheidend ist. (S. 27—28)

而シテ單一經濟ハ之ヲ次ノ如ク説明シタリ。

Jene Wirtschaft, deren Leistung einer einzelnen physischer Person zusteht, während gleichzeitig die Befriedigung der Bedürfnisse dieser nütlichen Person als Endziel der Wirtschaft bildet, nennen wir Einzelwirtschaft, und die betreffende Person erscheint als das Wirtschaftsobjekt der Einzelwirtschaft. (S. 26.)

而シテ綜合經濟手ノ所謂綜合經濟ト同一物タルニ非ラズ(ニ就イテハ左ノ如ク述ベタリ。……Anders bei der Gesamtwirtschaft: hier ist das Ziel der Wirtschaft die Befriedigung von Bedürfnissen einer Mehrzahl von Personen und diesen selben Personen steht auch die Leistung der Wirtschaft zu. (S. 51)

單一經濟タルト共同經濟タルトヲ問ハス、其ノ經濟ノ目的ヲハ充分ニ達センカ爲メニハ、彼等ハ決シテ永久ニ孤立スルコト能ハサルモノニシテ、必スヤ彼等相互ノ間ニ一定ノ關係ヲ有スルニ至ルモノナリ。蓋シ自家ノ必要トスル財物ヲ專ラ自家ニ於イテ生産スルコトハ、頗ル困難ナル事業ナリ、之ニ反シ或ル人ハ專ラ甲ト云ヘル財物ノ生産ニ從事シ、或ル人ハ專ラ乙ト云ヘル財物ノ生産ニ從事シ、以テ互ニ財物ノ交換ヲ爲ス時ハ、大ニ犠牲ヲ節約シテ以テ充分ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ルモノニシテ、換言スレバ、ヨリ善ク經濟ノ目的ヲ達シ得ルモノタレハナリ。此ノ如クニシテ、各經濟ハ互ニ孤立スルコトナク、相

互ノ間ニ一定ノ關係ヲ有スルニ至ルナリ。事茲ニ至ラハ各經濟カ自己ノ經濟ハ爲メニ營ムノ經濟行爲ハ之ヲ綜合シテ觀察スル時ハ自ラ一定ノ秩序組織ヲ有スルニ至ル。換言スレハ各經濟ノ營ムル經濟行爲ハ總躰ハ自ラ一定ノ秩序計畫ハ下ニ統一サレタル一體ヲ爲スニ至ル。是ニ於イテカ各經濟主躰ノ營ム經濟ノ外ニ別ニ又タ一個ノ經濟(即チ秩序アル經濟行爲ノ總躰ノ發現ヲ見ルニ至ル

今マ此ノ種ノ經濟ヲ名ケテ綜合經濟(Gesamtwirtschaft)ト云ヒ之ニ對シテ前述ノ二者ハ之ヲ特殊經濟(Sonderwirtschaft)ト云フ。綜合經濟ハ主躰ナキ經濟タリ、特殊經濟ハ之ニ反シ必ス一個ノ自然人又ハ數個ノ自然人ヨリ成レル經濟主躰ヲ有ス。單一經濟及ヒ共同經濟ノ區別ハ實ハ經濟ノ一種タル特殊經濟ノ分類タルニ過キサレ也。人或ハ個人經濟國家經濟社會經濟(國民經濟世界經濟)ナル文字ヲ用フルモノアリ。

個人經濟トハ先キニ所謂單一經濟及ヒ自由ノ共同經濟ノ兩者ヲ指シ、國家經濟トハ強制ノ共同經濟(國家及ヒ公共團體ノ經濟)ヲ指ス、而シテ國民經濟トハ

一國民内ニ於ケル綜合經濟ノ謂ニシテ、世界經濟トハ世界ノ人類ニヨリテ營ムル、綜合經濟ノ謂ナリ。
一經濟主躰ノ營ムル經濟ヲ以テ經濟單位ト稱ス。多數ノ經濟主躰カ一定ノ關係ヲ有スルノ結果、綜合經濟ノ發現ヲ見ルニ至リタル時、其ノ綜合經濟ノ行ハルハ範圍ヲ名ケテ經濟社會ト云ヒ、其ノ經濟主躰ノ集合躰ヲ名ケテ經濟團體ト云フ。

私經濟、國民經濟及ヒ世界經濟ノ區別

ニ關スルくらゐんゑひたノ説明ハ左ニ譯出スルガ如シ。

私經濟トハ一個人ノ經濟ヲ云ヒ、國民經濟(狭義)トハ一定ノ國民ノ經濟ヲ云ヒ、世界經濟トハ全人類ノ經濟ヲ云フ。思フニ、經濟學ナルモノハ畢竟スル所利益ノ學問ナリ、而シテ實際ニ營リテハ、一ノ經濟ニ向ツテ利益ナルモノモ他ノ經濟ニ向ツテハ不利益ナラズヤトノ疑問ヲ生ズル場合少カラズ、コレ如上ノ區別ヲ爲ス必要アル所以ナリ。例ヘバ全國民ニ向ツテハ不利益ニシテ其ノ國民經濟ニ向ツテハ「不經濟的」ナルコトモ、之ヲ個々ノ私經濟ヨリ觀察センカ、利益ナリ「經濟的」ナリト云ヒ得ベキ場合アリ。之ト等シク全人類ノ經濟ニ向ツテハ危害ヲ及ボスモノナリト雖モ、之ヲ或ル一國民ノ經濟ヨリ見ル時ハ利益ナリト云ヒ得ベキ場合少カラズ。
例ヘバ先ツ全人類ノ經濟行爲ヲ眼中ニ措カンカ、凡テ其ノ行爲ノ目的ナルモノハ全人類ノ幸福ヲ増進スルニ在ルヤ明カナリ、而シテ此ノ目的ヲ達セント欲セバ出來得ベキダケ

多クノ財物ヲ生産シ且ツ各個人ヲシテ其ノ生活上必要ナル凡テノ財物ヲバ出來得ベキ
 ダケ完全ニ得セシムルニ在リ。之ニ反シモシ人類中或ル一部分ノモノノミ賡澤ヲ爲シ
 其ノ餘ノ多數ノモノハ貧困ニ苦ミツ、アラシカ如上ノ見地ヨリセバコレ決シテ悦ブベ
 キ事ニ非ラズ。況ンヤ社會ノ制度ニシテ或ル人ノ生産セシ財ハ其ノ人ノ手ニ屬セズシ
 テ他人ニ歸シ從ツテ或ル人ハ他人ノ利益ヲ犧牲トシテ富ヲ成シツ、アル如キコトアラ
 シカコレ更ニ憂フベキ現象ト云フベキナリ。
 人モシ或ル一定ノ國民例ヘバいざりす國民ヲ以テ其ノ見地ト爲シ、いざりすノ國民經濟
 ナ眼中ニ置クコト、センカサキニ全人類ニ就イテ述ベシ所ハ又々之ヲいざりす國民ニ
 就イテ應用スルコトヲ得ベシ。即チいざりすノ國民經濟ヲ以テ議論ノ立脚地ト爲サン
 カ、いざりすノ國民力出來得ベキダケ多クノ貨物ヲ供給セラレ、凡テノいざりす人ハ其ノ
 生活ニ必要ナル貨物ヲ充分ニ供給セラレ且ツ或ルいざりす人カ他ノいざりす人ヲ犧牲
 トシテ其ノ富ヲ成スカ如キコトナキハ、何レモ悦ブベキ現象ト云フベキ也。之ト同時ニ
 いざりすノ國民經濟ヲ見地トスル時ハ、いざりす人カ他ノ國民ノ利益ヲ犧牲トシテ其ノ
 富ヲ成スコトアルハ、毫モ憂フベキ事ニ非ラズシテ悦ブベキ事ナリ。
 而シテ個々ノ自然人ハ自己ノ私經濟ヲ見地トシテ立ツモノニシテ、從ツテ各個人ハ只ダ
 單ニ自己ノ經濟ヲ眼中ニ存スルノミ、故ニ只ダ自己ノ利益ヲ追求スルモノニシテ、之カ爲
 メニ他人ニ害ヲ及ボスヤハ多ク顧ミザル所ナリ。
 此ノ如ク其ノ見地ヲバ世界經濟國民經濟私經濟中ノ何レニ置クヤニ從ツテ、如上ノ差異
 ナ生ズルニ至ルナリ。而シテコノ點ニ關シ國民經濟學ノ職分トスル所ハ、相錯雜セル各
 種經濟ノ道筋ヲ研究シ說明シ、以テ其ノ一個人ノ利益ト爲ルモノハ果シテ或ル他ノ者ノ
 利益トナルヤ又ハ害トナルヤノ問題ヲ闡明スルニ在リ。而シテ道般ノ問題ハ實ニ個人

ト個人トノ間又ハ國民ト國民トノ間ニ於テ起ルノミナラズ、又階級ト階級トノ間即チ
 或ル職業階級ト他ノ職業階級トノ間ニ起ルモノトス。而シテ各種ノ職業階級ノ利害關
 係即チ農業者商業者工業者間ニ於ケル利害ノ關係大工業家小工業家間乃至雇主労働者
 間ニ於ケル利害ノ關係ニ就キ其ノ真相ヲ闡明シ、以テ一階級ノ利益ノ偏頗ナル増進ハ如
 何ナル結果ヲ他ノ階級ニ及ボスモノナルヤノ問題ヲ指示スルカ如キモ、等シク亦タ國民
 經濟學ノ職分トスル所ナリ。

第三節 經濟ノ發展

ぶつへるノ所謂個人的食物探索ノ時代ニ於テハ、人類ハ固ヨリ經濟行爲ヲ
 營メリト雖モ是等ノ經濟行爲タルヤ未タ一定ノ秩序計畫ニヨリテ支配サレ
 ツ、アルモノニ非ラサルカ故ニ、從ツテ未タ經濟ヲ形成スルニ至ラサル也。
 予ハコノ時代ヲ名ケテ經濟未生ノ時代ト稱ス。
 人類稍々進歩スルニ至ラハ、彼等ハ漸ク一定ノ秩序計畫ニ從ツテ、經濟行爲ヲ
 營ムニ至ル是ニ於テ、開始メテ經濟ノ發現ヲ見ル
 乍併當時ノ經濟ハ凡テ所謂特殊經濟ナルモノニ屬シ、未タ綜合經濟ノ發現ヲ
 見ルニ至ラサルナリ。かゝるぶつへるハ經濟組織ノ發展ヲ分チテ第一封建
 的家族經濟第二都府經濟第三國民經濟ト爲シタリ。氏ノ所謂封建的家族經

濟ノ時代ナルモノハ、予ノ所謂綜合經濟未生ノ時代ニ相當スルモノ、如シ。蓋シ當時ニ於ケル家屬ハソレ自身カ經濟主體タリシモノニシテ、其ノ家屬ノ各員ハ獨立シテ經濟主體タルコト無カリシナリ。而シテ家屬ト云ヘル經濟主體ハ全ク他ノ經濟主體ト關係ヲ有スルコトナク、其ノ必要トセル財物ハ凡テ之ヲ自己ノ經濟内ニ於イテ產出シタルナリ。故ニ予ハ之ヲ名ケテ綜合經濟發生以前ノ時代ト稱セント欲ス。シカハ、人類更ニ進歩スルニ至ラハ、從來獨立孤營セシ特殊經濟ハ、次第ニ自產自足ノ状態ヲ脱スルニ至ルモノニシテ、予ノ所謂綜合經濟ハ始メテ其ノ發生ヲ見ル、ぶつへるハ所謂都府經濟ノ時代ナルモノ即チコレ也。此ノ時代ニ於イテハ一方ニハ都府内ニ於ケル各特殊經濟ノ間ニ於イテ、他方ニ於イテハ都府ノ特殊經濟ト村落ノ特殊經濟トノ間ニ於イテ、稍々頻繁ナル交換行ハル、ニ至ルモノニシテ、是等ノ特殊經濟ハ都府ヲ中心トシタル一定ノ地域ヲ土臺トシテ一個ノ綜合經濟ニ包括セララル、ニ至ル也。予ハ之ヲ綜合經濟ノ第一期ト稱ス。シカハ、經濟社會更ニ擴張セララル、ニ至ラハ其ハ範圍ハ皆ニ都府ヲ中心ト

シタル小地域内ニ止マラスシテ、廣ク全國ヲ以テ其ノ範圍ト爲スニ至ル。即チ交換ハ皆ニ都府ヲ中心トシタル特殊經濟間ニ行ハル、ニ非ラスシテ、全國ノ特殊經濟相互ノ間ニ行ハル、ニ至ルナリ。從來一國民ハ多數ノ經濟團體トナリテ互ニ孤立シ、一國民ハ經濟上多數ノ社會ニ分レテ未タ一經濟社會ヲ爲スニ至ラザリシト雖モ、此ノ時代ニ於イテハ、全國民ハ相集ツテ一大經濟團體トナリ、一大經濟社會ヲ形成スルニ至ル也。予ハ之ヲ稱シテ綜合經濟ノ第二期ト爲ス。

シカハ、經濟社會更ニ擴張セハ、遂ニ世界ノ人類ヲ包括スルハ、經濟團體全世界ヲ土臺トセルハ、經濟社會ヲ見ルニ至ルモノニシテ、之ヲ稱シテ世界經濟ノ時代トナスヲ得ヘシ。予ハ之ヲ綜合經濟ノ第三期ニ屬スルモノト爲ス。以上述フル所ニ依リテ考フレハ、人類ノ歴史ハ之ヲ分チテ三期ト爲スコトヲ得ヘシ。第一ハ經濟未生ノ時期ナリ。第二ハ綜合經濟未生ノ時期ナリ。第三ハ綜合經濟發生後ノ時代ナリ。而シテ後者ハ更ニ之ヲ分チテ第一期都府經濟ノ時代第二期國民經濟ノ時代第三期世界經濟ノ時代ト爲スコトヲ得ル也。

國民經濟ノ發展階級

ト云ヘル衆下ニ於イテくらいんあひたノ論セシ所左ノ如シ。
福田博士ハ經濟組織ノ發展ナル題目ノ下ニ殆ド同一ノ事柄ヲ説
明セラレタリ。予ハ是等ノ説明ノ中一部分ヲ本節ニ於イテ專述シ他ノ部分ハ本節以外ニ
於イテ專述シタリ。モシ夫レ其ノ詳細ニ至リテハ吾人ハ之ヲ後編二期セント欲ス。

ふりーどリッヒリすミノ説明

吾人カ今日「國民經濟」ト稱セルモノ、即チ職業ノ分立行ハ
レ、カクテ世界各地方ノ產物互ニ交易セラル、カ如キ状態ハ、決シテ原始時代ニ於イテ見
ルコトヲ得タリシモノニ非ラズシテ幾千年ノ時ノ經過ノ間ニ漸ク發展シ來レル結果ナ
リ。而シテ此ノ事實タル、既ニ史家及ヒ經濟學者ノ説明ニ依リテ明カニシテ、何人ト雖モ
之ニ對シテ疑ヲ執ムモノナシ。乍併既ニ如上ノ事實ニシテ疑ナシトスルモ、猶ホ之ニ關
連シテ起リ來レル疑問ハ其ノ發展ハ如何ナル經過又ハ階級ヲ經テ行ハレタルモノナル
ヤノ問題ニシテ、而シテ此ノ問題ニ關シテハ種々ノ意見アリ。乍併前世紀ノ上半期ニ至
ルマデハ——主トシテはいぶる上ノ傳説ノ影響ニヨリテ——次ノ如キ見解廣ク行ハレ
タリ、曰ク人類ノ原始時代ニ於イテハ其ノ住處ノ如何(山地又ハ海岸)ニヨリテ狩獵又ハ漁
業ヲ行ヒタリシカ、後ニハ牧畜ニ移リテ遊牧的生活ヲ爲シ、後遂ニ農耕ノ術ヲ解スルニ至
リテ其ノ衣食ノ料ニ不足スルコトナキニ至レリト。而シテ、カノふりーどリッヒリすミハ
此ノ見解ニ本キテ、人類ノ經濟史ヲ左ノ五階級ニ分チタリ、曰ク狩獵及漁業時代曰ク牧畜
時代曰ク農耕時代、曰ク農工時代、曰ク農工商時代コレナリ。
リすミノ此ノ見解タル、凡テノ國民ハ共同ノ祖先ニ遡ルモノナリトセル點ニ於イテ、即チ
現時ニ於ケル國民ノ各分子ハ共同ノ祖先ヨリ出テタル直接ノ後裔ナリトセル點ニ於イ
テ根本ノ誤解ヲ有スルモノナリ、故ニ現時ニ於ケル凡テノ國民ノ發展ハ事實上カノ五階

級ヲ經テ今日ニ至リタルモノナルコト證明セラレザル以上ハ、コノ點ニ於イテ誤謬タル
ヲ免レズ乍併之ヲ他方ヨリ觀察セバ、人類ハ野蠻蒙昧ノ状態ヨリシテ次第ニ發展シ來リ
タルモノナルコト明カナリ。サレバ太古ノ人類ハ、野生ノ果實又ハ草木ノ根ヲ採取シ、又
ハ鳥獸ヲ捕獲シ、以テ其ノ食ヲ得タルニ相違ナカルベク、從ツテ狩獵又ハ漁撈ノ民ト名ク
ベキ程度ノモノナリシヤ甚ダ明瞭ナリ。而シテ一定ノ時代ヲ經過シ人類種々進歩スル
ニ及ンデハ、人類ハ動物ヲ馴致シ之ヲ飼養スルノ術ヲ解スルニ至リシコトモ亦タ疑ナシ。
然レドモ、牧畜及ヒ殊ニ遊牧ナルモノガ人類ノ歴史ニ於イテ果シテ「發展階級」又ハ特別ノ
「時代」ナリシヤ否ヤハ疑ヲ容ルベキノミナラズ、又タコノ時代リノモノガ果シテ狩獵時代
ト農耕時代トノ間ニ必然存在セザルベカラザリシヤ否ヤモ亦タ疑問タリ。然レドモ五
大發展時期ヲ分テリすミノ見解ハ、大體ニ於イテ其ノ當ヲ得タルモノト云フベキナリ。
何トナレバ單ニ狩獵又ハ漁撈ヲ以テ、或ハ單ニ牧畜ヲ以テ、或ハ又單ニ原始的ノ農耕ニ
依リテ、其ノ生活ノ資料ヲ得タルノ國民又ハ現ニ得ツ、アルノ國民アルコトハ、事實ニ於
イテ見ルコトヲ得ベキモノナレバナリ、コレ其ノ第一理由タリ。次ギニ又タ是等ノ國民
ノ經濟形態ハ其ノ根本的ノ差異ヲ有セルモノナレバナリ、コレ第二ノ理由タリ。例ヘバ
茲ニ一例ヲ述ベンニ、狩獵又ハ遊牧時代ノ種族ハ其ノ狩獵地又ハ放牧地ヲ互ニ侵スコ
トナカリシカドモ、シカモ猶ホ真正ノ處有權ハ未ダ發生スルニ及バザルナリ。又狩獵漁
撈遊牧ヲ事トセル種族ニ於イテハ一定ノ工業的活動ハ實ニ欠クベカラザリシヤ明カナ
リ然レドモ其ノ工業的ノ仕事モ單ニ一二ノ使用物ヲ製作スルガ爲メニシテ、又殆ド自己
ノ需要ヲ充スナ目的トシタリシナリ。而シテ貨物ノ交換ノ如キモ種族内ニ於イテハ行
ハレ、コトナク、只ダ一種族ト他種族トノ間ニ行ハレタルニ過ギズ從ツテ未ダ交易ニ關
スル法律ノ成立ヲ見ルコトナシ。貨幣ハ未ダ用ヒラル、ニ至ラズ、信用ノ如キハ固ヨリ

然リ。又々企業者及ヒ勞動者ノ區別アルコトナク、從ツテ特種ノ勞動法ナシ。人口ノ増加及ヒ農耕ノ發展ニ伴ヒ、一方ニ於テ國家ノ成立ヲ見、他方ニ於テハ土地所有權ノ發生ヲ見ルニ至レリ。而シテ國家ノ主權ハ固ト貴族ノ掌握スル處ナリシカ故ニ自ラ大地主ノ發達ヲ助長シ、而シテ其ノ大地主ハ土地ノ耕作ノ爲メニ常ニ一定ノ勞動ヲ必要トスルニ至レリ。カクテ、此ノ勞動ニ對スル慾望ト社會ニ未ダ貨幣ナカリシノ事情(貨幣ナキカ爲メ一定ノ報酬ヲ與ヘテ自由ノ勞動者又ハ軍人ヲ雇フコト能ハザリキ)トハ一方ニ於テハ封建的關係ノ發達トナリ、他方ニ於テハ奴隸又ハ巨僕ノ發達トナリ從ツテ之ニ相當スルノ法制ヲ發生セシメタリ。乍併當時ハ未ダ特別ノ工業階級及ヒ商業ナルモノ發生セザリシカ故ニ、凡テノ關係ハ一般ニ幼稚ナルモノニ過ギザリキ。後漸クシテ都會ニ於ケル工業的生產ハ農業ヨリ分立スルニ及ビ、職業ノ分立始メテ其ノ萌芽ヲ發セリ。而シテ都市ニ於テハ貨幣ノ分量豐カナリシカバ、一方ニ於テハ都市ソノモノノ中ニ於テハ、他方ニ於テハ都市ト都市ノ周圍ニ於ケル田舎トノ間ニ精々額繁ナル交易ノ發達ヲ見ルニ至レリ。乍併交通機關ノ發達未ダ幼稚ナリシガ爲メニ真正ノ(大)商業ハ殆ト全ク起ラザリシモノニシテ、後チ漸クニシテ道路ノ築造ニ伴フテ始メテ其ノ萌芽ヲ發シ、而シテ近代蒸氣船、鐵道、電信ノ發明アルニ及ンテ始メテ世界商業ノ發達ヲ見ルニ至レリ。

リすこノ試ミタル國民經濟ノ發展階級ノ分類ハ以上畧述シタル如クナルガ——而シテ其ノ既タル多少點スベキ點アルハ既ニ述ベタルガ如シ——之ニ依リテ見レバ、リすこハ各種生產業ノ發生ヲ以テ時代ヲ分ツノ標準ト爲シタルヲ知ルベシ。而シテ各時代ノ特徵ハ即チ左ノ如シ。

第一期ニ於テハ狩獵及ヒ漁撈ト云フガ如ク單純ナル占取的行爲ノミ行ハル。

第二期ニ於テハ(多少疑ヲ容ルベキ餘地アルモ)牧畜ヲ營ミ以テ動物質ノ食物ヲバ計畫的ニ生産スルニ至ル。

第三期ニ於テハ植物質ノ食物ヲバ秩序的ニ生産スルノ術即チ農耕行ハルニ至ル。

第四期ニ於テハ工業的生產ガ一個ノ職業ト爲ルニ至ル。

第五期ニ於テハ真正ノ(大)商業發生スルニ至ル。

ぶらんどハ之ヲ三時代ニ分チタリ、即チ自然經濟時代、貨幣經濟時代及ヒ信用經濟時代コレナリ、而シテ其ノ區別ノ標準ハ交換ガ貨物ト貨物トヲ以テ行ハル、ヤ、或ハ貨物ト貨幣トヲ以テ行ハル、ヤ、或ハ又々貨物ト有價證券トヲ以テ行ハル、ヤ、ノ點ニ在リ。而シテ此ノ爲セシカ如キ想像ヲ爲シタリキ即チ經濟上ノ事實及ヒ現象ヲ説明スルニ當リテ所謂「原始狀態」ナルモノヲ指キ出シタリ。其説明ノ方法ハ次ノ如キ類也、曰ク茲ニ人アリ全ク孤立的の生活ヲ爲シ自ラ其ノ手足ヲ下シテ狩獵、漁撈、牧畜、農耕ノ類ヲ經營シ居タリトセヨ、シカルニ其ノ人ハ偶然森林ニ於テ又ハ一定ノ市場ニ於テ或ル他ノ人ト遭遇シタリトセヨ、而シテ前者ハ日々規則正シク鹿狩ニ從事セバ一日一頭ヲ得ベク後者ハ海狸ノ捕獲ニ從事セバ二日ヲ費シテ始メテ一頭ヲ得ベキモノナリシトセヨ、此ノ場合ニ於テハ二頭ノ鹿ヲ捕獲スルノ努力ハ一頭ノ海狸ヲ得ルノ努力ト同一ナルガ故ニ、自ラ鹿二頭ハ海狸一頭ト交換セラルトニ至ルモノナリ、云々。

思フニ、此ノぶらんどノ分類タル亦タ一理ナキニ非ラズ、蓋シ或ル國民ガ全ク貨幣ヲ有セザル場合又ハ之ヲ有スルコト甚ダ僅少ナル場合ト、其ノ之ヲ有スルコト甚ダ豐富ナル場合トニ於テハ、其ノ國民ノ經濟的關係ハ全ク趣チ異ニスルニ至ルモノナレバ也。例

へハ貨幣ノ欠乏ハ——既ニ述ベタルカ如ク又々中世ニ於ケル經濟上ノ關係ヲ一見シテ
 至直チニ知ルコトヲ得ルガ如ク——財ノ生産及ヒ交易ノ進歩ヲ阻害セシコト實ニ甚シ
 キモノナリ。蓋シ大規模ノ生産ヲ爲サント欲セバ必ズ多數ノ人ノ協合ヲ要ス、然ルニ
 一生産事業ニ向ツテ多數ノ人ヲ協合セント欲セバ、他人ノ勞働ニ對シテ相當ノ報酬ヲ爲
 スノ必要アリ。シカルニ、モシ貨幣ニシテ存在セザランカ、一定ノ報酬ヲ與フルガ爲メニ
 ハ其ノ勞働ヲ提供スルモノト封鎖的關係ヲ締結スルカ、又ハ其ノモノヲバ(或ハ之ヲ奴隸
 トナシ)或ハ自由ノ勞働者トスルヤハ茲ニ同フ處ニ非ラザルモ、兎モ角モ家又ハ家族ノ仲
 間トシテ家庭經濟ノ一員タラシメザルベカラズ。シカルニ實際ニ於テハ此ノ如キ制
 度ハ到底廣ク之ヲ行フコトヲ得ザルモノニシテ、從ツテ大規模ノ生産ハ到底困難事タル
 ナ免レザル也。次ギニ又々自然的交換即チ貨物ト貨物トノ交換ハ到底緩慢タルヲ免レ
 ズ、故ニ生産物ノ販路ハ自ラ狭隘ナラザルヲ得ズ、從ツテ大規模ノ生産ヲ實行スルコト能
 ハザルナリ。シカルニ、貨幣ニシテ一タヒ使用サル、ニ至ランカ、以上ノ關係ハ全ク一變
 スルニ至ルベシ。サレバ、ふるのひるでぶらんどカ自然經濟及ヒ貨幣經濟ノ間ニ於ケル
 重大ナル差別ヲ指示セシハ、或ル程度ニ於テ其ノ當チ得タルモノト云フベシ。
 乍併ひるでぶらんどノ既ニ對シテモ亦々異論ナキニ非ラズ、而シテ其ノ主ナルモノハ彼
 ガ「信用經濟」ヲ立スルノ點ニアリ。思フニ經濟的生活ハ信用ノ發展ニ依リテ大ナル進歩
 ヲ爲スニ至レルコトハ爭フベカラズ、然レドモ交易ノ上ニ及ボス信用ノ影響ハ決シテ貨
 幣ノソレト同一視スベキモノニ非ラズ。蓋シ貨幣ノ使用ノ爲メニ交易ノ便著シケ加ハ
 リタル所以ノモノハ他ナシ、之カ爲メニ交換ノ手續ハ分レテ二部トナリ一方ニ於テ自
 己ノ貨物又ハ給付ヲバ貨幣ト交換シテ販賣シ、他方ニ於テハ貨幣ヲ以テ其ノ必要トス
 ル貨物ヲ購買スルニ至リタルガ爲メナリ。例へバ——ろつせるノ云ヘルガ如ク——茲ニ

冶金ノ釘ヲ製造セルモノアリ其ノ者ハ牡牛ヲ購買セント希望シツ、アリトセンカ、彼ハ
 其ノ牡牛ト同一ノ價ヲ有スルダケノ釘ヲ必要トセル牡牛ノ所有者ヲ發見スルガ爲メ苦
 心スルノ必要ナシ、只ダ彼ハ釘ヲ必要トセル人々ニ向ツテ之ヲ賣却シ、而シテ之ニヨリテ
 得タル貨幣ヲ以テ牡牛購買ノ費用ニ充ツルナリ。シカルニ、此ノ如キ交換ノ便法ハ貨幣
 アツテ始メテ行ハル、モノナレバ、貨幣ナルモノカ如何ニ經濟社會ニ影響ヲ及ボシタル
 モノナルヤハ之ヲ推知スルニ難カラズ、然ルニ信用ノ經濟社會ニ於ケルハ之ト異リ、只々
 一時貨幣ノ欠乏ヲ感シタル際信用ヲ利用シテ紙的流通材料(銀行券、手形、小切手等)ヲ作リ
 出セルニ過ギズ、故ニ貨幣ヲ以テ支拂フモ紙幣ノ類ヲ以テ支拂フモ其ノ實際ニ於テハ
 全ク同一ナリ、而シテ貨幣ヲ有セザルモノハ一時之ヲ利用スト雖モ其ノ遂ニ支拂ハザル
 ベカラザルニ至ツテハ同一ナリ。是ニ依リテ考フレバ、「貨幣經濟」ナル發展階級ニ加フル
 ニ更ニ「信用經濟」ナル發展階級ヲ加フルコトノ當否如何ハ、確ニ疑ヲ挾ムノ價值アリト云
 フベキナリ。
 以上ノ外ひるでぶらんどノ見解ニ就イテハ、更ニ第二ノ誤謬ヲ指摘スルヲ得ベシ。蓋シ
 既ニ述ベタルガ如ク、昔時ノ經濟學者及ヒヒるでぶらんどハ太古ヨリシテ今日ノ如キ分
 業ヲ基礎トセル國民經濟ナルモノアリタリトナシタリ。從ツテ「原始狀態」換言スレバ「自
 然經濟」時代ニ於テハ、或ルモノハ穀物ヲ生産シ、或ル者ハ鳥獸ヲ捕ヘ、或ル者ハ弓矢ヲ作
 リ、或ル者ハ舟、網、魚類ヲ生産シ、以テ之ヲ市場ニ持チ來リ互ニ交換シタリト爲セリ。又々
 彼等ハ、自然交換ノ時代ニ於テモ既ニ規則正シキ市場交易行ハレタリト爲シ、又々穀物
 生産者ハ其ノ穀物ヲ以テ直接ニ鳥獸、弓矢、舟、網等ト交換シタルモノトナシタリ。乍併凡
 テ此ノ如キ想像ハ皆ナリ、蓋シ學者研究ノ結果ニ據レバ、所謂原始時代ニ於テハ人
 類ハ決シテ互ニ孤立セシモノニ非ラズシテ、彼等ハ凡テ血族的關係ニヨリテ小氏族小種

族等ノ團結ヲ爲シタルモノナレバナリ。是ガ故ニ各個人ハ凡テ同一ノ生産物ヲ産出セシモノニシテ、從ツテ普通ノ場合ニ於テハ個人ト個人トノ間ニ貨物ノ交換起リ得ベキ理由ナカリシナリ。サレバ所謂「自然經濟」ト云フハ——昔時ノ經濟學者ガ思惟セシガ如ク——人類ガ貨物ト貨物トヲ交換セシ状態ヲ指スモノニ非ラズシテ、寧ロ交換ナル現象未ダ全ク起ラザリシ時代ヲ指スモノト云フベキナリ。蓋シ當時各經濟(氏族ニ於テハ其ノ家族ノ必要トセル凡テノ貨物ヲ自ラ生産シタルモノナリ)。

以上述フルガ如キ缺點ハ其ノコレアルヲ免レズト雖モ、所謂自然經濟ナルモノハ全然其ノ本質ニ於テ、テ所謂貨幣經濟ナルモノト區別スベキヲ闡明シタルノ點ニ於テハ、ひるでぶらんどハ其ノ當ヲ得タリト云ハザルベカラズ。

【わいるぶゆつへるノ學說】 近時ニ至リテ、わいるぶゆつへるハ、又タ一種ノ分類ヲ試ミタリ、彼ハ三大發展階級ヲ分ツ、封建的家族經濟、都府經濟、國民經濟コレナリ。

一、封建的家族經濟ノ時代ト云フハ交換ナキ經濟ノ時期ヲ指スルモノナリ、而シテ交換ナキ經濟トハ(多少ノ例外アルハ勿論ナレドモ)財ハ其ノ生産セラレタル經濟内ニ於テイテ同時ニ使用セラル、場合(所謂「純自己生産」ノ經濟ヲ云フナリ。此ノ如キ經濟ノ形態ハ今日猶ホ舊在ノ地方例ヘバ山間等)ニ於ケル農業的家族ニ就テ屢々見ル所ナリ。但シ一二ノ財——例ヘバ食鹽又ハ金屬類ノ如キニ至リテハ必ズシモ家族ノ中ニ於テ生産セラレズシテ、交換ニヨリ他ヨリ持テ來ルコトアルモ、其ハ全ク同フ所ニ非ラズ。

而シテ此ノ如キ時代ハ文明ノ初期ヨリシテ遠ク中世ニ至ルマテ繼續セラレタルモノナレドモ、今日ニ於テハ只ガ或ル地方ニ於テ殘存スルニ止ルナリ。

二、都府經濟ノ時代ト云フハ、注文生産又ハ直接販賣ノ時代ヲ云フモノニシテ、即チ財ハ普通ノ場合ニ於テハ生産セル經濟ヨリ之ヲ消費スル經濟ニ向ツテ直接ニ移轉セラレ

ツ、アル時代ヲ云フナリ。中世ノ後半ニ於テハ都府ニ發生シタル經濟形態ハ即チコレナリ。而シテ是等ノ都府ニ於テハ工業的生產ハ農業ヨリ分別シ、工業ニ從事スルモノハ特別ノ職業階級ヲ爲シ居タリキ、乍併道路ノ開通未ダ充分ナラザリシカ故ニ、各都府ニ於テハ他ノ方面ヨリ工業的生產物ノ輸入ヲ爲スコト能ハズ、從ツテ各都府ニ於テ利用スル處ノモノハ凡テ之ヲ其ノ都府内ニ於テ生産セリキ。即チ各都府ハ各々自ラ封建的經濟範圍タリシナリ。而シテ都府ニ於テハ生産者ト消費者トハ互ニ近接シ居タリシカ故ニ、工業品ニ關スル商業ノ必要ナルモノナク、モシ此ノ種ノ商業ニシテ起ランカ却ツテ徒ラニ物價ノ騰貴ヲ招クニ過キザリシ也、サレバ各都府ニ於ケル經濟政策ハ努メテ商人ノ増加ヲ防遏シ、可成貨物ヲシテ生産者ノ手ヨリ直接ニ消費者ノ手ニ移轉セシムルコトニ苦心セリキ。モシ夫レ封建的家族經濟ハ猶ホ或ク地方ニ行ハレツ、アリシトスルモ、或ハ又タ都府ニ於テハ絕對的ニ生産シ得ザル種々ノ貨物(例ヘバいんど地方ヨリ來ル香料、高價ナル東洋ノ織物ノ如キ)ハ商業ニヨリテ都府ニ輸入サレタルコトアリシトスルモ、本ノ大體ニ於テハ固ヨリ變化スル處アラザル也。

三、國民經濟ノ時代、即チ商品生産又ハ財流通ノ時代。コハ分業ヲ基礎トセル國民經濟ノ今日ノ形態ヲ指スモノニシテ、即チ貨物ヲ生産スルニ當リテハ、各人互ニ他人ノ需要ヲ目的トシ、又タ多クハ遠距離ノ地方ニ販賣スルヲ目的トスルモノニシテ、從ツテ貨物ハ多クノ場合ニ於テハ生産者ノ手ヨリ直接消費者ノ手ニ移轉セラル、ニ非ラズシテ其ノ間種々ノ經濟ヲ經過スルヲ常トス。此ノ如キ形態ニ屬スル經濟ノ發生及ヒ發達ハ地域的國家ノ發生及ヒ發達ニ伴ヒタルモノニシテ、且ツ國家力商人、主、義ノ經濟政策ヲ取リタル爲メ其ノ發生及ヒ發達ヲ助長シタリ。而シテ交易ノ範圍ガ此ノ如ク擴張セラレルルガ爲メニハ、交通機關ノ發達ヲ前提トスルモノニシテ、道路運河ハ勿論今日ニ於テハ

以上述ベタル所ニ據リテ考フレバ、ぶつへるカ所謂國民經濟ノ發展階級ヲ分ツガ爲メニ、取リシ標準ハ、交易ノ空間的又ハ地域的範圍ニアルヤ明カナリ。封鎖的家屬經濟ノ時代ニ於テモ、凡テノ人カるびんをんノ如ク自己ノ生産ニ必要ナル凡テノ物ヲ生産シタルニハ、非ラザルナリ。即チ人々ハ氏族種族ト云ヘル如キ團體ヲ爲シ、以テ共同經濟ヲ行ヒタルナリ。而シテ此ノ場合ニ於テモ、既ニ或ル程度マテハ分業行ハレタルモノニシテ、男子ハ食物ノ原料タルベキモノヲ占取シ、狩獵又ハ漁撈又ハ生産シ(農耕)或ハ住家ヲ建築スルノ勞ヲ取リ、女子ハ之ニ反シ、食物ヲ調理シ、衣服ヲ調製シ、或ハ家畜ノ飼養ヲ爲シタルナリ。又々封鎖的家屬經濟ニ於テモ、他人ノ生産シタルモノヲ消費シ又ハ享用スルコトハ常ニ起リシモノニシテ、從ツテ固ヨリ未タ商業ノ發生ナシト雖モ、一種ノ交易ハ既ニ行ハレタリ、然レドモ是等ノ交易タル凡テ家「おい、す」ノ範圍内ニ限ラレタルコトハ論ヲ待タザルナリ。シカルニ、都府經濟時代ニ及ンデハ一方ニハ都人相互ノ間ニ於テ、他方ニハ都府ノ人ト近隣ノ村落ノ人トノ間ニ於テ、稍々類繁ナル交易行ハレタリ、然レドモ其ノ交易ノ範圍ハ固ヨリ都府及ソノ附近ニ於ケル村落ニ限ラレタルヤ明カナリ。シカルニ、國民經濟時代ニ至リテハ、交易ノ範圍擴張セラレテ全國ニ及ブニ至レリ。扱テ此ノぶつへるノ分類ヲ以テ、前述セシリテ及ビヒるでぶらんどト比較セバ、ぶつへるノ分類タル事實ニ適應セル點ニ於テ最モ其ノ當ヲ得タルモノト云フベキナリ。今マ若シ上述セシぶつへるノ分類ニ就キ更ニ一歩ヲ進メンカ、吾人ハ(現時ニ於ケル多クノ國民經濟ノ經過ニ從ツテ)前世紀ノ後半期以降、鐵道及ヒ電信ノ發達以後、以テ世界經濟時代ナリト云フコトヲ得ベシ。然リ而シテ「國民經濟」ナル術語ハ、二様ノ意義ニ用

ヒラレツトアルヲ忘ルベカラズ。即チ狹義ニ於テハ、一國家ノ下ニ集合セル國民ノ經濟的生活ヲ意味シ、廣義ニ於テハ之ニ反シ全人類ノ經濟的生活ヲ意味ス。シカルニぶつへるハ此ノ點ニ就キ別ニ注意スル所ナカリキ、而シテ彼ハ(或ル程度ニ於テ)ハ彼ノ當ヲ得タルコト明カナレドモ、只ダ單ニ現時ニ於ケル經濟生活ノ形態ヲ以テ「國民經濟」ト稱セシノミ。思フニ所謂近世即チゆるかちるしすてむ時代ノ君主ハ其ノ臣民ヲ政治上一經濟上統一セル團體ヲラシメントシテ、苦心シタルモノナルガ十八世紀末乃至十九世紀ノ上半期ニ於テハ漸ク其目的ヲ達スルニ至リタルモノナリ。ぶつへる自ラモ亦タ此ノ事實ヲ承認ス。而シテ十九世紀ノ後半以降、運輸及ヒ通信機關ノ偉大ナル進歩ハ、貨物ノ交易ヲシテ一國ノ範圍以外ニ及ボシ、遂ニ全世界ヲ包括スルニ至レリ、之ニヨリテ考フレバ、十九世紀ノ後半以降固有ノ意義ニ於ケル「國民經濟」(狹義)ハ擴張セラレテ世界經濟ヲナスニ至リタルモノト云フヲ得ベケンカ。乍併、今日世界ノ人類ハ一國家ノ下ニ統一サレ居ルニ非ラズシテ、多數ノ國家ニ分屬シ、各々特種ノ政治的及ヒ經濟的の制度ヲ有スルモノナルカ故ニ、所謂「世界經濟」ナル語ハ少シク斟酌シテ解釋スルノ必要アリ。

しゆらーノ學說　しゆらーハぶつへるニ比較セバ政治上ノ關係ニ重キヲ置キシモノニシテ、經濟發展階級ヲ分チテ、村落經濟、都府經濟、領域經濟、國家經濟ノ四ト爲セリ、蓋シ公權ノ所在ハ、其ノ始メまるく團體又ハ村落團體ニ存シ、後チ都府ニ移リ、後チ又々領主ニ移リ、今日ニ於テハ遂ニ國家ニ移リタレバナリ。乍併、大體ニ於テハしゆらーノ見解ハぶつへるト異ル所ナシ。

第四節 國民經濟ノ觀念及ビ本質

序論 經濟 國民經濟ノ觀念及ビ本質

一〇國民ノ營メル綜合經濟ハ之ヲ名ケテ國民經濟ト云フナリ。

外國ノ術語

ドイツ語ニテ普通 Volkswirtschaft ナル文字ヲ用フ。コノ語ハ始メテふらんどカ使用シタル所ナリト云フ (Eufeland, Grundlagen, I, 14.)

故ニ國民經濟ハ主體ナキ經濟ナリ。例ヘハ一家ノ經濟ニハ家長アリ、會社ノ經濟ニハ株主アリテ、之カ經濟主體トナレリト雖、國民經濟ニハ此ノ如キ主體ヲ欠如スルモノナリ。思フニ國民ヲ組成セル各個人ハ各々經濟上ノ慾望ヲ有シ、而シテ之ヲ達センカ爲メニ諸般ノ經濟行爲ヲ爲シ以テ經濟ヲ營ム、シカレトモ國民ソノモノニハ意思ヲ欠如ス、從ツテ國民ソノモノ、經濟的慾望ナルモノナシ故ニ國民ソノモノカ經濟主體トナリ以テ自己ノ爲メニ經濟行爲ヲ營ムカ如キハ、有リ得ヘカラサルノ事實也。然レトモ國民ノ組成分子タル各個人ハ固ヨリ經濟主體トシテ經濟行爲ヲ營ム或ハ米穀ヲ生産スルノ農夫アリ、或ハ商品ヲ販賣スルノ商人アリ、而シテ彼等ハ只タ自己ノ經濟的慾望ヲ達センカ爲メニ經濟行爲ヲ營ムニ過キ、スト雖モ、シカモ農未ニシテ最大ノ利益ヲ得ント欲セハ、嘉穀ヲ廉價ニ生産スルノ法ヲ講セサルヘカラス、商人ニシテ最大ノ利益ヲ得ント欲セハ、又之ト等シク可成良貨ヲ廉價ニ購ヒテ以テ自

己ノ信用ヲ擴張スルノ必要アリ。此ノ如キ關係ヨリシテ、農夫商人ハ只タ自己ノ利益ノ爲メニ活動スルニ過キ、スト雖モ、シカモ彼等ノ經濟行爲ノ總體ハ之ヲ國民全體ヨリシテ見ルニ、自ラ一定ノ秩序ニヨリテ支配セラレ、期セスシテ國民全體ノ利益ヲ計畫スルニ至ルナリ。サレバ、國民ソノモノハ統一ナル經濟的慾望ヲ有セス、從ツテ經濟主體ト云フコト能ハスト雖モ、シカモ其ノ組成分子タル各種ノ特殊經濟カ自己ノ目的ノ爲メニ營メル經濟行爲ハ、自ラ相合シテ更ニ別種ノ經濟ヲ形成スルニ至ルナリ。

國民經濟ニハ主體ナシ、主體ナシト雖モ苟クモ經濟ト云フ以上ハ一定ノ計畫ニヨリテ支配セラル

配セラル

コノ點ニ關シテ、コノ說明ヲ揭ゲテ余ノ説ノ不足ヲ補フ。氏ハ國民經濟ノ觀念トシテ、次ノ如ク論述シタリ。

經濟トハ何ゾヤ、吾人ハ——多クノ經濟書ニ於テ説ケルカ如ク——經濟トハ人類カ其ノ需要ヲハ財ヲ以テ満足センカ爲メニ、行フ所ノ秩序的行爲ナリト云ハント欲ス。故ニ國民經濟トハ、國民即チ其ノ國民ヲ組成セル凡テノ者ノ需要ヲハ財ヲ以テ満足センカ爲メニ行フ所ノ全體(一國民ニ屬スル凡テノ者)ノ行爲ナリト定義スルコトヲ得ベシ。コノ點ニ於テハ、凡テノ經濟書ノ殆ド一致スル所ナリ。乍併讀者ハコノ定義ニ就イテ一大難問ニ遭遇スベシ、何トナレバ國民全體ノ經濟行爲ニ向ツテハ、毫モ統一の計畫ナルモノナケレバ也。即チ國民經濟ナルモノハ、毫モ「秩序的」ノ行爲ヨリ成リ立ツモノニ非ラズ

從ツテ真正ノ國民經濟ナルモノハ全ク存在セザルモノ、如ク考へ得ベケレバナリ。昔時ノ經濟學者、あだむすみす及ヒ其ノ後繼者ハ、此ノ問題ニ就キ未ダ注目スルニ及バズ從ツテ經濟ノ意義ヲ正確ニ定義セントスルノ考慮ナカリシカバ、彼等ハ如上ノ困難ヲ自覺スルヲナクシテ已ミヌ。シカルニ其ノ後ノ經濟學者ハ、出來得ル限リ根本ノ原理ヲ闡明セント試ミタルモノニシテ、術語ニハ一定ノ觀念ヲ定メ、可成嚴格ニ使用セント欲シタリシカバ、自然ノ勢トシテ國民經濟學ノ發端トモ云フベキ經濟ノ觀念ヲ確定スルノ必要ヲ感ズルニ至レリ。而シテ、コレト同時ニ、彼等ハ事實上果シテ「國民經濟」ナルモノ存在スルヤ否ヤニ就イテ疑ヲ起スニ至レリ。而シテ此ノ問題ニ就キ或ル者ハ國民ノ各分子ハ事實上秩序アル方法ヲ以テ國民ノ需要ヲ満足セント努メツ、アルモノナリト爲シ、他ノ者ハ之ニ反シテ經濟行為ノ統一の計畫ナルモノモ存在セザルカ故ニ所謂「國民經濟」ナルモノハ一ノ抽象的觀念ニ過ギザルモノト爲シタリ。思フニ此ノ如キ爭論ハ畢竟スルニ無用ノ爭論ナリ、而シテ學者モ「計畫」又ハ「計畫的」ノ語ニ就イテ固執スル所ナカラシカ此ノ如キ爭論ヲ爲スノ必要殆トコレアラザリシナラン。

人モシ經濟ヲ定義シテ、人類カ其ノ需要ヲ財ヲ以テ充足センガ爲メニ行フ所ノ「計畫的」行為ナリト爲サンカ、所謂「經濟」トハ理性的又ハ「計畫的」ノ行為ノミヲ指スモノニシテ理性的ナラザルモノハ之ヲ經濟ト稱スル能ハザルニ至ルヤ明カナリ。

思フニ單一ナル個人ニ就イテ觀察センカ、苟クモ其ノ理性ヲ具フル以上ハ、或ル行為ヲ爲スニ當ツテ必ゾ先ツ之ガ考察ヲ爲スモノニシテ、從ツテ其ノ爲ス所ノ行為ハ必ズ「計畫的」ノモノナリト云フヲ得ベシ、然リ單ニ一個人ノ行為ニ就イテ觀察スル時ハ、此ノ如キ考察ヲ爲シタル後ニ非ラザレハ計畫的ノ行為ヲ爲シ能ハズト明言スルコトヲ得ベシ、然レドモ多數ノ人類ガ一團ヲ爲セル場合ニ於イテモ亦タ此ノ如シト説明スルハ非ナリ。即チ、

其ノ多數ノ人類ガ一定ノ形式ヲ履ミテ團體ヲ爲シ以テ彼等ノ取ルベキ行為ノ種類ヲ豫メ議決シタル場合タルカ、又ハ是等ノ人々カ統一の命令ノ下ニ服從シ居レル場合タルカニ非ラザレバ、彼等ハ決シテ目的アル行為ヲ爲ス能ハザルモノナリト云フハ非ナリ。思フニ真正ノ「國民經濟」ノ存在ヲ否認シ、コレヲ以テ單ニ抽象物タリ觀念タルニ過ギズト爲スノ學者ハ、上述ノ理ヲ看過セルモノト云フベシ。彼等ハ「目的」ナル語ト「計畫的」ナル語トヲ誤解セルモノニ外ナラズ。蓋シ國民全體ノ經濟行為ニ就イテ觀察センカ、如何程ノ穀物小麥等ヲ産出スベキヤ、又タ如何程ノ麻布織物紙等ヲ生産スベキヤニ就イテ、統一の「計畫」ヲ決定ムベキ權力ヲ有スルモノモ、毫モコレナキカ故ニ、サテコレ等ハ固有ノ意義ニ於ケル國民經濟ハ實際ニ於イテ存在セザルモノナリト主張スルニ至レルナリ。而シテ彼等ハ國民ノ各分子カ貨物ノ生産ヲ爲スニ當リ其ノ規則命令ニ依リテ司配セラルト又ハ其ノ他ノ事情例ヘバ物價ノ變動ニヨリテ司配セラルトハ、或ル一定ノ程度ニ於イテ全ク同一ノ結果ヲ生ズルモノタルヲ忘却セルナリ。思フニカノ理想權ニ於イテハ各村落各都市ノ事情ニ應ジテ如何ナル物ヲ如何ナル分量ニ於イテ生産スベキヤニ就キ、一定ノ法律存在スベキカ故ニ、國民經濟上ノ統一の「計畫」ハ積極的ニ存在シツ、アリト云フヲ得ベケン。乍併今日ノ國民經濟ニ於イテハ、決シテ此ノ如キ法律上ノ明文アルコトナシ、然レドモ國民ノ各分子カ生産ニ從事スルニ當ツテヤ、出來得ベキダケ多クノ利益ヲ得ント欲スルノ結果、不利ノ事業ヲ棄テ、有利ノ事業ニ就クノ傾向アリ、從ツテ間接ニハ社會全體ノ希望セル貨物ノ生産ヲ爲スニ至ルナリ、而シテ物價ノ騰貴下落ニ從ヒ或ハ其ノ生産ヲ擴張シ或ハ之ヲ伸縮スルモノニシテ、自ラ社會ノ需要ト適合スルニ至ルナリ。之ニ依リテ之ヲ見レバ、生産ハ——其ノ形式的「計畫」ヲ欠如スルニ拘ラズ——實際ノ結果ニ就イテ觀察スレバ、其ノ「目的」タル點ニ於イテハ此ト彼ト（殆ト）其ノ趣チ一二セルヤ

明カナリ。
 國民經濟ノ本質ハ又々之ヲ他ノ方面ヨリ説明スルコトヲ得ベシ。近世自然科學ノ教ユ
 ル所ニ從ヘバ吾人が通常個體ト看做セル人類ノ肉體及ヒ其ノ他各種ノ動植物ハ皆ナ無
 數ノ細胞ヨリ成立セルモノナリト云フ。而シテ其ノ細胞タルヤ始メハ互ニ全然同一物
 ナリシモノニテ各々自己固有ノ生活ヲ營ミタルモノナリト云フ。シカレニ是等ノ細胞
 ハ相集合シテ團體ヲ爲スヤ數千年ヲ經ルノ間各細胞互ニ分化シ遂ニ今日ニ至リテハ各
 自特種ノ作用ヲ營ミ(皮膚、營養、機關、運動機關ト云フカ如ク)以テ所謂個體ヲ集成シ組織シ
 其ノ生活ヲ維持スルニ至レリ。人類ノ社會ニ於ケルモ亦タ此ノ如シ原始時代ニ於イテ
 ハ人類ハ小血族團體(氏族種族)ヲ組織シ而シテ其ノ團體ハ各々同一ノ經濟ヲ營ミタルナ
 リ。シカレニ是等同一ノ經濟ハ時代ノ經過ニ伴フテ次第ニ分化シ遂ニ今日ノ經濟ヲ爲
 スニ至レルナリ。即チ今日ニ於イテハ各人ノ生産スル所互ニ異レリト雖モシカモ皆ナ
 國民全體ノ生活ニ必要ナル財ノ供給ヲ目的トスルニ外ナラズ。是ニヨリテ考フレバ國
 民經濟ナルモノニ一定ノ計畫アル所以ヲ知ルニ足ルベシ。
 況ンヤ今日ノ國民經濟ハ形式上ノ計畫ヲ有シツ、アルニ於イテチヤ。思フニ國民經濟
 全體ヲ司配スルノ統一の計畫ハ之ヲ欠ケリト雖モ部分的計畫ニ至リテハ其ノ數少シ
 ト爲サズ。例ヘバ軍事行政、國有鐵道郵便電信官有地森林礦山ニ關スル行政ノ如キハ皆
 ナ「計畫的」經濟ノ例ニシテ之ヲ國家以外ノ公共團體ニ就イテ見ルモ亦同シ。又タカノ
 顧てるノ如キモ亦タ生産ヲ「計畫的」モノタラシメン爲メノ組織ニ外ナラズ。其ノ他
 國家ハ關稅制度及ヒ其ノ他種々ノ方法ヲ以テ經濟上一定ノ統一ヲ計リツ、アルコトモ
 看過スベカラズ。
 以上述べタル所ニ依リテ之ヲ見レバ今日ノ國民經濟ヲ以テ亂雜ニ投合サレタル個人經

濟ノ集積ナリトナシ其ノ間何等ノ連絡ナキモノト爲スハ全然誤解タルコトヲ知ルニ足
 ルベシ。
 わぐな一モ亦々同一ノ説明ヲ爲セリ。曰ク

國民經濟ハ統一の意思ヲ欠ケス。モシ社會主義ニシテ實行セラレ、ニ至ランカ國民經
 濟ニモ統一の意思アルニ至ルベケレドモ過去及ヒ現在ニ於ケル國民經濟ハ凡テ統一の
 意思ヲ欠ケスルモノニシテ之ヲ支配スル所ノ經濟主體又ハ權利主體ナルモノナシ
 (Wagner, Grundlagen, I, 3 Anh. § 149)

而シテ此ノ點ニ至リテハわぐな一以前ニ於イテ既ニラウノ説破セシ所ニシテ彼ハ國民經
 濟ニ統一の意思ヲ欠ケスルコトヲ明言シ、又タ國民經濟トハ一國家ニ屬スル凡テ人ノ經
 濟行爲ノ總體ヲ云フモノニシテ一ノ全體トシテ觀ル時ハ之ヲ以テ學問的研究ノ目的物ト
 ナスコトヲ得ト論シタリ。(Rau, Lehrb. d. polit. Ökonomie, I, § 5.)

國民經濟ハ特殊經濟ノ單純ナル機械的集合體タルニ非ラサル也。特殊經濟
 カ相合シテ國民經濟ヲ組織スルカ爲メニハ各個ノ特殊經濟力有機的關係ニ
 於イテ結合サレ居ルコトヲ前提ト爲ス。

思フニ國民ナルモノハ一國家ノ下ニ政治上統一サレタル人類ノ集合體ナリ。
 シカルニ政治上統一サレタル團體ハ必スシモ經濟上統一サレタル團體ニ非
 ラス。蓋シ國民ハ其ノ初メ政治的關係ニ於イテハ統一の團體ヲ成スト雖、經
 濟的關係ニ於イテハ幾多ノ經濟團體ニ分割セラレ、而シテ是等ノ經濟團體ハ

互ニ孤立自營毫モ經濟的關係ヲ有スルコト無カリシナリ。固ヨリ人類カ其ノ經濟ヲ營ムニ當リテハ、凡テ他ノ事業ヲ爲ス場合ト等シク、孤立獨營ノ不便ヲ感シ、共同協力ノ利益ヲ悟ルモノナルカ故ニ、國民中ノ特殊經濟ハ既ニ久シキ以前ヨリ地方地方ニ於イテ一定ノ有機的團體ヲ組織シ、其ノ地域内ニ於イテ一定ノ綜合經濟ヲ營ミ居タリシナリ。然レトモ全國民ヲ包括スルカ如キノ經濟團體、全國土ヲ範圍トスルカ如キ經濟社會ハ、猶ホ未タ發生スルニ至ラサリシナリ。此ノ如キ經濟團體ヲ組織シ此ノ如キ經濟社會ヲ發現スルニ至レルハ、其ノ國民ノ經濟カ充分ナル發展ヲ遂ケタル後ノ事ニ屬ス。ソハ兎モアレ、從來獨立シタリ、經濟團體經濟社會カ互ニ連絡ヲ通シ相合シテ、一大經濟團體ヲ組織シ、一大經濟社會ヲ形成スルニ至ル時ハ茲ニ始メテ國民經濟ノ發現ヲ見ルモノニシテ、カクテ國民全體カ一ノ經濟團體トナリ、國土ノ全體ヲ包括スルノ經濟社會見ハル、ニ至ル。是ニ於イテ乎國民ナル集合體ハ、當ニ政治上一サレタル集合體タルニ止マラスシテ、經濟上ニ於イテモ亦タ一定ノ統一ト秩序トヲ有スル集合體タルニ至ル也。國民經濟ハ一國民内ニ於ケル特殊經濟又ハ綜合經濟ノ單純ナル器機的集合體ニアラサルノ理以テ知ルヘ

シ。

わぐな一日ク

「國民内ニ於ケル獨立ノ單一經濟(氏)ノ單一經濟ハ余ノソレト異ルカ分業ノ組織ニヨリテ密接ナル關係ヲ保チ、相互ノ間ニ於イテ財ノ交通ヲ爲スコトニヨリテ、其ノ間一定ノ有機的組織ヲ有シ、一個ノ經濟範圍ニ集結サレ、ニ至ル時(コ)ノ點ニ付イテハ氏ノ經濟ノ定義ト比較シテ考フベシ(國民經濟ハ則チ茲ニ發生ス。個人經濟ヲ單一器機的ニ集合シタリトテ國民經濟ヲ成スニ至ラズ、之ヲシテ有機的關係ヲ有セシムルニ至ツテ始メテ國民經濟發生ス。』

シ。シ。シ。シ。一日ク

Sie beruht ebenso auf freiem Tausch- und Handelsverkehr, als auf den wachsenden einheitlichen Wirtschaftsrichtungen von Gemeinde, Provinz und Staat. Der Begriff der Volkswirtschaft will eben das Ganze der nebeneinander und übereinander sich aufbauenden Wirtschaften eines Landes, eines Volkes, eines Staates umfassen. (Grundriss. Bd. I., S. 4.)

國民經濟ハ一國民内ニ於ケル特殊經濟及ビ綜合經濟ノ集合體ナリ

故ニ國民内ニ於ケル特殊經濟又ハ綜合經濟ヲ離レテ國民ノ經濟アリト思惟スル勿レ、國民經濟トハ國民内ニ於ケル經濟ノ集合體ニ名ケタル假ノ名ニシテ、其ノ關係ハ恰モ經濟行爲ノ集合體ヲ假リテ經濟ト名ケルカ如シ。シ。シ。シ。シ。一日ク

Die Volkswirtschaft, ist ein staatswissenschaftlicher Kollektivbegriff, ähnlich wie Staat, Volk, Gesellschaft, Kirche, sozialer Körper.

シカラハ敢テ問フ。政治的ニ一國家ノ下ニ統一サレタル國民カ、經濟上統一

サレタル場合トサレサル場合トハ之ヲ如何ニシテ類別スルコトヲ得ルカ
 答ヘテ曰クソハ分業及ヒ交換ノ有無如何ニアリ。思フニ分業及ヒ交換ナル
 現象ハ其ノ因ツテ來ルコト遠シ然レトモ其ノ行ハル、ヤ久シク一地方一階
 級ニ限ラレタルモノニシテ其ノ廣ク國民全體ニ通スル組織タルニ至レルハ
 比較的ニ近世ニ屬ス。從ツテ政治上ノ關係ニ於テハ史上偉大ナル國民ノ發
 現ヲ見タルコト其ノ例ニ乏シカラスト雖モ國民經濟ノ成立ハ實ニ十八世紀
 以降ニ屬スト云フヘシ。國民全體ヲ通シテ分業及ヒ交換ノ組織未タ行ハレ
 スシテ國民全體カ幾多ノ經濟單位又ハ經濟團體ニ分レ其ノ單位又ハ團體カ
 其ノ必要トセル財物ヲ自ラ生産シ之ヲ以テ直ニ自己ノ慾望充足ノ用ニ供ス
 ルニ當リテヤ其ノ各單位各團體内ニ於テハ經濟ノ行ハレツ、アルヲ見ルト
 雖モ單位ト單位團體ト團體トノ間ニハ經濟上何等ノ關係アルニ非ラス從ツ
 テ國民全體ヲ通スルノ經濟ナルモノハ之ヲ求ムルニ由ナキナリ。シカルニ
 經濟社會ノ發展ニ伴ヒテ從來獨立孤營セシ各經濟單位及經濟團體ハ更ニ合
 シテ一大經濟團體トナリカクテ國民全體ヲ包括スルノ經濟社會成立シ而シ
 テ其ノ全般ヲ通シテ分業行ハレ從ツテ交換行ハル、ニ至ルニ於テハカノ國

民ハ嘗ニ政治的ニ一體ヲ爲スノミナラス又タ經濟的ニ一體ヲ爲スニ至ルナ
 リ。故ニ國民カ分業及ヒ交換ニ依リテ互ニ連絡サレ相依リ相助ケテ其ノ
 經濟上ノ慾望ヲ滿スニ至ルコトハ國民經濟成立ノ條件ト謂フヘキモノニシ
 テ若シ此ノ條件ニシテ具備サレサル以上ハ彼等ハ國民全體ニ通スル經濟上
 ノ計畫ヲ爲スニ由ナキナリ。蓋シ前ニ述フルカ如ク經濟トハ人類カ其ノ經
 濟上ノ慾望ヲ滿足スルカ爲メニ其ノ必要トセル財物ヲ獲得スルニ當リ一定
 ノ計畫ニ從フコトノ謂ナリ。モシ然リトセハ國民カ國民全體ニ通スル一定
 ノ計畫ヲ爲スニ非ラサレハ國民經濟アリト云ヒ難シ。シカルニ其ノ一定ノ
 計畫ヲ爲スニ當リテハ彼等相互ノ間ニ於テ必ス一定ノ關係ヲ有シ經濟上統
 一サレタル一經濟團體ナラサルヘカラサル也。
 シカラハ敢テ問フ。其ノ國民全體ノ經濟行為ヲ支配スルノ計畫ナルモノハ
 如何ニシテ發生セシヤ何人カ能ク此ノ如キ計畫ヲ爲セリシヤ。曰クソハ只
 タ自然ノ發展ニ本ケル歴史的產物ニ外ナラサルナリ。人智ノ進步社會ノ發
 達ハ漸ヲ追ウテ人類共同生活ノ範圍ヲ擴張スルモノニシテ其ノ極國民全體
 カ經濟上ニ於テモ共同生活ヲ爲スニ至リタルナリ。故ニ國民經濟ハ何人ハ